

長野県松本市

TAKABATAKE

高畑遺跡










—第6次発掘調査報告書—

2018.3

松本市教育委員会

例 言

- 1 本書は、平成26年5月19日～平成28年3月25日に実施された、長野県松本市村井町南二丁目918番ほかに所在する高畑遺跡の第6次発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、松本市村井町南土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査であり、土地区画整理組合より松本市が委託を受け、松本市教育委員会が発掘調査、整理・報告書作成を行ったものである。
- 3 本書の執筆分担について、本文冒頭に記名のないものについては、以下のとおりである。
第Ⅱ章・第Ⅲ章第2節4：山本紀之、第Ⅲ章第3節3：原田健司、その他：小山奈津実
- 4 本書作成にあたっての作業分担は以下のとおりである。
遺物洗浄・注記 井内南奈香・内田和子・佐々木正子・洞澤文江・三澤栄子
遺物保存処理・接合復元 荒井留美子・内田和子・佐々木正子・竹平悦子・古林舞香・洞澤文江・三澤栄子
遺物実測・トレース（土器、土製品）井内南奈香・久保田瑞恵・竹内直美・竹平悦子・田中正治郎・直井植之介・原田梨恵・古林舞香・山口祥子・
 陶シン技術コンサル
（石器・石製品）原田健司
（金属製品）洞澤文江
遺構図整理・トレース 荒井留美子
写真撮影（遺構）小山奈津実・原田健司・原田梨恵・福嘉彩子・山本紀之
（空中写真）関アンドー
（遺物）宮嶋洋一
一覧表作成（遺構）荒井留美子・小山奈津実・山本紀之
（土器、土製品）古林舞香
（石器・石製品）原田健司
（金属製品）小山奈津実・洞澤文江
DTP 荒井留美子・小山奈津実・原田健司・古林舞香・山口祥子
- 5 本書で用いた略記は次のとおりである。
第○号住居址→○住、第○号竪穴建物址・第○号竪穴状遺構→竪○、第○号掘立柱建物址→建○、第○号炭焼窯址→炭○、第○号土坑→土○、第○号炉址→炉○、第○号溝址→溝○、第○号畝址→畝○
- 6 図中で使用した方位は真北を示す。また、遺構図中に示した国家座標値（世界測地系・第8系）は、東北太平洋沖地震後の補正值である。
- 7 図類の縮尺は、遺構：1/40・1/80、土器：1/4、土製品：1/3、石器・石製品：2/3・1/3、金属製品：1/2で掲載した。写真図版の縮尺は、遺構：不同、遺物（俯瞰）：不同、遺物（平置き）：土器・土製品は1/2、石器・石製品は1/2・1/3、金属製品は1/1・1/2で掲載した。
- 8 本書では以下のものをスクリーントーンで表した。

遺構：焼土・被熱範囲  焼土・被熱範囲（硬）  炭化物 
炭化物・骨  貼床 
遺物：黒色土器  タール・煤  朱墨  被熱  溶滓 

- 9 遺構図の各々の住居址は基本カマドを天として掲載するが、カマドが確認できない住居址及び複雑に重複する住居址は位置の把握を容易にするために北を天として掲載した。
- 10 土層色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局 監修・財団法人日本色彩研究所 色票監修『新版 標準土色帖』に準拠している。
- 11 土器実測図の断面白抜きは土師器・黒色土器・土師質土器、黒塗りは須恵器・軟質須恵器・灰釉陶器・無釉陶器・緑釉陶器・青磁・白磁を示す。
- 12 発掘調査実施と報告書作成にあたり次の方々からご指導、ご助言をいただいた。記して感謝申し上げる。
白沢勝彦、原明芳、百瀬正恒、山田真一（敬称略）
- 13 本調査の出土遺物および写真・実測図等の記録類は、松本市教育委員会が管理し、松本市立考古博物館（〒399-0823 長野県松本市中山 3738-1 TEL 0263-86-4710 FAX 0263-86-9189）に保管している。

参考文献

- 松本市教育委員会 1987 『松本市文化財調査報告No.51 松本市高畑遺跡』
- 師長野県埋蔵文化財センター 1990 『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4ー松本市内
その1ー総論編』
- 松本市教育委員会 2003 『松本市文化財調査報告No.168 中山古墳群・鍬形原遺跡・鍬形原砦址』
- 松本市教育委員会 2004 『松本市文化財調査報告No.175 中山古墳群・鍬形原遺跡・鍬形原砦址』
- 松本市教育委員会 2008 『松本市文化財調査報告No.194 高畑遺跡 第2・3・4・5次』
- 松本市教育委員会 2008 『松本市文化財調査報告No.196 中山古墳群 14・15 カニホリ東・西遺跡』

目次

例言

目次

第I章 調査経緯

第1節 調査経過	7
第2節 調査体制	8

第II章 遺跡の環境

第1節 地理的環境	9
第2節 歴史的環境	11
第3節 過去の調査成果	12

第III章 調査成果

第1節 調査の概要	13
第2節 遺構	
1 竪穴住居址、竪穴建物址	14
2 竪穴状遺構	16
3 掘立柱建物址	16
4 炭焼窯	17
5 土坑	17
6 炉址	18
7 溝址	18
8 畝址	19
第3節 遺物	
1 土器・陶磁器	20
2 土製品	24
3 石器・石製品	25
4 金属製品	25

第IV章 総括

附編 松本市高畑遺跡第6次発掘調査で出現した焼土の古地磁気方位と強度	30
高畑遺跡（第6次調査）の自然科学分析	49

表

図版

写真図版

報告書抄録

表目次

第1表	竪穴住居址一覧表	第5表	土器観察表
第2表	竪穴建物址・竪穴状遺構一覧表	第6表	土製品一覧表
第3表	掘立柱建物址一覧表	第7表	石器・石製品一覧表
第4表	土坑一覧表	第8表	金属製品一覧表

図版目次

図版1	事業対象地と調査区の範囲、土層図	図版47	掘立柱建物址(2)
図版2	調査区全体図	図版48	掘立柱建物址(3)
図版3	A区全体図	図版49	掘立柱建物址(4)
図版4	B区全体図	図版50	掘立柱建物址(5)、炭焼窯
図版5	C区全体図	図版51	土坑(1)
図版6	D区全体図	図版52	土坑(2)
図版7	F区全体図	図版53	土坑(3)
図版8	G区全体図	図版54	土坑(4)
図版9	H・I区全体図	図版55	土坑(5)
図版10	J・K区全体図	図版56	土坑(6)、炉址
図版11	L区全体図	図版57	溝址
図版12	M区全体図	図版58	畝址
図版13	竪穴住居址(1)	図版59	土器(1)
図版14	竪穴住居址(2)	図版60	土器(2)
図版15	竪穴住居址(3)	図版61	土器(3)
図版16	竪穴住居址(4)	図版62	土器(4)
図版17	竪穴住居址(5)	図版63	土器(5)
図版18	竪穴住居址(6)	図版64	土器(6)
図版19	竪穴住居址(7)	図版65	土器(7)
図版20	竪穴住居址(8)	図版66	土器(8)
図版21	竪穴住居址(9)	図版67	土器(9)
図版22	竪穴住居址(10)	図版68	土器(10)
図版23	竪穴住居址(11)	図版69	土器(11)
図版24	竪穴住居址(12)	図版70	土器(12)
図版25	竪穴住居址(13)	図版71	土器(13)
図版26	竪穴住居址(14)	図版72	土器(14)
図版27	竪穴住居址(15)	図版73	土器(15)
図版28	竪穴住居址(16)	図版74	土器(16)
図版29	竪穴住居址(17)	図版75	土器(17)
図版30	竪穴住居址(18)	図版76	土器(18)
図版31	竪穴住居址(19)	図版77	土器(19)
図版32	竪穴住居址(20)	図版78	土器(20)
図版33	竪穴住居址(21)	図版79	土器(21)
図版34	竪穴住居址(22)	図版80	土器(22)
図版35	竪穴住居址(23)	図版81	土器(23)
図版36	竪穴住居址(24)	図版82	土器(24)
図版37	竪穴住居址(25)	図版83	土器(25)
図版38	竪穴住居址(26)	図版84	土器(26)
図版39	竪穴住居址(27)	図版85	土器(27)
図版40	竪穴住居址(28)	図版86	土器(28)
図版41	竪穴住居址(29)	図版87	土製品・石器・石製品(1)
図版42	竪穴住居址(30)	図版88	石器・石製品(2)
図版43	竪穴住居址(31)	図版89	金属製品(1)
図版44	竪穴住居址(32)、竪穴建物址(1)	図版90	金属製品(2)
図版45	竪穴建物址(2)、竪穴状遺構	図版91	金属製品(3)
図版46	掘立柱建物址(1)	図版92	2～6次調査全体図

写真図版目次

写真図版1	調査区全景	写真図版3～10	遺構
写真図版2	調査地遠景	写真図版11～28	遺物

第 I 章 調査経緯

第 1 節 調査経過

松本市村井町南土地区画整理組合（以下「組合」という。）により松本市村井町南二丁目 918 番ほかで土地区画整理事業が計画されたが、予定地一帯は周知の埋蔵文化財包蔵地である高畑遺跡に該当していた。そのため、松本市教育委員会（以下「市教委」という。）では平成 26 年 3 月 25 日～4 月 24 日に事業地内で試掘確認調査を実施した。その結果、古墳時代～中世の遺物を伴う竪穴住居址などを検出し、対象地内の広範囲に遺跡が残存していることが確認された。

平成 26 年 5 月 9 日付で、文化財保護法第 93 条に基づく土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出書を組合から長野県教育委員会（以下「県教委」という。）宛に提出された。市教委では、建設工事の際に遺跡が破壊される恐れがあるため、同日付で届出書を県教委に進達し、5 月 16 日付で県教委から埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査実施の通知を受けた。また、事業者である組合と協議を行い、発掘調査とこれに係る事務処理については市教委が実施することとし、組合と松本市の間に 5 月 12 日付で発掘調査業務の委託契約が締結された。

現地での発掘調査は平成 26 年 5 月 19 日～平成 28 年 3 月 25 日に実施した。調査終了後、平成 28 年 3 月 29 日付で県教委に発掘調査終了報告書を提出した。また、3 月 29 日付で埋蔵物発見届を松本警察署に提出し、4 月 8 日付で県教委より埋蔵物の文化財認定及び出土品の帰属についての通知を受けた。それを受け 7 月 11 日付で出土文化財譲与申請書を県教委に提出し、11 月 1 日付で出土文化財の譲与についての通知を受けた。

本発掘調査に係る文書等の記録は以下のとおりである。

<平成 25 年度>

2 月 24 日 「公共事業に伴う農地転用届書（一時転用）」を農業委員会に提出

3 月 25 日～4 月 24 日 市教委が試掘確認調査実施

<平成 26 年度>

5 月 9 日 「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出」を組合が市教委に提出、市教委が県教委に進達

5 月 12 日 組合と松本市が埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結

5 月 16 日 「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」県教委から組合と市教委に通知

5 月 19 日～3 月 24 日 市教委が発掘調査実施

3 月 24 日 松本市が組合に埋蔵文化財発掘調査完了報告書提出

<平成 27 年度>

4 月 1 日 組合と松本市が埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結

4 月 13 日～3 月 25 日 市教委が発掘調査実施

3 月 25 日 松本市が組合に埋蔵文化財発掘調査完了報告書提出

3 月 29 日 「埋蔵物発見届」「埋蔵文化財保管証」を市教委が松本警察署、県教委に提出

3 月 29 日 「発掘調査終了報告書」を市教委が県教委に提出

<平成 28 年度>

4 月 1 日 組合と松本市が埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結

4 月 8 日 「文化財の認定及び県帰属について」県教委から市教委に通知

- 7月11日 「出土文化財譲与申請書」を市教委が県教委へ提出
11月1日 「出土文化財の譲与について」県教委から市教委に通知
3月17日 松本市が組合に埋蔵文化財発掘調査完了報告書提出
<平成29年度>
4月3日 組合と松本市が埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結

第2節 調査体制

<平成26年度>

- 調査団長 吉江厚（松本市教育長）
調査担当 原田健司（事務員）、小山奈津実（同）、山本紀之（嘱託）、山田梨恵（同）
事務局 松本市教育委員会文化財課
内城秀典（課長）、直井雅尚（埋蔵文化財担当係長）、百瀬耕司（主任）、吉見寿美恵（嘱託）

<平成27年度>

- 調査団長 赤羽郁夫（松本市教育長）
調査担当 小山奈津実（主事）、福島彩子（事務員）、山本紀之（嘱託）、山田梨恵（同）
事務局 松本市教育委員会文化財課
内城秀典（課長）、直井雅尚（埋蔵文化財担当係長）、櫻井了（主査）、吉見寿美恵（嘱託）

<平成28年度>

- 調査団長 赤羽郁夫（松本市教育長）
報告書担当 小山奈津実（主事）、山本紀之（嘱託）
事務局 松本市教育委員会文化財課
木下守（課長）、直井雅尚（埋蔵文化財担当係長）、櫻井了（主査）、吉見寿美恵（嘱託）

<平成29年度>

- 調査団長 赤羽郁夫（松本市教育長）
報告書担当 小山奈津実（主事）、山本紀之（研究専門員）、原田健司（主事）
事務局 松本市教育委員会文化財課
大竹永明（課長）、三村竜一（埋蔵文化財担当係長）、百瀬耕司（主査）、吉見寿美恵（嘱託）

<調査員>

熊谷康治、齋藤武士、田中正治郎、浜野安剛、保柳康一、宮嶋洋一、森義直

<発掘協力者>

朝倉秀明、芦澤雅量、井内南奈香、井口方宏、伊藤節子、今井文雄、岩井健一郎、太田行信、大滝清次、折井完次、加藤朝夫、川崎勝英、小林和由、小林伸一、猿楽あい子、塩原政夫、清水陽子、鈴木あかね、鈴木高、関口滋、曾根原裕、田中重正、茅野信彦、鳥井和幸、直井知導、長岩千晴、中村明、西村一敏、林秋好、平出賢一、古屋美江、待井正和、三谷久美子、宮澤昭敬、宮澤文雄、百瀬二三子、柳さおり、矢野芳徳、山崎素行、矢満田伸子

<整理協力者>

阿形文、天野雅代、荒井留美子、井内南奈香、市川二三夫、内田和子、柏原佳子、久保田瑞恵、佐々木正子、澤柳宣子、竹内直美、竹平悦子、直井慎之介、中澤温子、原田梨恵、洞澤文江、前沢里江、三澤栄子、宮本章江、村山牧枝、安田津由紀

第二章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

高畑遺跡のある芳川地区は松本市の南部に位置し、東に田川、西に奈良井川と大きな河川に挟まれた南北に細長い平地に立地する。この芳川地区の東を流れる田川のほとりに高畑遺跡は広がる。今回は高畑遺跡の南端にあたる場所で調査を行った。標高は620m前後である。また、第1～5次調査地は今回の第6次調査地の北側に近接している。

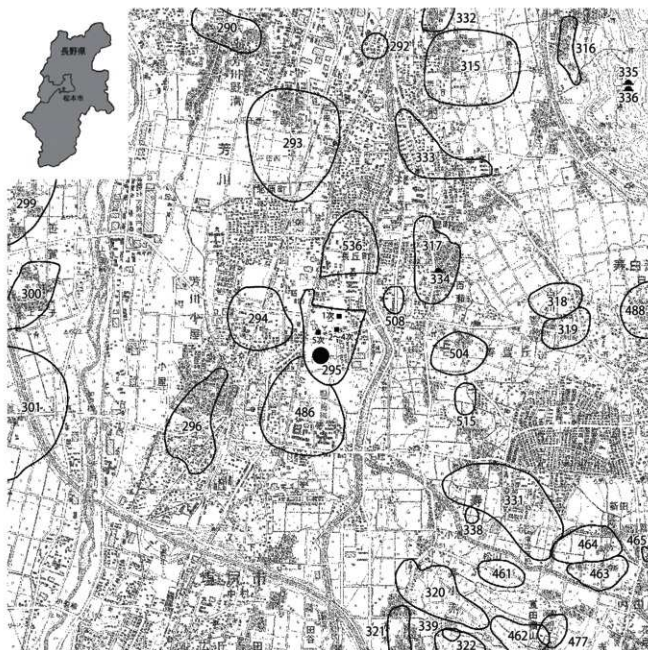
調査地周辺は高畑という地名が示す通り全体的に概観すると一様に微高地平坦面を形成しているように見えるが、実際に現地表面を観察すると西側にある浅い谷状地形を呈する地形の最も低い部分を通過する国道19号線方向に向かって西及び北西方向に緩やかに傾斜していることが分かる。また、田川現河床との間には旧河床による窪地も見られる。

田川は現在では堤防によって護岸されているが、平常時には水量が乏しい河川として知られている。そのため、河床面と周囲の面との比高差はほとんどない状態であり、現在でも天井川となっている。このような状況であるため、大雨等の理由で田川が増水し洪水が発生すると流域一帯は当然洪水被害を蒙ることになると思われ、現に本遺跡でも氾濫の痕跡が多数認められている。田川洪積層は硬質砂岩、安山岩、ヒン岩、チャート、頁岩、石英閃緑岩などの細・中礫を多量に含み、鉄分やマンガンで汚染されているという特徴が見られるが、これらの礫を含んだ砂礫層が調査区全域に渡って見られた。このような田川洪積層は近接する小原遺跡や平田本郷遺跡でも確認されており、田川の影響が周辺一帯に及んでいることが窺える。ただし、前述の近接両遺跡で見られる調査地西方約1500mに流れる奈良井川の洪積層は本遺跡では見られないことから、本遺跡は奈良井川の影響を受けていないと思われる。

調査面では大別して褐色砂礫層、褐色土層が見られる。褐色土層は褐色砂礫層範囲の中に島状に見られるため、氾濫により押し出された砂礫層からふるいだされて堆積したものであると考えられる。これらの堆積層は弓なりに曲線を感じさせる部分もあり、蛇行しながら押し出されていった様子が認められる。

今回検出された遺構の多くはこのような氾濫堆積層の上面に見られるが、前回までの調査では一部砂礫層下で検出される遺構も存在している。これは、氾濫が集落存続中にも幾度も起こっていたことを想像させる。今回の調査ではそのような所見は見られないことから、部分的な被害に留まっていた可能性も考えられる。

調査地や東寄りには南北方向に流れる自然流路が見られた。この自然流路は幅5～8m程もある大きなもので、今回の調査と第2・4次調査の結果を考え合わせて見ると、調査地の上流で田川本流から分流し、南東方向から調査地内へ流れ込み、調査地内を北流してからさらに北東方向へ向きを変えながら田川本流へ戻る状況が確認できる。覆土は砂質土と粘質土が幾層か重なり合っており、長期間の流れを想定することができる。これを示すように自然流路の覆土中及び上面にはほとんど遺構は見られず、各次調査で確認された溝跡の一部がこの自然流路に流れ込むように融合しているため、この流路は集落と同時期に存在していた可能性が高く用水等何らかの形で利用されていたことも考えられる。



●：今回の調査地点、■：過去の調査地点、数字は松本市遺跡台帳記載の遺跡番号

遺跡

290：野溝遺跡	292：平田遺跡	293：平田本郷遺跡	294：小原遺跡	295：高畑遺跡
296：小原遺跡	299：中二子遺跡	300：上二子遺跡	301：神戸遺跡	315：竹洲遺跡
316：瀬黒遺跡	317：百瀬遺跡	318：白川遺跡	319：野田遺跡	320：北原遺跡
321：寿小赤遺跡	322：石行遺跡	321：小池遺跡	322：竹湖南原遺跡	333：向原遺跡
461：松山遺跡	462：横山城遺跡	463：エリ穴遺跡	464：一ツ家遺跡	465：くねの内遺跡
486：村井遺跡	488：白姫遺跡	504：百瀬南遺跡	508：寿南久保遺跡	515：北起し遺跡
536：村井北遺跡（H 28年3月に高畑遺跡から分離）				

古墳

334：耳塚古墳	335：長峰下1号古墳	336：長峰下2号古墳
----------	-------------	-------------

城館址

338：小池砦址	339：赤木城址	477：横山城址
----------	----------	----------

調査地の位置と周辺遺跡（1/25,000）

第2節 歴史的環境

高畑遺跡は松本市の最南端で塩尻市に接する芳川地区に位置する。この芳川地区は古くは中山道から分かれた北国脇往還（善光寺街道）が通っていた地区にあたる。周囲には東に田川、西に奈良井川が流れており、河川に挟まれた平地でもあったため氾濫の影響を受けやすく、やせた土地でもあった。この両河川はやはり集落の変遷にも密接に関わっており、氾濫が続いていたと思われる縄文時代、弥生時代の集落はほとんど見られない。周囲を見ると縄文時代には、田川右岸の百瀬遺跡で早期と後期の土器が出土しており、弥生時代になると出川西遺跡、出川南遺跡、百瀬遺跡などで集落の存在が確認されている。

古墳時代になると次第に集落が展開していくようになり、平田北遺跡、出川南遺跡で集落を確認している。特に出川南遺跡は大規模な集落であったと考えられ、古墳も発見されている。

奈良・平安時代に入ると水利が安定したため奈良井川の堆積域を中心に次第に開発が広がっていったと考えられる。集落においても発展期に入り、小原遺跡、塩尻市吉田川西遺跡、塩尻市吉田向井遺跡などで大規模集落の存在を見て取ることができる。周辺では小原遺跡における集落の発展が特にめざましく、過去の調査でも130軒以上の竪穴住居址を検出している。遺物においても円面硯や墨書土器などの出土に公的な性格を持った有力者の存在が窺え、甲斐型土器などの外来系土器の出土に他地域との活発な交流が看取できることから、この集落は周辺集落のなかでも重要な位置付けにあったと思われる。また、「又」、「財富加」、「卍」と書かれた墨書土器や鉄鐸や鉄鈴なども出土しており、当時の信仰のあり方を推察することも可能である。芳川地区は、この時期において筑摩郡良田郷にあたる場所と推定されていることから、小原遺跡は良田郷内でも重要な集落であったことが窺える。

この他小原遺跡からやや南方の吉田川西遺跡、吉田向井遺跡も同様の大規模集落であったと目されている。吉田川西遺跡では、過去の調査で実に260軒を超える竪穴住居址が検出され、集落の規模の大きさを示している。出土した遺物では緑釉陶器や鉄器が特に目立っており、鍛冶遺構の存在も確認されている。先述した小原遺跡でも鍛冶遺構や鉄滓、多量の鉄器などが見られるため、このような点においても小原遺跡と様相が似ていると言えるであろう。吉田向井遺跡では、過去の調査で90軒近くの竪穴住居址と共に墓坑と目される土坑が多数検出されており、墓域としてのあり方も窺えるところである。

このような大規模集落は粗密を繰り返しながらも中世段階まで続しており、高畑遺跡も含め小原遺跡、吉田川西遺跡、吉田向井遺跡共に中世の集落が検出されている。小原遺跡では奈良・平安期に比べて西側に集落が広がりをみせている。発見された住居数などは少ないものの、集落としては安定していたと思われ、土器とともに古瀬戸系陶器、龍泉窯青磁などや短刀、刀子なども出土している。さらに中世の小原遺跡で注目すべきは埋納銭の出土である。2,700枚を越す銭がサシになって出土したもので、完全にサシと判明したものは4本あり、1サシ平均98.5枚の銭が見られた。銭の9割は宋銭であり、下限は至大通宝（元）の1310年であった。このような古銭に関しては南方に近接する塩尻市吉田若宮遺跡でも出土しており、二度に渡る調査で計76,000枚の埋納銭が出土している。この埋納銭は14～15世紀のもので推察されており、小原遺跡とほぼ時期が一致する。このような状況から当該期においてこの周辺一帯には広く集落が分布している景観が想定でき、何らかの理由で大量の銭が埋納され、その後忘れ去られたものと思われる。

芳川地区は中世において地頭職にあった村井氏の支配地として支配が続いていたが、天文17（1548）年に塩尻峠の合戦の後に武田晴信が村井城に着城したことから、戦国期には武田氏の影響をうけることとなった。その後、松本藩領、筑摩県を経て現在に至っている。

第3節 過去の調査成果

高畑遺跡は、昭和61年度に第1次調査を実施して以来、平成15年度に第2・3次調査、平成16～17年度に第4・5次調査が行われ、縄文時代・弥生時代の遺物の出土ならびに古墳時代～鎌倉時代における集落址や遺構群が確認されている。ここでは過去における第1～5次調査の結果から、その概要を記したい。

<縄文時代・弥生時代>

第1次調査では土器棺墓1基を検出し、縄文晩期の土器2個体が出土している。しかしながらこの時期の土器片・石器類は検出面上から多数出土しているものの、そのほとんどが流入による磨耗が激しい状態にあり、また、住居址等の遺構が確認されていないことから、当該期における高畑遺跡周辺は集落址等に見られる定住空間ではなく、狩猟・採集に代表される経済活動区域であった可能性が高い。さらに第2・4次調査でも縄文土器片・弥生土器片・石器類が若干出土しているが、遺構は検出されていない。

<古墳時代～平安時代>

第1～5次調査では調査区域の東部から南部にかけて単独住居址が散在していることが確認された。遺構密度が低いことから集落の中でも縁辺部遺構になると思われ、今回の第6次調査で調査された遺構密度の高い集落中心部遺構群に繋がっていくものと考えられる。特記すべきは第3次調査での8世紀前半に比定される住居址内から出土した「美濃国」刻印須恵器片である。類例としては松本市内で5例目の出土であり、生産地での考察により生産時期が限定されているものである。周辺遺跡とともに最盛時期を迎える高畑集落の一端を窺うことができる資料である。

<鎌倉時代>

第2・4次調査の際に調査区域の西端部で確認された自然流路址の東側に当該期の遺構が高密度に分布する。この自然流路址は今回の第6次調査のA区・M区の自然流路址に繋がり遺跡地を南北に貫いて流れていたもので、当時は水路として利用されていたものと推定される。この流路址では、区画溝の可能性を持つ調査区内で検出された溝への分流もしくは流れ込みの痕跡がみられることから、流路跡自体が区画溝の性格を有すると思われ、修築等で長期にわたり使用されていたと考えられる。この流路址の東側に分布する遺構の中では第3次調査で出土した4間×5間の大型総柱掘立柱建物址が特筆的遺構である。この建物址とそれに付随する竪穴状遺構群を中心にして、周囲に主軸線をほぼ同じくする方形の竪穴状遺構がこの建物址を囲むように配置され、その間を埋めるように溝・土坑・ピット群がみられる。遺構の検出状況からこの建物址が集落の中心的存在であったことは確実であり、その規模から有力者の存在を想定することは十分可能であると思われる。また、これらの遺構覆土内には多量の礫が投げ込まれていることが共通特徴として捉えられることから、同時期における一連の遺構群と考えても良いと思われる。これらの建物址周囲に配置された竪穴状遺構は、遺構規模が3～4m程度と小型でかつ方形を呈しており、深さも60cm以上と深い割には柱穴が見られないことから、居住施設ではなく作業場や簡易な建物のような施設だった可能性も考えられる。ピットの数の多さから、中世という時代ゆえの把握しきれない建物址の存在が十分考えられるため、周辺に簡易な建物が多数配置されていたことも想像される。このような状況から大規模な用水によって区画された中で、西に居住域、南に掘立柱建物群、東に作業場のような施設が計画的に営まれている集落構造を推定することも可能となろう。

第三章 調査成果

第1節 調査の概要

1 調査区の設定

今回の開発予定地は約 50,000m²に及ぶものであったが、本調査に先立ち各所に試掘トレンチを設定して、遺跡が広がる範囲を把握し、調査対象範囲を設定した。調査区は田畑の区画を基準に A～M 区の 13 地区に分けた。D・E 区は、平成 26 年度に掘削した箇所を D 区、平成 27 年度に D 区を南に拡張した箇所を E 区として調査を実施した。しかし、明確に区分けが行えないことから、ともに D 区として整理を行った。

2 調査の方法・手順

調査区はパワーショベルを用いて遺構検出が可能な深度まで表土を除去し、人力で遺構検出作業を進めた後、各遺構の掘り下げを行った。遺構番号は遺構の種類毎とし、竪穴住居址は高畑遺跡第 1 次調査からの通し番号を付け、14 号からとした。その他の遺構は今回の調査で 1 号から通し番号を付けた。遺構測量に係る基準は国家座標（世界測地系）を用いた。調査地内及び調査地周辺にある四等三角点、3 級基準点を基に調査地内に基準点を複数設置し、これらを基に調査区内に 3m のグリッドを設定した。測量基準点は X = 20,190,000、Y = -48,200,000 を NSO、EWO とした。測量は簡易遭り方測量により作成した。平面図・各遺構図・断面図は 1/20、詳細図が必要なものについては 1/10 で作成した。写真は発掘作業の各段階と遺構等の遺物出土状況及び完掘状況をフィルムカメラとデジタルカメラで撮影した。また、調査区全景はドローンによる空中写真測量を実施し、開発予定地のオルソ画像データに個々の調査区をプロットした。

3 調査成果の概要

調査面積：12,652m²

発見遺構

竪穴住居址：157 軒（奈良 4 軒、平安前期 64 軒、平安中期 26 軒、平安後期 61 軒、時期不明 2 軒）

竪穴建物址：5 軒（平安後期 1 軒、鎌倉 2 軒、時期不明 2 軒）

竪穴状遺構：1 基（鎌倉）

掘立柱建物跡：8 棟（平安後期以降 2 棟、鎌倉 1 棟、時期不明 5 棟）

炭焼窯：3 基（平安中期 2 基、時期不明 1 基）

土坑：1015 基

炉址：1 基（平安前期以降）

溝址：12 条（平安前期 1 条、時期不明 11 条）

畝址：16 本（平安後期以降）

出土遺物

土器・陶磁器：土師器、黒色土器、須恵器、軟質須恵器、灰釉陶器、無釉陶器、緑釉陶器、青磁、白磁、土師質土器

土製品：土錘、羽口

石器・石製品：石鎌、石錐、小形刃器、楔形石器、打製石斧、砥石、磨石、台石、石核

金属製品：鐵、刀子、鎌、鋤、斧、鑿、苧引鉄、紡錘車、燧鉄、釘、鉸具、錢貨

第2節 遺構

1 竪穴住居址、竪穴建物址（第1・2表、図版13～45、写真図版3～9）

現場段階で古代の建物と推定された遺構は竪穴住居址、中世の建物と推定された遺構は竪穴建物址とした。竪穴住居址は157軒、竪穴建物址は5軒が検出された。内訳は奈良時代が4軒、平安時代前期が64軒、平安時代中期が26軒、平安時代後期が62軒、鎌倉時代が2軒、時期不明が4軒である。各遺構の詳細なデータは一覧表を参照されたい。本項では時期ごとにまとめて記述する。規模については、長辺が3m以下を小型住居、3～5mを中型住居、5m以上を大型住居としている。

(1) 3・4期（奈良時代／8世紀中葉～後葉）

4軒が該当し、内訳は、3期が15住、3・4期が28住、4期が73・81住である。平面形態は、73住の隅丸長方形以外の3軒は方形である。規模は中型住居2軒、大型住居2軒で、小型住居は見られない。カマドは73住以外の3軒で確認され、3軒ともに東壁中央である。15・28住は石組カマドとされる。貯蔵穴状のピットは81住のみで確認された。柱穴は28住で主柱穴4本が確認された。

(2) 6期（平安時代前期／9世紀前葉）

10軒が該当し、内訳は、6期が22・133・135・138・139・143・173住、6・7期が29・88・147住である。平面形態は方形・隅丸方形が基調となるが、隅丸長方形も見られる。規模は中型住居が主体である。173住のみが小型住居であり、大型住居は見られない。カマドは6軒で確認され、東壁が3軒、西壁が3軒である。カマドの位置は中央が3軒、中央寄りが3軒で、隅は見られない。また、22・29・138・143・173住の5軒は石組カマドとされ、22住は粘土塊が袖石に貼り付いており、支柱石も確認できる。貯蔵穴状のピットは3軒で確認され、22住P1からは紡錘車が出土している。柱穴が確認できる住居は認められない。

(3) 7期（平安時代前期／9世紀中葉）

29軒が該当し、内訳は、7期が37・40・41・42・49・58・59・92・98・99・102・108・112・120・121・123・125・126・127・128・129・130・134・136・137・140住、7・8期が44・61・124住である。平面形態は6期と同様に方形・隅丸方形が基調となるが、隅丸長方形も見られる。規模は中型住居が半数以上の19軒であるが、大型住居も8軒見られる。また、小型住居は61・137住の2軒である。カマドは24軒で確認され、東壁が16軒、西壁が5軒、北西隅が1軒、北壁が2軒である。カマドの位置は中央が13軒、中央寄りが9軒、隅が1軒、不明が1軒で、中央が半数以上を占める。また、13軒は石組カマドとされ、134住は天井石が確認できる。また、92住は当初東壁にあったカマドを北壁に造り替えたと思われる。貯蔵穴状のピットは9軒で確認された。柱穴は120・124住で確認された。120住はカマドがある西壁以外の壁面で壁柱穴が確認された。124住は住居床面に4本の主柱穴、南壁以外の壁面に壁柱穴が確認された。壁柱穴のP12からは皇朝十二銭の富寿神宝が立つように出土していることから、地鎮のための埋納等が推定される。また、南東部床面では黒色土器の杯・椀、灰釉陶器がまとめて出土することから、儀礼の痕跡と予想される。さらに、緑釉陶器の皿に「禾」の刻書、黒色土器の杯に「禾」の墨書がされている等、他の住居とは異なる要素を持つ。

(4) 8期（平安時代前期／9世紀後葉）

25軒が該当し、内訳は、8期が30・31・32・34・38・45・60・87・97・109・111・115・119・

151・152・156・158・159 住、8・9 期が 35・48・50・68・144・153・157 住である。平面形態は方形・隅丸方形ないし長方形・隅丸長方形である。規模は 7 期と同様に中型住居が半数以上を占めるが、小型住居・大型住居も見られる。カマドは 12 軒で確認され、東壁が 8 軒、西壁が 2 軒、北壁が 2 軒である。カマドの位置は中央が 6 軒、中央寄りが 6 軒で、隅は見られない。また、9 軒は石組カマドとされ、35 住は当初東壁にあったカマドを北壁に造り替えたとと思われる。貯蔵穴状のビツは 4 軒で確認された。柱穴が確認できる住居は認められない。153 住は 8・9 期と 10・11 期の 2 時期の遺物が出土し、北壁と南壁の中央付近に不自然な屈曲が見られることから、本来は 2 軒の切り合いがあったが、捉えられずに 1 軒として調査した可能性が考えられる。

(5) 9～11 期(平安時代中期／10 世紀前葉～後葉)

26 軒が該当し、内訳は、9 期が 26・27・36・43・51・95・100・104・105・113・114・141・142・149・150 住、9・10 期が 116・146 住、10 期が 39・47 住、11 期が 14・23・57・65 住、11・12 期が 46・101 住、11～14 期が 54 住である。平面形態は方形・隅丸方形が基調となるが、隅丸長方形も見られる。規模は中型住居が半数以上を占めるが、小型住居・大型住居も見られる。カマドは 14 軒で確認され、東壁が 8 軒、南東隅が 1 軒、西壁が 2 軒、北壁が 2 軒、北東隅が 1 軒である。カマドの位置は中央が 8 軒、中央寄りが 2 軒、隅が 4 軒で、中央が多いものの、隅も見られるようになる。また、10 軒は石組カマドとされ、43 住は当初北壁にあったカマドを東壁に造り替えたとと思われる。貯蔵穴状のビツは 5 軒で確認された。柱穴が確認できる住居は認められない。14 住はカマドの左脇と南壁中央にテラス状の段が見られる。カマド左脇のテラスはカマド施設の一部、南壁中央のテラスは出入口に関わる施設と推定される。114 住は北側より南側の床面が一段高くなっている。

(6) 12・13 期(平安時代後期／11 世紀前葉～中葉)

34 軒が該当し、内訳は、12 期が 25・175 住、12・13 期が 77・96・103・107・160・167・171・172 住、13 期以前が 75 住、13 期が 19・24・62・63・64・67・69・70・71・72・74・78・117・164・166・168・169・176 住、13 期以降が 82 住、13・14 期が 17・55・163 住、竪 6 である。平面形態は方形・隅丸方形ないし長方形・隅丸長方形である。規模は中型住居が主体である。大型住居は 62・64・96 住の 3 軒で、小型住居は見られない。カマドは 20 軒で確認され、東壁が 13 軒、西壁が 2 軒、北壁が 4 軒、北東隅が 1 軒である。カマドの位置は中央が 2 軒、中央寄りが 7 軒、隅が 11 軒で、隅が半数以上を占める。また、12 軒は石組カマドとされ、19 住は天井石が確認できる。貯蔵穴状のビツは 2 軒で確認された。柱穴が確認できる住居は認められない。25 住は床面中央・北壁付近で貼床を確認した。78・82 住はカマドの右脇にテラス状の段が見られ、カマド施設の一部と推定される。

(7) 14・15 期(平安時代後期／11 世紀後葉～12 世紀前葉)

28 軒が該当し、内訳は、14 期が 16・18・21・53・66・84・85・90・91・93・94・131・162・170・174 住、14 期以降が 161 住、14・15 期が 89・122・165 住、15 期が 20・56・79・80・83・86・106・110・132 住である。平面形態は方形・隅丸方形ないし長方形・隅丸長方形である。規模は中型住居ないし大型住居であり、小型住居は見られない。カマドは 12 軒で確認され、東壁が 9 軒、南壁が 1 軒、西壁が 1 軒、北西隅が 1 軒である。カマドの位置は中央寄りが 2 軒、隅が 10 軒で、中央は見られず、隅が大半を占める。また、8 軒が石組カマドとされる。110 住は今回の調査唯一の南カマドであり、カマド左脇には礫が水平に敷かれており、カマド施設と推定される。貯蔵穴状のビツは 6 軒で確認され、132

住 P5 は土師器の杯・皿が出土し、覆土内には焼土塊・炭化物が混入する。柱穴が確認できる住居は認められない。カマド以外で火床面や炭化物が確認された住居は 18・20・80・83・85・122・161・170 住の 8 軒で、床面の中央 1 か所で見られる住居 (80・83・85・161・170 住) と、床面の複数箇所で見られる住居 (18・20・122 住) がある。これは 14・15 期のみで確認されており、検出住居の 1/3 程度にあたる。この時期の住居廃絶時の儀礼の痕跡とも考えられる。

(8) 中世 (12 世紀後葉以降)

竪 1・7 の 2 軒が該当する。竪 1 は隅丸長方形で南西端は隅切りになっている。南西隅と北壁にはテラス状の段が見られ、南西隅のテラスは、出入口に関わる施設と推定される。床面には南側を中心に多量の礫が投げ込まれ、覆土内には下層を中心に焼土塊・炭化物が混入している。これらは、建物廃絶時の儀礼の痕跡とも考えられる。竪 7 は長辺が短辺の倍以上ある細長い隅丸長方形である。南側には頭頂部が窪んだ円錐台状の施設が見られるが、用途等の詳細は不明である。P1・2 は壁柱穴と思われる。本址の東側には土 162・163・164 が本址とほぼ平行に検出されており、本址に関わる遺構の可能性も考えられる。

2 竪穴状遺構 (第 2 表、図版 45)

土坑よりも大型の穴を竪穴状遺構とした。遺構番号は竪穴建物址・竪穴状遺構での通し番号としている。詳細なデータは一覧表を参照されたい。竪穴状遺構は A 区南東で竪 4 が検出された。平面形態は約 3×2.5m の楕円形で、西側にテラス状の段が見られる。覆土は上層にのみ焼土塊が多量に混入しており、下層は自然埋没、上層は焼土投げ込みによる人為的な埋没と推定される。遺物は青磁片が 1 点出土するのみである。鎌倉時代と推定される。

3 掘立柱建物址 (第 3 表、図版 46～50、写真図版 9)

掘立柱建物址は 8 棟が検出され、内訳は総柱建物 5 棟、側柱建物 3 棟である。各遺構の詳細なデータは一覧表を参照されたい。ただし、他にも土坑がまとまって検出された箇所があり、これらの中には認識できていない掘立柱建物址が存在する可能性がある。

掘立柱建物 1 A 区南側に位置し、竪 6 を切る。3 間×3 間の総柱建物である。南面及び東面・西面の一部の柱間には柱穴が 1 本加わる。P2・4・6 の底には礫が出土している。遺物は P3 から常滑の壺片 1 点、P16 から土師質土器の皿 1 点が出土するのみで、非常に少ない。鎌倉時代と推定される。

掘立柱建物 2 B 区北西に位置し、建 5・6 と重なり合い、建 6 を切る。6 間×4 間の総柱建物である。柱穴は一部で見られない。南面には 4 間×1 間、西面には 1 間×1 間の張り出しが見られる。遺物は P3 から灰釉陶器片 1 点が出土するのみで、時期は不明である。

掘立柱建物 3 B 区東側に位置し、建 4 と重なり合い、畝を切る。3 間×2 間の総柱建物である。柱間は梁行の南側部分が他よりも広い。遺物は出土していない。時期は切り合いから 15 期以降と推定される。

掘立柱建物 4 B 区東側に位置し、建 3 と重なり合い、畝を切る。5 間×2 間の側柱建物である。柱配置は東面に対して西面が不規則である。遺物は P13 から白磁碗片が 1 点出土するのみである。時期は切り合いから 15 期以降と推定される。

掘立柱建物 5 B 区北西に位置し、建 2・6 と重なり合う。4 間×2 間の総柱建物である。東面中央には柱穴が見られない。南面には 2 間×1 間の張り出しが見られる。遺物は P14 から出土するが非常に少なく、時期は不明である。

掘立柱建物 6 B 区北西に位置し、建 2・5 と重なり合い、建 2 に切られる。3 間×2 間の総柱建物である。

西面中央には柱穴が見られない。東面中央の柱穴はやや東に寄る。遺物はP13から出土するが非常に少なく、時期は不明である。

掘立柱建物 7 H区南東に位置する。2間×1間の側柱建物である。桁行柱間は梁行に比べて広い。遺物はP2・3から出土するが非常に少なく、時期は不明である。

掘立柱建物 8 M区西側に位置する。2間×1間の側柱建物である。桁行柱間は梁行に比べてやや広い。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

4 炭焼窯 (図版 50、写真図版 9)

炭焼窯 1

[主軸方向] N-102°-E [規模] 2.52 × 1.14 × 0.42 m [床面積] 2.63㎡ [切り合い] 炭焼窯 2 を切る

隅丸長方形を呈し、東壁中央に三角形の突出部が付属する。壁に焼土が見られる事や形状からこの突出部が焚口と推定される。焚口周辺の壁面には若干の焼土が見受けられるが、全体的に壁面は火熱を受けた痕跡をあまり有していない。ただし、焚口近くの北東角部から中央にかけての北壁は非常によく焼けており、強く締まっていた。焚口から見て右側に炎が流れたものと思われる。床面はわずかに東へ傾斜しているもののほぼ平坦である。床面上に溝等の施設はない。床面直上のほぼ全面には、直径1～3cm程度の太さの木の枝もしくは幹と思われる炭化物が多量混入する炭化物層が広がっており、直径5cm前後の比較的太い炭化物は壁際付近に集中して残存していた。焚口の南東方向床面直上には、床面上の炭化物を覆うように焼けた土の塊が確認された。壁体の一部が崩落したものと推定される。遺物は非常に少ないが、土師器の食器類が出土している。8・9期の遺物を含むが、周辺遺構の混入品と思われる。11期と推定される。

炭焼窯 2

[主軸方向] N-7°-E [規模] 3.02 × 1.18 × 0.38 m [床面積] 2.27㎡ [切り合い] 153 住を切り、炭焼窯 1 に切られる

隅丸長方形を呈し、北壁中央に半円形の突出部が付属する。壁面に良く焼けた焼土が貼りついていることからこの突出部が焚口と推定される。焚口部分は良く焼けており、特に西壁面は焼土も厚くかつ強く締まっている。焚口の南方向延長線上の床面中央部には、溝が南北方向に掘られている。床面はほぼ平坦であった。

焼土及び炭化物層は焚口周辺の床面直上に集中して残存しており、それ以外ではあまり土は焼けておらず、炭化物も散見する程度であった。炭化物の大部分は直径1.5～2cm程度の太さであったが、直径3cm前後のものも北西部に若干見られた。形状からこれらの炭化物は木の枝もしくは幹の部分と思われる。遺物は少ないが、食器類が出土している。8・9期の遺物を含むが、周辺遺構の混入品と思われる。11期と推定される。

炭焼窯 3

[主軸方向] N-85°-E [規模] 1.16 × 0.67 × 0.24 m [床面積] 0.58㎡ [切り合い] なし

隅丸長方形に近い楕円形を呈す。壁はほぼ垂直に掘り込まれ、北壁と南壁は良く焼けて堅くなっている。床面は東側が西側より若干高くなっている。床面直上の焼土・炭化物の分布には均一性が見られず、中央やや東側の北寄りには高密度に堆積し、西側には散在していた。覆土は水平堆積を呈し、焼土・炭化物の混入は少ない。これらの状況から本址は焚口等の痕跡が見られないものの炭焼窯の可能性が高いと思われる。床面に広がる炭化物の直径は2～3cm程度のものが大多数であったが、直径5cm以上のものは北東部に集中していた。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

5 土坑 (第4表、図版 51～56、写真図版 9・10)

土坑は1015基が検出された。土坑の平面形・規模・他遺構との新旧関係等については、一覧表を参照さ

りたい。本項ではこれらの中から特徴的な土坑について記述する。

土 339 C区東側に位置する、隅丸長方形に近い楕円形の土坑。25住を切り、土 341 に切られる。覆土内には炭化物や焼土塊が含まれ、床面には南側を中心に炭化物が広がる。遺物は灰軸陶器の碗・皿や土師器の杯が出土している。13期と推定される。

土 347 C区南側に位置する、不整形の土坑。24・28住を切る。覆土内には焼土や炭化物が多量に含まれる層がある。遺物は土師器の盤や灰軸陶器の皿が出土している。13期と推定されるが、切り合い関係にある24住が13期と推定されること等から、土坑ではなく24住の覆土であった可能性も考えられる。

土 356 C区南西に位置する、円形の土坑。本址中央には須恵器の平瓶が正位で据えられたように出土している。穴の性格は不明であるが、何らかの目的を持って掘られ、人為的に埋められたものと思われる。3・4期と推定される。

土 360 C区南西に位置する、円形の土坑。床面には灰軸陶器の長頸壺が正位で据えられ、その周りに土師器の杯が4点配置されている。長頸壺の中は中空であったことから、蓋のようなものの存在が窺える。骨等は確認できなかったが、遺物の出土状況等から、墓や墓に類似する施設と推定される。9期と推定される。

土 367 C区南東に位置する、楕円形の土坑。土 368・375 を切り、土 366 に切られる。南側床面には焼土が見られる。遺物は灰軸陶器の碗、土師器の杯・小型甕・羽釜、黒色土器の椀が出土している。11期と推定される。

土 383 D区北東に位置する、楕円形の土坑。64住を切る。床面付近では土師器の杯が伏せた状態で出土しており、意図的に置かれた可能性が考えられる。遺物は他に緑釉陶器の耳皿が1点出土している。14・15期と推定される。

土 398 D区北西に位置する、円形の土坑。96住を切る。床面には須恵器の長頸壺が正位で据えられている。長頸壺の中は中空であったことから、蓋のようなものの存在が窺える。骨等は確認できなかったが、遺物の出土状況等から、墓や墓に類似する施設と推定される。遺物は須恵器の長頸壺の他に土師器・黒色土器の椀が出土している。長頸壺は頸部から口縁部への開きが大きく、灰軸陶器の広口瓶と類似している。また、類例として県町遺跡第4次調査の土 404 で出土した須恵器の長頸壺があげられる。切り合いも考慮して、12・13期と推定される。

土 510 M区北側に位置する、隅丸方形の土坑。170住を切る。床面には多量の礫が見られる。遺物は非常に少ない。切り合いから14期以降と推定される。

土 556 D区南東に位置する、円形の土坑。床面には土師器の甕の下半が正位で据えられている。時期は不明である。

6 か址 (図版 56、写真図版 10)

か 1 D区北西に位置する、直径30cm程度の円形の地床炉である。124住を切る。遺物は出土していない。時期は切り合いから7・8期以降と推定される。

7 溝址 (図版 57、写真図版 10)

溝址は12条が検出された。南北方向は4条、東西方向は5条、北東～南西方向は2条、南東～北西方向は1条である。本項ではこれらの中から特徴的な溝址について記述する。

溝 1 A区西側に位置し、溝 2 を切る。南北方向に延び、水流は南→北方向と推定される。断面形はU字状である。遺物は土師器片が数点出土するのみで、時期は不明である。第2・3次調査の溝 4へ繋がる溝と思われる。

溝 2・8 溝 2 は A 区西側に位置し、溝 1、土 1・2・3・4・5・658・659・660・668・670・671・681 に切られる。溝 8 は M 区東側に位置する。区が異なることから遺構名を変えたが、位置から同一の溝である可能性が非常に高い。南北方向に延び、水流は南→北方向と推定される。断面形は U 字状である。覆土内には 10cm 程度の礫が混入する層や細砂層が見られる。堆積状況から、本址は埋没により幅を変えながら流れが続いていたものと推定される。遺物は土師器・黒色土器・灰軸陶器の食器類が出土するが、非常に少なく、時期は不明である。第 2・4 次調査の自然流路へ繋がる溝と思われる。

溝 4 F 区中央に位置し、128 住、土 939・940・941・942・943 に切られる。東西方向に延び、水流は東→西方向と推定される。遺物は出土していない。時期は切り合いから 7 期以前と推定される。G 区溝 6・9 へ繋がる溝の可能性が考えられる。

溝 7 L 区東側に位置する。南北方向に延び、水流は北→南方向と推定される。断面形は台形である。本址の東側には竪穴住居等が見られるが、西側には見られないことから、本址は区画要素を持ち合わせた流水路と推定される。遺物は灰軸陶器・黒色土器・土師器の食器類や土師器の甕類が出土している。8・9 期と推定される。

8 畝址 (図版 58、写真図版 10)

B 区東側に位置する。20 住を切り、建 3・4、土 175・177・178・200・650 に切られる。ほぼ東西方向の畝が 16 本平行に並ぶ。断面形は大半が台形である。覆土はシルト質土で、礫の混入はほぼ認められない。遺物は出土していない。時期は切り合いから 15 期以降と推定される。

第3節 遺物

1 土器・陶磁器（第5表、図版59～86、写真図版11～25）

本遺跡出土土器群は、3～15期及び中世の範疇で捉えられる。このうち、出土量が多く、主体となるのは7～9期及び13・14期である。以下、各時期の土器様相と、代表的な出土土器群について記述する。

(1) 3・4期（奈良時代／8世紀中葉～後葉）

15・28・73・81住出土土器群が該当する。食器は須恵器杯A・杯B・蓋、煮炊具は土師器甕B・小型甕、貯蔵具は須恵器横瓶で構成される。

第81号住居址出土土器群

食器は須恵器杯A（428・429）、須恵器杯B（430～433）、須恵器蓋B（425～427）で構成される。須恵器杯Aは底径が大きく、底部は回転ヘラ切りされる。煮炊具は土師器甕B（434～437）、土師器小型甕（439）が見られる。土師器甕Bは内面がハケ目調整され、436は底部に木葉痕を残す。貯蔵具は少なく、須恵器横瓶（438）が出土したのみである。

(2) 6期（平安時代前期／9世紀前葉）

22・29・88・133・135・138・139・143・147・173住出土土器群が該当する。食器は黒色土器A杯A、須恵器杯A・蓋で構成され、須恵器主体であるが、黒色土器の割合が増える。墨書土器は1点が確認されており、139住の須恵器杯A（882）外面に「五」が墨書される。煮炊具は土師器甕B・甕C・小型甕D、貯蔵具は須恵器長頸壺が見られる。

第138号住居址出土土器群

食器は黒色土器A杯A（874）、須恵器杯A（875～878）で構成される。874の黒色土器A杯Aは2法量の小型にあたる。須恵器杯Aの875・878は火燻痕が見られる。煮炊具は土師器甕B（879）、土師器小型甕D（880・881）が見られる。879の土師器甕Bは口縁部を長く折り曲げ、内面はナデアゲ調整される。土師器小型甕Dは口縁部の外反が弱く立ち上がり、外面にはカキ目が施される。貯蔵具は出土していない。

(3) 7期（平安時代前期／9世紀中葉）

37・40・41・42・49・58・59・92・98・99・102・108・112・120・121・123・125・126・127・128・129・130・134・136・137・140住出土土器群が該当する。食器は黒色土器A杯A・椀・皿B・鉢、須恵器杯A・蓋・椀・鉢、軟質須恵器杯、灰軸陶器碗・皿・蓋で構成され、黒色土器主体である。灰軸陶器は黒笹14号窯式及び光ヶ丘1号窯式のものが見られる。煮炊具は土師器甕B・甕C・小型甕C・小型甕Dが見られる。134住出土の土師器甕（864）は、外面に繊維束でナデアゲ調整した痕跡が確認される。貯蔵具は須恵器長頸壺・短頸壺・甕、灰軸陶器長頸壺・小瓶が見られる。また、120住の黒色土器A杯A（767）外面に墨書、42住の黒色土器A杯A（152）外面・102住の黒色土器A杯A（613）内面に線刻、92住の黒色土器A杯A（525）底部・99住の須恵器長頸壺（592）底部・102住の須恵器杯A（621）底部にヘラ記号が確認された。

第37号住居址出土土器群

食器は黒色土器A杯A（121～124）、黒色土器A椀（125・126）、黒色土器A皿B（127）、須恵器椀（128）、軟質須恵器杯（129）、灰軸陶器碗（130）、灰軸陶器蓋（134）で構成される。黒色土器A杯Aは2法量が見られる。130の灰軸陶器碗はハケ塗り施軸で、黒笹14号窯式とされる。煮炊具は土師器甕B（135）が

出土したのみで、口縁部の外反は弱く立ち上がり、内面はナデアゲ調整される。貯蔵具は須恵器長頸壺(132)、須恵器短頸壺(133)、灰軸陶器小瓶(131)が見られる。

第108号住居址出土土器群

食器は黒色土器A杯A(680～683)、黒色土器A皿B(684・685)、黒色土器A鉢(686)、須恵器杯A(687～690)で構成される。黒色土器A杯Aは2法量の小型にあたる。須恵器杯Aは外面にロクロ目が強く残り、開きの強い形態である。679の土師器盤Bは本址よりも新しい時期のものであり、混入品と思われる。煮炊具は土師器甕B(691・692)、土師器小型甕D(693)が見られる。土師器甕Bは口縁部の外反が弱く立ち上がり、内面はナデアゲ調整される。693の土師器小型甕Dは口縁部の外反が弱く立ち上がり、外面にはカキ目が施される。貯蔵具は出土していない。

(4) 7・8期(平安時代前期/9世紀中葉～後葉)

44・61・124住出土土器群が該当する。食器は土師器杯A・椀・盤A、黒色土器A杯A・椀・皿B、須恵器杯A、軟質須恵器杯、灰軸陶器碗・皿・蓋、緑軸陶器碗・皿で構成され、黒色土器主体である。灰軸陶器は黒笹14号窯式から大原2号窯式のものが見られる。煮炊具は土師器甕・鍋が見られる。貯蔵具は須恵器甕や灰軸陶器壺等が出土したが、図化していない。

第44号住居址出土土器群

食器は土師器杯A(175)、黒色土器A杯A(176・177)、黒色土器A皿B(178・179)、須恵器杯A(180)、灰軸陶器碗(181)、灰軸陶器皿(182)、緑軸陶器碗(183～185)で構成される。175の土師器杯Aは体部に穿孔が施される。黒色土器A杯Aは2法量が見られる。180の須恵器杯Aは外面にロクロ目が強く残り、開きの強い形態である。灰軸陶器はハケ塗り施釉・漬け掛け施釉が丁寧に施され、黒笹14号窯式から大原2号窯式とされる。緑軸陶器碗の184・185は胎土が灰色の硬質で、184は施釉されていない素地と思われる。185は釉の剥離が著しい。煮炊具は土師器甕B(186)、土師器鍋(187)が見られる。186の土師器甕Bは口縁部の外反が弱く立ち上がり、外面はハケ目が底部まで丁寧に施されている。187の土師器鍋は外面上部に横方向のカキ目、下部に縦方向のカキ目が施されている。貯蔵具は図化していないが須恵器甕が見られる。

第124号住居址出土土器群

食器は土師器椀(775)、土師器盤A(815・816)、黒色土器A杯A(776～795)、黒色土器A椀(796～800)、須恵器杯A(801)、軟質須恵器杯(802～804)、灰軸陶器碗(805～807)、灰軸陶器皿(808～812)、灰軸陶器蓋(818)、緑軸陶器皿(813・814)で構成され、黒色土器が大半を占める。黒色土器A杯Aは2法量が見られるが、小型が大半を占める。黒色土器A椀は体部が直線的に開く形態である。軟質須恵器杯の803・804は底部に穿孔が施される。灰軸陶器はハケ塗り施釉・漬け掛け施釉が丁寧に施され、光ヶ丘1号窯式及び大原2号窯式とされる。灰軸陶器皿のうち、811は稜皿、812は段皿である。緑軸陶器皿は胎土が淡黄褐色の軟質で、813は釉の剥離が著しい。814は淡黄緑色の釉が施され、蛇の目高台である。また、黒色土器A杯Aの777外面には墨書、緑軸陶器皿の814外面には刻書で「禾」とそれぞれ書かれている。煮炊具は土師器小型甕D(817)が出土したのみで、貯蔵具は出土していない。

(5) 8期(平安時代前期/9世紀後葉)

30・31・32・34・35・38・45・48・50・60・68・87・97・109・111・115・119・144・151・152・153・156・157・158・159住出土土器群が該当する。食器は土師器杯A・椀、黒色土器A杯A・椀・皿B・鉢、須恵器杯・椀・蓋、軟質須恵器杯、灰軸陶器碗・皿、緑軸陶器皿で構成され、黒色土器主体であるものの、土師器杯Aの割合が増える。灰軸陶器は光ヶ丘1号窯式及び大原2号窯式のものが見られる。また、34住

の須恵器(104)は高台部に透かしが見られ、盤もしくは碗と推定される。煮炊具は土師器甕B・小型甕D、貯蔵具は灰軸陶器長頸壺・短頸壺が見られる。

第32号住居址出土土器群

食器は土師器杯A(85)、黒色土器A杯A(86)、軟質須恵器杯(87～90)、灰軸陶器碗(91・92)、灰軸陶器皿(93・94)で構成される。灰軸陶器はハケ塗り施釉・漬け掛け施釉で、光ヶ丘1号窯式及び大原2号窯式とされる。灰軸陶器皿のうち、94は耳皿である。煮炊具は土師器甕B(98)、土師器小型甕D(96・97)が見られる。98の土師器甕Bは口縁端部に面取り後沈線を入れ、底部はヨコナデが施される。土師器小型甕Dは口縁部の外反が弱く立ち上がり、外面はカキ目が全面に施されなくなる。貯蔵具は灰軸陶器長頸壺(95)が出土したのみである。

(6) 9期(平安時代中期/10世紀前葉)

26・27・36・43・51・95・100・104・105・113・114・116・141・142・146・149・150住出土土器群が該当する。食器は土師器杯A・椀・盤B、黒色土器A杯A・椀、軟質須恵器杯、灰軸陶器碗・皿、緑軸陶器碗で構成され、土師器主体であり、黒色土器A杯A・軟質須恵器杯は若干見られる程度である。灰軸陶器は大原2号窯式のものが見られる。煮炊具は土師器甕B・小型甕Dが見られるが、个体数は少ない。貯蔵具は灰軸陶器壺・平瓶が見られる。

第114号住居址出土土器群

食器は土師器杯A(723～726)、土師器盤B(727)、黒色土器A杯A(728・729)、黒色土器A椀(730)、軟質須恵器杯(731)、灰軸陶器碗(732)、灰軸陶器皿(733・734)、緑軸陶器碗(735)で構成される。灰軸陶器は漬け掛け施釉で、大原2号窯式とされる。緑軸陶器碗の735は胎土が灰黄褐色の硬質で、濃緑色の釉が施される輪花碗である。煮炊具は出土しておらず、貯蔵具は灰軸陶器壺(736)が出土したのみである。

(7) 10期(平安時代中期/10世紀中葉)

39・47住出土土器群が該当する。食器は土師器杯A・椀、灰軸陶器碗で構成される。灰軸陶器は虎浜山1号窯式のものが見られる。煮炊具は土師器甕、貯蔵具は灰軸陶器壺が見られる。土師器甕は47住より194が出土したが、口縁部は内側に面を持ち、外面は工具によるナデ調整で、甕Bとは異なる系統とされる。

第39号住居址出土土器群

食器は土師器杯A(139・140)、土師器椀(141)、灰軸陶器碗(142)で構成される。142の灰軸陶器碗は漬け掛け施釉で、虎浜山1号窯式とされる輪花碗である。煮炊具は出土しておらず、貯蔵具は灰軸陶器壺(143)が出土したのみである。

(8) 11期(平安時代中期/10世紀後葉)

14・23・46・57・65・101住出土土器群が該当する。食器は土師器杯A・椀・盤B、黒色土器A椀、灰軸陶器碗・皿、緑軸陶器碗で構成され、土師器主体である。灰軸陶器は大原2号窯式及び虎浜山1号窯式のものが見られる。煮炊具は土師器甕が出土したのみで、貯蔵具は出土していない。

第14号住居址出土土器群

食器は土師器杯A(1・2)、黒色土器A椀(3)、灰軸陶器碗(4～7)、灰軸陶器皿(8)で構成される。土師器杯Aは深めの形態である。灰軸陶器は漬け掛け施釉で、大原2号窯式及び虎浜山2号窯式とされる。8の灰軸陶器皿は内面に墨が付着している。煮炊具は土師器甕(9)、図化していない土師器羽釜が見られる。貯蔵具は出土していない。

⑨ 12期(平安時代後期/11世紀前葉)

25・175 住出土土器群が該当する。食器は土師器杯A・椀、灰軸陶器碗・皿で構成される。灰軸陶器は虎溪山1号窯式及び丸石2号窯式のものが見られる。煮炊具は図化していないが土師器羽釜が見られる。貯蔵具は出土していない。

第175号住居址出土土器群

食器は土師器杯A(1012・1013)、土師器椀(1014)、灰軸陶器碗(1015・1016)、灰軸陶器段皿(1017)で構成される。灰軸陶器は漬け掛け施軸で、虎溪山1号窯式及び丸石2号窯式とされる。煮炊具・貯蔵具は出土していない。

⑩ 12・13期(平安時代後期/11世紀前葉～中葉)

77・96・103・107・160・167・171・172 住出土土器群が該当する。食器は土師器杯A・椀・盤B、黒色土器A椀、灰軸陶器碗・皿、緑軸陶器碗で構成され、土師器主体である。灰軸陶器は虎溪山1号窯式及び丸石2号窯式のものが見られる。煮炊具は土師器小型甕・羽釜が見られ、貯蔵具は出土していない。

第96号住居址出土土器群

食器は土師器杯A(541～543)、土師器椀(544・545)、土師器盤B(546～548)、黒色土器A椀(549・550)、灰軸陶器碗(551～553)、灰軸陶器皿(554～556)、緑軸陶器碗(558)で構成される。土師器杯Aは2法量の小型にあたる。灰軸陶器は漬け掛け施軸で、丸石2号窯式とされる。灰軸陶器皿のうち、554は段皿である。緑軸陶器碗の558は胎土が灰褐色の硬質で、深緑色の釉を施している。557の緑軸陶器碗は本址よりも古い時期のものであり、混入品と思われる。煮炊具は土師器小型甕(561)、土師器羽釜(562～564)が見られる。559・560の土師器甕は本址よりも古い時期のものであり、混入品と思われる。貯蔵具は出土していない。

⑪ 13期(平安時代後期/11世紀中葉)

17・19・24・55・62・63・64・67・69・70・71・74・78・117・163・164・166・168・169・176 住、竪6出土土器群が該当する。食器は土師器杯A・椀・盤B、黒色土器A椀、黒色土器B椀、灰軸陶器碗・皿、緑軸陶器碗・皿で構成され、土師器主体である。灰軸陶器は虎溪山1号窯式及び丸石2号窯式のものが見られる。煮炊具は土師器小型甕・羽釜、貯蔵具は須恵器壺・甕、灰軸陶器小瓶が見られる。その他に176住で黒色土器B小型土器(1020)が出土している。

第169号住居址出土土器群

食器は土師器杯A(984)、土師器椀(985)、土師器盤B(986・987)、灰軸陶器碗(988・989)、灰軸陶器段皿(990)で構成される。土師器盤Bは2法量が見られる。灰軸陶器は漬け掛け施軸で、虎溪山1号窯式及び丸石2号窯式とされる。煮炊具は土師器小型甕(991)、土師器羽釜(992)が見られる。貯蔵具は出土していない。

⑫ 14期(平安時代後期/11世紀後葉)

16・18・21・53・66・84・85・89・90・91・93・94・122・131・162・165・170・174 住出土土器群が該当する。食器は土師器杯A・椀・皿A・盤B、黒色土器A椀、黒色土器B椀、灰軸陶器碗・皿、緑軸陶器碗、白磁碗で構成され、土師器主体である。灰軸陶器は丸石2号窯式のものが見られる。煮炊具は土師器小型甕・羽釜が見られ、貯蔵具は出土していない。

第18号住居址出土土器群

食器は土師器杯A(14～17)、土師器皿A(18・19)、土師器盤B(20)、黒色土器A碗(21～23)、灰釉陶器碗(24・25)で構成される。土師器杯Aは2法量が見られる。土師器皿Aは2法量が見られ、19には煤の付着が認められる。灰釉陶器は漬け掛け施釉で、丸石2号窯式とされる。煮炊具は土師器羽釜(26)が見られる。貯蔵具は出土していない。

第53号住居址出土土器群

食器は土師器杯A(208～212)、土師器碗(213)、土師器皿A(214)、土師器盤B(215～217)、黒色土器A碗(218～220)、灰釉陶器碗(221～223)、灰釉陶器段皿(224)で構成される。土師器杯Aは2法量が見られ、208は底部に穿孔が施される。灰釉陶器は漬け掛け施釉で、丸石2号窯式とされ、221は輪花碗である。煮炊具は図化していないが土師器羽釜が見られる。貯蔵具は出土していない。

03 15期(平安時代後期/12世紀前葉)

20・56・79・80・83・86・106・110・132住出土土器群が該当する。食器は土師器杯A・碗・皿A・盤B、黒色土器A碗、灰釉陶器碗・皿、無釉陶器山茶碗、白磁杯・碗で構成される。灰釉陶器は丸石2号窯式のものが見られる。110住の灰釉陶器碗(708)は内面と割れ口に朱墨の付着が確認できる。碗が割れた後に転用したものと推定される。煮炊具は土師器羽釜、貯蔵具は灰釉陶器壺が見られる。

第79号住居址出土土器群

食器は土師器杯A(409～411)、土師器碗(412)、土師器盤B(413・414)、灰釉陶器碗(415～417)、灰釉陶器稜皿(418)、白磁碗(419・420)で構成される。土師器杯Aは2法量の小型にあたる。白磁碗の419は胎土が灰白色で、灰白色の釉を施し、内面には柳目文が施される。420は胎土が白色で、緑灰白色の釉を施し、口縁部には玉緑を持つ。煮炊具は土師器羽釜(421)が見られる。貯蔵具は出土していない。

04 中世(12世紀後葉以降)

1・4・7出土土器群が該当する。食器は無釉陶器片口鉢、青磁碗、白磁皿、土師質土器皿で構成される。煮炊具は土師質土器鍋が見られ、貯蔵具は出土していない。

第1号竪穴建物址出土土器群

食器は無釉陶器片口鉢(1027・1028)、青磁碗(1024・1025)、白磁皿(1026)、土師質土器皿(1029)で構成される。青磁碗の1024は胎土が灰色で、緑灰色の釉を施し、外面には鐘蓮弁文が施される。1025は胎土が灰色で、暗緑灰色の釉を施し、内面には印花文が施される。1026の白磁皿は胎土が白色で、灰白色の釉を施し、口縁端部が掻き取られている。1029の土師質土器皿は手づくね成形である。1023は胎土や技法から土師器杯Aと推定され、混入品と思われる。煮炊具は土師質土器鍋(1030)が見られ、体部には穿孔が施される。貯蔵具は出土していない。

2 土製品(第6表、図版87、写真図版26)

土製品は12点出土し、その内訳は土鍾2点、羽口7点、粘土塊3点である。これらの出土地点・寸法等については一覧表を参照されたい。その内、比較的残存状態の良いもの4点を図示している。遺物の記載にあたっては図番号を使用しているが、実測図の掲載ができなかったものについては一覧表の通番を用いて「ID数字」で記載している。

土鍾(1・2) 2点が出土し、ともに図示している。1・2ともに細長い管状の形状をしている。

羽口(3・4) 7点が出土し、2点を図示している。3は外面に被熱痕と鉄滓の付着が見られる。49住からは3の他にID4・6も出土している。4は被熱痕や鉄滓の付着が認められない。

3 石器・石製品(第7表、図版87・88、写真図版26)

今回の調査で、合計41点の石器・石製品が出土した。器種の内訳は、石鏃2点、石錐2点、小形刃器3点、楔形石器2点、打製石斧1点、砥石9点、磨石7点、台石4点、石核2点、二次加工ある剥片1点、剥片6点がある。このうち遺存状態のよい定型石器を中心に13点を図示し、概要を述べる。それ以外のものは一覧表を参照されたい。石器・石製品の帰属時期は共存する土器に準じるものと考えられる。なお、実測中における研磨・摩耗面は断面に矢印を付し表現した。新欠は白抜きとした。

石鏃(1・2) 1は、チャート製の無茎凹基鏃である。2は、チャート製の有茎凸基鏃である。尖頭部先端と茎部に欠損が見られる。

石錐(3・4) 3・4は、黒曜石製で平面形は逆三角形を呈し、錐部の先端が欠損している。つまみ部の加工は最低限に施されているだけで、錐部に二次加工が集中している。

打製石斧(5) 5は、頁岩製で平面形は短冊形を呈す。裏面の刃部・刃面は未加工で自然面が観察される。また、使用によるものかは判別できないが、やや斜刃になっている。

砥石(6～11) 6・7は、自然礫を素材にし、砥面がそれぞれ1面と2面観察される。7は、砥面部分に煤が付着しており、被熱の可能性がうかがえる。8・9は、6・7よりも粒子の細かい砂岩製で、直方体に整形が施されている。8は、使用により砥面がやや内湾している。10は、石質と形状から、縄文後期以降に見られる石刀を転用した可能性がある。刃物を研いだと思われる線状研磨痕が見られるため、砥石として使用されたと思われる。13は、やや粗粒の砂岩製で、溝状の研磨痕が複数観察される。砥面は2面あり、両者とも使用により内湾している。

磨石類(12・13) 自然礫を素材にし、磨面、敲部が単体もしくは複合してみられるものを、ここでは磨石類として一括で扱う。12は、棒状礫を素材にし、一端部に敲部痕が見られる。13は、平面形が短冊形で、横断面が楕円形を呈し、両端部に敲部痕、正面に磨面が観察される。強い敲打の結果なのか、下部に大きい剥離がある。

4 金属製品(第8表、図版89～91、写真図版27・28)

(1) 概要

金属製品は174点出土し、その内訳は鉄製品109点、銭貨5点である。その他、鉄滓が6498.0g出土している。これらの出土地点・器種・寸法等については一覧表を参照されたい。

器種は、鉄製品が鏃・刀子・鏃・鋤・斧・鑿・牽引鉄・紡錘車・燧鉄・釘・鉸具・その他不明品、銭貨である。その内、比較的残存状態の良好なもの、特徴的なものを中心に35点を図示し、36点を写真掲載している。遺物の記載にあたっては図番号を使用しているが、実測図の掲載ができなかったものについては一覧表の通番を用いて「ID数字」で記載している。また、遺物の形状等については、X線撮影を行っていないため、目視による現状を記載している。

なお、一部の遺物については、長野県立歴史館の白沢勝彦専門主事に鑑定を依頼した。

(2) 鉄製品

鏃(1～5) 10点が出土し、5点を図示している。小松氏(小松1989)により、形状の分類が行われているため、現状から分類を試みる。3は身部平面が蛇頭状のため、VI類と推定される。2・4・5は身部平

面が長三角形のため、Ⅶ類と推定される。1は雁股鎌のため、Ⅶ類である。ID16・103・135は欠損箇所があり明確ではないがⅦ類と思われ、出土点数の半数以上がⅦ類になると推定される。

刀子(6～14) 26点が出土し、9点を図示している。関の有無は、銹化による膨張で不明瞭である。現状から推定可能な点のみを述べると、8・9・12・14は棟関になると思われる。また、8は茎部の両面に木質が銹着する。

鎌(15～17) 5点が出土し、3点を図示している。15・16は基部から刃部に向かい徐々に幅が増す。17は折り返しや湾曲が見られないが、形状から鎌と判断した。

鐮(18) 1点が出土し、図示している。18は耳部のみが残存のため、形状等は不明である。

斧(19) 1点が出土し、図示している。19は着柄部が袋状で、刃部は直線に近い形状をしている。

鑿(20～23) 4点が出土し、全て図示している。20は袋状を呈する。頭部周辺には紐状のものを巻いた痕跡があり、製品と柄を固定するためのものと推定される。21・22は茎部を持ち、両端に向かって尖るものと思われる。神戸遺跡から類似品が出土しており、鑿の可能性がある。23は上部が欠損しているが、茎部を持ち、関がやや張り出すものと思われる。下神遺跡から類似品が出土しており、鑿の可能性がある。

芋引鉄(24) 1点が出土し、図示している。24は肩が丸く、刃部は鋭利である。

紡錘車(25～27) 6点が出土し、3点を図示している。紡輪の断面形状は銹化による膨張で不明である。ID19～21は同一遺構内に25が出土していることから、紡輪の一部と判断した。

釘(28～32) 13点が出土し、5点を図示している。頭部が残存するものは2点ある。頭部の形状は、鑿の使用の有無、基板上端の折り曲げ・折り返しの有無が銹化による膨張で不明瞭な上、X線撮影を行っていないことから、特定が困難である。故に、小松氏により頭部形状による釘の分類が行われているが、現状から推定可能な点のみ述べたい。29は頭部先端を尖らせていることから、Ⅱ類と推定される。30は頭部先端を平坦にしていることから、Ⅰ類と推定される。

鉸具(33) 1点が出土し、図示している。33は長方形の縁金にT字形の刺金が接続する形状をしている。

不明(34・35) 40点が出土し、2点を図示している。34は小札状の板が折れ曲がった形状をしている。挟み込んで固定するためのものと推定される。35は中央付近に孔を持つ板状製品である。座金のようなものと推定される。

③ 銭貨

銅銭(36) 5点が出土し、1点を写真掲載している。36の富寿神宝は皇朝十二銭のひとつで、初鑄は818年である。松本市内では三間沢川左岸遺跡・小池遺跡に続き3例目の出土である。破損が非常に著しい。36以外のID142・143・145・146はいずれも竪1からの出土で、内訳は宋銭の皇宋通宝1点、元豊通宝1点、元祐通宝1点、不明1点である。

参考文献

- 小松望 1989 「金属製品と鍛冶資料」『中央自動車道長野緑埋蔵文化財発掘調査報告書3—塩尻市内その2— 吉田川西遺跡』
 ㈱長野県埋蔵文化財センター
- 大竹憲昭 1989 「金属製品」『中央自動車道長野緑埋蔵文化財発掘調査報告書5—松本市内その2— 神戸遺跡 上二子遺跡 中二子遺跡』長野県教育委員会
- 石上周蔵 1990 「銅製品・銭貨」『中央自動車道長野緑埋蔵文化財発掘調査報告書6—松本市内その3— 下神遺跡』長野県教育委員会
- 松本市教育委員会 1988 「銭貨」『三間沢川左岸遺跡(1)平安時代集落址の緊急発掘調査概報』
- 松本市教育委員会 1991 「銭貨」『小池遺跡 平安時代集落址の発掘調査』

第IV章 総括

今回の調査では、奈良時代から中世にかけての集落址等が得られた。ここでは、出土遺物や遺構の重複関係から判明した各遺構の帰属時期に基づいて、集落の動きについて概観し、調査のまとめとしたい。

1 奈良時代：3・4期（8世紀中葉～後葉）

4軒の竪穴住居址が確認され、集落が展開される。最も古い住居址としては15住（3期）が挙げられる。遺構の検出数は少なく、また、散在していることから、空間構成は窺えない。住居址は5mを超える大型住居が2軒確認され、うち28住（3・4期）は柱穴を伴う。

遺物は各遺構から須恵器の食器類を中心に出土しているが、特殊遺物の出土はない。

2 平安時代前期：6～8期（9世紀前葉～後葉）

64軒の竪穴住居址が確認され、前段階に比べて集落は拡大している。とりわけ、7・8期は遺構が多数検出されており、本集落の最盛期の一つとされる。本段階の居住域は調査対象地の西側にあり、東側は空白地帯である。そして、6・7期は南西、8期は北西で遺構の検出数が多いことから、居住域は時期が下るにつれて北上するとされる。また、溝7（8・9期）を境に西側では住居址が検出されておらず、居住域の西縁は溝によって区画されていた可能性がある。居住域の中において、本段階の遺構は中心部に大型住居が集中する傾向が窺える。そのあり方は、規模が6mを超え、柱穴を伴う大型住居の124住（7・8期）を囲むように、5m規模の大型住居や中型住居等が存在する。

本段階の遺構群の遺物を見ると、大型住居を中心に墨書・刻書・線刻・ヘラ記号が施された土器が出土している。これらは本段階にしか見られない。また、緑釉陶器も大型住居を中心に出土している。とりわけ、124住は緑釉陶器2点、「禾」が施された墨書土器・刻書土器、皇朝十二銭の富寿神宝が出土したほか、南東部床面では黒色土器等がまとめて出土しており、注目される。

3 平安時代中期：9～11期（10世紀前葉～後葉）

26軒の竪穴住居址が確認された。9期までは前段階に引き続き集落は繁栄傾向にあるが、10・11期になると集落は縮小している。本段階の居住域は調査対象地の北西にある。前段階に居住域であった南西には3軒、空白地帯であった北東には1軒と若干の住居址は見られるが、基本的に南西及び東側は空白地帯である。また、前段階の居住域の西縁となる溝7は本段階には消滅しているとされるが、居住域が西側に拡大する様子は認められない。居住域の中において、大型住居は中心部ではなく東側に見られ、また、柱穴を伴う住居址は見られなくなる。本段階最大規模の104住（9期）も柱穴は伴わず、居住域の南東に位置している。特殊な遺構は、炭焼窯1・2（11期）や土360（9期）が確認された。炭焼窯は伏せ焼き法の製炭に用いられた坑内製炭遺構である。周辺では中山丘陵で多数確認されている。製炭に携わった人々の居住地はおそらくこの集落で問題ないだろうが、その用途等は不明である。土360は遺物の出土状況等から、墓や墓に類似する施設と推定される。墓址であるとすれば、9期居住域の北側に近接して作られていたとされる。

本段階の遺構群の遺物を見ると、緑釉陶器は大型住居を中心に出土している。墨書土器等は前段階のみの出土であり、本段階では出土していない。

4 平安時代後期：12～15期（11世紀前葉～12世紀前葉）

62軒の竪穴住居址が確認され、前段階に比べて集落は拡大している。とりわけ、13・14期は遺構が多数検出されており、7～9期と同様に本集落の最盛期の一つとされる。本段階の居住域は調査対象地の中央から北東にあり、前段階まで空白地帯であった地域である。前段階まで居住域であった西側は空白地帯となる。居住域の中において、本段階の遺構は中心部に大型住居が集中する傾向が窺える。さらに、6mを超える大型住居は他の段階では1軒程度の確認であるのに対し、本段階では7軒が確認され、特に後半（14・15期）に多く見られる。また、同時期の住居址の切り合いが頻繁に見られ、連続的に移行するものと推定される。また、後半には床面に火を焚いた痕跡が残る住居址が確認されることも特徴である。これらは居住中の行為とは考えにくく、住居廃絶時の儀礼の痕跡とも推定される。特殊な遺構は土383（14・15期）・398（12・13期）が確認された。土383は緑釉陶器耳皿や底面に伏せられた土師器杯が出土しており、用途は断定できないものの、意図的な設置が推定される。土398は前段階の土360と同様に、遺物の出土状況等から、墓や墓に類似する施設と推定される。墓址であるとすれば、居住域内に作られていたとされる。

本段階の遺構群の遺物を見ると、緑釉陶器は中心部の住居址を中心に出土している。また、後半には白磁が出土するが、こちらも中心部の住居址を中心に出土している。

5 中世：（12世紀後葉以降）

2軒の竪穴建物址、1基の竪穴状遺構が確認され、掘立柱建物址の大半や畝址もこの時期であると推定される。本段階の遺構は今回の調査地の北に位置する第2～4次調査地で多数検出されている。本段階の居住等の活動域は前段階よりさらに北東にあり、第2～4次調査地まで続くこととされる。掘立柱建物址は重なり合っており、空間構成がなされていたと推定される。また、竪穴建物址の覆土内には礫の投げ込みが確認されている。これは第2～4次調査の竪穴状遺構でも見られ、本段階の遺構の共通した特徴といえる。

本段階の遺構群の遺物を見ると、遺物量は多くないものの、竪1からは青磁2点、白磁1点、銭貨4枚、竪4からは青磁1点が出土している。

6 まとめ

ここまで時期毎に集落の動きを概観してきたが、全体的な概略は以下のようにまとめることができる。

- ①集落は8世紀中葉に出現し、9世紀中葉～10世紀前葉・11世紀中葉～後葉の2時期に最盛が見られ、中世まで継続して運営された
- ②居住域は時代が下るにつれて、北東へ移動した
- ③集落形態は溝による区画や大型住居を中心とした配置が推定される時期も見られる
- ④炭焼窯や墓と思われる施設は居住域内もしくは近接に作られていた

以上、今回の調査では本遺跡でこれまであまり確認されていない古代を中心に集落址等が確認され、本遺跡及び芳川地区の集落の様相を考える上で非常に重要な成果を得ることができた。

最後に、本調査に際し多大なるご協力とご理解をいただいた松本市村井町南土地区画整理組合並びに関係機関、芳川村井町会をはじめとする地元の方々、そして最後に調査スタッフに感謝の意を表して本書の締めくくりとしたい。

附編

松本市高畑遺跡第6次発掘調査で出現した焼土の古地磁気方位と強度

邊見涼・齋藤武士

高畑遺跡(第6次調査)の自然科学分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

松本市高畑遺跡第6次発掘調査で出現した焼土の古地磁気方位と強度

邊見涼¹・齋藤武士²

1. 信州大学理工学系研究科地球生物圏科学専攻 (現 清水建設)
2. 信州大学学術研究院理学系

1. はじめに

土壌中には強い磁性を示す鉱物が含まれており、土壌がキュリー点 (磁鉄鉱の場合は約 580℃) 以上に熱せられた場合、地球磁場の方向と強度が熱残留磁化 (TRM) として磁性鉱物に記録される。地球磁場の方向と強度は時間変化しているため、過去の変動の様子 (永年変化曲線) と鉱物に記録された磁化とを比較することで、磁性鉱物が最後に加熱されて TRM を獲得した時期を推定することができる。考古遺構や遺物からは精度の高い方位と強度が復元でき、地磁気と独立した考古学に基づく年代値 (考古学年代) が得られることから、これまでに多くの研究が行われてきた (Watanabe, 1958; 1959)。広岡公夫による標準曲線 (通称広岡曲線; Hirooka, 1971) の提出以降は、広岡曲線と比較した多くの研究例が報告されている (例えば、中島・夏原, 1981)。近年、岡山理科大学の畠山唯達らによって広岡曲線の改訂が試みられ、より信頼度の高い永年変化曲線が提案されている (Hatakeyama et al., in prep.; JRFM2K.1, <http://mag.center.ous.ac.jp/>)。

松本市高畑遺跡 (東経 137° 57' 50", 北緯 36° 10' 50" 付近) の第 6 次発掘に伴い、多数の住居址から被熱痕跡を示す土壌 (焼土) が発見された。一般的に住居址の焼土は、須臾器などの窯跡の焼土 (1000℃以上; 中嶋・夏原, 1981) と比べると低い温度までしか昇温しておらず、規模も小さく焼け方が不均質なことが多い。そのため試料採取や測定に困難が伴い、精度の劣る古地磁気データしか得られないと考えられてきた。しかし、窯跡の焼土と異なり、住居址は年代的にも地域的にも幅広く分布しており、発掘される頻度も高いため、有望な考古地磁気研究対象として古地磁気方位の抽出が試みられてきた (会田, 1980)。近年、実験機器の発達や手法の改善により、より精度の高いデータが得られるようになってきた (例えば、酒井ほか, 2013)。また、たき火による再現実験や実験室での加熱実験から、住居址の焼土でも部分的にはキュリー点以上の熱を受けていることや、焼かれた温度の違いによる磁気的性質の変化が明らかになってきており (例えば、Morinaga et al. 1999; Linford and Canti, 2001; Carrancho and Villalain, 2011)、高い被熱を受けた部分を用いれば精度の高い古地磁気データを得られることが分かってきた。このような背景を踏まえて最近、信州大学考古地磁気グループでは住居址の焼土に着目して研究を進めている (齋藤, 2014)。

今回、高畑遺跡から 95 個の焼土試料を採取する機会を得たため、古地磁気方位を抽出し、考古学的年代との整合性を検討した。加えて岩石磁気学的実験を行い、被熱の程度を評価した。さらに、古地磁気強度の推定も行った。古地磁気強度は方位と比べて復元が困難なため研究例も少なく、永年変化曲線の誤差も大きい (例えば、Yamamoto et al., 2015)。今後の永年変化曲線の確立に向けた基礎データを得るため、7 個の測定試片に対し古地磁気強度実験を行い、妥当な地磁気強度が得られるか検討を行ったので報告する。なお本研究の一部は信州大学の卒業論文 (邊見, 2015)、修士論文 (邊見, 2017) と、4 件の学会発表 (邊見・齋藤, 2015a; 邊見・齋藤, 2015b; Hemmi and Saito, 2016; 邊見・齋藤, 2016) で報告済みである。

2. 試料採取

2-1. 住居址の焼土

2014 年～2016 年にかけて松本市教育委員会文化財課によって行われた高畑遺跡第 6 次発掘調査では、

多数の住居址 からかまど跡と考えられる被熱痕跡が発見された (Fig. 1, Fig. 2a)。また、被熱の理由が明らかでない、床面に散在するように分布する焼土も発見された (Fig. 2b)。現地調査を行って、土壌の色と固結度に基づいて被熱範囲を認定した (Fig. 3)。また被熱箇所が考古地磁気の研究対象として適切かどうか判定

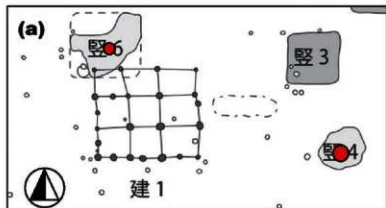
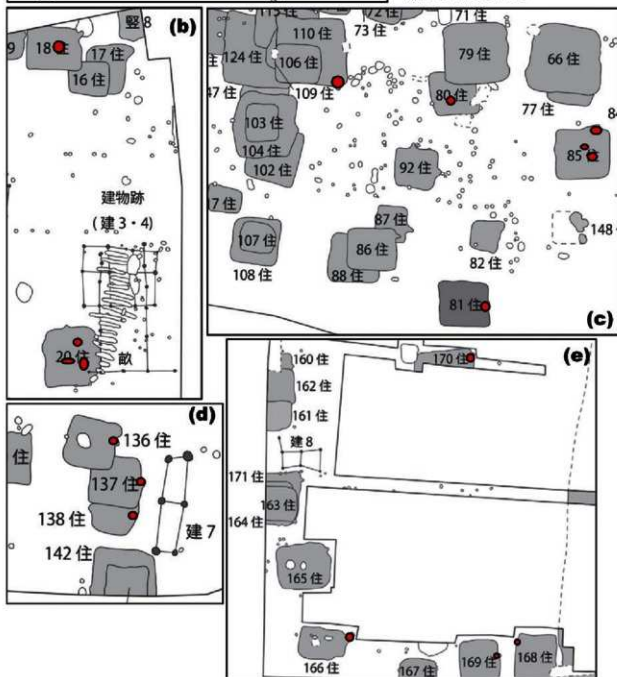


Fig. 1 高畑遺跡第6次発掘調査の遺構配置図と考古地磁気試料採取位置 (松本市教育委員会小山氏作成の図に加筆)。

(a) 竪4, 竪6; (b) 18住, 20住; (c) 80住, 81住, 85住, 110住; (d) 136住, 137住, 138住; (e) 166住, 168住, 169住, 170住。赤丸は、試料を採取した焼土の位置を示す。



するために、携帯帯磁率計 (Terraplus 社製 KT-10) を用いて、数か所の住居址で地表面の帯磁率分布を測定した。その結果、焼土周辺の熱せられた痕跡が認められない土壌と比べて、焼土は数倍高い帯磁率値を示すことが分かった (Fig. 3c)。熱せられることで磁性鉱物が新たに生成されたことを示しており、安定な TRM を記録していることが期待できる。20 住では現地調査で 5 箇所 (Fig. 3b の a～e の領域) の焼土が確認されたが、帯磁率が高い値を示したのは c～e の 3 領域であった。これを踏まえて、20 住ではこの 3 箇所を中心に考古地磁気用の定方位試料を採取した。



Fig. 2 住居址で検出された焼土 (矢印で示した箇所).
(a) 169 住のかまど跡; (b) 18 住の住居中央の床面に散在する焼土.

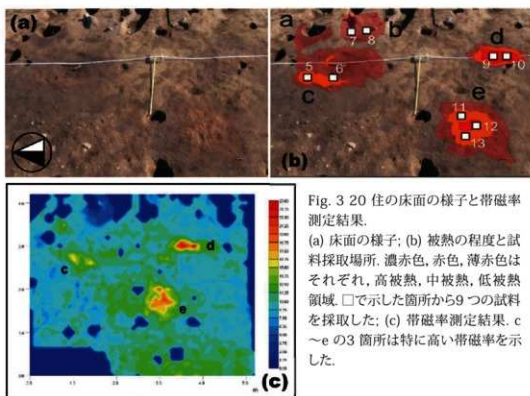


Fig. 3 20 住の床面の様子と帯磁率測定結果.
(a) 床面の様子; (b) 被熱の程度と試料採取場所. 濃赤色, 赤色, 薄赤色はそれぞれ, 高被熱, 中被熱, 低被熱領域. □で示した箇所から9つの試料を採取した; (c) 帯磁率測定結果. c～e の3箇所は特に高い帯磁率を示した.

2-2. 試料採取・整形

赤色や赤褐色を呈し固結度が高く帯磁率値の高い箇所から考古地磁気用の焼土試料(被熱試料)を20の住居址から計95個採取した。試料採取方法及び整形方法については畠山ほか(2016)に詳しい。焼土試料は現地で石膏を用いて固めた上で、磁気コンパスを用いて方位付けをして採取した(Fig. 4a~c)。現地の偏角は、太陽方位との差を測定することで -7.05° と求め、この値を用いて磁北から地理的北への補正を行った。一つの被熱範囲から3~10個の試料を採取し、実験室で各試料から測定用試片を数~数十個作成した(Fig. 4d~f)。加えて、被熱の程度による磁気的特徴の変化を検討するために、プラスチックキューブを用いて焼かれた痕跡が認められない土壌(非被熱試料)も採取した。試料を採取した各住居址の考古学的な年代は、発掘された土器の編年やかまどの位置などに基づき、8世紀後葉から13世紀と推定されている(Table. 1)。

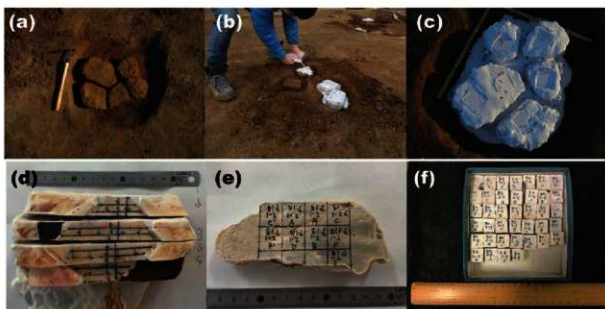


Fig. 4 試料採取と整形の様子。

(a) スコップで被熱箇所を10cm四方程度に掘り込む; (b) 石膏で周囲を固める; (c) アルミ板で作った平面に磁気コンパスを用いて方位付けを行う; (d) 方位を記録した線に沿って板状に切断する; (e) 切り出す試片をマーキングする; (f) 一辺15mmの立方体に整形された測定用試片。

3. 古地磁気方位

3-1. 測定方法

磁気測定は信州大学理学部の岩石磁気実験室で行った。はじめに帯磁率計(Bartington社製MS2)を用いて全ての試片の帯磁率を測定し、スピナー磁力計(夏原技研製SMD-88, ヤキルス社製Re-Mag)を用いて自然残留磁化(NRM)を測定した。測定結果をもとに被熱の程度を評価し、試料のグループ分けを行った。次に1試料から2~4の試片を選んで段階交流消磁実験(PAFD)を行い、古地磁気方位を求めた。交流消磁実験は交流消磁装置(夏原技研製DEM-95C)を用いて、最高で100~160mTまで行った。交流消磁実験の結果、磁化方位が大きくばらついた137住については、さらに2~4試片を選択し、段階熱消磁実験(PThD)を行った。熱消磁実験は熱消磁装置(夏原技研製TDS-1)を用いて、空气中で最高 620°C まで行った。消磁結果に対して、Zijderveld図上で残留磁化成分の直線性を判定し、Kirschvink(1980)の主成分解析法により古地磁気方位(平均磁化方向)を求めた。

3-2. 結果

3-2-1. NRM・帯磁率測定結果

焼土試料のNRMは $4 \times 10^{-5} \sim 6 \times 10^{-3}$ (Am^2/kg)、帯磁率は $1 \times 10^{-6} \sim 3 \times 10^{-5}$ (m^3/kg , SI 単位系) の値を示した (Fig. 5)。

Table 1 各住居址の考古学的な推定年代

住居址名	考古学年代	西暦表記
竪 4	13 世紀	1200~1300 年
竪 6	11 世紀中葉~後葉	1033~1100 年
18 住	11 世紀後葉	1067~1100 年
20 住	12 世紀前葉	1100~1133 年
29 住	9 世紀前葉~中葉	800~867 年
43 住	10 世紀前葉	900~933 年
土 367	10 世紀後葉	967~1000 年
56 住	12 世紀前葉	1100~1133 年
79 住	12 世紀前葉	1100~1133 年
80 住	12 世紀前葉	1100~1133 年
81 住	8 世紀後葉	767~800 年
85 住	11 世紀後葉	1067~1100 年
110 住	12 世紀前葉	1100~1133 年
136 住	9 世紀中葉	833~867 年
137 住	9 世紀中葉	833~867 年
138 住	9 世紀前葉	800~833 年
166 住	11 世紀中葉	1033~1067 年
168 住	11 世紀中葉	1033~1067 年
169 住	11 世紀中葉	1033~1067 年
170 住	11 世紀後葉	1067~1100 年

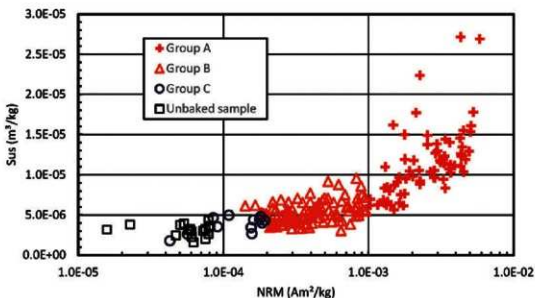


Fig. 5 NRM と帯磁率 (sus) 測定結果。

非被熱試料のNRMは $1 \times 10^5 \sim 9 \times 10^5$ (Am^2/kg), 帯磁率は $1 \times 10^0 \sim 8 \times 10^6$ (m^3/kg) と被熱試料の値と比べて低い。被熱の程度によって焼土試料中に磁性鉱物が生成されることで帯磁率が高くなっており、高温から冷却される過程で TRM を獲得することで高い NRM の値を示していると考えられる。そこで本研究では、被熱試料を以下の3グループに分けて以降の実験を行った。

① GroupA

NRM 強度が 1×10^3 (Am^2/kg) 以上の試料。一番高い熱を受けたと考えられる試料群。

② GroupB

NRM 強度が $2 \times 10^4 \sim 1 \times 10^3$ (Am^2/kg), または帯磁率が $5 \times 10^6 \sim 1 \times 10^5$ (m^3/kg) の試料。

Group A ほどではないが、Group C と比べれば十分に熱を受けたと考えられる試料群。

③ GroupC

NRM 強度が 2×10^4 (Am^2/kg) 以下で、かつ帯磁率が 5×10^6 (m^3/kg) 以下の試料。現地では被熱試料としてサンプリングを行ったが、岩石磁気学的には非被熱試料と区別ができない試料群。

3-2-2. 消磁実験結果

段階消磁実験を行った結果、全測定試片から安定な磁化成分が認められた。代表的な消磁結果を Fig. 6 に示す。Group A に分類される試片のほとんどや一部の Group B 試片は原点に向かうほぼ一直線の磁化成分を示した (Fig. 6a, 6b)。試料が冷却した際の TRM を記録していると考えられる。一部の Group B 試片や

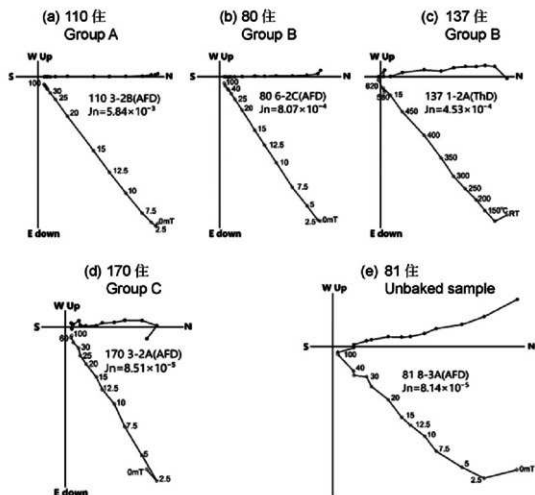


Fig. 6 代表的な消磁実験結果。

●: 水平面投影, ○: 南北鉛直面投影; AFD: 交流消磁, ThD: 熱消磁; Jn: NRM (Am^2/kg)

Group C 試片は、直線性がやや悪く、低消磁段階で分離される磁化成分と高消磁段階で分離される成分の2成分からなる (Fig. 6c, 6d)。低消磁段階で分離される磁化成分は TRM 獲得後に付着した2次成分と考え、解析の対象とはしない。非被熱試料は、磁化強度が弱く、直線性が劣るものの、焼上の示す磁化方位と大きく異なる磁化成分を示した (Fig. 6e)。試料は、遺跡周辺を流れる河川の氾濫による堆積物なので、堆積残留磁化 (DRM) を獲得していると考えられる。

Table 2 主成分解析結果

住居址名	考古学年代(西暦)	n1 / n2	N1 / N2	D (°)	I (°)	α_{95} (°)	k	備考
81 住	767-800	10 / 12	5 / 6	-11.0	52.1	1.7	779.9	
138 住	800-833	9 / 12	3 / 4	-11.4	49.1	1.7	941.6	礫あり
29 住	800-867	3 / 4	3 / 4	-14.4	48.8	4.9	630.3	
136 住	833-867	10 / 12	5 / 6	-10.9	50.1	1.3	1407.5	一部礫あり
137 住	833-867	10 / 15	2 / 3	/	/	/	/	一部礫あり
43 住	900-933	1 / 3	1 / 3	/	/	/	/	
土 367	967-1000	2 / 3	2 / 3	/	/	/	/	
166 住	1033-1067	0 / 12	0 / 4	/	/	/	/	被熱の程度が低い
168 住	1033-1067	12 / 12	4 / 4	-0.4	57.1	1.6	707.4	遺物少量
169 住	1033-1067	7 / 10	3 / 5	-7.0	51.7	1.6	1400.2	
竪 6	1033-1100	3 / 11	1 / 4	/	/	/	/	被熱の程度が低い 遺物少量
18 住	1067-1100	8 / 8	4 / 4	-3.7	52.3	1.6	1197.3	
85 住	1067-1100	10 / 14	5 / 7	-5.1	58.8	1.2	1526.7	遺物少量
170 住	1067-1100	10 / 15	3 / 5	-4.6	56.7	1.6	1010.5	
20 住	1100-1133	10 / 12	7 / 9	-1.2	56.3	2.1	528.6	遺物少量
56 住	1100-1133	3 / 4	3 / 4	-3.1	56.5	3.0	1698.8	
79 住	1100-1133	0 / 4	0 / 4	/	/	/	/	
80 住	1100-1133	12 / 12	6 / 6	0.0	55.6	1.5	816.9	
110 住	1100-1133	13 / 14	7 / 7	-1.9	55.9	1.6	660.1	
竪 4	1200-1300	0 / 5	0 / 3	/	/	/	/	焼土投げ込み 遺物少量

n1: 平均方向算出に用いた試片数, n2: 測定した試片数, N1: n1 が切り出された試料数, N2: 採取した試料数, D: 偏角, I: 伏角, α_{95} : 95% 信頼限界円, k: 集中度パラメータ。

主成分解析を行った結果、13の住居址から古地磁気方位が得られた (Table 2)。なお直線性が悪く ($MAD > 4^\circ$)、方位の集中も悪い Group C の試片は、平均磁化方向の算出から除外した。試料中に礫が多く認められた試片も除外した。試料採取の際に礫を含む箇所はなるべく取り除いてから採取を行ったが、試料の内部に含まれる小礫について全てを除くことは困難である。実験室での試料整形の際に小礫が試料成形用カッターに噛むと試料が損壊したり、歪むことがある。またそもそも焼土周囲の礫が残留磁化の方位を乱している可能性もある。これらを考慮して、今回は平均方位の算出から除外した。統計的な信頼性から、TRM を獲得しているとした試片 (Table 2 中の n1) が3つ以上の試料 (Table 2 中の N1) から得られていない7住居址 (137 住, 43 住, 土 367, 166 住, 竪 6, 79 住, 竪 4) については有為な方位が得られなかったと考え、

方位の議論に用いなかった。13 住居址から得られた古地磁気方位は高い集中度を示した。方位のパラツキを示す集中度パラメータ (k) は十分に大きく (k が大きいほど集中度が良い)、95% 信頼限界円 (α_{95}) は 5° 以下と小さい (α_{95} が小さいほど集中度が良い)。81 住の主成分解析結果を Fig. 7 に示す。非被熱試料は焼土と比べて方位が大きくばらつき、磁化起源として TRM よりは DRM 起源の可能性が高いことが伺える。焼土試料のうち Group A, B に属する試片の結果のみを用いて算出した平均方向は、偏角 $= -11.0^\circ$ 、伏角 $= 52.1^\circ$ と高い集中 ($k = 779.9$, $\alpha_{95} = 1.7^\circ$) を示した。

4. 古地磁気強度

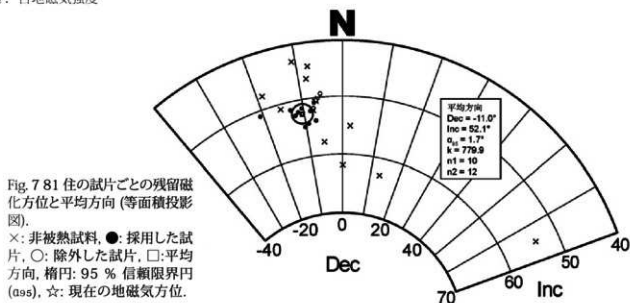


Fig. 7 81 住の試片ごとの残留磁化方位と平均方向 (等面積投影図)。
 ×: 非被熱試料, ●: 採用した試片, ○: 除外した試片, □: 平均方向, 楕円: 95% 信頼限界円 (α_{95}), ☆: 現在の地磁気方位。

4-1. 測定方法

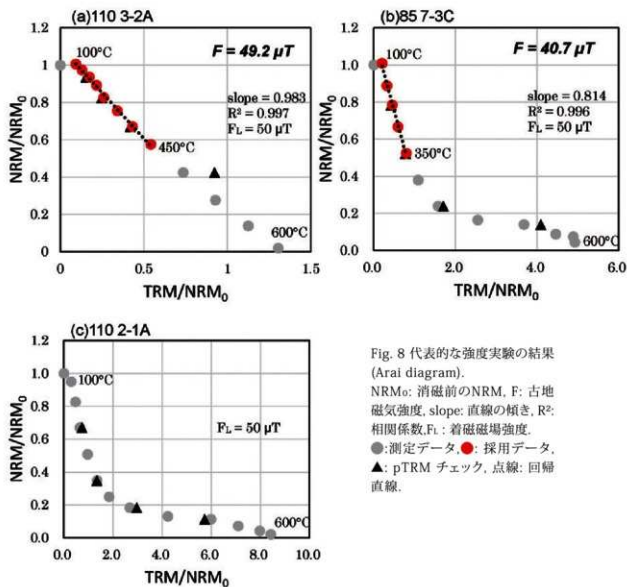
古地磁気強度は pTRM チェック付テリエ法 (Coe, 1967) を用いて実験を行った。テリエ法 (Thellier, 1959) は、段階的に加熱を行い消磁と着磁を繰り返すことで、部分熱残留磁化 (pTRM) の消磁と着磁を行って古地磁気強度を算出する。しかし通常の段階熱消磁実験と比べて倍の加熱ステップを踏むため、試料の熱変質が起こりやすい。pTRM チェック付テリエ法は、残留磁化獲得の再現性をチェックするステップ (pTRM チェックステップ) を挟むことで、加熱による熱変質を評価し、変質を受けているデータを除外できる。今回は、高畑遺跡の 85 住・110 住から採取された 7 試料に対して実験を行った。消磁・着磁の各温度ステップは 100°C から 500°C までは 50°C 刻み、 500°C からは約 30°C 刻みで最大 600°C まで設定した。pTRM チェックは、 300°C ・ 400°C ・ 500°C ・ 600°C の各着磁ステップの前に 200°C ・ 300°C ・ 400°C ・ 500°C のチェックステップを挿入した。着磁は、過去 2000 年間の日本におけるおおよその平均古地磁気強度を想定して $50 \mu\text{T}$ に設定した。測定結果は NRM-TRM グラフ (Arai diagram; Arai, 1963) に投影し、pTRM チェックステップを含む 5 点以上のデータが高い直線性を示した場合に合格とし、その傾きから古地磁気強度を算出した。

4-2. 結果

7 個の試片のうち 6 個の試片から古地磁気強度が得られた (Table 3)。Group A に分類される 4 試片は Arai diagram 上で高温段階に至るまで高い直線性を示した (Fig. 8a)。110 3-2A 試片は全体的に高い直線性を示したが、 500°C の pTRM チェックステップが直線からはずれたため、熱変質が起きていると判断し、 450°C 以下のデータから強度を算出した。Group B 試片は低温では直線を示したが、 $300 \sim 350^\circ\text{C}$ 以上で湾曲したため、それ以下の温度区間を用いて強度を算出した (Fig. 8b)。Group C 試片は全体的に湾曲したため、強度を算出できなかった (Fig. 8c)。Group A 試片は Group B 試片と比べて高い強度値を示した。

Table 3 古地磁気強度実験結果

測定試片	考古学年代 (西暦)	NRM (Am ² /kg)	帯磁率 (m ³ /kg)	Group	採用区間 (°C)	強度 (μT)	Arai diagram での特徴
85 3-3B	1067-1100	3.66 E-03	1.16 E-05	A	100-500	48.9	直線的
85 4-2C	1067-1100	4.92 E-03	1.61 E-05	A	200-500	50.9	直線的
85 7-1A	1067-1100	4.10 E-04	5.75 E-06	B	100-300	40.7	湾曲
85 7-3C	1067-1100	3.73 E-04	5.67 E-06	B	100-350	40.7	湾曲
110 2-1A	1100-1133	1.48 E-04	2.61 E-06	C	/	/	湾曲
110 3-2A	1100-1133	7.49 E-03	2.93 E-05	A	100-450	49.2	直線的
110 3-3C	1100-1133	6.19 E-03	3.88 E-05	A	100-500	47.7	直線的



5. 考察

5-1. 古地磁気学的手法による年代推定

得られた13住居址の古地磁気方位を永年変化曲線と比較する。永年変化曲線は、Hatakeyama et al. (in prep.) によって提案されている JRFM2K.1 を採用し、地磁気双極子仮説 (例えば、小玉, 1999) に基づいて、試料採取地点の値に変換した。古地磁気方位が得られた住居址は8世紀後葉から13世紀と推定されており、それ以前あるいは以降の可能性は極めて低い。そこで今回は700-1400年の永年変化曲線との比較を行った。以下、住居址ごとに推定される年代について述べる。

① 18住 (Fig.9a)

永年変化曲線と比較すると、誤差範囲 (α_{95}) は1000-1025年付近の曲線と重なる。よって古地磁気年代は1000-1025年とした。

② 20住 (Fig.9b)

永年変化曲線と重なるのは、1025-1125年である。よって古地磁気年代は1025-1125年とした。

③ 29住 (Fig.9c)

本住居址から得られた古地磁気方位の精度は高くない。 α_{95} は 4.9° と今回得られたデータの中で最も大きく、年代決定に採用された試片数も3と最も少ない。そのため、850年付近と950-1000年付近と誤差範囲で重なる。信頼性は低いですが、古地磁気年代は850年前後もしくは950-1000年とした。

④ 56住 (Fig.9d)

29住と同様に試片数が3と少ないが、29住よりは k 値、 α_{95} とも高い集中度を示した。永年変化曲線とは誤差範囲が1225-1375年付近と重なる。よって古地磁気年代は1225-1375年とした。

⑤ 80住 (Fig.9e)

誤差範囲は永年変化曲線と重ならないが、1050-1100年に近接する。試片数も多く、集中度も高いため、1050-1100年を古地磁気年代とした。

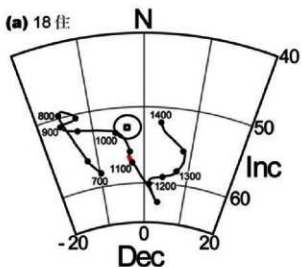


Fig. 9 古地磁気方位と地磁気永年変化曲線 (JRFM2K.1) との比較 (等面積投影図)。

□: 古地磁気方位, 楕円: 95%信頼限界円(α_{95})。図中の数字は永年変化曲線の年代。考古学年代と対応する永年変化曲線の部分は赤く強調した。

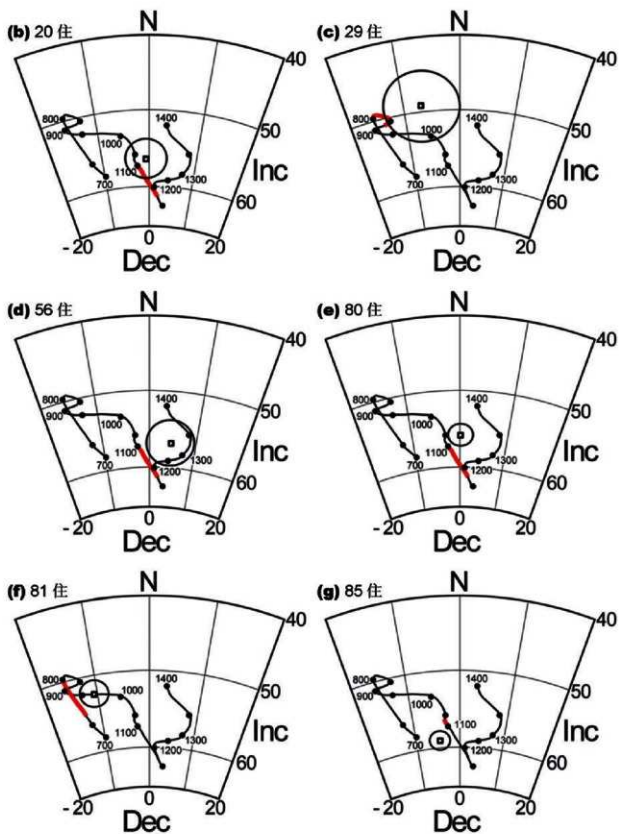


Fig. 9 古地磁気方位と地磁気永年変化曲線との比較 (続き).

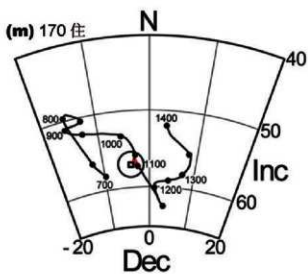
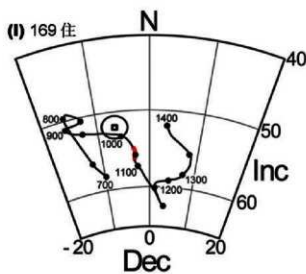
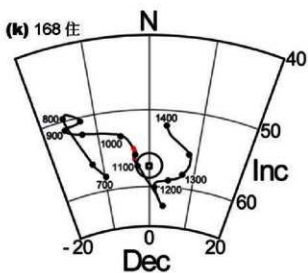
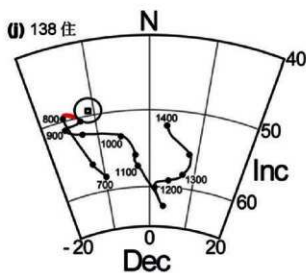
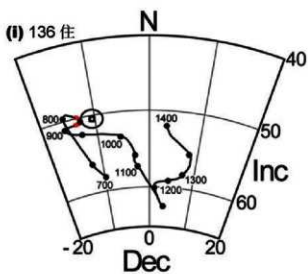
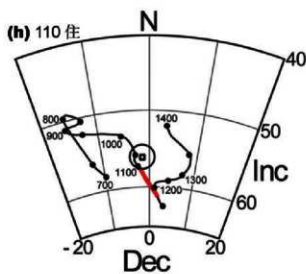


Fig. 9 古地磁方位と地磁気永年変化曲線との比較 (続き).

⑥ 81 住 (Fig.9f)

古地磁気方位は永年変化曲線上に位置し、誤差範囲は950-975年と重なる。よって950-975年を古地磁気年代とした。

⑦ 85 住 (Fig.9g)

誤差範囲は永年変化曲線と重ならないが、80住と同様に永年変化曲線に近接し、かつ平均方向の信頼度も高い。よって最も近接する1100-1125年を古地磁気年代とした。

⑧ 110 住 (Fig.9h)

永年変化曲線と重なるのは、1050-1100年である。よって1050-1100年を古地磁気年代とした。

⑨ 136 住 (Fig.9i)

誤差範囲は、850年と接する。よって古地磁気年代は850年前後とした。

⑩ 138 住 (Fig.9j)

誤差範囲は、850年と接する。よって古地磁気年代は850年前後とした。

⑪ 168 住 (Fig.9k)

永年変化曲線と重なるのは、1100-1125年である。よって1100-1125年を古地磁気年代とした。

⑫ 169 住 (Fig.9l)

永年変化曲線と重なるのは、975-1000年である。よって975-1000年を古地磁気年代とした。

⑬ 170 住 (Fig.9m)

永年変化曲線と重なるのは、1050-1100年である。よって1050-1100年を古地磁気年代とした。

5-2. 考古学年代と古地磁気年代の比較

今回得られた古地磁気年代を、考古学的見地から得られた年代と比較する (Fig. 10)。5住居址 (138, 29, 136, 170, 20住) は、得られた古地磁気年代と考古学年代が重なった。138住, 136住, 170住では古地磁気方位の集中度が高く ($\alpha_{95} = 1.3 - 1.7^\circ$)、50年の幅で古地磁気年代が推定できており、考古学的手法と古地磁気学的手法による年代が遺跡の使用された年代を示していると考えてよいだろう。20住も両年代が重なるが、古地磁気方位の集中度が先の3住居址と比べると若干悪く ($\alpha_{95} = 2.1^\circ$)、誤差範囲に含まれる永年変化曲線が長いので、100年の幅を持つ。考古学年代は12世紀前葉と精度よく求まっていることを考えれば1100-1120年頃が遺跡の使用された年代と考えられる。29住からは、精度の高い古地磁気データを求めることができず (試片数 = 3, $\alpha_{95} = 4.9^\circ$)、850年前後もしくは950-1000年という複数の年代の可能性が示された (Fig. 9c)。一方、考古学的には9世紀前葉～中葉と推定されており、850年前後と考えれば両データをうまく説明できる。

3住居址 (85, 80, 110住) は、両手法による年代値が重ならなかったものの、前後する値が得られた。いずれの住居址の古地磁気方位は集中度も高く ($\alpha_{95} = 1.2 - 1.6^\circ$)、両手法の示す年代値付近が遺跡の使用された年代と考えられる。両手法による年代が重ならなかった点に関しては、両手法の持つ年代決定の精度に原因があると考えられる。古地磁気学的手法の精度に関しては、永年変化曲線の信頼性の向上、地域性の影響の評価ならびにその影響を踏まえた修正方法の確立、より精度の高い試料採取・分析法の提案などが今後の課題となるだろう。

5住居址 (81, 168, 169, 18, 56住) から得られた古地磁気年代は考古学年代と重ならない。56住は古地磁気データの精度が高くなく (試片数 = 3, $\alpha_{95} = 3.0^\circ$)、1225-1375年と長い永年変化曲線と重なるが、誤差間は1100-1125年付近の永年変化曲線とも近接する (Fig. 9d)。考古学的見地からは12世紀前葉と推定されており、遺跡の使用された年代が1100-1125年頃と考えれば、両手法の結果を矛盾なく説明できる。

81住は、古地磁気年代が950-1000年、考古学年代が767-800年と推定され150年以上相違がある。

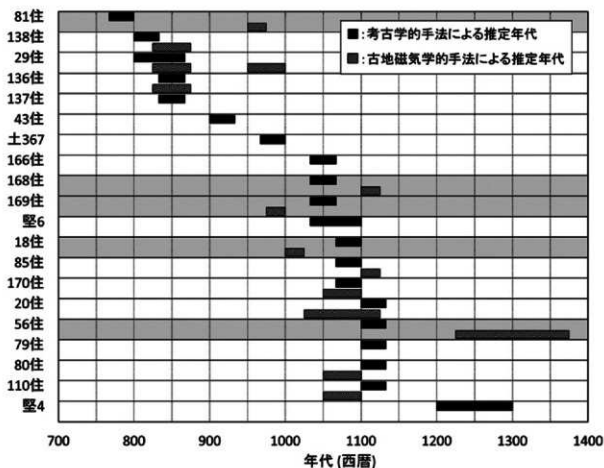


Fig. 10 考古学年代と古地磁気年代の比較。

両手法から得られた推定年代が大きく異なった5住居址は灰色で強調してある。

古地磁気方位は永年変化曲線上に位置し (Fig. 9f), データの信頼性は高い (試片数 = 10, $\alpha_{95} = 1.7^\circ$)。考古学年代も須恵器に基づいて推定されており, 信頼性は高い。考古学年代が遺跡の使用された真の年代値を示しているとするなら, 今回得られた古地磁気方位 (Dec = -11.0° , Inc = 52.1°) が何らかの原因で永年変化曲線とずれたことになる。永年変化曲線によると, 考古学年代が示す 767-800 年頃の古地磁気方位は偏角 = $-13.6 - -15.7^\circ$, 伏角 = $54.2 - 49.7^\circ$ であり, 偏角が $2.6 - 4.7^\circ$ 東偏する必要がある。高畑遺跡の約 2.5km 北に位置する出川南遺跡で発掘された古墳時代後期 (600 年前後) の住居址の焼土から, 永年変化曲線より偏角が約 7° 東偏した古地磁気方位が得られている (齋藤, 2014)。また歴史書によれば, 調査地域周辺では 762 年に地震があったとされ, 地質学的調査からも糸魚川-静岡構造線の活動による可能性が指摘されている (地質調査研究推進本部, 2015)。81 住の考古学年代 (767-800 年) は 762 年よりも若干新しいが, 今回研究対象とした住居址の中では最も古く, この地震によって偏角が数度東偏するような変動を被れば, 出川南遺跡や 81 住のデータを説明できる。しかしその様な変動を受けたという証拠はなく, 今後の検証が必要である。

168 住と 169 住の考古学年代はともに 1033-1067 年であるのに対し, 古地磁気年代は 1100-1125 年, 975-1000 年という値が得られた。古地磁気年代の精度は高く誤差も小さいため ($\alpha_{95} = 1.6^\circ$), 信頼性は高い。永年変化曲線の 1050-1100 年の変化は小さく, 168 住については 1050 年頃を遺跡の使用年代と考えることもできる。一方で 169 住については, 古地磁気方位と考古学年代に相当する永年変化曲線は十分に離れており, 現在のデータでは年代を決定することが出来ない。ただ, 考古学的視点からは, 互いに接

するほど近接する竪穴住居が同時に使用された可能性は低いと考えられている(小山氏, 私信)。168住は169住と隣接しており(Fig. 1), 168住の使用年代が1050年頃であるとすれば, 169住の使用年代としては考古学年代(1033-1067年)よりも古地磁気年代(975-1000年)の方が適当であるかもしれない。

18住は, 古地磁気年代(1000-1025年)が考古学年代(1067-1100年)よりも古く推定された。18住の古地磁気方位の精度は良く(試片数 = 8, $\alpha_{95} = 1.6^\circ$), 考古遺物も十分に見つかっているため, 古地磁気年代と考古学年代のどちらも信頼性が高い。とすれば, 両年代値共に真の年代を示している可能性がある。考古学年代は住居が使用された年代を示しているとして, 古地磁気年代は住居が使用された年代ではなく, 最後にキュリー一点以上に昇温し, TRMを獲得した年代を示している。通常のかまど跡の焼土は, 住居が使用されていた時にかまどが使用されることで加熱されて生じたと考え, 住居の使用年代と古地磁気年代が一致するものと考えて取り扱う。しかし18住で採取された焼土は住居中央の床面から採取されており(Fig. 1, Fig. 2b), この時期のかまどが住居の端に設置されることが多い(Fig. 2a)ことを考えると, かまど跡由来とは考えにくい。住居が廃棄される際に, 何らかの儀式によって意図的に焼かれた可能性や, 18住が使用される以前に形成された焼土である可能性がある。前者であれば, 考古学年代と古地磁気年代はそれ程ずれないと考えられるが, 後者であれば古地磁気年代が古くなることが説明できる。ただ18住の場合, 住居が廃棄された際の焼土である可能性が高いと考えられており(小山氏, 私信), そうであれば両年代の乖離は説明できない。

5-3. 古地磁気方位の変動の地域差

広岡(1981)によって, 古地磁気方位の変動には地域差があることが指摘されている。先行研究によって得られた永年変化曲線(Hatakeyama et al., in prep)は, 主に西南日本と東海地方のデータに基づいており, 東日本側のデータは含まれていない。長野県のデータも少なく, 畠山らの永年変化曲線が東日本や長野県でも利用可能かどうかの検証は, 考古地磁気学の残された課題の一つである。

今回, 古地磁気方位が得られた13住居址の古地磁気年代を推定したが, 8住居址からは考古学年代と概ね一致した年代を得ることができた。5住居址の示した古地磁気年代は考古学年代と大きく異なった値を示したが, 前述したように, その多くの住居址では合理的な説明が可能である。少なくとも今回年代推定を行った700-1400年付近に関しては, 松本市でも畠山らの永年変化曲線が利用可能だと言える。しかし, 81住の古地磁気方位と出川南遺跡の結果(齋藤, 2014)が示したように, 762年に起こったとされる地震活動によってそれ以前の古地磁気方位が影響を受けた可能性がある。今後, さらに時空間的に広範囲の遺跡を対象に検討していく必要がある。

5-4. 古地磁気強度の推定と妥当性

得られた地磁気強度値から, 過去の古地磁気強度値を推定する。今回強度値が得られたのは6試片と少ないが, 方位と異なり強度値の測定は困難が伴い, 信大グループとしては今回の試みが初めての考古試料からの強度推定であるためここで報告する。

85住では4試片から $45.3 \pm 5.4 \mu\text{T}$ (誤差は標準偏差), 110住では2試片から $48.4 \pm 1.0 \mu\text{T}$ という強度値が得られた(Table 4)。85住の2試片はGroup Bに分類され, それらの強度値は $40.7 \mu\text{T}$ と低い(Table 3)。今回採用した手法はpTRMチェック付テリエ法(Coe, 1967)であり, テリエ法(Thellier and Thellier, 1959)よりも熱変質の評価が可能で, 信頼性は高い。しかし試料のNRMがすべてTRM起源でない場合や, 試料に含まれる磁性鉱物の粒子サイズが多磁区(MD)粒子である場合などに, 妥当な強度値が得られないことが知られている(例えば, 山本・綱川, 2005)。Group B試片はGroup A試片と比べてNRMが小さく(Fig. 5), NRMの起源がすべてTRMでない可能性がある。Arai diagram上でもNRM-TRMグラフが湾曲し, MD粒子の影響が強いと考えられる(Fig. 8c)。そこでGroup B試片の値を除外して強度値

を求めたところ、 $49.9 \pm 1.4 \mu\text{T}$ と誤差が小さくなり、強度値は高くなった。

今回得られた強度値を先行研究と比較する (Fig. 11)。年代は考古学年代と古地磁気年代を合わせて、その最大と最小を誤差範囲とした。住居ごとに算出した値と、両住居址の年代がほぼ一緒なので一括して算

Table 4 推定された古地磁気強度

住居址名	推定年代 (西暦)		試片数 n1 / n2 / n3	古地磁気強度 (μT)	
	考古学年代	古地磁気年代		全試片	Group A のみ
85 住	1067-1100	1100-1125	2 / 4 / 4	45.3 ± 5.4	49.9 ± 1.4
110 住	1100-1133	1050-1100	2 / 2 / 3	48.4 ± 1.0	48.4 ± 1.0
85 住と 110 住	1067-1133	1050-1125	4 / 6 / 7	46.3 ± 4.5	49.2 ± 1.3

n1: 強度値が得られた試片の中で Group A に分類されるもの、n2: 強度値が得られた試片数、
n3: 測定試片数

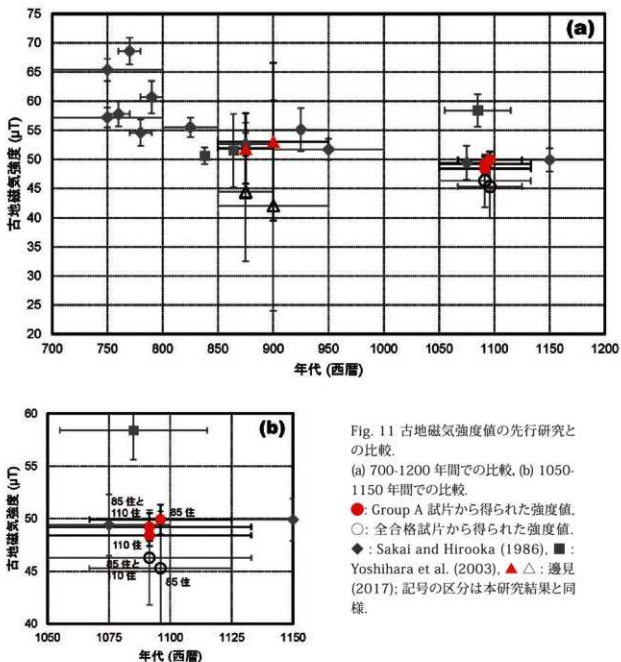


Fig. 11 古地磁気強度値の先行研究との比較。

(a) 700-1200 年間での比較, (b) 1050-1150 年間での比較。

●: Group A 試片から得られた強度値。
○: 全合格試片から得られた強度値。
◆: Sakai and Hirooka (1986), ■: Yoshihara et al. (2003), ▲ △: 邊見 (2017); 記号の区分は本研究結果と同様。

出した値をプロットした。700-1200年の強度値は緩やかに減少していることが知られている (Sakai and Hirooka, 1986; Yoshihara et al., 2003)。Group B 試片も含めた強度値は先行研究の値 (約 $50 \mu T$) よりも低い (Fig. 11b の白丸)。Group A 試片のみから得た強度値はそれよりも高く、先行研究とほぼ一致する領域にプロットされた (Fig. 11b の赤丸)。同様の傾向は我々が山梨県北杜市の上原遺跡を対象に行った研究でも認められ、Group A 試片のみからの強度値は先行研究と一致する領域にプロットされた (Fig. 11a の三角; 邊見, 2017)。古地磁気強度値を推定する際に、残留磁化起源や粒子サイズを検討すること、より高い被熱を受けた試片に限定することが重要であることが本研究の結果からも示された。

6. さいごに

高畑遺跡第6次発掘調査で出現した20の住居址から採取した焼土を対象に考古地磁気学的研究を行った結果、被熱の程度の高い焼土試料 (Group A, B) から精度の高い古地磁気方位を得ることができた。古地磁気方位と永年変化曲線から推定された8住居址の古地磁気年代は考古学的に推定された年代とほぼ一致した。5住居址からは考古学年代と大きく異なった値が得られたが、多くの住居址では考古学もしくは古地磁気学のどちらかの年代推定の精度が低いなどの合理的な説明を与えることが可能であった。今後研究を継続してデータを蓄積することで、古地磁気永年変化曲線の精度向上、地域性の検証、諸地質学イベントの影響などを評価し、より信頼性の高い年代決定が可能になるだろう。

2住居址からは古地磁気強度を推定し、特に被熱の程度の高いGroup Aの試片からは先行研究の値と妥当な強度値を得ることができた。しかし古地磁気強度に関しては、永年変化曲線の精度が方位ほど高くなく、また強度測定には複雑な実験や手続きが必要とされることもあり、すぐに年代制約に使用できるレベルにはない。年代が明らかな古地磁気強度値を増やすことで、永年変化曲線の確立に貢献していきたい。

また今回、古地磁気データが揃った段階で複数回、松本市教育委員会文化財課を訪問し、考古学的見地からの意見を加味することで議論を深めてきた。その結果、例えば81住、168住、169住、18住の結果を合理的に解釈することができた。異なる学問領域からのアプローチを双方向に重ねていくことの重要性を改めて認識するとともに、今回の様な研究活動を継続することで、考古地磁気学の発展に貢献していきたい。

謝辞

松本市教育委員会文化財課の小山奈津実氏と原田健司氏には、試料採取において便宜を図っていただいたとともに、考古学的見地から多くの助言をいただいた。同文化財課の直井雅高氏をはじめ、スタッフの皆様には、考古学的見地から議論していただいた。岡山理科大学の高山唯達氏には、試料採取・整形方法・考古地磁気データの取り扱いについて多くの助言をいただいた。九州大学の北原優氏には、考古地磁気学的見地から議論していただいた。信州大学大学院理工学系研究科の五十嵐蓮氏と勝家康太郎氏には試料採取を手伝っていただいた。信州大学理学部地質科学科の中村友香氏は一部の試料採取と磁気測定を行っていただいた。ここに記して厚く感謝いたします。

引用文献

- 会田信行 (1980) 下総台地西部に分布する縄文時代中期住居址内炉跡土の考古地磁気. 第四紀研究, 19(4), 311-316.
- Arai, T. (1963) Secular variation in the intensity of the past geomagnetic field. M. Sc. Thesis, Univ. of Tokyo.
- Carrancho, Á. and Villalain, J.J. (2011) Different mechanisms of magnetisation recorded in experimental fires: Archaeomagnetic implications. Earth and Planetary Science Letters, 312(1), 176-187.

- Coe, R.S. (1967) Paleo-intensities of the Earth's magnetic field determined from Tertiary and Quaternary rocks. *Journal of Geophysical Research*, 72(12), 3247-3262.
- 高山唯達, 北原優, 納本和孝, 鳥居雅之 (2016) 考古地磁気学における試料採取および成形: 測定精度の向上に向けて. *Naturalistae*, (20), 1-12.
- Hatakeyama, T., H. Shibuya, K. Hirooka, H. Nakamura, A. Yoshihara, M. Yamamoto, M. Tori. (in prep.) A New Archeomagnetic Database and Geomagnetic Secular Variation Model for the past 2ky of Japan.
- 邊見涼 (2015) 松本市高畑遺跡と和田太子堂遺跡の考古地磁気学的研究. 信州大学理学部地質科学科卒業論文. 51p.
- 邊見涼 (2017) 住居地で発掘される焼土を用いた古地磁気方位・強度の復元. 信州大学理工学系研究科地球生物圏科学専攻修士論文. 67p.
- 邊見涼, 齋藤武士 (2015a) 松本市高畑遺跡と和田太子堂遺跡の考古地磁気学的研究. 日本地球惑星科学連合 2015 年大会, SEM34-P04.
- 邊見涼, 齋藤武士 (2015b) 山梨県北杜市上原遺跡の考古地磁気学的研究. 第 138 回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会, R004-P02.
- Hemmi, R. and T. Saito. (2016) Archeomagnetic direction and intensity of ancient settlements at Koushin district, central Japan. *JPGU2016*, SEM05-P04.
- 邊見涼, 齋藤武士 (2016) 8～12 世紀の甲信地方における考古地磁気方位の変化. 第 140 回地球電磁気・地球惑星圏学会総会・講演会, S001-P02.
- Hirooka, K. (1971) Archaeomagnetic study for the past 2,000 years in Southwest Japan. *Mem. Fac. Sci. Kyoto Univ., Ser. Geol. Mineral* 38:167-207.
- 広岡公夫 (1981) 考古地磁気による年代推定とその問題点. *考古学研究*, 28(1), 69-78.
- 地震調査研究推進本部 (2015) 糸魚川-静岡構造線断層帯の長期評価 (第二版). http://www.jishin.go.jp/main/chousa/katsudansou_pdf/41_42_44_itoigawa-shizuoka_2.pdf.
- Kirschvink, J. L. (1980) The least-squares line and plane and the analysis of palaeomagnetic data. *Geophysical Journal International*, 62(3), 699-718.
- 小玉一人 (1999) 古地磁気学. 東大出版社, 248p.
- Linford, N. A. and Canti, M. G. (2001) Geophysical evidence for fires in antiquity: preliminary results from an experimental study. Paper given at the EGS XXIV General Assembly in The Hague, April 1999. *Archaeological Prospection*, 8(4), 211-225.
- Morinaga, H., Inokuchi, H., Yamashita, H., Ono, A. and Inada, T. (1999). Magnetic detection of heated soils at Paleolithic sites in Japan. *Geoarchaeology*, 14(5), 377-399.
- 中嶋正志, 夏原信義 (1981) 考古地磁気年代推定法. ニューサイエンス社, 95p.
- 齋藤武士 (2014) 松本市出川南第 21 次発掘調査で出現した焼土の考古地磁気. 松本市文化財調査報告 No.212 長野県松本市出川南遺跡-第 21 次発掘調査報告書-, 38-43.
- Sakai, H. and Hirooka, K. (1986) Archaeointensity determinations from western Japan. *Journal of geomagnetism and geoelectricity*, 38(12), 1323-1329.
- 酒井英男, 菅頭明日香, 小黒智久 (2013) 堅穴住居上屋土壌の火災による落下状況を残留磁化から探る研究. *日本情報考古学会誌*, 19(1), 28-35.
- Thellier, E. and Thellier, O. (1959) Sur l'intensité du champ magnétique terrestre dans le passé historique et géologique. *Ann. Geophys.*, 15, 285-376.

- Watanabe, N. (1958) Secular variation in the direction of geomagnetism as the standard scale for geomagnetochronology in Japan. *Nature*, 182(4632), 383-384.
- Watanabe, N. (1959) The direction of remanent magnetism of baked earth and its application to chronology for anthropology and archaeology in Japan: An introduction to geomagnetochronology. *Journal of the Faculty of Science, University of Tokyo*, 2, 1-188.
- 山本裕二, 綱川秀夫 (2005) 絶対古地磁気強度測定法の進展と新方法による過去 500 万年間の平均地球磁場強度 - 現在の地磁気は異常に強い? -. *地学雑誌*, 114, 161-173.
- Yamamoto, Y., Torii, M. and Natsuhara, N. (2015) Archeointensity study on baked clay samples taken from the reconstructed ancient kiln: implication for validity of the Tsunakawa-Shaw paleointensity method. *Earth, Planets and Space*, 67(1), 63.
- Yoshihara, A., Kondo, A., Ohno, M. and Hamano, Y. (2003) Secular variation of the geomagnetic field intensity during the past 2000 years in Japan. *Earth and Planetary Science Letters*, 210(1), 219-231.

はじめに

高畑遺跡（長野県松本市村井町南地内）は、松本市南部、現在の田川の左岸に位置する。高畑遺跡は、これまでの発掘調査の結果、奈良・平安～鎌倉時代の集落であることが明らかとされており、今回の第6次調査においても古代および中世（鎌倉時代）を中心とする遺構・遺物が確認されている。

本報告では、第6次調査で検出された炭焼窯の年代観、炭焼窯より出土した炭化材の樹種および木材利用の検討を目的として、放射性炭素年代測定、樹種同定を実施した。

1. 試料

試料は、炭焼窯3基（L区炭焼窯1、L区炭焼窯2、D区炭焼窯3）より出土した炭化材である。いずれの炭化材試料も一括で採取されており、L区炭焼窯1.2はそれぞれビニール袋に保管された状態にあり、D区炭焼窯3はアルミホイルに包まれ保管された3点からなる。

これらの試料の観察では、L区炭焼窯1.2は炭化材が混じる（黒褐色～暗褐色やや砂混じりの泥からなる。L区炭焼窯1は多量の炭化材が混じっており、芯持丸木状、分割材状（半裁状、ミカン割状、板状など）などの破片が確認され、その大きさも直径が1cm程度のものから3cm程度のものまで区々であった。L区炭焼窯2は炭化材が混じるものの、L区炭焼窯1との比較では概して少なく、芯持丸木状は極僅かであり、分割材状を含む破片が主体である。また、D区炭焼窯3は破片を主体とし、最大は長さ9cm、幅5cm、厚さ1.5cm程度の（榎目）板状を呈する破片が確認された。

放射性炭素年代測定試料には、上記の観察所見を参考とし、L区炭焼窯1が樹皮が残る芯持丸木の炭化材（仮名称a）、L区炭焼窯2が半裁状を呈する炭化材（仮名称a）、D区炭焼窯3が上記した炭化材最大片（仮名称a）の3点を選択し、いずれも最外年輪を含む数年輪分を供している。また、樹種同定には、上記の3点とともに、L区炭焼窯1は直径の異なる芯持丸木状の炭化材（仮名称b,c）と、加工痕（伐採痕）と思われる痕跡が確認された芯持丸木状の炭化材（仮名称d）、L区炭焼窯2は小径の芯持丸木状の炭化材（仮名称b）と（榎目）板状を呈する炭化材（仮名称c,d）、D区炭焼窯3は炭化材最大片が保管されたアルミホイル以外の試料より抽出した（榎目）板状を呈する炭化材（仮名称b,c）の8点を供した。なお、各試料の詳細（形状、大きさなど）は樹種同定結果とともに表2に記したので参照されたい。

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

測定試料について、メスやピンセットなどを用いて土砂や根などの付着物を除去する。その後、炭質物や炭化材は、酸-アルカリ-酸（AAA）処理により不純物を化学的に処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。なお、AAA処理における酸処理では、通常1mol/l（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では、水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。この際、アルカリ濃度が1Mに達した場合は「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表示する。

これらの処理の後、試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO₂）を発生させ、精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイトを生成させる。さらに生成したグラファイトは、内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイルにはめ込み、測定装置に装着する。

測定機器は、3MV 小型タンデム加速器をベースとした ^{14}C -AMS 専用装置を使用する。AMS 測定時に、標準試料である米国国立標準局 (NIST) から提供されるシュウ酸 (HOX-II) とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定も行うため、この値を用いて $\delta^{13}\text{C}$ を算出する。

放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,568 年を使用する。また、測定年代は 1,950 年を基点とした年代 (BP) であり、誤差は標準偏差 (One Sigma; 68%) に相当する年代である。暦年較正は、OxCal4.2.4 を用い、誤差として標準偏差 (One Sigma) を用いる。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い (^{14}C の半減期 $5,730 \pm 40$ 年) を較正することである。暦年較正は、OxCal4.2.4 のマニュアルに従い、1 年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値および北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。暦年較正結果は $1\sigma \cdot 2\sigma$ (1σ は統計的に真の値が 68.2% の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が 95.4% の確率で存在する範囲) の値を示す。なお、現在使用されている較正曲線 (Intcal13; Reimer *et al.*, 2013) は、基本的に 10 年単位 (新しい時代では 5 年単位) で作成されている点や、測定年代、較正曲線の精度から、与えられた年代は 5 年もしくは 10 年単位で考えることが必要である (Stuiver and Polach, 1977)。ただし、本報告では、将来的な較正曲線ならびにソフトウェアの更新に伴う再計算に対応できるように、表中には 1 年単位の値を記している。

(2) 樹種同定

試料を自然乾燥させた後、木口 (横断面)・柾目 (放射断面)・板目 (接線断面) の 3 断面の断面を複製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類 (分類群) を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東 (1982) や Wheeler 他 (1998) を参考にする。また、日本産樹木の木材組織については、林 (1991) や伊東 (1995-1999) を参考にする。

3. 結果

(1) 放射性炭素年代測定

炭化材試料の同位体効果による補正を行った測定結果 (補正年代) は、L 区炭焼窯 1 が $1,120 \pm 20\text{BP}$ 、L 区炭焼窯 2 が $1,090 \pm 20\text{BP}$ 、D 区炭焼窯 3 が $1,420 \pm 20\text{BP}$ である (表 1)。また、暦年較正結果 (2σ 暦年代範囲) は、L 区炭焼窯 1 が calAD 889 - calAD 980、L 区炭焼窯 2 が calAD 892 - calAD 995、D 区炭焼窯 3 が calAD 602 - calAD 657 である (表 1、図 1.2)。

表 1. 放射性炭素年代測定および暦年較正結果

試料名	処理方法	補正年代 (BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正年代 (暦年較正用) (BP)	暦年較正結果		測定番号
					1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲	
L 区炭焼窯 1 炭化材 a (クスギ節)	AAA	1120 ± 20	-24.85 ± 0.26	1118 ± 20	895AD (34.8%) 929AD 940AD (33.4%) 969AD	889AD (95.4%) 980AD	IAAA-162109
L 区炭焼窯 2 炭化材 a (モモ)	AAA	1090 ± 20	-23.49 ± 0.25	1092 ± 19	901AD (25.2%) 921AD 953AD (43.0%) 987AD	892AD (95.4%) 995AD	IAAA-162110
D 区炭焼窯 3 炭化材 a (クリ)	AAA	1420 ± 20	-25.44 ± 0.20	1418 ± 21	618AD (68.2%) 650AD	602AD (95.4%) 657AD	IAAA-162111

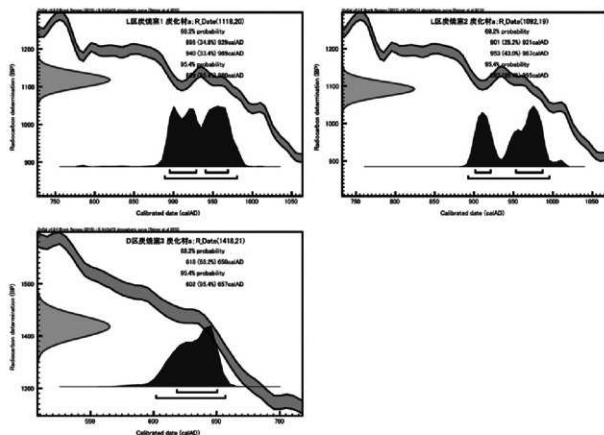


図 1. 暦年較正結果 (1)

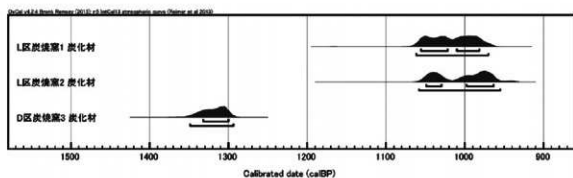


図 2. 暦年較正結果 (2)

(2) 樹種同定

同定結果を表 2 に示す。炭化材は、広葉樹 4 分類群 (コナラ属コナラ亜属クヌギ節、コナラ属コナラ亜属コナラ節、クリ、モモ) に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

- ・コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Cerris*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は 1-2 列、孔圏外で急激に径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20 細胞高のものと複合放射組織とがある。

- ・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は 1-3 列、孔圏外で急激に径を減じたのち、漸減しながら炎症状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20 細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔部は3-4列、孔部外で急激に径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

・モモ (*Prunus persica* Lindley) バラ科サクラ属

環孔性を帯びた散孔材で、年輪のはじめにやや大型の道管が3-4列配列し、やや急激に径を減じた後、単独または2-5個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-5細胞幅、1-40細胞高。

表2. 樹種同定結果

遺構名	仮名称	形状	大きさ ¹⁾ (cm)	樹種 ²⁾ (分類群)	年輪数	備考
L区炭焼窯1	a	芯持丸木	(1.7 × 1.4)	コナラ属コナラ亜属クスギ節*	12年	樹皮あり
	b	芯持丸木	(3.5 × 2.5)	コナラ属コナラ亜属クスギ節	10年	直径最大
	c	芯持丸木	(1.0)	コナラ属コナラ亜属クスギ節	5年以上	直径最小
	d	芯持丸木	(3 × 2.5)	コナラ属コナラ亜属クスギ節	9年	加工痕(伐採痕)あり
L区炭焼窯2	a	半截状	(1.8)	モモ*	2年	
	b	芯持丸木	(1.0)	コナラ属コナラ亜属コナラ節	2年	
	c	破片(椀目板状)	2 × 1.5 × 4	コナラ属コナラ亜属コナラ節	37年以上	半径2cm以上
	d	破片(椀目板状)	3 × 1 × 3	コナラ属コナラ亜属コナラ節	45年以上	半径3cm以上
D区炭焼窯3	a	破片(椀目板状)	9 × 5 × 1.5	クリ*	4年	半径約2.5cm
	b	破片	1 × 1 × 1.5	クリ	10年	
	c	破片(椀目板状)	2.5 × 1 × 2.5	クリ	25年	

1) 括弧内の数値は直径を示す

2) *は放射性炭素年代測定試料

4. 考察

(1) 炭焼窯の年代

L区炭焼窯1,2およびD区炭焼窯3より出土した炭化材の暦年較正結果(2o)についてみると、L区炭焼窯1,2はともに9世紀末から10世紀末頃、D区炭焼窯3が7世紀初頭から7世紀中頃を示した。この結果を参考とすると、L区炭焼窯1,2は平安時代、D区炭焼窯3は飛鳥時代頃の遺構と推定される。なお、調査所見では、L区炭焼窯1,2は検出状況から炭焼窯2→炭焼窯1という新旧関係が明らかとされている。今回の結果では調査所見を支持する結果は得られなかったが、暦年代範囲が近似することから、それほどの時期差はなかったと考えられる。

(2) 木材利用

3基の炭焼窯から出土した炭化材の樹種同定の結果、広葉樹のクスギ節、コナラ節、クリおよびモモの計4種類が確認された。このうち、クスギ節は、日本にクスギとアベマキの2種があるが、本地域にはクスギのみが分布し、アベマキは分布しないことから、今回の試料はクスギの可能性が高い。クスギは、コナラと共に二次林を形成するが、より湿った環境を好み、エノキ等と共に河畔などにも生育する。木材は重硬で強度が高く、薪炭材としては国産材の中でも優良な部類に入る。コナラ節は、コナラ、ミズナラ、ナラガシワ、カシワの4種が日本に分布し、本地域では平地の二次林にコナラ、山地の落葉広葉樹林にミズナラが分布する。コナラとミズナラは、いずれも重硬で強度が高く、薪炭材としては優良な部類に入る。クリは、二次林等に生育する落葉高木である。木材は重硬で強度・耐朽性が高いが、焼成すると柔らかく燃焼性の高い木炭になるとされ、民俗事例ではマツ炭と共に鍛冶燃料材に利用される(岸本・杉浦,1980)。モモは、大陸から渡来した栽培種であり、弥生時代以降、日本各地で出土事例が知られている。木材は、比較的重硬・緻密で強度が高い。

各炭焼窯の樹種構成は、L区炭焼窯1がクスギ節、L区炭焼窯2がコナラ節とモモ、D区炭焼窯3がクリからなり、遺構毎で組成が異なる傾向が認められた。L区炭焼窯1の炭化材については、3基の炭焼窯の中では、芯持丸木が比較的多く、径1cm～3cm前後までのものからなり、全体的に小径であるという特徴が

確認されたほか、伐採痕と思われる加工痕を有する炭化材も認められた。分析対象とした炭化材の年輪計測では、最大で10～12年程度であったことから、クヌギ節の枝材等に由来すると考えられる。これらの状況から、炭焼窯1では木炭の大部分が窯外に持ち出され、枝等の燃料材としてはやや劣る部分が残された可能性がある。また、製炭する際、木材が床に直接触れるのを防ぐために枝等を床に敷くことがあり、こうした用途に利用された枝材に由来する可能性もある。

L区炭焼窯2は、モモとコナラ節が確認されたが、コナラ節が破片や小径の芯持丸木に認められたのに対し、モモは小径の半裁状を呈する炭化材に認められたのみである。この結果から、炭焼窯2ではコナラ節を主体として、モモが混じる組成であったと考えられる。コナラ節のうち、柾目板状の破片は、いずれも30年を越える年輪が認められたことから、製炭された幹材あるいは太い枝の一部の可能性はある。一方、径1cmの芯持丸木は2年生の若枝であり、前述と同様に床の敷材などに由来する可能性がある。モモについても2年生の小径木であったことから、コナラ節の小径木と同様の用途が推定される。なお、モモは、栽培種であることから、遺跡周辺におけるモモの栽培・利用も窺える。

L区炭焼窯1に確認されたクヌギ節と、L区炭焼窯2に確認されたコナラ節は、材質が類似し、いずれも火持ちの良い硬い炭となる(岸本・杉浦,1980)。このことから、これらの炭焼窯では、同様の材質の木材を製炭していたと考えられる。また、樹皮が残る、あるいは残っていたと思われる炭化材について、最外年輪の形成状況の観察を行った結果では、いずれも晩材部の形成が確認された。詳細な季節の特定は難しいが、晩材部が形成されている状況から、秋～初春の間に木材が伐採されたと考えられる。水分の少ない冬に伐採した木材は、木炭とした際に樹皮が剥がれにくく、材質も安定しているとされる(岸本・杉浦,1980)。また、冬期は乾燥しており、木炭が湿りにくいことから、この時期に製炭が行われていた可能性がある。

一方、D区炭焼窯3は、いずれも破片であり、芯持丸木状の炭化材は確認できなかった。破片の年輪数は、4年～25年まで認められ、幹や太枝の一部も含まれていると考えられる。炭化材は、分析対象とした試料は全てクリであり、L区の2基の炭焼窯とは樹種構成が異なる。クリは、燃焼性の良い柔らかい炭になるため、上記とは材質の異なる木炭を製炭していた可能性がある。

古代の木炭利用、とくに大量の木炭を利用するものとして、製鉄・鍛冶操作に関わる燃料材が挙げられる。製鉄や鍛冶遺構に関わる燃料材を対象とした群馬県渋川市域の調査事例では、金井製鉄遺跡の8世紀末頃とされる製鉄炉に付随する炭焼窯から出土した木炭は調査した全点がクヌギ節に同定されている(大塚・高橋,2015)。一方、薬師J遺跡や半田中原遺跡等で検出された奈良～平安時代の伏焼きの炭焼き土坑から出土した炭化材は、調査した範囲で全てクリに同定されており、炭焼きの方法によって樹種が異なること、クリは材質から鍛冶燃料材に利用された可能性があることが指摘されている(大塚,2000)。これらの事例から、本遺跡においても、クヌギ節・コナラ節の木炭と、クリの木炭とは用途が異なっていた可能性がある。

長野県内における調査事例についてみると、野口遺跡(麻績村)の平安時代とされる炭窯から出土した炭化材にクヌギ節が、菅ノ沢遺跡(大町市)の8～11世紀と考えられる鉄滓共存炭化材にクヌギ節とコナラ節が確認されている(伊東・山田,2012)。これらの結果は、今回の分析結果と同様の傾向を示す点で注目され、今後も同様の調査事例の蓄積による木材利用の検討が期待される。

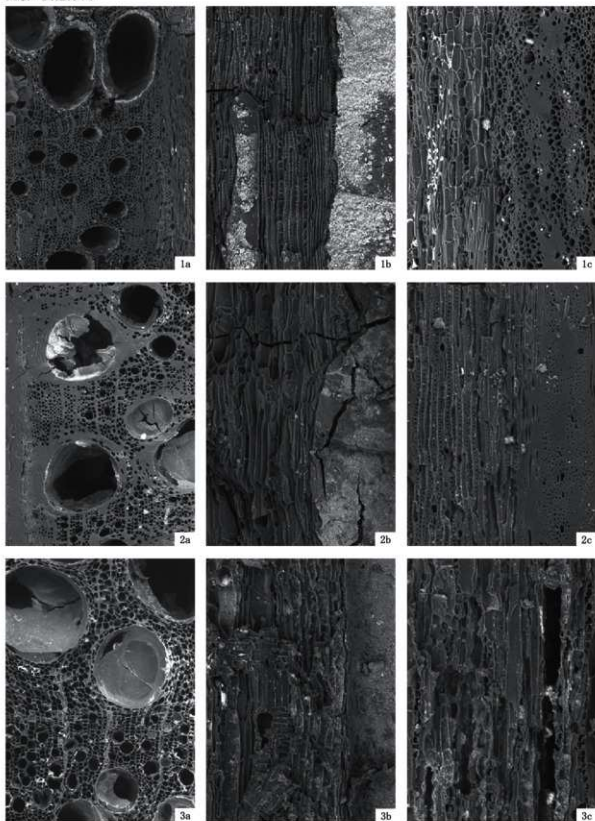
<引用文献>

Bronk Ramsey, C., & Lee, S., 2013, Recent and Planned Developments of the Program OxCal. Radiocarbon, 55, 720-730.

林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.

- 伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
- 伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.
- 伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
- 伊東隆夫・山田昌久,2012,木の考古学 出土木製品用材データベース.海青社,449p.
- 岸本定吉・杉浦銀治,1980,日曜炭やき師入門.総合科学出版,250p.
- 大塚昌彦,2000,伏焼法による炭焼き土坑 一薬師・半田中原遺跡の製鉄関連炭焼き土坑一.群馬考古学手帳,10,群馬土器観会,55-67.
- 大塚昌彦・高橋 敦,2015,古代製鉄炉に併設する炭窯木炭の一考察 一金井製鉄遺跡の炭窯を中心として 一.利根川,37,利根川同人,97-103.
- Reimer PJ, Bard E, Bayliss A, Beck JW, Blackwell PG, Bronk Ramsey C, Buck CE, Cheng H, Edwards RL, Friedrich M, Grootes PM, Guilderson TP, Hafflidason H, Hajdas I, Hatté C, Heaton TJ, Hoffmann DL, Hogg AG, Hughen KA, Kaiser KF, Kromer B, Manning SW, Niu M, Reimer RW, Richards DA, Scott EM, Southon JR, Staff RA, Turney CSM, van der Plicht J.,2013,IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0-50,000 years cal BP. Radiocarbon,55,1869-1887.
- Stuiver Minze and Polach A Henry,1977,Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon,19,355-363.
- 島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.,1989,IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

図版1 炭化材(1)



1. コナラ属コナラ亜属コナラ節(L区炭焼窯2;d)

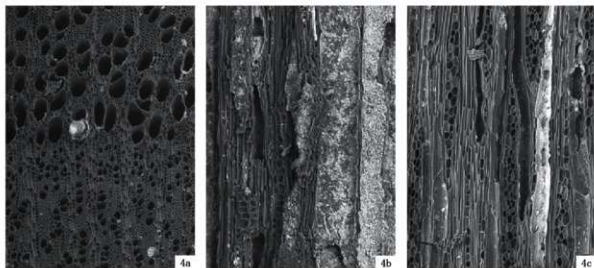
2. コナラ属コナラ亜属クヌギ節(L区炭焼窯1;b)

3. クリ(D区炭焼窯3;c)

a:木口, b:柀目, c:板目

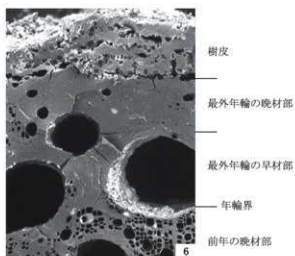
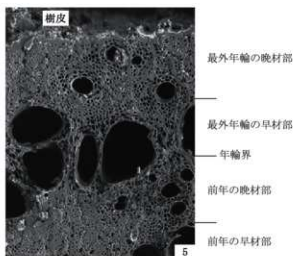
100 μm: a
100 μm: b, c

図版2 炭化材(2)



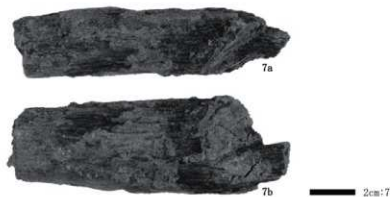
4. モモ(L区炭焼窯2:a)
a:木口, b:柾目, c:板目

100 μ m:4a
100 μ m:4b, c



5. 最外年輪の形成状況(コナラ属コナラ亜属クヌギ節:L区炭焼窯1:a)
6. 最外年輪の形成状況(コナラ属コナラ亜属コナラ節:L区炭焼窯2:d)

100 μ m:5, 6



7. 伐採痕?を有する炭化材(L区炭窯跡1:d)

表



第1表 堅穴住居一覧表

調査地区	平面形状	土壁方形	基礎(深)		カマド位置	本道より距離	測定時期
			長軸×短軸×深(m)	床面積(m ²)			
14 A	長方形	N 86・E	308 × 382 × 34	東壁北端	石組	本道より約 本道より新	遺構解説 カマドは土壁とほぼ垂直である。ピットは2基検出された。東壁はほぼ平らである。北壁はほぼ平らである。北壁の隅に西側及び南側の一部に傾斜している。カマドは東壁と西壁の隅にあり、東壁は土壁部、北壁は土壁部、西壁は土壁部、南壁は土壁部と見られる。遺物は土器類、灰、陶器類の破片が少量出土している。
15 A	方形	N 89・E	359 × <238> × 44	東壁中央	石組		東壁とカマドの一部は土壁の隅にあり、カマドは土壁の隅にあり、東壁はほぼ平らである。北壁はほぼ平らである。北壁の隅に西側及び南側の一部に傾斜している。カマドは東壁と西壁の隅にあり、東壁は土壁部、北壁は土壁部、西壁は土壁部、南壁は土壁部と見られる。遺物は土器類、灰、陶器類の破片が少量出土している。
16 B	長方形	N 90・W	363 × 312 × 26	不明	石組	土 40・53・85・86 17住	カマドの位置は不明であるが、北壁の隅にあり、カマドは土壁の隅にあり、東壁はほぼ平らである。北壁はほぼ平らである。北壁の隅に西側及び南側の一部に傾斜している。カマドは東壁と西壁の隅にあり、東壁は土壁部、北壁は土壁部、西壁は土壁部、南壁は土壁部と見られる。遺物は土器類、灰、陶器類の破片が少量出土している。
17 B	隅丸長方形	N 86・E	463 × 382 × 26	東壁北端	石組	16住	東壁とカマドの一部は土壁の隅にあり、カマドは土壁の隅にあり、東壁はほぼ平らである。北壁はほぼ平らである。北壁の隅に西側及び南側の一部に傾斜している。カマドは東壁と西壁の隅にあり、東壁は土壁部、北壁は土壁部、西壁は土壁部、南壁は土壁部と見られる。遺物は土器類、灰、陶器類の破片が少量出土している。
18 B	隅丸長方形	N 62・E	478 × 368 × 26	東壁北端	石組	16住、土 223	カマドは土壁とほぼ垂直である。ピットは2基検出された。東壁はほぼ平らである。北壁はほぼ平らである。北壁の隅に西側及び南側の一部に傾斜している。カマドは東壁と西壁の隅にあり、東壁は土壁部、北壁は土壁部、西壁は土壁部、南壁は土壁部と見られる。遺物は土器類、灰、陶器類の破片が少量出土している。
19 B	長方形	N 62・E	342 × 302 × 36	北東隅	石組		カマドは土壁とほぼ垂直である。ピットは2基検出された。東壁はほぼ平らである。北壁はほぼ平らである。北壁の隅に西側及び南側の一部に傾斜している。カマドは東壁と西壁の隅にあり、東壁は土壁部、北壁は土壁部、西壁は土壁部、南壁は土壁部と見られる。遺物は土器類、灰、陶器類の破片が少量出土している。
20 B	隅丸長方形	N 3・W	518 × 456 × 12	不明	石組	土 175・180・183・184・215・217・218・219・220・221・222・223・224・225・226・227・228・229・230・231・232・233・234・235・236・237・238・239・240・241・242・243・244・245・246・247・248・249・250・251・252・253・254・255・256・257・258・259・260・261・262・263・264・265・266・267・268・269・270・271・272・273・274・275・276・277・278・279・280・281・282・283・284・285・286・287・288・289・290・291・292・293・294・295・296・297・298・299・300・301・302・303・304・305・306・307・308・309・310・311・312・313・314・315・316	東壁はほぼ平らである。北壁はほぼ平らである。北壁の隅に西側及び南側の一部に傾斜している。カマドは東壁と西壁の隅にあり、東壁は土壁部、北壁は土壁部、西壁は土壁部、南壁は土壁部と見られる。遺物は土器類、灰、陶器類の破片が少量出土している。
21 B	方形	N 86・E	418 × 436 × 21	東壁北寄り	不明	土 181・182・202	カマドは土壁とほぼ垂直である。ピットは2基検出された。東壁はほぼ平らである。北壁はほぼ平らである。北壁の隅に西側及び南側の一部に傾斜している。カマドは東壁と西壁の隅にあり、東壁は土壁部、北壁は土壁部、西壁は土壁部、南壁は土壁部と見られる。遺物は土器類、灰、陶器類の破片が少量出土している。
22 C	隅丸方形	N 94・E	366 × 312 × 24	東壁南寄り	不明	土 342	カマドは土壁とほぼ垂直である。ピットは2基検出された。東壁はほぼ平らである。北壁はほぼ平らである。北壁の隅に西側及び南側の一部に傾斜している。カマドは東壁と西壁の隅にあり、東壁は土壁部、北壁は土壁部、西壁は土壁部、南壁は土壁部と見られる。遺物は土器類、灰、陶器類の破片が少量出土している。
23 C	隅丸長方形	N 82・W	573 × 484 × 29	東壁北端	(石組)	26・36住	カマドは土壁とほぼ垂直である。ピットは2基検出された。東壁はほぼ平らである。北壁はほぼ平らである。北壁の隅に西側及び南側の一部に傾斜している。カマドは東壁と西壁の隅にあり、東壁は土壁部、北壁は土壁部、西壁は土壁部、南壁は土壁部と見られる。遺物は土器類、灰、陶器類の破片が少量出土している。
24 C	隅丸方形	N 14・E	445 × <171> × 11	不明	不明	土 343	カマドは土壁とほぼ垂直である。ピットは2基検出された。東壁はほぼ平らである。北壁はほぼ平らである。北壁の隅に西側及び南側の一部に傾斜している。カマドは東壁と西壁の隅にあり、東壁は土壁部、北壁は土壁部、西壁は土壁部、南壁は土壁部と見られる。遺物は土器類、灰、陶器類の破片が少量出土している。
25 C	隅丸方形	N 92・E	429 × 416 × 24	東壁北寄り	不明	28住、土 347	カマドは土壁とほぼ垂直である。ピットは2基検出された。東壁はほぼ平らである。北壁はほぼ平らである。北壁の隅に西側及び南側の一部に傾斜している。カマドは東壁と西壁の隅にあり、東壁は土壁部、北壁は土壁部、西壁は土壁部、南壁は土壁部と見られる。遺物は土器類、灰、陶器類の破片が少量出土している。
26 C	N 10・E	380 × <128> × 31	不明	不明	不明	土 339・340・341	カマドは土壁とほぼ垂直である。ピットは2基検出された。東壁はほぼ平らである。北壁はほぼ平らである。北壁の隅に西側及び南側の一部に傾斜している。カマドは東壁と西壁の隅にあり、東壁は土壁部、北壁は土壁部、西壁は土壁部、南壁は土壁部と見られる。遺物は土器類、灰、陶器類の破片が少量出土している。
27 C	方形	N 3・E	342 × 336 × 16	(東壁中央)	不明	25住	カマドは土壁とほぼ垂直である。ピットは2基検出された。東壁はほぼ平らである。北壁はほぼ平らである。北壁の隅に西側及び南側の一部に傾斜している。カマドは東壁と西壁の隅にあり、東壁は土壁部、北壁は土壁部、西壁は土壁部、南壁は土壁部と見られる。遺物は土器類、灰、陶器類の破片が少量出土している。
28 C	N 101・E	540 × 565 × 32	東壁中央	不明	不明	24住	カマドは土壁とほぼ垂直である。ピットは2基検出された。東壁はほぼ平らである。北壁はほぼ平らである。北壁の隅に西側及び南側の一部に傾斜している。カマドは東壁と西壁の隅にあり、東壁は土壁部、北壁は土壁部、西壁は土壁部、南壁は土壁部と見られる。遺物は土器類、灰、陶器類の破片が少量出土している。
29 C	方形	N 91・E	398 × 378 × 44	東壁南寄り	不明	土 344・347・803	カマドは土壁とほぼ垂直である。ピットは2基検出された。東壁はほぼ平らである。北壁はほぼ平らである。北壁の隅に西側及び南側の一部に傾斜している。カマドは東壁と西壁の隅にあり、東壁は土壁部、北壁は土壁部、西壁は土壁部、南壁は土壁部と見られる。遺物は土器類、灰、陶器類の破片が少量出土している。

調査地区 No.	平面形状	長軸×短軸×深 (cm) 床面積 (㎡)	カマド位置 カマド形態	本址より目 本址より野	遺構所見	測定時期
30	C 隅丸長方形 N 79°・E	422 × 372 × 23 <12.89>	東中央 石組		西壁は痕跡により喪失する。カマドは礎石の一部と火床面から前面にかけての床面には10～20cmの礎が散見する。平面は若干のゆがみがあり、北東部の床面が東へ歪み出している。ピットは4基検出され、P4は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は黒土層・土壌層の表層部や土壌層の表層部を中心に出土。	8期
31	C 隅丸長方形 N 112°・E 方形? N 89°・E	354 × 322 × 9 <0.34> 291 × (243) × 21 (6.75)	(東壁中央) 不明 東壁出部少 石組		西壁は痕跡により喪失する。カマドは礎石の一部分を調査した。カマド範囲内には10～30cmの礎が5基検出される。遺物は黒土層・土壌層の表層部を中心に出土し、特殊なものととして、黒土層が認められる。床面全体には10～30cmの礎が散見する。床面はほぼ平坦である。ピットは若干のゆがみが見られ、土壌層の表層部を中心に出土。	8期
33	C		不明		C区東部の土壌断面調査で確認。痕跡等の詳細は不明である。遺物は少ない。	不明
34	C 隅丸方形 N 86°・E	438 × 418 × 39 14.68	東壁中央 石組	± 723 ± 346	カマドは火床面を喪失。礎土は少なく、火床面ははっきり確認できない。床面はほぼ平坦である。ピットは7基検出され、P1・2は貯蔵穴のピットと推定される。遺物は黒土層の表層部や土壌層の表層部を中心に出土。	8期
35	C N 2°・W	1828	石組	± 747	カマドは火床面及び支柱を喪失。礎土は少なく、火床面ははっきり確認できない。カマド範囲内には10～30cmの礎が散見している。床面は平坦である。南側には中米を築いた取囲いが残っており、P6は貯蔵穴のピットと推定される。P1は遺物に火床面を築くことになった礎の残る現存したようかたが見られることから、破壊したカマドの取囲いの可能性が考えられる。遺物は黒土層・土壌層の表層部を中心に出土し、特殊なものとして土壌層の表層部1点がある。	8・9期
36	C 隅丸方形 N 101°・E	466 × (382) × 30 (11.69)	(東壁中央) 不明	23 住	23住に切られる外周面を調査できた。東壁の中付近の床面にはほぼ礎土が保存しており、カマドがあった可能性が考えられる。外周面調査で見られる。遺物は非常に少ない。	9期
37	C 隅丸方形 N 88°・E	451 × 446 × 43 <16.69>	東壁中央 石組	± 730・745 35 住、± 350	35住に切られる外周面を調査できた。カマドは礎石の一部と良好な火床面を喪失。カマド範囲内には礎土が散見している。床面全体には10～20cmの礎が散見する。床面は平坦である。ピットは2基検出され、P4は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は黒土層や土壌層の表層部を中心に出土。	7期
38	C 方形? N 13°・W	298 × <168> × 27 <3.87>	北壁西寄り 石組	35 住、± 349	小型柱礎である。南壁は35住により喪失する。カマドは礎石の一部を喪失。礎土は少なく、火床面ははっきり確認できない。カマド範囲内には礎土が散見している。床面はほぼ平坦である。ピットは4基検出され、P4は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は黒土層・土壌層の表層部を中心に出土。	8期
39	C 隅丸長方形 N 91°・E N 90°・W	489 × 341 × 37 12.98	東壁出部少 石組	40 住	カマドは火床面及び支柱を喪失。礎土は少なく、火床面ははっきり確認できない。床面はほぼ平坦である。南側には中米を築いた取囲いが残っており、P6は貯蔵穴のピットと推定される。P1は遺物に火床面を築くことになった礎の残る現存したようかたが見られることから、破壊したカマドの取囲いの可能性が考えられる。遺物は黒土層・土壌層の表層部を中心に出土。	10期
40	C 隅丸長方形 N 90°・W	362 × 276 × 13 <7.38>	不明		平面形状は若干変形しており、西壁・東壁・南壁は断片んで壊れ、床面は西から東方向へ若干傾斜しており、ピットは5基検出された。遺物は須賀野の表層部を中心に出土。	7期
41	C 方形 N 93°・E	483 × 468 × 54 <16.02>	東壁出部少 不明	39 住、± 351 42 住	南東部は礎土により喪失する。遺物はカマドを中心として須賀野・火床面は明確でないが、礎土・取囲いは多量確認される。床面はほぼ平坦であり、ピットは少ない。遺物はカマドを中心として須賀野・火床面は明確でないが、礎土・取囲いは多量確認されることか、破壊したカマドの取囲いの可能性が考えられる。遺物は黒土層・土壌層の表層部を中心に出土し、特殊なものとして土壌層の表層部1点がある。	7期
42	C N 0°・E	572 × <411> × 60 <19.98>	不明	41 住	東壁は41住により喪失し、南壁は黒土層の表層部を中心に出土し、8・9期の遺物がまともにと確認される。遺物は黒土層・土壌層の表層部を中心に出土し、特殊なものとして土壌層の表層部1点がある。	7期
43	C 長方形 N 96°・E	561 × 480 × 30 22.85	東壁中央 石組	± 373 ± 353・354	カマドは火床面を喪失。火床面ははっきり確認できないが、カマド範囲内には礎土層及び取囲いが多量に散見している。床面はほぼ平坦である。ピットは13基検出され、P5は貯蔵穴状のピットと推定される。北壁部や西寄り床面にかけて火床面及び取囲いの痕跡が確認されることか、破壊したカマドの取囲いの可能性が考えられる。P7は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は黒土層・土壌層の表層部を中心に出土し、特殊なものとして土壌層の表層部1点がある。	9期
44	C 隅丸長方形 N 87°・E	500 × 427 × 32 16.26	東壁出部少 石組	45 住 ± 806	カマドは礎石の一部と火床面を喪失。床面には10～20cmの礎が散見している。床面は若干のゆがみがあるもののほぼ平坦である。ピットは5基検出され、P5は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は黒土層・土壌層の表層部を中心に出土し、特殊なものとして土壌層の表層部1点がある。	7・8期
45	C	376 × <152> × 8 <2.80>	不明	44 住	北側は44住により喪失し、南側は黒土層の表層部を中心に出土し、遺物は黒土層・土壌層の表層部を中心に出土し、特殊なものとして土壌層の表層部1点がある。	8期
46	C 隅丸長方形 N 88°・W	509 × 385 × 24 <16.70>	不明	± 764・765 ± 352	北側には10～20cmの礎が散見している。ピットは6基検出された。遺物は少ないが、取囲い・土壌層の表層部が出土し、土壌層の表層部が出土。	11・12期

調査地区 No.	平面形状 土壌方向	長軸×短軸×深 (cm) 床面積 (㎡)	カマド位置 カマド形状	本址より距離		測定時期
				本址より距離	本址より方位	
47	C N-93°-W	433 × 392 × 14	不明	不明	不明	西側中央付近に土壌土層10～20cmの埋入が考えられるが、いずれも既見。遺物は少ないが、土師製の瓦器類の出土。
48	C N-2°-W	<518> × <184> × 17	不明	不明	不明	大半は調査区外へ移る。床面は平明である。ピットは4基検出されたが、いずれも既見。遺物は非常に少ない。
49	C N-8°-E	341 × <298> × 26 <717>	不明	不明	土 355	遺物は周辺より発見する。北西側の西面には壁土及び同位置が埋積する面層があり、その間に20～30cmの埋入が確認されている。この下には多少の土層が埋入されている。床面は平明であり、ピットは既見。遺物は黒色土器・須恵製の瓦器類を中心に出土し、特殊なものとして、羽目が3点ある。
50	C N-92°-W	<396> × 301 × 28 <809>	不明	不明	不明	北西部は傾斜により覆土し、西面は調査区外へ移る。床面はほぼ平明であり、ピットは既見。遺物は少ないが、瓦器類が出土。平面形状等から判断しては、北東部には10～30cmの埋入が確認されており、壁の中にも埋入されているものもあることから、カマドがあった可能性が考えられる。床面はほぼ平明であり、ピットは既見。遺物は少ないが、瓦器類を中心に出土。
51	C N-6°-W	460 × <266> × 11 <1038>	(北東側)	(石垣)	土 357	遺物は調査区外へ移る。他の遺構も利用されるが、床面が現れた部分を除く。北東部は傾斜に因って埋入されている。ピットは10基検出されたが、11には埋入物の多量に埋入していた。遺物は西側を中心に瓦器類の出土し、特殊なものとして、黒御影の瓦片が1点ある。
52	欠番					
53	D N-92°-W	<506> × 500 × 44 <2374>	不明	不明	84住、土 391 83・89住、土 390・402	床面は自然斜面崩壊が全面に露出していることから周囲が狭い。東面は北西側から北東にかけて掘られている。ピットは10基検出されたが、いずれも既見。遺物は非常に少ない。
54	D N-9°-E	314 × 306 × 7 <670>	不明	不明	土 370・371	東面は傾斜により覆土し、北面は調査区外へ移る。床面は若干の凹凸があるもののほぼ平明である。ピットは長方形のもの2基が検出されたが、いずれも既見。遺物は少ないが、瓦器類を中心に出土。
55	D	492 × <256> × 33 <1021>	不明	不明	不明	カマドは良好な状態で残存している。床面はほぼ平明であるが、北東部にはっきりせず埋入も検出できない。ピットは9基検出され、P3-5には柱石が埋入されている。遺物は非常に少ないが、瓦器類が1点出土。
56	D N-21°-W	431 × 391 × 12 (13.55)	北西側	不明	不明	一部床面は65住により覆土し、北面は調査区外へ移る。床面は平明であり、ピットは既見。遺物は非常に少ない。
57	D N-3°-E	<227> × (37.2) × 19 <513>	不明	不明	58住 65住	北西部は57住に、東部は傾斜により覆土する。カマド周辺には構築材と思われる10～30cmの埋入が確認されている。壁土・灰化土は若干見られる程度である。床面はほぼ平明であり、ピットは3基検出された。遺物はカマド周辺を中心に黒色土層・土師製の瓦器類、土師製の瓦器類の出土。
58	D N-0°-E	513 × 413 × 13 <1584>	(北西側) (東部寄寄り)	不明	57・65住	北西部は傾斜により覆土する。カマド周辺には構築材と思われる10～30cmの埋入が確認されている。壁土・灰化土は若干見られる程度である。床面はほぼ平明であり、ピットは3基検出された。遺物はカマド周辺を中心に黒色土層・土師製の瓦器類、土師製の瓦器類の出土。
59	D N-2°-E	448 × 406 × 42 <960>	不明	不明	土 835	北西部は傾斜により覆土する。カマド周辺には構築材と思われる10～30cmの埋入が確認されている。壁土・灰化土は若干見られる程度である。床面はほぼ平明であり、ピットは3基検出された。遺物はカマド周辺を中心に黒色土層・土師製の瓦器類、土師製の瓦器類の出土。
60	D N-1°-W	360 × 332 × 27 <910>	東部中央	不明	61住 土 376・377	床面は平明である。カマドは石の石の残存も確認されるのみで、埋入等は見られない。ピットは既見。遺物は瓦器類を中心に出土。
61	D N-1°-E	286 × <181> × 11 <413>	不明	不明	60住、土 376・814	小形土師製の瓦片が、床面に埋入されたまま全面に露出している。床面はほぼ平明であり、ピットは1基検出された。遺物は瓦器類を中心に出土し、特殊なものとして、黒御影の瓦片が1点ある。
62	D N-98°-W	506 × 402 × 31 14.55	不明	不明	64・68住	北東部は傾斜により覆土する。周囲の遺構も埋入されているものもほぼ平明であり、大型のピット1基が検出された。遺物は瓦器類を中心に出土し、特殊なものとして、黒御影の瓦片が1点ある。
63	D N-81°-W	398 × 294 × 14 <764>	不明	不明	62・64・67・68住	北東部は傾斜により覆土する。周囲の遺構も埋入されているものもほぼ平明であり、大型のピット1基が検出された。遺物は瓦器類を中心に出土し、特殊なものとして、黒御影の瓦片が1点ある。
64	D N-6°-E	600 × 498 × 41 25.66	東部中央	不明	68住 62・63・67住、土 383	北東部は傾斜により覆土する。周囲の遺構も埋入されているものもほぼ平明であり、大型のピット1基が検出された。遺物は瓦器類を中心に出土し、特殊なものとして、黒御影の瓦片が1点ある。
65	D N-125°-E	336 × <101> × 29 <238>	南東側	不明	57・58住 石垣	北東部の大半は調査区外へ移る。カマドは傾斜が残り、壁土・灰化土が若干残存している。床面は若干の凹凸が見られるがほぼ平明であり、ピットは既見。遺物は非常に少ない。

調査地区 No.	平面形状 土庫方形状	長軸×短軸×深 (cm) 床面積 (㎡)	カマド位置 カマド形状	本址より距離 本址より軒	遺構所見		推定時期
					692 × 636 × 25	不明	
66	D N 84・W	(68.35)		本址より軒 77 住		大型住居である。南側には 10～20m の溝が埋立している。中央部には、北寄りの中層部に礎石が埋立している。床面には、北寄りの中層部に礎石が埋立している。遺物は特殊なものでして、土師器の皿 1 点、緑釉陶器の壺 1 点が出土。	14 期
67	D N 6・E	382 × 368 × 14 <6.55>		62・64・68 住 63 住		南側は 63 住と類似により喪失する。床面にはほぼ平壇であり、緑釉陶器片が 1 点出土。	13 期
68	D N 6・E	415 × <272> × 37 <7.35>		土 844・845 住 62・63・64・67 住		大半は 62・63・64・67 住及び埋込により喪失する。床面は平壇であり、ピットは少ない。遺物は非常に少ない。	8・9 期
69	D N 86・W	488 × 396 × 30 (16.11)		70・71・72・73・74 住		北東寄りには 10～20m の溝が埋立している。床面にはほぼ平壇であり、ピットは 1 基検出されたが、いずれも浅い。遺物は土師器の壺 1 点ある。	13 期
70	D N 11・E	430 × <900> × 28 <5.57>		71 住、土 389 69・74 住、土 382・ 386		西側は 70・74 住、東側は土 382・386 により喪失する。カマドは内側にあり、丸火面として礎石が若干見られる。カマド範囲内には 10～20m の溝が埋立している。床面にはほぼ平壇であり、ピットは 1 基検出された。遺物は土師器の壺 1 点ある。	13 期
71	D	482 × <162> × 23 <2.01>		73 住、土 389 69・70 住、土 389		床面の大半は他の遺構及び埋込により喪失する。床面にはほぼ平壇であり、ピットは少ない。遺物は土師器の壺を中心に出土し、特殊なものとして、緑釉陶器の壺が 1 点ある。	13 期
72	D N 4・E	358 × <226> × 11 <6.80>		73・74 住 69 住		北東寄りには 10～20m の溝が埋立している。床面にはほぼ平壇であり、ピットは非埋込で 1 基検出されたが、いずれも浅い。遺物は土師器の壺 1 点ある。	13 期
73	D	563 × 482 × 26 <10.23>		69・71・72・74 住		北東寄りには 10～20m の溝が埋立している。床面にはほぼ平壇であり、ピットは非埋込で 1 基検出されたが、いずれも浅い。遺物は土師器の壺を中心に出土し、特殊なものとして、緑釉陶器の壺が 1 点ある。	4 期
74	D N 4・E	447 × <200> × 19 <7.40>		70・73・75 住 69・72 住		南側は 69・72 住により喪失する。床面にはほぼ平壇であり、ピットは少ない。遺物は非常に少ないが、緑釉陶器の壺が 1 点出た。	13 期
75	D	<226> × <652> × 12 <6.50>		74 住		大半は 74 住により喪失し、北西部の一部を喪失のみである。遺物は少ない。切り合いから 13 期以前と推定される。	13 期以前
76	欠損						
77	D	429 × <115> × 18 <3.53>		66 住		大半は 66 住により喪失し、残部の一部を喪失のみである。床面にはほぼ平壇であり、ピットは少ない。遺物は非常に少ない。	12・13 期
78	D N 82・E	432 × 414 × 37 14.45		東壁北端 土 381・384・387 石皿		カマドは両側と丸火面を有し、カマド範囲内には 10～20m の溝が埋立している。カマド右側の東壁北端の隅には、東側へやぐらからミナツラ状になる。カマド施設の一部の可能性が考えられる。床面にはほぼ平壇である。ピットは 3 基検出されたが、いずれも浅い。遺物は土師器・灰釉陶器の壺を中心に出土し、特殊なものとして、灰釉陶器の小皿が 1 点ある。	13 期
79	D N 93・W	604 × 570 × 27 29.46		80 住・土 907		大型住居である。床面にはほぼ平壇であり、ピットは 12 基検出された。P4・11 には住居が見られる。中央やや南寄りの礎石内に礎石が埋蔵する層が見られたが、痕跡から本址に伴う礎石とはなく、本址を切る遺構の礎石が埋蔵されている。遺物は特殊なものとして、白磁片 2 点、列金具 1 点が出土。	15 期
80	D N 6・W	420 × 394 × 15 <11.74>		土 917 79 住、土 388		北東は 79 住により喪失する。床面の中央付近では良好な礎石と丸火面が見られる。床面は平壇であり、ピットは 4 基検出された。遺物は非常に少ないが、白磁 3 点、山吹焼 1 点が出土。	15 期
81	D N 89・E	468 × 434 × 34 16.66		東壁中央 不明		カマドは良好な丸火面を有するのみであり、白磁 3 点、山吹焼 1 点が出土。	4 期
82	D N 87・E	303 × 284 × 16 6.87		東壁北端 石皿		カマドは埋込の一部分と、須弥の柱・軒・礎石、土師器の壺などが出土。	13 期以降
83	D N 15・E	502 × <334> × 21 <13.92>		53・84・89 住、土 402		カマドは埋込の一部分と、須弥の柱・軒・礎石、土師器の壺などが出土。	15 期
84	D N 94・W	<463> × <209> × 19 <5.40>		53・83・89 住、土 395・401		東側は調査区外へ続く。北面中央分には礎石及び丸火面が見られる。ピットは 5 基検出され、P3 には住居が見られた。遺物は少ないが、白磁の壺が 1 点出た。	14 期

遺跡 No.	遺跡 地区	平面形 土壌方向	長軸×短軸×深 (cm) 床面積 (㎡)	カマド位置 カマド形	本址より目 本址より野		遺跡所見	測定時期
					カマド位置	カマド形		
85	D	圓長方形 N 76° E	524 × 473 × 20	東壁北端	石組	87・88住	カマドは櫛石の一部と良好な水圧差を有し、開口には櫛石材と思われる。カマド方角端にあたる灰砂土には灰砂が見られる。床面中央部より縦・横土及び灰化物の分布が見られる。床面は平坦である。ピットは1基掘出された。遺物は少ないが、土師器の1点、土師陶器の一点、白磁焼1点が出土。	14期
86	D	圓長方形 N 83° E	473 × 403 × 29	東壁北端	石組	87・88住	カマドは櫛石と柱石を併用する。櫛石側壁で埋め残った部分が残るものの、横土は少ない。灰砂は遺跡の東部から西壁にかけて見られる。土壌中には櫛石と柱石の灰砂が散見しているが、灰砂の多いことから櫛石側壁に柱石の可能性があると考えられる。床面はほぼ平坦である。ピットは3基掘出され、P3は貯蔵容積のピットと思われる。遺物は土師器・灰砂・灰燼の遺物を中心に出す。	15期
87	D	圓長方形 N 98° E	341 × 296 × 21	東壁西寄り	石組	86住、土 394	南西部は86住により喪失する。カマドは櫛石と床面を併用する。また、櫛石の櫛石も残っており良好に保存する。カマド周辺の床面には10～30cmの櫛石が散見している。床面は平坦である。ピットは1基掘出され、貯蔵用のピットと思われる。遺物はカマド内内から土師器・灰燼の遺物や土師器の遺物が出す。	8期
88	D	方形 N 3° E	474 × 458 × 8	不明	不明	86住	北東は86住により喪失する。床面は平坦である。ピットは北西側に2基掘出されたが、いずれも浅い。遺物は非常に少ない。	6・7期
89	D	長方形 N 2° E	600 × 281 × 32	不明	不明	53・84住	東側は櫛石区外へ縦く、西壁中央の床面に礎土と灰化物が見られ、カマドの痕跡も考えられるが不明。床面はほぼ平坦である。床ピットは2基掘出されたが、いずれも浅い。遺物は土師器・灰燼の遺物や土師器・灰燼の遺物を中心に出す。	14・15期
90	D	圓長方形 N 88° E	478 × 440 × 26	東壁北寄り	不明	91・93住	南壁と91・93住に切られる。床面が深いためほぼ全体を調査できた。カマドは灰燼と櫛石の一部と思われる櫛石が散見する。床面は平坦である。ピットは南東側に2基掘出された。遺物は東側を中心に土師器・灰燼の遺物や土師器・灰燼の遺物を中心に出す。	14期
91	D	圓長方形 N 87° W	<464 × 348 × 33	不明	不明	90・93住	東壁は崩壊により喪失する。床面の中央やや東寄りの位置に礎土と灰化物が見られ、周囲には10～20cmの櫛石が散見している。床面はほぼ平坦である。南側に周溝が見られ、ピットは6基掘出された。遺物は少ないが、灰燼・土師器の遺物を中心に出す。	14期
92	D	圓長方形 N 4° E	402 × 372 × 31	長壁西寄り	石組	土 404・919	カマドは櫛石の一部、支柱及び良好な水圧差を有する。東壁中央には張り切りや灰化物を伴うくぼみが発見されたことから、崩壊したカマドの痕跡が見られる。東壁にあたるカマドを何らかの理由で北壁に移転させた可能性が指摘できる。床面中央には10～30cmの櫛石が散見している。床面は平坦であり、ピットは3基掘出された。遺物は土師器の遺物や土師器の遺物を中心に出す。	7期
93	D	圓長方形 N 87° W	不明	不明	不明	90住	東壁は崩壊により喪失し、北側は調査区外へ縦く、さらに91住とはほとんど重複しているため周囲の一部を残すのみである。遺物は非常に少ない。	14期
94	D	圓長方形 N 84° E	397 × 371 × 10	(東壁北端)	不明	95住	東壁北端は礎土塊及び灰化物を伴っていることから、カマドと推定される。床面は自然腐植層の櫛石が露出していることから若干凹みが見られるものの、ほぼ平坦である。ピットは3基掘出されたが、いずれも浅い。遺物は非常に少ない。	14期
95	D	圓長方形 N 0° E	396 × 364 × 17	不明	不明	99住	北東壁は94住に、中央は土 399により喪失する。床面は自然腐植層の櫛石が露出していることから若干凹みが見られるものの、ほぼ平坦であり、ピットは少ないが、土師器・灰燼の遺物や土師器・灰燼の遺物が出す。	9期
96	D	圓長方形 N 6° E	508 × 494 × 32	東壁北端	石組	94住、土 399	カマドは礎石の礎土塊及び灰化物を伴うものである。カマド周辺の床面には10～20cmの櫛石が散見している。床面はほぼ平坦である。ピットは6基掘出された。遺物は櫛石のものと、櫛石・土師器の遺物や土師器・灰燼の遺物が出す。	12・13期
97	D	圓長方形 N 3° E	358 × 348 × 21	不明	不明	99住、土 891	東壁及び床面の一部は崩壊により喪失する。床面中央には10～30cmの櫛石が散見しており、開口過程に侵入した可能性が考えられる。床面は平坦であり、ピットは4基掘出された。遺物は土師器や土師器の遺物が出す。	8期
98	D	圓長方形 N 88° W	378 × 262 × 32	不明	不明	99住	平面図は読み取れていない。中央やや北寄りの床面には10～30cmの櫛石が見られる。床面はほぼ平坦で、ピットはない。遺物は少ないが、櫛石・土師器の遺物が出す。	7期
99	D	圓長方形 N 94° E	516 × 412 × 39	東壁中央	石組	95・98・97・98住 土 403・406・407	開口の周りに切られる。床面が深いため、櫛石以外の遺物が残った。カマドは櫛石の一部を残し、開口には櫛石材と思われる。土壌中には櫛石と柱石の灰砂が散見しているが、灰砂の多いことから櫛石側壁に柱石の可能性があると考えられる。床面はほぼ平坦である。ピットは南東側に3基掘出されたが、いずれも浅い。遺物は土師器や土師器の遺物が出す。	7期
100	D	方形 N 5° E	492 × 468 × 30	(西壁中央)	不明	105・112住、土 409	ほぼ平坦であり、ピットは8基掘出された。カマドの痕跡や灰化物が見られ、土師器の遺物や土師器の遺物や土師器の遺物を中心に出す。	9期
101	D	圓長方形 N 6° E	552 × 472 × 26	不明	不明	115住	大半は96住により喪失する。床面は東から西方向へ若干傾斜している。ピットはない。遺物は非常に少ないが、櫛石・土師器の遺物が1点出土。	11・12期

遺跡 No.	遺跡 地区	平面形状 土壌方面	長軸×短軸×深 (cm) 床面積 (㎡)	カマド位置 カマド形態 東壁高窓高	本址より距 本址より野	遺構の件		測定時期
						遺構の件	遺構の件	
102	D	N108°・E	518 × 488 × 37 <11.61>	石組				7期
103	D	隅丸方形 N91°・E	358 × 322 × 47 9.47	東壁高窓少 不明	102・104住 土412			12・13期
104	D	隅丸方形	614 × 568 × 43 <18.12>	東壁中央 石組	102・147住 103住、土405・412			9期
105	D	N85°・E	<25.4> × <27.4> × 24 <1.18>	不明	土409 100住			9期
106	D	隅丸方形	435 × 364 × 20 <12.05>	不明	109・110・115・124住 土410			15期
107	D	隅丸長方形 N74°・E	330 × 284 × 18 (7.71)	北東端 石組	108住			12・13期
108	D	方形	434 × 431 × 26 107住	(東壁中央) 不明	土932 107住			7期
109	D	隅丸方形 N93°・E	450 × 434 × 29 <15.55>	東壁高窓少 石組	115・124住 108・110住、土410			8期
110	D	隅丸方形 N161°・E	698 × 622 × 21 <22.93>	出壁東端 石組	109・115・124住 106住、土410			15期
111	D	隅丸長方形 N3°・E	418 × 368 × 14 <12.31>	不明	113住			8期
112	D	方形 N98°・E	374 × <188> × 10 <6.41>	東壁中央 不明	東壁中央 100住、土408			7期
113	D	隅丸方形 N3°・E	387 × 378 × 15 12.43	不明	111住、土411			9期
114	D	隅丸方形 N5°・E	536 × 502 × 22 <22.56>	不明	土423・933・934 土422			9期
115	D	隅丸長方形 N91°・E	590 × 462 × 35 24.6	東壁中央 不明	東壁中央 101・108・109・110住 土397			9期
116	D	隅丸長方形 N88°・W	406 × 321 × 11 10.66	不明	土559			9・10期
117	D	隅丸長方形 N80°・W	321 × 241 × 9 <5.97>	(西壁北端) 不明	西壁中央 土418			13期
118	欠番							
119	D		<443> × <382> × 32 <12.15>	北壁東端少 石組	土629・645・646・ 936			8期

遺跡 No.	地域 名称	平面形状 形状	長軸×短軸×深 (cm) 床面積 (㎡)	カマド位置 カマド中央	本土より目 本土より新	遺跡所見	測定時期
120	F	N98°W	516 × 492 × 28	西側中央	不明	カマドは焼土を覆い、前面の床面には10～30cmの埋めが施されている。壁土は少なく、火床面ははっきりしない。床面はほぼ平用である。カマドのある西側を深く埋め、東壁・南壁には、壁柱が6角形で2基ずつ等間隔に配置している。遺物は黒色土器の食器類や土器製の農具を中心に出土し、特殊なものとして、黒黒土器が1点ある。	7期
121	F	N1°E	395 × 304 × 6	不明	不明	ピットは2基掘出し、P1は覆土に壁土が厚さ。遺物は非常に少ない。	7期
122	F	N89°W	636 × 580 × 7	不明	122住	大型住居である。床面には焼土・灰化物の遺構が見られるが、何らかの目的でカマドの埋めとは考えにくい。床面はほぼ平用であり、北西側には埋めが施されている。ピットは10基掘出された。遺物は少ないが、特殊なものとして、白磁土の磁器が5点ある。	14・15期
123	F	N90°E	423 × 222E × 32	東壁	不明	南側は埋めが施され、カマドは床面を覆う一方で、埋めは見られない。カマド周辺の床面には10～40cmの埋めが多数散見している。ピットは少ない。遺物は土器製の農具を中心に出土。	7期
124	D	N99°E	109E・109・110・115住 土425・428、P1	不明	125・147住	大型住居である。北東部南側は他の遺構により覆失す。床面はほぼ平用である。ピット17基のうち、主柱4基、壁柱が8基を抽出した。P2は覆土上に焼土・灰化物を埋められていることからカマドの遺構と推定される。また、P1は黒色土器を中心とした多数出土し、特殊なものとして、黒磁器類が1点ある。南東部床面では黒色土器の鉢・椀、灰化陶器がほとんど出土した。また、P2からは黒黒土器の土器が出土している。	7・8期
125	D	不明	124住、土424・426・ 427・428・429・ 430・431	西側中央	不明	東側は124住により覆失す。カマドは石の板を取り巻く埋めが施されるのみで、焼土等は見られない。床面はほぼ平用である。ピットは5基掘出され、P6は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は食器類や土器製の農具を中心に出土。	7期
126	F	N94°W	344 × 203 × 59	(西側中央)	127住	集積は南側区外へ大きく、カマドは焼土の塊状埋めが施され、西側中央にあってと思われる。南側から西側南側には埋めが見られる。遺物は非常に少ないが、土器製の農具が出土。	7期
127	F	N89°W	318 × 306 × 13	西壁南側少し (右壁)	126住	床面には焼土と支柱石の塊状埋めが見られる。東側南側から南側には埋めが見られる。ピットは4基掘出され、P1は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は非常に少ないが、黒色土器の食器類や土器製の農具が出土。	7期
128	F	N91°E	<360> × 320 × 56	東壁中央	溝4	東側は南側区外へ大きく、カマドは焼土と支柱石を覆うが、壁土は少なく火床面ははっきりしない。ピットは1基掘出され、貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は黒色土器の食器類や土器製の農具が出土。	7期
129	F	N91°E	584 × <406> × 22	(東側中央)	土950	南側は南側区外へ大きく、平面形状は矩形しており、埋めが施されている。壁土等の状況から東壁中央にカマドがあったと推定される。ピットは5基掘出され、遺物は食器類や土器製の農具を中心に出土。	7期
130	J	N91°E	324 × 304 × 29	東壁北側少し (右壁)	不明	カマドは焼土と灰化物を覆う。床面はほぼ平用である。ピットは5基掘出され、P5は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は黒色土器の鉢や土器製の農具が出土。	7期
131	J	N82°W	522 × <256> × 42	西壁北端	不明	東側は南側区外へ大きく、カマド周辺の床面には焼土と埋めが施されている。壁土の埋りが厚く、火床面ははっきりしない。カマドは焼土と灰化物を覆う。床面はほぼ平用である。ピットは4基掘出され、P9は大型のピットである。遺物は非常に少ないが、土器製の農具が出土。	14期
132	K	N81°E	608 × 505 × 18	東壁北端	不明	カマドは焼土と灰化物を覆う。床面はほぼ平用である。P5からは土器製の鉢や土器製の農具が出土され、P5は貯蔵穴状のピットと推定される。P5からは土器製の鉢や土器製の農具が出土される。遺物は土器製の農具を中心に出土。	15期
133	K	N93°E	380 × <290> × 41	西側中央	土434・435	北側は南側区外へ大きく、カマドは床面を良好に覆う。床面は君子の四角が見られるがほぼ平用である。ピットは5基掘出されたが、いずれも浅く、遺物は少ないが、土器製の農具が出土。	6期
134	K	N5°W	400 × 326 × 18	北壁東部	135住	カマドは焼土と灰化物を覆う。床面はほぼ平用である。カマド周辺には埋めが施されている。床面はほぼ平用であり、P1は貯蔵穴状のピットと推定される。P1は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は黒色土器・須恵製の食器類や土器製の農具を中心に出土。	7期
135	K	N2°E	442 × 425 × 16	不明	134住	大半は134住により覆失す。ピットは3基掘出され、P2は人型のピットである。遺物は非常に少ないが、土器製の農具が出土。	6期
136	H	N105°E	393 × 384 × 24	東壁中央	137住	カマドは焼土を良好に覆い、支柱石の塊状埋めが見られる。床面はほぼ平用である。ピットは3基掘出され、P1は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は黒色土器・須恵製の食器類や土器製の農具を中心に出土。	7期
137	H	N91°E	192 × 168 × 34	東壁中央	138住	小型住居である。カマドは南側と良好な火床面を覆う。P1は人型のピットである。遺物は土器製の農具を中心に出土。	7期

調査地区No.	平面形状	長軸×短軸×深 (cm)	カマド位置	本址より距離	遺構所見	測定時期
136	H 圓瓦方形 N 77° W	340 × 311 × 38	西側中央 右壁	本址より約 137 住	137 住に切り取られるが、床面が深いため全面を調査できた。カマドは油土と良好な火床面を有す。床面はほぼ平坦である。ピットは3基検出され、P3は壁際付近に掘られ、P1は壁際付近に掘られる。遺物は土師器の器類を中心に出す。	6期
139	H 圓瓦長方形 N 90° E	370 × 308 × 23	不明	137 住 溝 11	西側の掘土内には焼土の層が若干入っており、ピットは少ないが、土師器の器類や須恵器の杯が出土し、P5は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は黒色土師器の食器類や土師器の器類を中心に出す。	6期
140	H 圓瓦方形 N 91° W	392 × 300 × 22	西側中央 右壁	土 439	カマドは床面の西側にあり、床面はほぼ平坦である。ピットは4基検出され、P5は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は黒色土師器の食器類や土師器の器類を中心に出す。	7期
141	H 圓瓦方形? (0.95)	287 × (680) × 12	不明	土 447・449・482	小型住居跡である。床面はほぼ平坦であり、ピットは少ない。遺物は非常に少ない。	9期
142	H 圓瓦方形? (0.94)	496 × <370> × 31	壁際寄り		南側は掘削区外へ続く。146住には切り取られるが、床面が深いため全面を調査できた。カマドは火床面のみを有す。カマド周辺の床面には10～30cmの厚みの灰土層が堆積している。ピットは9基検出され、P1は貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は土師器・黒色土師土・灰土師器の食器類を中心に出す。146住の掘土内には灰土層と思われる遺物もある。	9期
143	H 圓瓦方形? (0.94)	<350> × <200> × 12	西側中央 右壁	146 住	南側は掘削区外へ続く。カマドは良好な火床面を有す。床面は若干の凹みがあるがほぼ平坦である。ピットは4基検出された。遺物は少ないが、土師器の器類を中心に出す。	6期
144	H 圓瓦長方形 N 87° W	478 × <110> × 18	不明	土 450	大半は掘削区外へ続く。詳細は不明である。床面はほぼ平坦であり、ピットは少ない。遺物は非常に少ない。	8・9期
145	%赤	<401>				
146	H 方形? N 53° E	444 × <240> × 22	不明	142 住	南側は掘削区外へ続く。ピットは2基検出された。遺物は非常に少ないが、灰土師器・土師器・黒色土師土の食器類が出土し、床面の大半は104・124住により喪失する。床面はほぼ平坦である。ピットは2基検出された。遺物は非常に少ない。	9・10期
147	D	442 × <272> × 31	不明	104・124 住	壁石と母材を異なる層や異なる位置に使用されたことから、母材は及びカマドの廻縁であると推定したが、平面等の詳細は不明である。機出した部分から、P1は壁に接するピットと判別した。遺物は非常に少ない。	6・7期
148	D	(0.97)	不明		カマドは油土・支柱石・火床面を有す。カマド前側の床面には焼灰材と思われる10～30cmの層が堆積している。床面はほぼ平坦である。ピットは1基検出され、貯蔵穴状のピットと推定される。遺物は灰土師器・土師器の食器類を中心に出す。カマド周辺からは土師器の器類が出土し、貯蔵穴の掘土内には灰土層が堆積している。	不明
149	L 圓瓦長方形 N 4° E	434 × 378 × 24	東側中央 右壁	151 住	南側は掘削区外へ続く。床面は若干の凹みが見られるがほぼ平坦である。ピットは1基検出されたが、浅い。遺物は非常に少ない。	9期
150	L 方形? N 9° E	312 × <207> × 26	不明	151 住	149住に切取られるが、床面が深いため全面を調査できた。カマドの位置ははっきりと見られず、灰土層が堆積している。遺物はほぼ平坦である。ピットは1基検出されたが、この付近と推定される。ピットは8基検出された。遺物は黒色土師土・土師器の食器類を中心に出す。	9期
151	L 圓瓦長方形 N 83° W	547 × 454 × 19	(右壁)	149・150 住	平面形状若干不明であるが、床面は若干の凹みが見られるがほぼ平坦である。ピットは6基検出された。遺物は土師器の器類や黒色土師土の食器類を中心に出す。	8期
152	L 圓瓦方形 N 8° E	406 × 400 × 18	不明	156・159 住	149住に切取られるが、床面が深いため全面を調査できた。カマドの位置ははっきりと見られず、灰土層が堆積している。遺物はほぼ平坦である。ピットは1基検出されたが、この付近と推定される。ピットは8基検出された。遺物は黒色土師土・土師器の食器類を中心に出す。	8期
153	L 圓瓦長方形 N 83° W	526 × 395 × 28	不明	158 住、土 478・495 規2、土 475・476・477	平面形状若干不明であるが、床面は若干の凹みが見られるがほぼ平坦である。ピットは6基検出された。遺物は土師器の器類や黒色土師土の食器類を中心に出す。	8期 8・9期 10・11期
154	%赤					
155	%赤					
156	L 圓瓦長方形? N 92° E	240 × <183> × 11	不明	152 住	小型住居跡である。西側は152住により喪失する。床面は概ね東西方向へ若干傾斜している。ピットは北東隅で1基検出された。遺物は非常に少ないが、黒色土師土・土師器の食器類や土師器の器類が出土し、	8期
157	L N 10° E	410 × 236 × 11	不明	土 460・1021	床面は若干の凹みはあるもののほぼ平坦である。ピットは少ない。遺物は非常に少ないが、黒色土師土の食器類や土師器の器類が出土し、	8・9期
158	L 圓瓦方形? N 8° E	403 × <116> × 21	不明	153・159 住、土 498	大半は掘削土の凹みがあるもののほぼ平坦である。床面は不明である。詳細は不明である。ピットは少ない。遺物は非常に少ないが、黒色土師土師器の食器類や土師器の器類が出土し、	8期
159	L 圓瓦方形? N 8° E	305 × <86> × 23	不明	158 住、土 498	北側の大半は152住により喪失する。詳細は不明である。床面は不明である。詳細は不明である。ピットは少ない。遺物は非常に少ないが、黒色土師土師器の食器類や土師器の器類が出土し、	8期

遺構 No.	平面形状 土壌方向	長軸×短軸×深 (cm) 床面 (m)	カマド位置 カマド形跡 カマド形跡 カマド形跡	本址より距 本址より新	遺構所見		測定時期
					遺構所見	測定時期	
160	M N88・E	<226> × <170> × 77	東壁北寄り 石礎	162 住	西側は調査区外へ続く。カマドは床面を覆っている。壁土は少なく、火床面は見えない。床面は南から北方向へ若干傾斜している。ピットは2基検出された。遺物は少ないが、灰燼層・12・13期土層部の灰燼層を中心に出土。	12・13期	
161	M N3・W	302 × <230> × 33	不明	162 住	西側は調査区外へ続く。床面中央には良く保たれてくつが、床が深いため全容を調査できなかった。東側や北側の床面には掘り出しが不明している。ピットは6基検出された。遺物は非常に少ない。遺物は非常に少ないが、土層部・灰燼層・土色土層部の灰燼層を中心に出土。	14期以降	
162	M N2・W	(372) × <270> × 55	不明	160 住	西側は調査区外へ続く。161住に切り取られるが、床が深いため全容を調査できなかった。東側や北側の床面には掘り出しが不明している。ピットは7基検出された。P1・P6は貯蔵ピットである。遺物は非常に少ないが、土層部・灰燼層・土色土層部の灰燼層を中心に出土。	14期	
163	M N96・W	356 × <308> × 32	不明	164・171・172 住、 土 511・1081	西側は調査区外へ続く。ピットは4基検出された。遺物は土層部・灰燼層部の灰燼層や土層部の灰燼層を中心に出土。	13・14期	
164	M N115・E	457 × <248> × 66	東壁南側 不明	171・172 住	西側は調査区外へ続く。カマドは良好な火床面を覆うのみで、焼石等は見られない。床面は南から北方向へ若干傾斜している。ピットは3基検出された。遺物は少ないが、土層部・灰燼層部の灰燼層を中心に出土。	13期	
165	M N99・E	544 × <483> × 45	東壁北端 石礎	163 住、 土 511・1081	カマドは焼石のみで、北壁の隅が取崩しているのみである。壁土は少なく、火床面はつきりしない。床面はほぼ平用である。ピットは2基検出された。遺物は非常に少ないが、土層部・灰燼層部の灰燼層を中心に出土。	14・15期	
166	M N69・E	403 × 334 × 41	東壁北端 石礎	土 503・504	カマドは焼石の一部と火床面を覆い、隅には焼石と見られる。10～30cmの層が敷いている。南側はほぼ平用である。ピットは4基検出された。P1は貯蔵ピットのピットと判定される。遺物は非常に少ないが、土層部・灰燼層部の灰燼層を中心に出土。	13期	
167	M N99・E	386 × <194> × 30	東壁北端 石礎	土 1064 土 506	南側は調査区外へ続く。カマドは焼石の一部と火床面を覆い、隅には焼石と見られる。10～20cmの層が敷いている。床面はほぼ平用である。ピットは3基検出された。P3は貯蔵ピットのピットと判定される。遺物は土層部・灰燼層部の灰燼層を中心に出土。	12・13期	
168	M N75・W	472 × <432> × 15	西壁北端 不明	不明	東側の壁は傾斜により喪失する。カマドは火床面を覆うのみで、焼石等は見られない。床面はほぼ平用である。南側から西壁南側には傾斜が見られる。ピットは1基検出された。遺物は非常に少ないが、土層部・灰燼層部の灰燼層を中心に出土。	13期	
169	M N86・E	424 × 416 × 19	東壁北寄り 石礎	不明	西側は調査区外へ続く。カマドは焼石と良好な火床面を覆う。カマド内及び周辺の床面には焼石と見られる。10～40cmの層が敷いている。床面はほぼ平用である。ピットは2基検出されたが、いずれも浅い。遺物は土層部・灰燼層部の灰燼層を中心に出土。	13期	
170	M N85・E	614 × <183> × 45	東壁北端 石礎	土 510	北西部は土 510により喪失し、南側は調査区外へ続く。カマドは焼石の一部と火床面を覆う。床面はほぼ平用であり、中央には焼石・灰燼層が見られる。ピットは6基検出された。P4は貯蔵ピットのピットと判定される。遺物は少ないが、土層部・灰燼層部の灰燼層を中心に出土。	14期	
171	M N86・E	<272> × <342> × 53	東壁北寄り 不明	172 住 163・164 住、 土 500・ 509・511	大半は161住により喪失し、西側は調査区外へ続く。カマドは床面を覆うのみで、焼石等は見られない。床面はほぼ平用である。ピットは2基検出された。遺物は非常に少ないが、土層部・灰燼層部の灰燼層を中心に出土。	12・13期	
172	M N1・W	458 × <250> × 20	東壁東寄り 不明	163・164・171 住、 土 511	西側は調査区外へ続く。他の遺構に切り取られるが、床面のみを調査できた。カマドは床面を覆うのみで、焼石等は見られない。床面はほぼ平用である。ピットは1基検出された。遺物は非常に少ないが、土層部・灰燼層部の灰燼層を中心に出土。	12・13期	
173	F N91・E	267 × 262 × 14	東壁北寄り 石礎	不明	内側は傾斜している。カマドは焼石を覆う。壁土は少なく、火床面はつきりしない。床面は南から北方向へ若干傾斜している。ピットはない。遺物は土層部・灰燼層部の灰燼層を中心に出土。	6期	
174	A N5・E	376 × <248> × 34	不明	不明	東側は調査区外へ続く。東壁北寄りには20～30cmの層が敷いている。床面はほぼ平用である。ピットはない。遺物は土層部・灰燼層部の灰燼層を中心に出土。	14期	
175	A N1.5・E	336 × 316 × 14	不明	土 89・97・100 土 95・96	東壁北寄りには土層部・灰燼層部の灰燼層を中心に出土。北側は調査区外へ続く。カマドは火床面を覆うのみで、焼石等をもとじて、方角が不明である。床面はほぼ平用であり、壁土が敷く。ピットは4基検出された。遺物は非常に少ないが、土層部・灰燼層部の灰燼層を中心に出土。	12期	
176	B N87.5・E	398 × <216> × 54	東壁北寄り 不明	不明	北側は調査区外へ続く。カマドは焼石と良好な火床面を覆う。カマド内及び周辺の床面には焼石と見られる。10～40cmの層が敷いている。床面はほぼ平用である。ピットは1基検出された。遺物は非常に少ないが、土層部・灰燼層部の灰燼層を中心に出土。	13期	

測定数値

<>:現存物、():測定値

第2表 竪穴建物址・竪穴状遺構一覧表

遺構No	地区	平面形		長軸×短軸×深 (cm)	本址より旧		遺構所見	推定時期
		主軸方向	床面積 (㎡)		本址より新	本址より新		
1	A	隅丸長方形	946 × 506 × 42				大型遺構である。北壁面寄りと南西隅部の2方所にテラス状の段が見られる。覆土内には10～40cmの礫が多量に投げ込まれるが、北壁付近には見られない。また、焼土塊・炭化物も混入する。床面はほぼ平坦である。ピットは3基検出された。遺物は土師瓦上部、青磁、白磁、古銭等が出上。	鎌倉
		N-91°・W	37.31					
2	欠番							
3	欠番							
4	A	楕円形	307 × 242 × 48				底面が2段になる大型の土坑状遺構。覆土内には焼土塊が多量に混入する。遺物は青磁片が1点出上するのみ。	鎌倉
5	A	方形	398 × 373 × 10				床面の一部がくろうじて残るのみで、全体像は掴めていない。ピットは2基検出された。遺物はない。	不明
		N-86°・E	<13.88>			土 101		
6	A		<248> × <272> × 7				床面の一部がくろうじて残るのみで、全体像は掴めていない。遺物は非常に少ない。	13・14期
			<9.89>			建 1P20、土 150		
7	A	隅丸長方形	632 × 251 × 38				長辺が短辺の倍以上ある長方形状の遺構である。床面には10～30cmの礫が散乱する。南側には頭頂部が窪んだ円錐台状の施設が見られるが、詳細は不明である。床面は南から北方向へ若干傾斜している。ピットは2基検出され、ともに柱穴の可能性が考えられる。遺物は非常に少ない。	鎌倉
		N-3°・W	12.18			土 156・157・158・159・165		
8	B	隅丸方形?	<143> × <111> × 36				北側と東側は調査区外へ続く。床面はほぼ平坦であり、ピットはない。遺物はない。	不明
			<4.28>			土 169 土 167・168		
9	欠番							

測量数値

<>:残存値、():推定値

第3表 掘立柱建物址一覧表

遺構No	地区	平面形		主軸方向	規模 (cm)	柱間寸法 (cm)	柱穴		
		柱配り	面積 (㎡)				平面形	規模	柱痕
1	A	方形	N-88°・E	3間×3間	桁行170～245	円形	径17～42	9基	
		総柱	35.8	640×560	梁行160～202		径4～30	径10～33	
2	B	長方形	N-92°・E	6間×4間	桁行138～214	円形	径17～40	23基	
		総柱	99.7(118.2)	1087×902	梁行180～286		径6～36	径6～18	
3	B	長方形	N-92°・E	3間×2間	桁行156～245	円形	径26～38	9基	
		総柱	32.2	634×506	梁行195～312		径3～34	径9～16	
4	B	長方形	N-2°・W	5間×2間	桁行150～334	円形	径18～36	6基	
		側柱	45.2	1106×406	梁行192～210		径7～45	径9～14	
5	B	長方形	N-89°・W	4間×2間	桁行166～224	円形	径22～38	7基	
		総柱	33.2(40.8)	774×398	梁行156～238		径4～26	径12～22	
6	B	長方形	N-89°・W	3間×2間	桁行130～186	円形	径22～38	4基	
		総柱	16.2	492×331	梁行146～188		径4～32	径12～20	
7	H	長方形	N-6°・E	2間×1間	桁行320～378	円形	径30～72		
		側柱	12.0	708×167	梁行154～186		径12～20		
8	M	長方形	N-95°・W	2間×1間	桁行186～210	円形	径28～48		
		側柱	6.3	388×160	梁行158～162		径8～28		

面積

() 無:母屋部分、() 有:全体

第4表 土坑一覽表

土坑編號	地区	平面形	規模 <cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
1	A	円形	38	38	16		溝2		
2	A	円形	27	24	12		溝2		
3	A	円形	36	34	8		溝2		
4	A	円形	45	42	8		溝2		
5	A	円形	32	32	9		溝2		
6		欠番							
7	A	不明	<34>	63	<21>				
8		欠番							
9	A	楕円形	58	48	23				
10	A	楕円形	44	37	20				
11	A	円形	36	36	16				
12	A	楕円形	36	30	12				
13	A		24	23	3				
14	A	円形	44	42	20				
15	A	円形	32	28	11				
16	A	円形	54	48	20				
17	A	円形	39	38	13				
18		欠番							
19	A	円形	44	42	6				
20		欠番							
21		欠番							
22		欠番							
23		欠番							
24		欠番							
25		欠番							
26	A	円形	28	26	16				
27	A	円形	30	26	8				柱痕
28		欠番							
29	A	円形	24	24	9				柱痕
30		欠番							
31		欠番							
32		欠番							
33		欠番							
34	A	円形	20	20	4				
35	A	円形	21	20	23				
36		欠番							
37		欠番							
38		欠番							
39	A	長円形	154	40	11		溝1		
40	A	円形?	<38>	40	7	15住			
41	A	円形	36	35	15				
42	A	円形	38	36	5				
43	A	円形	47	47	13				
44	A	楕円形	38	32	20				
45	A	円形	36	33	20				
46	A	円形	40	40	15				
47	A	円形	30	26	6				
48	A	楕円形	50	41	14				
49	A	円形	28	27	16				
50	A	円形	34	33	11				
51	A	円形	35	34	8				
52	A	円形	33	32	9				
53	A	円形	26	23	19	15住			
54	A	楕円形	200	156	11				
55	A	円形	30	28	15				
56	A	円形	32	30	9				
57	A	楕円形	50	40	9				
58	A	円形	36	35	4				
59	A	円形	34	33	9				
60	A	円形	50	49	5				
61	A	円形	43	32	5				
62	A	円形	34	34	3				
63	A	円形	30	28	4				
64	A	楕円形	91	63	8				
65	A	円形	26	26	6				
66	A	円形	33	32	9				
67	A	円形	34	32	8				
68	A	円形	31	29	8				

土坑No	地区	平面形	規模 <cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
69	A	円形	32	30	23				
70	A	円形	42	38	16				
71	A	楕円形	23	15	6				
72	A	円形	32	30	8				
73	A	円形	19	18	7				
74	A	楕円形	40	34	9				
75	A	円形	20	18	3				
76	A	楕円形	34	25	13				
77	A	円形	35	<15>	8				
78	A	円形	24	21	2				
79	A	円形	<32>	29	9				
80	A	円形	32	38	12				
81	A	円形	32	30	10				
82	A	楕円形	54	46	10				
83	A	円形	20	18	3				
84	A	円形	14	12	2				
85	A	楕円形	20	14	6	15 住			
86	A	円形	18	18	16	15 住			
87		欠番							
88	A	楕円形	80	66	22				
89	A	円形	32	28	9	174 住			
90	A	円形	46	44	6				
91	A	円形	31	29	10				
92	A	円形	22	22	5				
93	A	円形	77	74	9				
94	A	円形?	18	<8>					
95	A	円形	26	24	9	175 住			
96	A	円形	32	29	8	175 住			
97	A	円形	20	19	15	174 住			
98	A	円形	33	30	13				
99	A	円形	24	22	8				
100	A	円形	20	16	6	174 住			
101	A	楕円形	20	16	6	壱5			
102		欠番							
103		欠番							
104	A	円形	21	20	13				
105	A	円形	20	18	12				柱礎
106	A	円形	24	22	7				
107	A	円形	20	19	10				
108	A	円形	18	18	7				
109	A	円形	48	48	9				
110	A	円形	22	21	10				
111	A	円形?	16	<16>	7				
112	A	円形	22	22	8				
113	A	円形	19	17	6				
114	A	円形	20	19	10		石礎		
115	A	円形	18	16	5				
116	A	円形	19	18	4				
117	A	円形	18	16	6				
118	A	円形	34	30	4				
119	A	円形	21	20	10				柱礎
120	A	楕円形	51	33	10				
121	A	円形	27	26	8				
122	A	円形	26	26	9				
123	A	円形	10	10	1				
124	A	円形	21	19	12				
125	A	円形	28	26	13				
126	A	円形	15	14	4				
127	A	円形	15	13	6				
128	A	円形	18	18	11				
129	A	円形	23	21	13				
130	A	楕円形	14	10	14				
131	A	円形	156	14	10				
132	A	円形	18	16	6				
133	A	円形	32	32	8				
134	A	円形	26	25	12	土 150			柱礎
135	A	円形	24	24	13				
136	A	楕円形	30	24	15				柱礎
137	A	円形	30	28	2				

土坑No	地区	平面形	規模 <cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
138	A	円形	16	15	2				
139	A	楕円形	53	36	6				
140	A	楕円形	88	33	7				
141	A	円形	20	17	4				
142	A	楕円形	20	16	2				
143	A	円形	26	24	8	土144			
144	A	楕円形	48	34	9		土143		
145	A	円形	31	30	5				
146	A	円形	16	14	13				
147	A	円形	25	24	3				
148	A	楕円形	63	53	5				
149	A	円形	20	20	11				
6	A	円形	72	68	17	竪6	土134		
151	A	円形	14	14	7				
152	A	円形	14	14	4				
153	A	円形	12	10	4				
154	A	円形	12	10	1				
155	A	円形	18	18	10				
156	A	円形	16	<11>	13	竪7			
157	A	円形	12	12	7	竪7			
158	A	円形	20	20	20	竪7			
159	A	円形	19	17	20	竪7			
160	欠番								
161	欠番								
162	A	円形	16	16	2				
163	A	楕円形	18	14	9				
164	A	円形	18	18	7				
165	A	楕円形	51	36	11	竪7、土166			
166	A	不整形	(114)	(60)		竪7、土165	灰釉碗		未測
167	B	不明	<78>	<50>	<12>	竪8	土168		
168	B	円形?	<18>	18	4	竪8、土167			
169	B	楕円形	58	<50>	19		竪8		
170	B	円形	20	20	10				
171	B	円形	26	24	31				
172	B	円形	108	98	10				
173	B	円形	33	32	16				柱礎
174	欠番								
175	B	円形	52	48	7	20住、竪12			
176	欠番								
177	B	楕円形	28	20	3	竪5			
178	B	不整形	176	125	13	土200、竪2・3	竪3、土308		
179	B	円形	20	16	8				柱礎
180	B	楕円形	62	44	5	20住			
181	B	円形	30	28	6	21住			
182	B	楕円形	38	28	6	21住			
183	B	円形	18	16	7	20住			
184	B	楕円形	28	22	5	20住			
185	B	円形?	20	<12>	3				
186	B	円形	32	30	3				
187	B	楕円形	<14>	17	38				
188	B	楕円形	121	78	20				
189	B	楕円形	26	20	23				
190	B	円形	<30>	30	5				
191	B	楕円形	86	54	31				
192	B	不明	192	<34>	19		灰釉碗		
193	B	円形	20	18	5				
194	B	楕円形	36	22	16				
195	B	円形	56	53	2				
196	B	楕円形	26	22	7				
197	B	楕円形	66	43	14				
198	B	円形	20	16	7	土200			
199	B	楕円形	102	63	27				
200	B	楕円形?				竪4	土178・198・309		
201	B	楕円形	34	27	4				
202	B	楕円形	44	36	19	21住	灰釉碗		
203	B	楕円形	70	56	21				
204	B	円形	16	12	25				
205	B	楕円形	30	20	6				

土坑No	地区	平面形	規模 <cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
206	B	円形	40	<30>	22				
207	B	楕円形	36	28	6				
208	B	円形	168	166	18			灰釉碗、緑釉碗	
209	欠番								
210	欠番								
211	欠番								
212	B	楕円形	96	66	6				
213	B	楕円形	91	80	7				
214	欠番								
215	B	円形	24	24	3	20住			
216	B	楕円形	54	36	6				
217	B	円形	20	18	19	20住			
218	B	楕円形	40	32	11	20住			
219	B	円形	12	11	3				
220	B	楕円形	32	22	11				
221	欠番								
222	B	円形	28	28	15	20住			
223	B	不整形	<145>	150	7		18住		
224	B	円形	172	166	33			土師器碗	
225	B	円形	28	26	13				
226	B	円形	22	20	13				
227	B	楕円形	26	21	8				柱痕
228	B	楕円形	43	27	5				柱痕
229	B	円形	26	24	5				
230	B	円形	24	22	9				柱痕
231	B	円形	20	20	6				
232	B	楕円形	25	18	9				
233	B	円形	17	16	13				
234	B	円形	22	20	10				
235	B	円形	30	30	10				
236	B	楕円形	42	36	4				
237	B	楕円形	50	40	4				
238	B	円形	24	20	5				
239	B	円形	15	14	5				
240	B	円形	20	20	6				柱痕
241	B	楕円形	40	31	25				柱痕
242	B	円形	16	14	5				
243	B	円形	18	17	5				
244	B	円形	19	18	5				
245	B	円形	14	14	6				
246	欠番								
247	B	楕円形	25	16	6				
248	B	円形	15	14	4				
249	B	円形	16	16	7				
250	B	楕円形	34	22	5				
251	B	円形	15	14	6				
252	B	円形	24	23	34				柱痕
253	B	楕円形	28	23	16				柱痕
254	B	円形	25	23	6				
255	B	楕円形	26	20	12				
256	B	円形	21	20	9				柱痕
257	B	楕円形	22	16	4				
258	B	楕円形	38	32	8				
259	B	円形	18	16	24				
260	B	楕円形	22	14	4				
261	B	円形	20	18	4				
262	B	楕円形	33	27	10				
263	B	楕円形	24	18	18				
264	B	円形	22	18	19				
265	B	円形	23	22	18				
266	B	円形	26	25	4				
267	B	楕円形	30	24	8				
268	B	円形	26	<18>	9				
269	B	円形	34	34	2				
270	B	楕円形	72	54	4				
271	B	楕円形	192	130	4	上 337	上 273		
272	B	不整形	124	78	19	上 331			
273	B	円形	27	26	3	上 271			
274	B	楕円形	33	25	29			土師器杯?	柱痕

土坑No	地区	平面形	規模 <cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
275	B	楕円形	34	25	27				
276	B	円形	29	26	16				
277	B	楕円形	54	32	9				
278	B	不整形	136	64	18				
279	B	円形	38	36	15	20 住			
280	B	楕円形	36	20	12				
281	B	楕円形	30	24	14				柱痕
282	B	楕円形	43	25	18				柱痕
283	B	円形	38	38	12				
284	B	円形	26	24	9				
285	B	円形	28	24	12				
286	B	楕円形	37	30	12				柱痕
287	B	楕円形	<104>	72	8				
288	B	円形?	200	<100>	11			土師器杯	
289	B	円形	22	22	15				
290	B	円形	24	24	19				
291	B	楕円形	56	41	12				
292	B	円形	20	20	7				
293	B	円形	22	20	7				
294	B	円形	18	18	9				
295	B	円形	20	20	9				
296	B	楕円形	30	24	8				
297	B	円形	30	28	11				
298	B	楕円形	46	37	6				
299	B	円形	24	22	3				
300	B	円形	24	22	7				
301	B	円形	28	26	10				
302	B	楕円形	<28>	20	6	土 303			
303	B	楕円形	82	48	12		土 302		
304	B	円形	82	<44>	7				
305	B	楕円形	34	30	3	土 330			
306	B	円形	23	22	11				
307	B	円形	24	20	4				
308	B	楕円形	50	42	4	土 178			
309	B	円形	26	24	2	土 200			
310	B	円形	32	30	10				
311	B	楕円形	35	30	8				
312	B	楕円形	22	16	28				柱痕
313		欠番							
314	B	楕円形	28	20	5				
315	B	楕円形	26	19	5				
316	B	円形	20	18	4				
317	B	円形	30	28	8				
318	B	楕円形	30	21	16				柱痕
319	B	円形	15	15	8				
320		欠番							
321	B	円形	24	22	8				
322	B	円形	26	26	26				柱痕 柱痕
323	B	円形	30	28	3				
324	B	円形	22	22	9				柱痕
325		欠番							
326	B	円形	30	29	2				
327	B	円形	12	12	5				
328	B	楕円形	40	32	21				
329	B	円形	16	16	9				
330	B	不明	<302>	<30>	<22>		土 305 土 272		
331	B	円形	26	24	10				
332	B	円形	<20>	<20>	6				
333	B	円形	14	12	6				
334	B	円形	28	26	7				
335	B	楕円形	26	21	6				
336	B	円形	30	30	27				
337	B	円形	(33)	(28)			土 271		未測
338		欠番							
339	C	楕円形	262	110	20	25 住、土 341		土師器杯・椀・甕、灰釉碗・皿	
340	C	楕円形	52	42	13	25 住			
341	C	楕円形	92	76	16	25 住	土 339		
342	C	楕円形	40	30		22 住			
343	C	楕円形	226	175	6	23 住			

土坑No	地区	平面形	規模 <cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
344	C	楕円形	134	82	31	28住			
345	欠番								
346	C	楕円形	190	84	14	34住			
347	C	不整形	295	84	16	24・28住	土師器盤、灰輪皿、鉄鏝		
348	C	楕円形	148	74	32	32住			
349	C	楕円形	44	36	12	38住			
350	C	円形	40	40	14	37住			
351	C	円形	24	24	11	40住			
352	C	楕円形	71	48	12	46住			
353	C	楕円形	100	92	8	43住			
354	C	円形	36	36	6	43住			
355	C	楕円形	<80>	<60>	11	49住			
356	C	円形	54	46	40		須恵器平版	柱礎	
357	C	楕円形	165	152	8	51住			
358	C	円形	46	42	6	51住			
359	C	円形	51	48	10	51住			
360	C	円形	60	56	15		土師器杯、灰輪長頸壺		
361	C	円形	(26)	(26)	8				
362	C	楕円形	<98>	<158>	8	上366	上1077・1078	黒色A椀	
363	C	円形	34	30	4	上378			
364	C	円形	34	30	10	上373・378		頸口?、鉄滓	
365	C	楕円形	38	28	9	上378			
366	C	楕円形?	<212>	224	9	上367・368・369・375	上362	灰輪皿、鉄滓	
367	C	楕円形	<166>	58	14	上368・375	上366	土師器杯・小型甕・羽釜、黒色A椀、灰輪皿、金属製品、鉄滓	
368	C	楕円形	70	<30>	6	上369	上366・367		
369	C	円形	20	19	6	上366・368			
370	D	楕円形	108	68	13	54住			
371	D	楕円形	<138>	<124>	4	54住		土師器盤・羽釜、鉄滓	
372	D	円形?	76	<46>	17	上815			
373	C	楕円形?	172	<110>	7	上378	43住、上364	土師器杯・椀、灰輪皿	
374	欠番								
375	C	楕円形	30	<24>	4		上366・367		
376	D	円形	66	62	5	61・60住		黒色A杯・椀	
377	D	楕円形	117	80	15	60住		土師器杯、黒色A杯・椀	
378	C	不明	136	<48>	8		上363・364・365・373		
379	C	円形?	92	<56>	8			土師器杯・甕、須恵器甕、灰輪皿	
380	D	楕円形	40	30	9				
381	D	円形	20	18	9	78住			
382	D	円形	226	<210>		70住	上386	土師器杯・盤、黒色A椀、須恵器蓋・甕、灰輪皿	
383	D	楕円形	193	86	12	64住		土師器杯・甕、緑釉耳皿	
384	D	楕円形	76	<20>	12	78住			
385	D	円形	28	25	8	82住			
386	D	楕円形	121	84	12	70住、上382		黒色A杯・椀、灰輪皿	
387	D	円形	32	<15>	24	78住			
388	D	円形	34	28	7	80住			
389	D	楕円形	341	127	29	71住	70住	土師器杯・甕	
390	D	楕円形	53	44	16	53住		土師器甕、黒色A椀、灰輪皿	
391	D	楕円形?	302	<44>	33		53住	土師器杯、須恵器杯、灰輪皿	
392	欠番								
393	D	楕円形	26	18	15	92住			
394	D					87住			
395	D	円形	70	68	22	84住		土師器杯・椀、灰輪皿	
396	欠番								
397	D	円形	42	40	36	101・115住			
398	D	円形	66	56	16	96住		土師器杯・椀・甕・甕、黒色A椀、須恵器甕・長頸壺	
399	D	楕円形	278	162	6	95住		土師器杯・椀・甕、須恵器甕、刀子?	
400	D	円形	72	70	24			土師器杯・椀、須恵器甕、灰輪皿	
401	D	円形	96	<78>	36	84住		土師器杯・蓋?、灰輪皿・皿	
402	D					53・89住	83住		
403	D	円形	38	34	20	98・99住		土師器杯・椀・甕、黒色A杯・椀	
404	D	楕円形	(28)	(20)			92住		
405	D	楕円形	30	20	13	104住			
406	D	楕円形	52	44	30	99住			
407	D	円形	30	30	4	99住			
408	D	楕円形	34	28	5	112住			
409	D	不整形	(102)	(84)			100・105住	未掘	

土坑No.	地区	平面形	規模 <cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
410	D	楕円形	240	89	13	109・110住	106住	土師器杯・椀・甕、黒色A杯・椀、須恵器甕、灰輪碗・甕	
411	D	不整形	(170)	(60)			113住	土師器杯・椀	未掘
412	D	円形	32	<18>	19	104・103住			
413	D	円形	56	54	12				
414	D	円形	30	29	10				柱痕
415	D	楕円形	68	44	31			土師器甕、須恵器杯・甕	
416	D	楕円形	63	44	15			土師器甕	
417	D	円形	20	19	4				
418	D	楕円形	42	30	7	117住			
419		欠番							
420		欠番							
421		欠番							
422	D	円形	<60>	56	24	114住		土師器杯、須恵器甕、灰輪碗	
423	D	不整形	322	132	43		114住	土師器杯・椀・甕、黒色A杯、灰輪碗	
424	D	楕円形	55	40	11	125住		土師器甕	
425	D	円形	23	23	8	124住			
426	D	楕円形	27	18	22	125住			
427	D	円形	34	31	12	125住			
428	D	円形	31	30	20	124・125住		灰輪碗	
429	D	円形	21	21	8	125住			
430	D	円形	32	28	16	125住			
431	D	円形	23	21	11	125住			
432		欠番							
433	K	円形	32	29	6	132住			
434	K	円形	67	<40>		133住			
435	K	円形	38	32	24	133住			
436		欠番							
437	H	不明	106	<38>	19	136住		土師器甕、須恵器杯	
438	H	円形	<26>	29	12	136住			
439	H	楕円形	109	61	11	140住		土師器甕、須恵器甕	
440		欠番							
441		欠番							
442		欠番							
443		欠番							
444		欠番							
445	H	楕円形	79	62	11				
446	H	円形	<9>	30	10				
447	H	円形	102	99	33		141住	土師器杯・鉢・小型甕、黒色A杯、須恵器甕、灰輪碗、金属製品	
448	D	楕円形	(112)	(70)			141住	土師器杯	未掘
449	H	楕円形	<110>	73	26		141住	土師器杯・椀	
450	H	楕円形	(124)	(76)		143住			未掘
451		欠番							
452		欠番							
453		欠番							
454		欠番							
455		欠番							
456		欠番							
457	D	楕円形	120	65	23				
458	H	円形	82	78	16			土師器杯・甕、黒色A杯、須恵器杯・甕、灰輪碗・甕	
459	L	楕円形?	<190>	<36>	25	150住		灰輪碗	
460	L	不整形	<213>	190	8		157住		
461		欠番							
462	L	円形	28	28	7				
463	L	楕円形	52	43	17				柱痕
464	L	楕円形	51	43	7				
465	L	円形	43	42	8				
466	L	円形	55	50	25				
467	L	円形	38	36	9				
468	L	楕円形	54	35	15	上493			
469	L	楕円形	65	51	21				
470	L	楕円形	38	29	9				
471	L	円形	30	29	8				
472	L	楕円形	26	19	3				
473		欠番							
474		欠番							
475	L	円形	26	26	10	153住、上476			
476	L	円形	67	<52>	12	153住	上475	土師器杯・椀、黒色A杯	

土坑No	地区	平面形	規模 <cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
477	L	楕円形	112	104	19	153住		土師器杯・甕、黒色A杯・椀、須恵器杯・甕、灰輪碗・皿	
478	L	楕円形	166	130	9		153住		
479	L	円形	32	32	16	±493			
480	L	円形	40	36	13	±492			
481	L	円形	80	72	34			鉄釧?、鉄洋	
482	L	円形	117	107	24			黒色A杯・椀、鉄洋	
483		欠番							
484		欠番							
485	L	円形	31	31	5	±493			
486	L	円形	36	34	7				
487	L	円形?	64	<30>	23			土師器甕	
488	L	楕円形	43	35	9				
489	L	円形	26	26	17				
490	L	円形	31	29	38				
491	L	円形	32	31	21				
492	L	楕円形	126	66	43	±496	±480		
493	L	不整形	304	148	18		±468・479・485		
494	L	円形	34	32	7	±497			
495	L	楕円形	194	150	34		153住	土師器椀、須恵器甕、灰輪碗、緑輪碗	
496	L	楕円形?	<176>	106	15		±492		
497	L	楕円形	31	21	20		±494		
498	L	楕円形	<62>	50	19	158住	159住		
499	D	楕円形	48	35	8				
500	M	円形	26	24	14	171住			
501	L	円形?	84	<43>	29			灰輪碗	
502	L	円形	22	21	8				
503	M	楕円形	84	<26>	11	165住			
504	M	円形	90	88	12	165住		土師器杯、灰輪碗、白磁碗	
505	M	不整形	254	<138>	21			灰輪碗	
506	M	円形	28	26	22	167住			
507		欠番							
508		欠番							
509	M	円形	28	26	16	171住			
510	M	隅丸方形	192	<188>	23	170住		灰輪碗	
511	M	楕円形?	286	<108>	24	164・171・172住	163住	土師器椀・甕、黒色A椀、灰輪碗	
512	M	円形	22	21	10	166住		須恵器甕、灰輪碗	
513	M	円形	55	<30>	18	166住			
514	M	楕円形	95	<34>	21	166住		土師器杯	
515	G	円形	36	28	22	溝9			柱痕
516	G	円形	34	30	20	溝9			柱痕
517	G	円形	34	34	16	溝9			柱痕
518	D	円形	50	47	14			須恵器甕	柱痕
519	D	楕円形	51	40	9			土師器甕	
520	D	円形	72	70	20	±540		須恵器甕、灰輪碗	柱痕
521	D	楕円形	88	60	13	±566			
522	D	円形	74	64	18				
523	D	楕円形	40	26	12				
524	D	楕円形	38	30	12				
525	D	楕円形	35	26	15			土師器甕、灰輪碗	
526	D	円形	48	47	7				
527	D	円形	22	20	35			土師器杯・椀・甕	
528	D	円形	36	34	33				
529	D	楕円形	50	42	11				
530	D	円形	28	24	14				
531	D	円形	76	72	25				
532	D	円形	30	27	4				
533	D	円形	48	46	12				
534	D	円形	36	34	18				
535	D	円形	64	60	15				
536	D	円形	37	36	35				柱痕
537	D	円形	40	38	28			黒色A杯・椀	柱痕
538	D	円形	47	40	13				
539	D	円形	33	31	14				
540	D	楕円形	<86>	72	23		±520	灰輪碗	
541	D	円形	46	42	12				
542	D	楕円形	28	18	7				
543	D	円形	37	36	40				柱痕

土坑No	地区	平面形	規模 <cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
544	D	円形	17	14	6			土師器甕	
545	D	楕円形	44	36	28				
546	D	楕円形	45	38	22				
547	D	楕円形	18	13	10				
548	D	楕円形	28	22	15				
549	D	楕円形	46	36	26				
550	D	円形	38	32	14				
551	D	円形	70	64	14	土 552			
552	D	楕円形 <70>	68	32			土 551	土師器杯、黒色A杯・椀、須恵器甕	
553	D	円形	36	33	13				
554	D	円形	34	33	26				柱痕
555	D	円形	38	36	26				
556	D	円形	35	34	10			土師器甕	
557	D	円形	40	36	42				柱痕
558	D	円形	34	34	21			灰釉碗	
559	D	楕円形	281	164	8		116 住		
560	D	円形	36	32	13				
561	D	円形	32	32	21				
562	D	円形	16	14	14				
563	D	円形	26	25	16				
564	D	円形	24	24	26				
565	D	楕円形	35	26	30			土師器杯・椀・甕、灰釉碗、鉄鍬	
566	D	円形	68	<46>	17	土 521		須恵器甕	
567	D	円形	19	19	12				
568	D	円形	22	20	12				
569	D	円形	22	22	12				
570	D	円形	25	22	8				
571	D	円形	19	18	8				
572	D	円形	14	14	16				
573	D	円形	14	14	11				
574	D	楕円形	47	36	15				
575	D	円形	34	28	17				
576	D	円形	19	18	10				
577	D	円形	21	21	23				
578	D	円形	23	20	12				
579	D	楕円形	29	19	11				
580	D	楕円形	48	30	13	土 581		須恵器甕	
581	D	円形	(33)	(30)			土 580		未掘 柱痕
582	D	円形	35	32	25				
583	D	円形	22	20	4				
584	D	円形	22	20	3				
585	D	楕円形	23	16	24				
586	D	円形	34	28	11				
587	D	円形	26	22	17				
588	D	円形	28	26	24				
589	D	楕円形	22	16	13				
590	D	円形	48	48	11				
591	D	円形	16	16	5				
592	D	楕円形	44	34	25			土師器杯	
593	D	円形	40	36	30				
594	D	楕円形	21	15	15				
595	D	円形	23	22	25				
596	D	円形	36	33	14				
597	D	円形	29	26	20			須恵器蓋・甕	柱痕
598	D	円形	36	35	29				柱痕
599	D	円形	40	36	12				
600	D	円形	34	32	45	土 601			
601	D	円形	30	<20>	34		土 600		底に粘土塊
602	D	円形	16	15	11				
603	D	円形	24	24	19				
604	D	楕円形	45	34	20				
605	D	円形	16	16	6				
606	D	楕円形	96	71	6				
607	D	円形	62	62	10				
608	D	楕円形	52	38	27				柱痕
609	D	円形	14	14	9				
610	D	楕円形	84	62	7				
611	D	楕円形	30	20	11				
612	D	円形	34	32	3				

土坑No	地区	平面形	規模 <cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
613	D	円形	24	22	3				
614	D	楕円形	40	30	15				
615	D	楕円形	18	14	12				
616	D	円形	34	32	11				
617	D	円形	42	39	24			灰釉碗	
618	D	円形	22	20	11				
619	D	円形	74	70	8				
620	D	円形	13	11	7				
621	D	円形	29	26	5				
622	D	楕円形	30	24	12				
623	D	円形	12	12	14				
624	欠番								
625	欠番								
626	D	楕円形	154	94	16		上 637	須恵器甕	
627	欠番								
628	D	不整形	265	126	12			土師器甕、黒色B椀、須恵器杯・甕、灰釉碗、鉄滓	
629	D	楕円形	<260>	<134>	7	上 645・646	119 住	土師器杯・椀、黒色A杯・椀、須恵器杯・甕、灰釉碗・壺	
630	D	楕円形	115	88	7				
631	F	円形	58	52	14	上 632			平割
632	F	楕円形	88	73	10		上 631		平割
633	F	円形	78	71	9				平割
634	F	円形	58	54	5				平割
635	F	円形	76	68	3				平割
636	F	円形	50	48	3				平割
637	D	楕円形	90	58	19	上 626			
638	D	円形	76	74	19				
639	D	円形	62	61	11				
640	D	楕円形	74	60	11			黒色A杯・椀	
641	D	楕円形	75	56	20			黒色A杯	
642	D	楕円形	90	52	29			黒色A椀	
643	D	円形	50	50	7				
644	D	楕円形	96	80	12				
645	D	円形	44	38	15		119 住、上 629		
646	D	楕円形	95	62	4		119 住、上 629		
647	D	楕円形	88	70	34			土師器杯・椀、黒色A杯・椀	
648	欠番								
649	欠番								
650	B	長円形	73	21	9	竝 8			
651	A	円形	(33)	(32)					未測
652	A	楕円形	(45)	(37)					未測
653	A	円形	(15)	(13)					未測
654	A	長円形	(116)	(28)		上 655			未測
655	A	方形?	(60)	(30)			上 654		未測
656	A	円形	(16)	(15)					未測
657	A	楕円形	(120)	(91)					未測
658	A	楕円形	(48)	(38)		溝 2			未測
659	A	円形	(41)	(38)		溝 2			未測
660	A	円形	(36)	(33)		溝 2			未測
661	A	円形	(32)	(30)					未測
662	A	円形	(20)	(18)					未測
663	A	円形	(58)	(56)					未測
664	A	楕円形	(19)	(14)					未測
665	A	円形	(20)	(18)					未測
666	A	円形	(18)	(17)					未測
667	A	円形	(17)	(17)					未測
668	A	円形	(40)	(36)		溝 2			未測
669	A	円形	(27)	(26)					未測
670	A	円形	(22)	(21)		溝 2			未測
671	A	円形	(15)	(14)		溝 2			未測
672	A	楕円形	(48)	(32)			上 673		未測
673	A	円形	(70)	(63)		上 672・674			未測
674	A	円形?	(30)	(20)			上 673		未測
675	A	円形	(24)	(22)					未測
676	A	円形	(20)	(18)					未測
677	A	楕円形	(50)	(38)					未測
678	A	円形	(16)	(14)					未測
679	A	円形	(16)	(16)					未測
680	A	円形	(16)	(14)					未測

土坑No	地区	平面形	規模 <cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
681	A	楕円形	(46)	(34)		溝 2		未掘	
682	A	円形	(36)	(35)				未掘	
683	A	円形	(26)	(24)				未掘	
684	A	楕円形	(48)	(40)				未掘	
685	A	楕円形	(55)	(43)				未掘	
686	A	円形	(15)	(13)				未掘	
687	A	円形	(20)	(19)				未掘	
688	A	楕円形	(94)	(78)				未掘	
689	A	円形	(50)	(50)				未掘	
690	A	円形	(36)	(34)				未掘	
691	A	円形	(76)	(76)				未掘	
692	A	円形	(15)	(15)				未掘	
693	A	円形	(15)	(14)				未掘	
694	A	円形	(39)	(37)				未掘	
695	A	円形	(16)	(15)				未掘	
696	A	楕円形	(16)	(12)				未掘	
697	A	円形	(38)	(36)				未掘	
698	A	円形	(52)	(52)				未掘	
699	B	円形	(14)	(13)			建 2P34	未掘	
700	B	円形	(32)	(28)				未掘	
701	C	円形	(32)	(32)				未掘	
702	C	楕円形	(32)	(25)				未掘	
703	C	不整形	(164)	(46)	土 704			未掘	
704	C	楕円形	(205)	(128)		土 703		未掘	
705	C	楕円形	(30)	(18)				未掘	
706	C	円形	(20)	(19)				未掘	
707	C	楕円形	(193)	(118)				未掘	
708	C	円形	(19)	(18)				未掘	
709	C	円形	(24)	(24)				未掘	
710	C	円形	(19)	(18)				未掘	
711	C	円形	(25)	(22)				未掘	
712	C	円形	(16)	(15)				未掘	
713	C	長円形	(98)	(34)				未掘	
714	C	長円形	(88)	(35)				未掘	
715	C	不整形	(94)	(64)				未掘	
716	C	楕円形	(50)	(30)				未掘	
717	C	円形	(15)	(15)				未掘	
718	欠番								
719	C	円形	(33)	(16)				未掘	
720	C	円形	(21)	(20)				未掘	
721	C	長円形	(61)	(20)				未掘	
722	C	円形	(20)	(18)				未掘	
723	C	楕円形?	(66)	(30)			34 住	未掘	
724	C	円形	(38)	(38)				未掘	
725	C	円形	(50)	(44)				未掘	
726	C	円形	(20)	(20)				未掘	
727	C	円形	(64)	(50)			32 住	未掘	
728	C	円形	(28)	(27)				未掘	
729	C	楕円形	(114)	(73)				未掘	
730	C	円形	(24)	(24)			37 住	未掘	
731	C	円形	(28)	(26)				未掘	
732	C	楕円形	(40)	(33)				未掘	
733	C	楕円形	(50)	(41)				未掘	
734	C	円形	(30)	(28)				未掘	
735	C	円形	(46)	(41)				未掘	
736	C	円形	(34)	(32)				未掘	
737	C	円形	(30)	(28)				未掘	
738	C	円形	(26)	(26)				未掘	
739	C	円形	(42)	(39)				未掘	
740	C	円形	(64)	(64)				未掘	
741	C	円形	(60)	(56)				未掘	
742	C	円形	(33)	(33)				未掘	
743	C	円形	(42)	(40)				未掘	
744	C	楕円形	(84)	(67)				未掘	
745	C	楕円形	(60)	(41)			37 住	未掘	
746	C	円形	(26)	(24)				未掘	
747	C	円形	(23)	(14)			35 住	未掘	
748	C	円形	(24)	(23)				未掘	
749	C	円形	(26)	(24)				未掘	

土坑No	地区	平面形	規模 <cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
750	C	円形	(26)	(26)					未掘
751	C	長円形	(54)	(21)					未掘
752	C	楕円形	(28)	(21)					未掘
753	C	円形	(27)	(26)					未掘
754	C	楕円形	(68)	(45)					未掘
755	C	円形	(28)	(24)					未掘
756	C	楕円形	(65)	(40)					未掘
757	C	楕円形	(30)	(22)					未掘
758	C	円形	(20)	(18)					未掘
759	C	楕円形	(73)	(56)					未掘
760	C	楕円形	(53)	(38)					未掘
761	C	楕円形	(129)	(92)					未掘
762	C	楕円形	(47)	(19)					未掘
763	C	楕円形	(28)	(22)					未掘
764	C	楕円形	(178)	(60)				46 住	未掘
765	C	楕円形	(127)	(81)				46 住	未掘
766	C	円形	(18)	(17)		上 767			未掘
767	C	楕円形	(26)	(17)			上 766		未掘
768	C	円形	(55)	(54)					未掘
769	C	楕円形	(54)	(35)					未掘
770	C	楕円形	(105)	(85)		29 住			未掘
771	C	不整形	(63)	(40)					未掘
772	C	楕円形	(31)	(14)					未掘
773	C	楕円形	(85)	(70)					未掘
774	C	円形	(33)	(28)					未掘
775	C	長円形	(72)	(37)					未掘
776	C	楕円形	(27)	(21)					未掘
777	C	楕円形	(26)	(22)					未掘
778	C	楕円形	(45)	(38)					未掘
779	C	円形	(22)	(19)					未掘
780	C	楕円形	(44)	(36)					未掘
781	C	円形	(37)	(36)					未掘
782	C	円形	(48)	(46)					未掘
783	C	円形	(25)	(25)					未掘
784	C	長円形	(168)	(51)					未掘
785	C	円形	(29)	(26)		上 786			未掘
786	C	円形	(19)	(12)			上 785		未掘
787	C	円形	(24)	(22)					未掘
788	C	円形	(19)	(18)					未掘
789	C	楕円形	(58)	(28)					未掘
790	C	楕円形	(77)	(54)					未掘
791	C	円形	(30)	(25)					未掘
792	C	円形	(23)	(22)					未掘
793	C	楕円形	(86)	(65)					未掘
794	C	楕円形	(46)	(23)					未掘
795	C	円形	(15)	(14)					未掘
796	C	円形	(22)	(22)					未掘
797	C	円形	(32)	(30)					未掘
798	C	円形	(26)	(26)					未掘
799	C	楕円形	(25)	(16)					未掘
800	C	楕円形	(69)	(60)					未掘
801	C	楕円形	(29)	(22)					未掘
802	C	円形	(14)	(13)					未掘
803	C	円形	(54)	(49)		28 住			未掘
804	C	円形	(20)	(20)					未掘
805	C	楕円形	(30)	(21)					未掘
806	C	楕円形	(101)	(69)		44 住			未掘
807	C	円形	(26)	(25)					未掘
808	C	楕円形	(72)	(64)					未掘
809	C	円形	(34)	(34)					未掘
810	C	楕円形	(44)	(35)					未掘
811	C	円形	(32)	(32)					未掘
812	D	楕円形	(52)	(44)					未掘
813	D	楕円形	(118)	(56)					未掘
814	D	楕円形	(76)	(30)		61 住			未掘
815	D	不整形	(290)	(44)		上 816	上 372		未掘
816	D	不整形	(264)	(102)			上 815		未掘
817	D	楕円形	(230)	(94)					未掘
818	D	楕円形	(54)	(44)					未掘

土坑No	地区	平面形	規模 <cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
819	D	楕円形	(95)	(82)		上 820		未掘	
820	D	楕円形	(146)	(135)			上 819	未掘	
821	D	円形	(52)	(33)				未掘	
822	D	円形	(26)	(26)				未掘	
823	D	楕円形	(23)	(18)				未掘	
824	D	円形	(33)	(32)				未掘	
825	D	円形	(30)	(28)				未掘	
826	D	楕円形	(61)	(36)				未掘	
827	D	楕円形	(104)	(88)				未掘	
828	D	円形	(28)	(26)				未掘	
829	D	楕円形	(50)	(35)				未掘	
830	D	円形	(26)	(21)				未掘	
831	D	円形	(19)	(19)				未掘	
832	D	円形	(35)	(32)				未掘	
833	D	楕円形	(28)	(23)				未掘	
834	D	楕円形	(260)	(204)				未掘	
835	D	楕円形	(164)	(90)			59 住	未掘	
836	D	円形	(69)	(66)				未掘	
837	D	楕円形	(35)	(30)				未掘	
838	D	円形	(34)	(33)				未掘	
839	D	円形	(35)	(32)				未掘	
840	D	円形	(32)	(30)				未掘	
841	D	楕円形	(40)	(26)				未掘	
842	D	圓丸方形	(56)	(38)				未掘	
843	D	長円形	(112)	(42)				未掘	
844	D	楕円形	(22)	(20)			68 住	未掘	
845	D	楕円形	(58)	(50)			68 住	未掘	
846	D	円形	(30)	(28)				未掘	
847	D	円形	(32)	(30)				未掘	
848	D	円形	(20)	(20)				未掘	
849	D	円形	(40)	(38)				未掘	
850	D	円形	(22)	(20)				未掘	
851	D	円形	(25)	(24)				未掘	
852	D	長円形	(96)	(33)				未掘	
853	D	円形	(16)	(16)				未掘	
854	D	円形	(22)	(18)				未掘	
855	D	楕円形	(134)	(81)				未掘	
856	D	楕円形	(32)	(27)				未掘	
857	D	円形	(38)	(35)				未掘	
858	D	円形	(32)	(30)				未掘	
859	D	楕円形	(38)	(30)				未掘	
860	D	円形	(34)	(34)				未掘	
861	D	円形	(52)	(46)				未掘	
862	D	円形	(45)	(40)				未掘	
863	D	円形	(33)	(32)				未掘	
864	D	円形	(58)	(57)				未掘	
865	D	円形	(29)	(28)				未掘	
866	D	楕円形	(36)	(28)				未掘	
867	D	楕円形	(36)	(30)				未掘	
868	D	楕円形	(30)	(24)				未掘	
869	D	円形	(30)	(30)				未掘	
870	D	円形	(50)	(50)				未掘	
871	D	円形	(18)	(17)				未掘	
872	D	円形	(36)	(34)				未掘	
873	D	円形	(22)	(20)				未掘	
874	D	円形	(48)	(46)				未掘	
875	D	円形	(24)	(22)		上 876		未掘	
876	D	楕円形	(44)	(36)			上 875	未掘	
877	D	円形	(19)	(17)				未掘	
878	D	円形	(19)	(17)				未掘	
879	D	円形	(20)	(19)				未掘	
880	D	楕円形	(40)	(34)				未掘	
881	D	円形	(22)	(20)				未掘	
882	D	楕円形	(44)	(26)				未掘	
883	D	楕円形	(54)	(32)				未掘	
884	D	楕円形	(38)	(28)				未掘	
885	D	円形	(22)	(20)				未掘	
886	D	楕円形	(54)	(46)				未掘	
887	D	円形	(36)	(34)				未掘	

土坑No	地区	平面形	規模 <cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
888	D	楕円形	(21)	(16)				未測	
889	D	円形	(10)	(9)				未測	
890	D	楕円形	(34)	(26)				未測	
891	D	楕円形	(20)	(19)			97 住	未測	
892	D	楕円形	(23)	(18)				未測	
893	D	楕円形	(178)	(64)				未測	
894	D	円形	(24)	(23)				未測	
895	D	円形	(9)	(8)				未測	
896	D	円形	(16)	(15)				未測	
897	D	円形	(219)	(19)				未測	
898	D	楕円形	(26)	(18)				未測	
899	D	円形	(16)	(15)				未測	
900	D	円形	(34)	(30)				未測	
901	D	円形	(26)	(25)				未測	
902	D	楕円形	(40)	(28)				未測	
903	D	楕円形	(42)	(34)				未測	
904	欠番								
905	D	楕円形	(59)	(50)				未測	
906	D	円形	(36)	(33)				未測	
907	D	楕円形	(84)	(56)			79 住	未測	
908	D	円形	(34)	(30)				未測	
909	D	円形	(46)	(40)				未測	
910	D	円形	(24)	(23)				未測	
911	D	円形	(38)	(20)			上 912	未測	
912	D	円形	(61)	(59)		上 911		未測	
913	D	円形	(16)	(14)				未測	
914	D	円形	(18)	(17)				未測	
915	D	円形	(38)	(36)				未測	
916	D	長円形	(282)	(56)				未測	
917	D	円形	(28)	(22)			80 住	未測	
918	D	楕円形	(28)	(28)				未測	
919	D	楕円形	(28)	(14)			92 住	未測	
920	D	円形	(19)	(18)				未測	
921	D	円形	(22)	(19)				未測	
922	D	楕円形	(30)	(21)				未測	
923	D	円形	(38)	(36)				未測	
924	D	長円形	(84)	(43)				未測	
925	D	楕円形	(78)	(46)				未測	
926	D	楕円形	(78)	(28)				未測	
927	D	円形	(16)	(14)				未測	
928	D	楕円形	(60)	(46)				未測	
929	D	円形	(18)	(18)				未測	
930	D	円形	(12)	(12)				未測	
931	D	円形	(26)	(22)				未測	
932	D	楕円形	(44)	(40)			108 住	未測	
933	D	円形	(76)	(36)			114 住	未測	
934	D	隅丸方形	(142)	(68)			114 住	未測	
935	D	楕円形	(62)	(30)				未測	
936	D	隅丸方形	(98)	(38)			119 住	未測	
937	F	円形	(54)	(52)				未測	
938	F	楕円形	(72)	(60)				未測	
939	F	円形	(26)	(24)		溝 4		未測	
940	F	楕円形	(26)	(20)		溝 4		未測	
941	F	円形	(29)	(28)		溝 4		未測	
942	F	楕円形	(50)	(28)		溝 4		未測	
943	F	円形	(25)	(25)		溝 4		未測	
944	F	楕円形	(28)	(20)				未測	
945	F	楕円形	(96)	(84)				未測	
946	F	楕円形	(184)	(60)				未測	
947	F	円形	(44)	(39)				未測	
948	F	楕円形	(44)	(31)				未測	
949	F	円形	(28)	(28)				未測	
950	F	楕円形?	(135)	(90)			129 住	未測	
951	F	楕円形	(73)	(48)				未測	
952	G	楕円形	(54)	(46)				未測	
953	G	円形	(21)	(20)				未測	
954	G	円形	(35)	(20)		溝 6		未測	
955	G	楕円形	(50)	(36)		溝 6		未測	
956	G	円形	(40)	(38)		溝 6		未測	

土坑No	地区	平面形	規模 <cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
957	G	円形	(12)	(11)		上 958		未掘	
958	G	円形	(22)	(12)		溝 6	上 957	未掘	
959	G	円形	(34)	(12)		溝 6		未掘	
960	G	楕円形	(42)	(34)		溝 6	上 962	未掘	
961	G	楕円形	(172)	(90)		溝 6		未掘	
962	G	円形?	(10)	(5)		上 960		未掘	
963	G	円形	(20)	(20)				未掘	
964	G	円形	(80)	(40)				未掘	
965	G	円形	(30)	(20)				未掘	
966	G	楕円形	(50)	(30)				未掘	
967	G	長円形	(140)	(70)				未掘	
968	G	円形	(30)	(30)				未掘	
969	G	円形	(40)	(40)		溝 10		未掘	
970	H	円形	(84)	(40)				未掘	
971	H	楕円形	(138)	(116)				未掘	
972	H	円形	(68)	(66)				未掘	
973	H	円形	(82)	(72)				未掘	
974	H	円形	(32)	(31)				未掘	
975	H	円形	(48)	(46)				未掘	
976	H	円形	(42)	(38)				未掘	
977	H	楕円形	(188)	(120)				未掘	
978	H	円形	(70)	(70)				未掘	
979	H	円形	(22)	(21)				未掘	
980	H	楕円形	(58)	(51)				未掘	
981	H	円形?	(30)	(10)				未掘	
982	H	楕円形	(52)	(42)			141 住	未掘	
983	H	円形	(64)	(60)				未掘	
984	H	円形	(26)	(24)				未掘	
985	H	円形	(28)	(26)				未掘	
986	H	楕円形	(38)	(50)				未掘	
987	H	円形	(34)	(28)				未掘	
988	I	円形	(20)	(20)				未掘	
989	I	円形	(30)	(30)				未掘	
990	I	円形	(50)	(30)				未掘	
991	I	楕円形	(40)	(30)				未掘	
992	I	円形	(30)	(25)				未掘	
993	J	円形	(28)	(24)				未掘	
994	J	楕円形	(55)	(45)				未掘	
995	J	円形	(49)	(48)				未掘	
996	J	円形	(44)	(38)				未掘	
997	J	円形	(46)	(44)				未掘	
998	J	円形	(39)	(38)				未掘	
999	J	円形	(41)	(38)				未掘	
1000	J	楕円形	(50)	(42)		溝 5		未掘	
1001	J	楕円形	(62)	(54)		溝 5		未掘	
1002	J	円形?	(52)	(21)				未掘	
1003	J	楕円形	(48)	(39)				未掘	
1004	K	円形	(21)	(20)				未掘	
1005	K	円形	(36)	(33)				未掘	
1006	K	楕円形	(40)	(31)				未掘	
1007	K	円形	(23)	(23)				未掘	
1008	K	円形	(36)	(34)				未掘	
1009	K	楕円形	(68)	(45)				未掘	
1010	K	楕円形	(117)	(55)				未掘	
1011	K	楕円形	(61)	(46)				未掘	
1012	K	楕円形	(54)	(36)				未掘	
1013	K	円形	(53)	(44)				未掘	
1014	K	円形	(33)	(30)				未掘	
1015	L	楕円形	(66)	(50)				未掘	
1016	L	楕円形	(28)	(20)				未掘	
1017	L	円形	(43)	(42)				未掘	
1018	L	円形	(36)	(35)				未掘	
1019	L	楕円形?	(50)	(18)				未掘	
1020	L	楕円形	(136)	(114)				未掘	
1021	L	楕円形	(82)	(106)			157 住	未掘	
1022	L	楕円形	(55)	(40)		溝 14		未掘	
1023	L	長円形	(172)	(43)				未掘	
1024	L	楕円形	(68)	(51)				未掘	
1025	L	楕円形	(64)	(42)				未掘	

土坑No	地区	平面形	規模 <cm>			新旧関係		出土遺物	備考
			長径	短径	深さ	本址より旧	本址より新		
1026	L	楕円形	(43)	(30)				未掘	
1027	L	円形	(62)	(54)				未掘	
1028	L	楕円形	(32)	(24)		上 1030		未掘	
1029	L	楕円形	(26)	(21)		上 1030		未掘	
1030	L	隅丸方形	(164)	(153)			上 1028・1029	未掘	
1031	L	円形	(27)	(26)				未掘	
1032	L	長円形	(164)	(50)				未掘	
1033	L	円形	(104)	(100)				未掘	
1034	L	楕円形	(66)	(53)				未掘	
1035	L	円形	(36)	(32)				未掘	
1036	M	円形	(20)	(20)				未掘	
1037	M	円形	(20)	(18)				未掘	
1038	M	円形	(22)	(22)				未掘	
1039	M	円形	(22)	(21)				未掘	
1040	M	円形	(12)	(11)				未掘	
1041	M	円形	(17)	(16)				未掘	
1042	M	楕円形	(26)	(14)				未掘	
1043	M	楕円形	(18)	(11)				未掘	
1044	M	円形	(18)	(16)				未掘	
1045	M	円形	(18)	(18)				未掘	
1046	M	円形	(24)	(22)				未掘	
1047	M	円形	(25)	(16)				未掘	
1048	M	楕円形	(20)	(18)				未掘	
1049	M	円形	(18)	(16)				未掘	
1050	M	円形	(16)	(16)				未掘	
1051	M	円形	(18)	(18)				未掘	
1052	M	円形	(18)	(16)				未掘	
1053	M	円形	(20)	(20)				未掘	
1054	M	円形	(24)	(20)				未掘	
1055	M	円形	(20)	(18)				未掘	
1056	M	円形	(21)	(21)				未掘	
1057	M	円形	(16)	(16)				未掘	
1058	M	円形	(21)	(13)				未掘	
1059	M	楕円形	(21)	(16)				未掘	
1060	M	円形	(15)	(14)				未掘	
1061	M	円形	(28)	(28)				未掘	
1062	M	円形	(18)	(16)				未掘	
1063	M	円形	(39)	(36)				未掘	
1064	M	円形	(35)	(20)			167 住	未掘	
1065	M	円形	(18)	(16)				未掘	
1066	D	円形	(30)	(28)				未掘	
1067	B	円形	22	22	8				
1068	B	楕円形	24	18	15				
1069	B	円形	28	24	8				
1070	B	円形	30	28	8				
1071	B	円形	24	22	7				
1072	B	円形	22	22	11				
1073	B	円形	14	14	22				
1074	B	円形	16	15	11				
1075	B	円形	16	16	9				
1076	B	円形	26	26	15				
1077	C					土 362・1078		壁面観察	
1078	C					土 362	土 1077	壁面観察	
1079	M	楕円形	22	16	14				
1080	M	円形	32	26	16				
1081	M					164 住	163 住	壁面観察	
1082	L	円形?	42	<20>					

測量数値

< > : 残存値, () : 推定値

第5表 土器観察表

図号	出土地点	種別	器種 器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考
				口径	底径	器高	口径	底部		
1	14住	土	杯	(11.2)	5.8	3.3	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回系	
2	14住	土	杯	(10.0)	5.0	3.3	3/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回系	
3	14住	黒A	碗	(13.4)	6.4	6.05	わずか	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ(輪)黒、底回系	
4	14住	灰	碗	15.4	8.3	5.05	1/2	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、内コナナデ、外回ケ、漬掛け	
5	14住	灰	碗	(12.6)	7.3	3.9	3/8	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重破面
6	14住	灰	碗	(15.4)	(10.2)	5.3	1/4	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重破面
7	14住	灰	碗	(15.6)	8.0	4.6	1/4	5/8	ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	内重破面
8	14住	灰	段皿	(13.6)	(8.2)	2.6	1/10	1/8	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重
9	14住	土	瓶	(21.6)	20.0	23.1	1/3	2/3	口縁ヨコ、ナデ→磨減、外工具	
10	15住	須	杯A	(15.2)	6.8	4.9	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底ケズリ	
11	15住	須	杯A		8.0			完	ロクロ、口縁ヨコ、底ケズリ	
12	15住	土	盃B		7.2			1/2	工具、底木葉痕→ナデ	
13	17住	灰	碗	(14.3)	(6.2)	5.25	1/10	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回系、漬掛け	
14	18住	土	杯	(13.5)	6.8	4.15	わずか	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回系	
15	18住	土	杯	(12.1)	(4.8)	3.85	1/8	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回系、内黒面	
16	18住	土	杯	13.9	6.5	3.75	3/5	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底回系	履、種子圧痕
17	18住	土	杯	8.6	4.1	1.8	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回系→ナデ、黒面	
18	18住	土	皿	8.7	4.8	1.2	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回系	
19	18住	土	皿	16.6	6.4	3.6	3/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回系	履
20	18住	土	盃B	(9.2)	4.8	2.7	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回系、内黒面	
21	18住	黒A	碗	(10.4)	5.2	3.65	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回系	
22	18住	黒A	碗	10.5	5.45	4.0	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒	
23	18住	黒A	碗	11.2	5.6	3.8	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回系	
24	18住	灰	碗	14.2	6.6	4.85	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コナナデ、漬掛け	内重破面
25	18住	灰	碗	15.1	6.9	6.0	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回系→ナデ、漬掛け	タール、内自然輪、内重破面
26	18住	土	羽釜B	(31.1)			1/4		ナデ、内脂面圧痕、外工具→ケズリ	外履
27	19住	土	碗	10.3			1/3		ロクロ、口縁ヨコ	
28	20住	灰	皿	(9.8)	5.25	2.2	1/3	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回系、漬掛け	
29	21住	土	杯	(10.0)	(4.1)	2.1	3/8	わずか	ロクロ、口縁ヨコ、底回系	
30	21住	土	杯	(10.0)	5.9	2.25	わずか	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回系	外タール
31	21住	土	杯	(14.0)	(5.8)	4.1	3/8	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回系	履
32	21住	土	杯	(13.9)	5.3	4.85	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回系	履、外タール
33	21住	土	皿	10.3	4.7	1.2	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回系	
34	21住	土	皿	(18.3)	7.7	4.6	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回系	
35	21住	灰	碗	(11.8)	(7.5)	2.7	1/6	1/8	ロクロ、口縁ヨコ、底回系、漬掛け	
36	21住	灰	碗	14.4	7.2	5.4	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
37	22住	土	盃B	22.1	(9.4)	29.85	3/4	1/2	口縁ヨコ→内カキ、内ナデ、外ハケ、底ナデ	外履
38	23住	土	杯	10.15	5.15	3.15	2/3	完	ロクロ→磨減、口縁ヨコ→磨減、底回系→磨減	
39	23住	土	杯	(9.6)	3.2	3.3	1/5	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底回系→磨減	
40	23住	土	杯	(11.4)	(5.5)	3.4	1/6	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回系	内履
41	23住	土	盃B	(15.4)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ	
42	23住	黒A	碗	(15.8)			1/7		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒	
43	23住	灰	碗	10.45	(5.4)	3.95	2/3	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ(輪)黒	
44	23住	灰	碗	(13.05)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
45	23住	灰	碗	(15.25)	7.45	7.3	1/2	11/12	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
46	23住	灰	碗	15.65			2/3		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ→ナデ、漬掛け	内自然輪
47	23住	灰	段皿	(14.8)	(7.9)	2.6	1/3	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
48	24住	土	杯	(10.8)	(6.9)	2.9	わずか	わずか	ロクロ、口縁ヨコ、底回系	
49	24住	黒A	碗	(12.6)			わずか	わずか	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒	
50	24住	灰	碗	(8.2)			わずか	わずか	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
51	25住	土	杯	(11.0)	5.4	2.8	わずか	1/6	ロクロ、口縁ヨコ、底回系	
52	25住	土	碗	(12.6)			1/2		ロクロ、口縁ヨコ	
53	25住	灰	碗	(14.2)	7.6	5.4	わずか	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回系、漬掛け	内重破面、タール
54	25住	灰	碗	(15.4)	(7.4)	4.9	1/3	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回系、漬掛け	内重破面
55	25住	灰	段皿	(13.2)	(7.6)	2.3	1/4	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
56	26住	土	杯	12.3	5.2	3.4	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回系	
57	26住	土	杯 or 碗	(13.8)			1/8		ロクロー磨減、口縁ヨコ→磨減	
58	27住	土	杯	12.8	5.9	3.7	8/9	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回系	履
59	27住	土	杯	12.3	5.0	2.5	5/6	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回系	
60	27住	土	杯	(13.2)	(5.2)	3.25	2/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回系	
61	27住	土	杯	13.7	6.0	4.4	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回系	
62	27住	土	杯	13.6	5.5	4.3	7/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回系	
63	27住	黒A	杯	12.7	4.9	3.8	1/4	7/8	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒板、底回系	外履
64	27住	灰	碗	(14.6)	7.7	4.4	1/20	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
65	27住	緑	碗	(17.6)			1/5		ロクロ、口縁ヨコ、ミガキ、輪花、胎痕(黄緑)淡濁	
66	27住	土	小型盃D	(11.4)	7.0	10.45	1/6	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回系	
67	28住	土	杯	(9.85)	4.65	3.0	1/6	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回系	
68	28住	土	杯 or 碗	(14.0)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ	
69	28住	須	杯B	(14.7)	(10.1)	3.6	5/16	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ	
70	28住	灰	碗		8.4			1/8	ロクロ、外回ケ、漬掛け	内重破面
71	28住	土	小型盃	(16.3)			1/8		口縁ヨコ、内工具、外タテハケ	

図号	出土 地品	種別	掘輪 器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考
				口径	底径	器高	口縁	底部		
72	29住	黒A	杯	12.2	6.0	3.3	1/2	2/3	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
73	29住	土	甕C	19.7			1/2		内ナデ、外ケヅリ	
74	30住	土	杯	12.7	5.8	4.3	完		ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→ナデ	ターム、口縁 切りこみ(後)
75	30住	土	杯	(11.2)	4.7	3.8	1/12	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
76	30住	軟	杯	(13.2)	(6.4)	3.8	わずか	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
77	30住	黒A	杯	13.3	5.0	4.1	2/3	7/8	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
78	30住	黒A	碗	(14.0)			1/2		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
79	30住	黒A	皿	(13.4)			1/6		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
80	30住	土	甕B	(24.0)			1/3		口縁ヨコ→内方キ、内工具→ナデ、外タテハケ	
81	31住	黒A	杯	(12.8)	5.35	4.0	わずか	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
82	31住	灰	碗	(16.9)	(8.2)	5.45	1/8	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
83	31住	灰	碗	(16.25)	9.1	4.85	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ→ナデ、漬掛け	底黒書
84	31住	土	甕B	(20.5)			1/6		口縁ヨコ→内方キ、内ナデ、外タテハケ	
85	32住	土	杯	15.2	5.8	4.35	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
86	32住	黒A	杯	13.5	6.8	3.95	1/3	4/5	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
87	32住	軟	杯	14.2	5.8	3.7	1/4	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
88	32住	軟	杯	13.1	5.3	4.0	完		ロクロ、口縁ヨコ、内コナデ、底回糸	外黒
89	32住	軟	杯	(12.8)	5.4	3.3	1/12	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
90	32住	軟	杯	13.0	6.4	2.8	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、黒書	
91	32住	灰	碗	17.0	7.0	5.7	4/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ→ナデ、ハケ塗り	
92	32住	灰	碗	(15.0)	6.4	5.3	1/2	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ→ナデ、漬掛け	内黒・重焼痕 内重焼痕
93	32住	灰	皿	(14.6)	(7.0)	3.1	1/8	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
94	32住	灰	耳皿	11.6	4.6	2.1	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	内方キ仕痕?
95	32住	灰	長指皿		4.8		完		ロクロ、底回糸→ナデ、漬掛け	
96	32住	土	小型甕D	12.7	7.2	14.1	4/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、外方キ→工具、底回糸	
97	32住	土	小型甕D	(14.1)	8.4	14.1	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ→内方キ、外方キ→工具、底回糸	
98	32住	土	甕B	23.4			7/8		口縁ヨコ→内方キ、内工具、外タテハケ→工具	
99	34住	黒A	杯	(13.0)	6.0	4.1	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コナデ、内ミ(輪)黒、底回糸	
100	34住	黒A	杯	12.7	5.8	4.0	7/12	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	外黒
101	34住	黒A	杯	(12.2)	4.6	4.9	1/6	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
102	34住	黒A	碗	14.5			9/10		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
103	34住	黒A	皿	13.5	6.2	2.9	5/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
104	34住	須	甕or 甕		(16.0)			1/10	ロクロ、口縁ヨコ、高台透かし	
105	34住	黒A	鉢	(23.2)			1/12		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒	
106	34住	土	小型甕D	14.2			1/2		ロクロ、口縁ヨコ→内方キ、内工具、外方キ	内重焼痕
107	34住	灰	碗	14.2	6.9	4.4	5/8	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
108	34住	土	甕B	21.4	9.2	32.0	1/3	1/3	口縁ヨコ→内方キ→内工具、内ナデ、外タテハケ、外・底ケヅリ	
109	35住	土	杯	12.75	6.1	3.5	3/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	黒
110	35住	土	杯	(12.0)	5.8	3.1	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
111	35住	土	杯	13.0	5.65	3.8	1/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
112	35住	黒A	杯	(12.6)	5.4	4.1	1/10	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
113	35住	黒A	皿	12.8	5.8	2.4	1/12	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
114	35住	須	碗		(5.2)			1/2	ロクロ、底回糸	
115	35住	灰	碗	(14.2)	(7.0)	3.9	わずか	3/5	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	高台種子仕痕?
116	35住	灰	碗	16.6	8.0	5.7	1/6	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、輪花、漬掛け	内重焼痕
117	35住	灰	碗	(15.6)			1/3		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
118	35住	緑	皿	(13.8)	(6.0)	2.7	1/4	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、塗粉(濃緑)/輪花	
119	35住	土	甕B	(25.2)			1/8		口縁ヨコ→内方キ→甕減、内ナデ→工具、外タテハケ	
120	36住	土	杯or 碗	(12.2)			1/6		ロクロ→甕減、口縁ヨコ→甕減	
121	37住	黒A	杯	(12.2)	(6.0)	4.6	1/3	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
122	37住	黒A	杯	(14.0)	(6.2)	4.2	1/4	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
123	37住	黒A	杯	(14.1)	(5.9)	4.45	1/8	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
124	37住	黒A	杯	(14.6)	(6.6)	4.0	1/3	1/3	ロクロ→甕減、口縁ヨコ、内ミ黒脱、底回糸	
125	37住	黒A	碗	(16.8)	(7.3)	7.15	1/12	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸→甕減	
126	37住	黒A	碗	14.9	7.4	5.0	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸→甕減	
127	37住	黒A	皿	(13.4)	(6.6)	3.2	1/7	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
128	37住	須	碗	(14.2)	(6.6)	5.1	1/9	2/5	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
129	37住	軟	杯	(13.2)	(6.0)	3.9	1/9	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
130	37住	灰	碗	(10.3)	(5.6)	3.5	1/3	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、ハケ塗り	
131	37住	灰	小皿		(5.4)			1/4	ロクロ、外回ケ、ハケ塗り	
132	37住	須	長指皿	5.1	5.15	10.8	完		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ	自然釉
133	37住	須	短指皿	(9.8)			わずか		ロクロ、口縁ヨコ、外方キ、外回ケ	内自然釉
134	37住	灰	蓋						ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、ハケ塗り	内重焼痕
135	37住	土	甕B	(22.7)			2/3		口縁ヨコ→内方キ、内ナデ→工具、外タテハケ	
136	38住	黒A	碗		(6.6)			1/8	ロクロ、内ミ黒、外回ケ	
137	38住	灰	碗		9.6			完	ロクロ、外回ケ、ハケ塗り	内重焼痕
138	38住	土	甕B	(21.0)	10.0	32.0	1/5	9/10	口縁ヨコ→内方キ、内工具→ナデ、外タテハケ→工具→ケヅリ、 底ケツリ	
139	39住	土	杯	11.0	4.7	3.0	4/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
140	39住	土	杯	11.1	4.65	3.2	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
141	39住	土	碗	14.0	6.6	5.15	完	完	ロクロ、口縁ヨコ	
142	39住	灰	碗	(19.05)	(8.8)	5.95	2/5	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、輪花、漬掛け	重焼痕 内自然釉、外 重焼痕
143	39住	灰	蓋		(10.55)			2/5	ロクロ、外回ケ、漬掛け	
144	40住	須	杯A	(11.95)	(5.05)	3.1	1/4	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	

図No.	出土 地点	種類	器輪 器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考
				口径	底径	器高	口縁	底部		
145	40住	甕	杯A	(12.4)	6.1	3.85	1/8	完	ロクロ、口縁ゴコ、底削糸	
146	40住	甕	杯A	13.65	5.85	3.75	完	完	ロクロ、口縁ゴコ、底削糸	
147	40住	甕	長頸甕	(9.05)			1/2	完	ロクロ、口縁ゴコ	外自然釉
148	41住	土	杯		5.55			4/5	ロクロ、口縁ゴコ、底削糸	
149	41住	土	杯A	(11.1)		2.85	1/6	1/4	ロクロ、口縁ゴコ、底削糸	
150	41住	灰	皿	(12.65)	(6.4)	2.5	1/16	1/2	ロクロ、口縁ゴコ、外削テ→ナデ、漬掛け	内重灰釉 煤
151	41住	土	甕B	22.75	9.2	32.35	3/5	完	口縁ゴコ→内カキ、内削テ→直、外タテハケ	
152	42住	黒A	杯		(7.5)			1/5	ロクロ、内ミ(輪)黒、底削糸	外彫削
153	42住	黒A	杯	12.6	(5.5)	4.3	1/12	3/4	ロクロ、口縁ゴコ、内ミ黒、底削糸	
154	42住	黒A	杯	15.9	7.05	5.1	2/3	完	ロクロ、口縁ゴコ、内ミ黒、底削糸	
155	42住	黒A	皿	13.5	6.0	2.8	3/4	完	ロクロ、口縁ゴコ、内ミ黒、底削糸	
156	42住	甕	杯A	(13.9)	6.35	3.6	1/4	完	ロクロ、口縁ゴコ、底削糸	
157	42住	灰	段皿	(16.25)	(7.85)	3.65	わずか	1/3	ロクロ、口縁ゴコ、外削テ、漬掛け	
158	43住	黒A	碗	14.8	(6.9)	5.7	1/8	1/3	ロクロ、口縁ゴコ、内ミ(輪)黒、底削糸	
159	43住	黒A	碗	15.9	6.8	6.1	1/2	完	ロクロ、口縁ゴコ、内ミ黒、底削糸	外・底煤
160	43住	土	杯	(10.1)	4.1	3.9	1/6	完	ロクロ、口縁ゴコ、底削糸	
161	43住	土	杯	(11.3)	5.8	3.4	1/3	完	ロクロ、口縁ゴコ、底削糸	タール
162	43住	土	杯	11.4	5.1	3.4	完	完	ロクロ、口縁ゴコ、底削糸	内・底煤
163	43住	土	杯	(11.4)	6.1	2.9	1/2	7/8	ロクロ、口縁ゴコ、底削糸	煤
164	43住	土	杯	12.5	4.8	3.8	1/2	完	ロクロ、口縁ゴコ、底削糸	
165	43住	土	杯	11.1	6.25	2.75	完	完	ロクロ、口縁ゴコ、底削糸	
166	43住	土	杯	(12.4)	(6.4)	3.2	1/2	完	ロクロ、口縁ゴコ、底削糸	タール
167	43住	土	杯	(12.7)	(5.0)	3.3	3/4	1/4	ロクロ、口縁ゴコ、底削糸	
168	43住	土	杯	(15.9)	7.5	4.75	1/10	完	ロクロ、口縁ゴコ、底削糸	煤
169	43住	土	碗	(14.4)	7.4	5.0	1/4	完	ロクロ、口縁ゴコ、底削糸	煤
170	43住	軟	杯	12.3	4.5	2.9	3/4	完	ロクロ、口縁ゴコ、底削糸	
171	43住	灰	碗	(12.95)	(7.4)	4.2	2/5	1/2	ロクロ、口縁ゴコ、外削テ、漬掛け	
172	43住	灰	碗	(14.1)	8.0	4.6	1/4	完	ロクロ、口縁ゴコ、外削テ、漬掛け	内重灰釉
173	43住	灰	碗	(14.0)	(7.5)	2.9	1/9	1/3	ロクロ、口縁ゴコ、外削テ、漬掛け	
174	43住	灰	皿	14.6	7.0	3.5	3/4	完	ロクロ、口縁ゴコ、外削テ、輪花、漬掛け	
175	44住	土	杯	(12.4)	16.0	3.2	3/8	完	ロクロ、口縁ゴコ、底削糸	穿孔(後)
176	44住	黒A	杯	(15.2)	(5.6)	5.3	1/8	3/8	ロクロ、口縁ゴコ、内ミ黒、底削糸	
177	44住	黒A	杯	(13.0)	5.8	4.4	1/4	完	ロクロ、口縁ゴコ、内ミ黒、底削糸	
178	44住	黒A	皿	12.6	6.5	2.8	完	完	ロクロ、口縁ゴコ、内ミ黒、底削糸	
179	44住	黒A	皿	(13.2)	5.4	2.8	1/4	完	ロクロ、口縁ゴコ、内ミ黒	
180	44住	甕	杯	(14.2)	6.5	3.7	わずか	3/4	ロクロ、口縁ゴコ、底削糸	
181	44住	灰	碗	(14.6)			1/8	1/8	ロクロ、口縁ゴコ、ハケ塗り	
182	44住	灰	碗	15.4	7.2	2.1	3/4	完	ロクロ、口縁ゴコ、外削テ、漬掛け	
183	44住	緑	碗		7.2		完	完	ロクロ、外削テ、無輪(口縁)→刷灰	トチン復
184	44住	緑	碗	18.7	9.7	7.3	1/2	完	ロクロ、口縁ゴコ、内ミガキ、外削テ→ミガキ、輪花、裏地/灰 口ろ、口縁ゴコ、内ミガキ、外削テ→ミガキ、輪花、無輪(輪 の彩施したいめ不明)→灰	
185	44住	緑	碗	(22.6)			1/16			
186	44住	土	甕B	20.0	8.9	33.1	完	完	口縁ゴコ→内カキ、内ナデ→指頭直、外タテハケ、底ナデ	
187	44住	土	鍋	(33.6)	(8.2)	16.9	1/4	1/2	口縁ゴコ→内カキ、内ナデ・工具、外ハケ→カキ→ナデ、外ケス リ	
188	45住	土	杯or碗	(14.1)			1/8		ロクロ→磨炭、口縁ゴコ	
189	45住	黒A	杯?	(13.0)			1/8		ロクロ、口縁ゴコ、内ミ黒	
190	46住	黒A	碗		8.0			1/2	内ミ黒、底削糸	
191	46住	灰	碗	13.5	6.55	4.1	1/2	完	ロクロ、口縁ゴコ、漬掛け	
192	46住	灰	碗	13.6	7.2	3.0	1/2	1/2	ロクロ、口縁ゴコ、外削テ、漬掛け	
193	47住	土	甕		(8.2)			1/2	ロクロ、底削糸	
194	47住	土	甕	(16.0)			1/8		口縁ゴコ→工具	工具
195	49住	黒A	杯	12.5	4.5	4.1	3/4	完	ロクロ、口縁ゴコ、内ミ黒、底削糸、外黒焼	
196	49住	黒A	杯	16.0	6.6	5.6	完	完	ロクロ、口縁ゴコ、内ミ黒、底削糸	
197	49住	土	甕B	(22.0)			わずか		口縁ゴコ→内カキ、内ナデ、内削テ直、外タテハケ	
198	50住	土	甕B	(25.9)			1/4		口縁ゴコ→内カキ、ロクロ?→磨炭	
199	50住	土	杯	(13.0)			1/16		ロクロ、口縁ゴコ	
200	50住	土	杯or碗	(10.0)			1/6		ロクロ、口縁ゴコ	穿孔(後)
201	50住	土	碗	(14.2)	6.3	4.3	3/8	完	ロクロ、口縁ゴコ、底削糸	
202	50住	黒A	杯or碗	(12.6)			1/8		ロクロ、口縁ゴコ、内ミ黒	
203	50住	灰	碗	(13.0)	(7.1)	3.0	1/16	2/3	ロクロ、口縁ゴコ、外削テ、漬掛け	
204	51住	土	杯	(11.4)	6.05	3.25	わずか	完	ロクロ、口縁ゴコ、底削糸→ナデ	
205	51住	土	杯	14.95	6.2	4.55	3/4	完	ロクロ、口縁ゴコ、底削糸→ナデ	内腹
206	51住	灰	半碗	16.75	8.6	5.8	1/2	4/5	ロクロ、口縁ゴコ、外削テ、漬掛け	内重灰釉
207	51住	灰	半碗						ロクロ、口縁ゴコ、ハケ塗り?	自然釉
208	53住	土	杯	9.5	5.0	1.5	1/3	完	ロクロ、口縁ゴコ、底削糸	穿孔(後)
209	53住	土	杯	(9.0)	4.6	1.4	1/4	1/2	ロクロ、口縁ゴコ、底削糸	
210	53住	土	杯	9.7	5.2	1.5	1/3	完	ロクロ、口縁ゴコ、底削糸→ナデ	
211	53住	土	杯	(13.4)	(5.9)	4.0	1/3	3/4	ロクロ、口縁ゴコ、底削糸	
212	53住	土	杯	14.6	6.6	3.9	完	完	ロクロ、口縁ゴコ、底削糸	内腹
213	53住	土	碗	13.8	6.6	4.9	完	完	ロクロ→内ナデ、口縁ゴコ、底削糸	
214	53住	土	甕	(9.8)	(4.4)	1.35	1/4	1/4	ロクロ、口縁ゴコ、底削糸	
215	53住	土	甕B	10.5	5.1	2.2	完	完	ロクロ、口縁ゴコ	
216	53住	土	甕?	(9.5)	4.7	3.0	2/3	完	ロクロ、口縁ゴコ、底削糸	
217	53住	土	甕B		10.3			3/4	ロクロ	

採出地	採出地	種別	掘輪器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考
				上径	底径	掘高	上縁	底縁		
218	53住	黒A	筒	10.1	5.5	3.6	完		ロクロ、上縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	上縁タール
219	53住	黒A	筒						ロクロ、内ミ(暗)黒、底回糸	
220	53住	黒A	筒	(18.2)			1/5		ロクロ、上縁ヨコ、内ミ黒	
221	53住	灰	筒	(13.0)	(6.0)	5.0	1/2	1/4	ロクロ、上縁ヨコ、外回ケ、輪花、漬掛け	
222	53住	灰	筒	14.1	7.3	6.3	3/4	完	ロクロ、上縁ヨコ、底回糸、漬掛け	内重鉄砲
223	53住	灰	筒	(14.7)			1/16		ロクロ、上縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
224	53住	灰	段皿	(10.9)	6.2	2.1	1/3	完	ロクロ、上縁ヨコ、底回糸、漬掛け	
225	54住	土	盤B	(14.0)			1/5		ロクロ、上縁ヨコ	
226	55住	土	杯	(9.25)	(5.1)	2.4	1/6	1/5	ロクロ、上縁ヨコ、底回糸	
227	55住	土	杯		(5.0)		2/5		ロクロ→磨滅、底回糸	
228	55住	黒A	筒		6.9				ロクロ、内ミ(暗)黒、底ナデ→擦痕	
229	55住	灰	筒	(16.8)				1/12	ロクロ、上縁ヨコ、漬掛け	
230	55住	灰	筒		(7.7)			1/4	ロクロ、底回糸、漬掛け	
231	56住	黒	杯	(15.4)				1/12	ロクロ、上縁ヨコ	
232	56住	灰	筒?						ロクロ、外回ケ、漬掛け	内煤
233	57住	土	杯	(9.8)	(5.0)	3.3	1/26	2/3	ロクロ、上縁ヨコ、底回糸	
234	57住	黒A	杯or筒	(14.0)			1/6		ロクロ、上縁ヨコ、内ミ黒→磨滅	
235	57住	灰	筒		(8.8)			2/5	ロクロ、外回ケ、漬掛け	内重鉄砲
236	57住	灰	筒	(14.6)			1/10		ロクロ、上縁ヨコ、漬掛け	
237	58住	黒A	杯	(13.3)	5.3	4.15	1/3	完	ロクロ、上縁ヨコ、内コテナデ、内ミ黒、底回糸	
238	58住	黒A	杯	(13.1)	(6.0)	3.6	1/12	2/3	ロクロ、上縁ヨコ、内ミ黒、底回糸→ナデ→磨滅	
239	58住	黒A	筒		7.2			完	ロクロ、内コテナデ、内ミ黒、底回糸	
240	58住	黒A	杯or筒	(15.6)			1/4		ロクロ、上縁ヨコ、内ミ(暗)黒	
241	58住	黒A	筒	(16.6)			1/4		ロクロ、上縁ヨコ、内ミ黒	
242	58住	黒A	鉢	(24.8)	(9.6)	12.5	1/3	1/6	ロクロ、上縁ヨコ、内ミ黒	
243	58住	黒	杯A	(12.8)			1/8		ロクロ、上縁ヨコ	
244	58住	土	磨B		8.7			7/8	外タテハケ、内ナデ、底ナデ→磨滅	
245	59住	黒A	杯or筒	(13.0)			1/5		ロクロ、上縁ヨコ、内ミ黒	
246	59住	黒A	杯	(15.6)	(6.8)	5.5	1/12	1/3	ロクロ、上縁ヨコ、内ミ黒、底回糸→磨滅	
247	59住	黒A	筒		(9.9)			完	ロクロ、内ミ(暗)黒、外回ケ→ナデ	
248	59住	黒A	皿	(12.3)	(6.8)	1.7	1/3	完	ロクロ、上縁ヨコ、底回糸	
249	60住	土	鉢		(5.9)			完	ロクロ、底回糸	
250	60住	土	輪		(6.5)			1/2	ロクロ、底回糸	
251	60住	黒A	杯		(4.9)			1/2	ロクロ、内ミ黒→磨滅、底回糸	
252	60住	黒A	杯		(7.2)			1/2	ロクロ、内ミ黒→磨滅、底回糸	
253	60住	黒A	杯	14.5	4.1	7.0	2/3	完	ロクロ、上縁ヨコ、内ミ黒、底回糸→ナデ	
254	60住	黒A	杯	(16.6)			1/11		ロクロ、上縁ヨコ、内ミ黒	
255	60住	黒A	杯?	(13.5)			1/4		ロクロ、上縁ヨコ、内ミ黒	
256	60住	黒A	筒	(14.2)	(6.4)	5.0	1/4	完	ロクロ→磨滅、上縁ヨコ、内ミ黒、底回糸→磨滅	
257	60住	灰	段皿	(19.6)			1/9		ロクロ、上縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
258	60住	灰	筒	(13.4)			1/10		ロクロ→磨滅、上縁ヨコ、内重煤	
259	60住	灰	筒		(8.8)			2/3	ロクロ、外回ケ、漬掛け	重時痕 重時痕
260	60住	灰	筒or皿		(8.2)			1/3	ロクロ、外回ケ、漬掛け	
261	60住	土	磨B	(22.0)			1/4		上縁ヨコ→内カキ、外タテハケ、内ナデ→脂取止痕	
262	61住	土	杯or筒	(12.2)			1/8		ロクロ、上縁ヨコ	
263	61住	黒A	筒		(7.0)			1/2	ロクロ、内ミ黒、底回糸→磨滅	
264	61住	黒A	杯or筒	(13.8)			1/8		ロクロ、上縁ヨコ、内ミ黒	
265	61住	黒A	筒	(14.6)	(5.1)	4.2	わすか	1/2	ロクロ、上縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
266	61住	黒	杯A		(5.6)			1/3	ロクロ、底回糸	
267	61住	灰	筒	(13.9)	(6.2)	3.8	1/6	2/3	ロクロ、上縁ヨコ、底回糸	
268	61住	灰	筒	(13.6)			1/8		ロクロ、上縁ヨコ	
269	61住	灰	筒	(15.3)			1/7		ロクロ、上縁ヨコ	
270	62住	土	杯	(9.1)	(4.6)	2.6	1/12	完	ロクロ、上縁ヨコ、底回糸	
271	62住	土	杯	(10.4)	5.5	2.6	1/5	7/8	ロクロ→磨滅、上縁ヨコ、底回糸	
272	62住	土	杯	(10.1)	(4.6)	2.8	1/10	1/3	ロクロ、上縁ヨコ、底回糸	
273	62住	土	杯	(12.9)	5.1	4.3	1/7	完	ロクロ、上縁ヨコ、底回糸	
274	62住	土	杯	(12.0)	(5.1)	3.05	1/11	2/3	ロクロ、上縁ヨコ、底回糸	
275	62住	土	盤B	10.5			1/4		ロクロ	
276	62住	土	盤B	10.9	5.6	2.9	3/4	完	ロクロ	
277	62住	土	盤B	10.5	5.8	3.0	3/5	完	ロクロ、上縁ヨコ、底回糸	
278	62住	土	盤B	10.4	5.8	3.15	4/5	完	ロクロ、上縁ヨコ、底回糸→ナデ	
279	62住	土	盤B	(13.3)	(7.0)	5.45	1/5	1/3	ロクロ、上縁ヨコ、底回糸	
280	62住	黒A	筒		(7.5)		1/4		内ミ黒、底ナデ	
281	62住	黒A	筒	10.8	(5.2)	3.8	完	1/5	ロクロ、上縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	上縁タール
282	62住	黒	杯A	(13.3)			1/4		ロクロ、上縁ヨコ、底回糸	
283	62住	灰	筒					1/2	ロクロ、外回ケ、漬掛け	
284	62住	灰	筒		(7.0)			1/2	ロクロ、外回ケ、漬掛け	
285	62住	灰	筒	(11.4)	(6.5)	3.3	1/4	1/12	ロクロ、上縁ヨコ、漬掛け	
286	62住	灰	段皿	(11.0)	6.4	1.6	1/3	完	ロクロ、上縁ヨコ、外回ケ、底回糸、漬掛け	
287	62住	灰	段皿	(11.4)	6.6	2.15	1/4	完	ロクロ、上縁ヨコ、底回糸、漬掛け	
288	62住	灰	筒		(7.3)			完	ロクロ、底回糸→ナデ、漬掛け	底穿孔(後)
289	62住	灰	筒	(14.9)			1/4		ロクロ、上縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
290	62住	灰	筒	(15.0)			1/3		ロクロ、上縁ヨコ、漬掛け	
291	62住	灰	筒	(14.8)	7.5	6.8	1/4	1/2	ロクロ、上縁ヨコ、内コテナデ、外回ケ、漬掛け	

採坑	出土地点	種別	掘輪器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考
				上径	底径	器高	上縁	底縁		
292	62住	鉢	(15.8)	(7.3)	6.6	1/4	2/4	ロクロ、口縁ゴコ、底関係、無輪(濃緑)/灰白		
293	63住	土杯	(10.0)	(5.2)	3.0	1/12	1/2	ロクロ→磨滅、口縁ゴコ、底関係→ナデ		
294	63住	土杯	(10.0)	4.8	2.6	1/4	完	ロクロ、口縁ゴコ、底関係		
295	63住	土杯		(6.0)			1/3	ロクロ、底関係		
296	63住	土盤?		(8.3)			1/2	ロクロ		
297	63住	黒A	碗					ロクロ、内ミ黒長一磨滅、底関係一磨滅		
298	63住	土杯		(7.6)			4/5	内ミ黒		
299	63住	灰	碗	(7.3)			1/2	ロクロ、底関係、漬掛け		
300	63住	灰	碗	(12.6)	5.9	5.05	1/5	完	ロクロ、口縁ゴコ、内コテナデ、外関係、漬掛け	内自然釉
301	63住	灰	碗	(14.6)			1/8	ロクロ、口縁ゴコ、漬掛け		
302	63住	灰	碗	(15.3)			1/3	ロクロ、口縁ゴコ、外関係、漬掛け		
303	63住	灰	皿	(12.0)	(6.3)	2.95	わずか	完	ロクロ、口縁ゴコ、底関係、漬掛け	外履?
304	64住	土杯	土杯	9.9	5.2	2.9	完	完	ロクロ、口縁ゴコ、底関係一磨滅	
305	64住	土杯	土杯	9.1	4.8	2.9	1/2	完	ロクロ、口縁ゴコ、底関係	煤
306	64住	土杯	土杯	9.9	4.8	2.8	1/2	完	ロクロ、口縁ゴコ、底関係	
307	64住	土杯	土杯	(9.1)	4.2	2.5	1/8	完	ロクロ、口縁ゴコ、底関係	
308	64住	土杯	土杯	(9.7)	5.0	2.85	1/8	完	ロクロ、口縁ゴコ、底関係	煤
309	64住	土盤B	10.4	(5.7)	3.1	完	1/2	ロクロ、口縁ゴコ		
310	64住	黒A	碗		6.8		完	ロクロ、内ミ黒、底関係		
311	64住	黒A	碗		6.2		完	ロクロ、内ミ黒、底関係		
312	64住	黒A	碗	(10.4)			1/4	ロクロ、口縁ゴコ、内ミ(輪)黒		
313	64住	灰	碗		5.9		完	ロクロ、外関係、漬掛け		
314	64住	灰	碗	(11.8)	6.0	4.5	1/4	完	ロクロ、口縁ゴコ、内コテナデ、底関係、輪花、漬掛け	
315	64住	灰	碗	(13.6)	7.3	4.2	わずか	1/3	ロクロ、口縁ゴコ、底関係、漬掛け	
316	64住	灰	碗	(14.1)	7.3	4.05	1/3	完	ロクロ、口縁ゴコ、底関係、漬掛け	
317	64住	灰	碗	(15.4)	7.4	5.45	1/4	完	ロクロ、口縁ゴコ、底関係、漬掛け	
318	64住	灰	皿	(11.0)	6.4	2.6	1/3	2/3	ロクロ、口縁ゴコ、底関係、漬掛け	
319	64住	灰	段皿	(14.8)			1/4	ロクロ、口縁ゴコ、漬掛け		
320	64住	黒B	碗	(15.6)			1/4	ロクロ、口縁ゴコ、ミ黒		
321	64住	土	羽釜	(23.9)			1/6	口縁ゴコ、ナデ		
322	65住	土杯	土杯	9.9	5.6	3.1	1/2	完	ロクロ、口縁ゴコ、底関係	
323	65住	土碗		(7.5)			完	ロクロ、底関係		
324	65住	黒A	碗	15.15	7.2	6.4	3/4	7/8	ロクロ、口縁ゴコ、内ミ(輪)黒、底関係→ナデ	
325	66住	土杯	土杯	9.4	4.9	2.4	5/8	完	ロクロ、口縁ゴコ、底関係	
326	66住	土杯	土杯	(11.1)	(5.5)	2.6	わずか	3/8	ロクロ、口縁ゴコ、底関係	内履
327	66住	土碗		(5.2)			1/4	ロクロ、底関係		
328	66住	土碗		5.4			1/2	ロクロ	内タール	
329	66住	土	碗or盤					ロクロ		
330	66住	土皿		9.3	4.0	1.9	7/8	完	ロクロ、口縁ケズリーナデ、底関係	
331	66住	土杯A	(15.2)				1/8	ロクロ、口縁ゴコ		
332	66住	灰	碗		(5.2)		1/8	ロクロ、漬掛け		
333	66住	灰	碗	(12.7)	(7.8)	3.9	わずか	3/8	ロクロ、口縁ゴコ、外関係、漬掛け	内履破損
334	66住	灰	碗	14.6	7.0	6.15	1/2	2/3	ロクロ、口縁ゴコ、底関係、漬掛け	
335	66住	灰	碗	13.5	7.0	5.7	3/4	完	ロクロ、口縁ゴコ、外関係、底関係、漬掛け	
336	66住	灰	皿	(11.9)	6.2	2.75	1/4	2/3	ロクロ、口縁ゴコ、内コテナデ、底関係、漬掛け	
337	66住	緑	碗		(7.0)		わずか	ロクロ、底関係、無輪(濃緑)/明黄釉		
338	66住	黒A	碗		(7.2)		3/8	ロクロ、内ミ(輪)黒、底関係		
339	66住	黒A	碗		4.8		完	ロクロ、内ミ(輪)黒、底関係		
340	66住	土	羽釜					外ナデ、内工具ナデ		
341	67住	土	碗					ロクロ、底関係		
342	67住	灰	碗	(14.4)			1/4	ロクロ、口縁ゴコ、漬掛け		
343	67住	灰	碗	(16.1)	8.0	6.95	1/4	7/8	ロクロ、口縁ゴコ、底関係→ナデ、漬掛け	
344	67住	灰	段皿	(10.4)			1/6	ロクロ、口縁ゴコ、漬掛け		
345	68住	灰	碗		(6.4)			1/4	ロクロ、外関係、漬掛け	
346	68住	灰	碗	(11.5)	(6.6)	3.25	わずか	1/3	ロクロ、口縁ゴコ、内コテナデ、漬掛け	
347	69住	土杯	土杯	(9.9)	(4.5)	2.7	1/5	完	ロクロ、口縁ゴコ、底関係	
348	69住	土杯	土杯	(9.5)	5.8	3.0	1/4	完	ロクロ、口縁ゴコ	
349	69住	土杯	土杯	(10.6)	(4.8)	2.15	1/5	3/4	ロクロ、口縁ゴコ、底関係	
350	69住	土盤?		6.4			完	ロクロ→磨滅		
351	69住	黒A	碗	10.3	4.8	4.2	3/4	完	ロクロ→磨滅、口縁ゴコ、内ミ黒、底関係	タール
352	69住	黒A	碗	(13.8)	7.1	5.5	1/3	完	ロクロ、口縁ゴコ、内ミ(輪)黒	
353	69住	黒B	碗	(11.0)	(5.4)	4.2	1/4	2/5	ロクロ、口縁ゴコ、ミ黒、底関係	
354	69住	土	杯A		(9.2)		2/5	ロクロ、外へラ		
355	69住	灰	碗	14.8	7.1	4.9	4/5	完	ロクロ、口縁ゴコ、底関係→ナデ、漬掛け	内履破損
356	69住	灰	碗	15.1	6.9	5.95	1/2	完	ロクロ、口縁ゴコ、内コテナデ、底関係→ナデ、漬掛け	
357	69住	灰	碗	(16.0)	(8.8)	6.35	1/12	7/8	ロクロ、口縁ゴコ、外関係、漬掛け	
358	69住	灰	段皿	(12.6)	6.9	2.65	1/4	1/2	ロクロ、口縁ゴコ、底関係、漬掛け	
359	69住	灰	段皿	(13.4)	6.9	5.95	1/3	1/2	ロクロ、口縁ゴコ、内コテナデ、外関係、漬掛け	
360	69住	緑	碗	(13.8)			1/12	ロクロ、口縁ゴコ、外関係、無輪(濃緑)/灰白		
361	69住	土	土	(44.0)			1/8	口縁ゴコ、ロクロ、外タタキ	外自然釉	
362	70住	土杯	土杯	9.9	4.7	2.8	1/2	完	ロクロ、口縁ゴコ、底関係	
363	70住	土杯	土杯	(13.4)	6.3	4.4	2/3	完	ロクロ、口縁ゴコ、内コテナデ、底関係	
364	70住	土	碗	13.5	7.2	5.05	2/3	完	ロクロ、口縁ゴコ、底関係	
365	70住	土	盤B	(11.6)			1/3	ロクロ、口縁ゴコ		

陶器	出土 地	種類	器 器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考
				口径	底径	器高	口縁	底部		
366	70住	黒A	甕		6.5				ロクロ、内ミ黒	
367	70住	灰	甕	12.0	7.0	3.5	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸一回ケ、漬掛付	
368	70住	灰	甕	(12.4)	6.7	3.7	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛付	口縁タール、 内重破痕
369	70住	灰	甕		10.2			完	ロクロ、外回ケ、漬掛付	
370	70住	灰	段皿	12.0	7.7	2.4	1/2	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナ子、底回糸	
371	71住	土	杯	(10.0)	5.4	3.0	1/8	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナ子、底回糸	
372	71住	土	椀	(11.3)	6.3	4.3	1/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナ子	
373	71住	灰	甕	(15.2)	(9.0)	5.9	わずか	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナ子、外回ケ、漬掛付	
374	71住	灰	皿	10.9	6.6	1.8	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛付	内重破痕
375	71住	灰	段皿	(13.4)	7.5	2.3	1/3	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛付	
376	71住	緑	皿	11.9	6.1	1.9	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、施軸(濃緑)/灰	トチン痕
377	72住	須	杯A	(5.8)				1/12	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ	
378	73住	須	杯A		(6.4)				2/5 ロクロ、底回糸	
379	73住	須	杯B	(16.1)	10.9	5.7	2/5	11/12	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、底回糸	
380	73住	須	杯B	17.4	12.3	5.9	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ	
381	73住	須	蓋	(14.4)		2.0	1/4		ロクロ、外回ケ	
382	73住	須	蓋	15.2		3.2	4/5		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ	
383	73住	須	蓋	(16.5)		2.7	1/3		ロクロ	
384	73住	土	甕B	(17.8)			1/5		内ハケ、口縁ヨコ一磨減	
385	74住	土	杯	10.3	5.2	3.2	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナ子、底回糸	
386	74住	黒A	椀		(5.6)			1/4	ロクロ、内ミ黒、底回糸	
387	74住	黒B	椀		(5.6)			1/4	ロクロ一磨減、ミ黒一磨減	
388	74住	灰	甕	(15.8)	(8.2)	6.4	1/3	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナ子、外回ケ、漬掛付	
389	74住	灰	皿	(11.2)	6.3	2.5	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、漬掛付	
390	74住	灰	皿	11.6	6.7	2.55	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛付	
391	74住	灰	段皿	(11.3)	(6.9)	2.2	1/8	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、漬掛付	
392	77住	土	杯	(10.2)	4.9	3.1	1/4	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナ子、底回糸	
393	77住	土	杯	(14.2)				1/6	ロクロ、口縁ヨコ	
394	77住	灰	甕	(12.3)				1/8	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛付	
395	77住	灰	段皿	(13.3)				1/12	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛付	
396	78住	土	杯	9.6	5.5	2.6	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
397	78住	土	杯	(10.5)	5.0	2.6	1/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
398	78住	土	杯		5.2				ロクロ、底回糸	
399	78住	土	椀		5.2				ロクロ、底回糸	
400	78住	土	甕B		7.4				ロクロ、底回糸	内腹
401	78住	黒A	椀		6.6				ロクロ、内ミ黒、底回糸	
402	78住	灰	甕		8.4			完	ロクロ、外回ケ、漬掛付	内重破痕
403	78住	灰	甕	(14.4)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛付	内重破痕
404	78住	灰	椀皿	(11.2)			1/8		ロクロ、漬掛付	内重破痕
405	78住	灰	段皿	(12.8)	7.8	2.35	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛付	
406	78住	土	小型甕D	9.3	5.9	10.1	5/8	完	ナデ、口縁ヨコ	
407	78住	土	羽釜	(17.5)			1/8		口縁ヨコ、工具ナデ、胎面止痕	
408	78住	灰	小甕		(9.0)			1/2	ロクロ、外回ケ、底回糸	内自然焼、内 タール 底穿孔(前)
409	79住	土	杯		4.5			1/2	ロクロ、底回糸	
410	79住	土	杯	9.7	4.0	1.9	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
411	79住	土	杯	(10.7)	5.7	2.8	1/4	1/2	ロクロ、底回糸	
412	79住	土	甕		(6.4)				ロクロ	
413	79住	土	甕B	10.5			1/8		ロクロ	
414	79住	土	甕B	(17.8)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ	
415	79住	灰	甕	(13.9)	7.0	5.2	1/3	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナ子、漬掛付	
416	79住	灰	甕	16.4	7.9	6.6	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナ子、底回糸、漬掛付	
417	79住	灰	甕	14.8	7.8	6.5	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナ子、底回糸、漬掛付	内重破痕
418	79住	灰	輪皿	10.35	5.65	2.4	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛付	口縁タール
419	79住	白	甕						ロクロ、外回ケ、内腹1文、施軸(灰白)/灰白	
420	79住	白	甕	(15.3)				1/12	ロクロ、口縁ヨコ、施軸(緑灰白)/白	
421	79住	土	羽釜	(21.4)			1/5		口縁ヨコ、ナデ	
422	80住	灰	皿	(10.0)			1/9		ロクロ、口縁ヨコ、漬掛付	
423	80住	無	山茶碗		(7.6)			完	ロクロ、底回糸	内重破痕
424	80住	白	甕					1/4	ロクロ、外回ケ、内腹割文、施軸(灰黄)/白	
425	81住	須	蓋	14.85		2.6	2/3		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ	
426	81住	須	蓋	20.0		3.75	2/3		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ	外自然焼
427	81住	須	蓋	19.0			完		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ	
428	81住	須	杯A	13.45	6.6	3.85	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回ヘラ、火押痕	
429	81住	須	杯A	14.45	7.0	4.9	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回ヘラ	
430	81住	須	杯B	(14.9)	(10.0)	3.9	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ	
431	81住	須	杯B	14.3	10.6	3.45	1/2	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、底ケズリ	
432	81住	須	杯B	14.45	10.4	4.3	9/10	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸一回回ケ	
433	81住	須	杯B	(15.5)	11.6	3.7	1/3	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底ケズリ	
434	81住	土	甕B		(8.5)			1/3	ナデ、内ヨコハケ、外タテハケ	
435	81住	土	甕B		8.95			1/2	ナデ、外タテハケ一磨減、内・底ヨコハケ	
436	81住	土	甕B		(8.5)			完	ハケ、底木製痕	
437	81住	土	甕B		8.6			完	底ナデ、外タテハケ、内ヨコハケ	
438	81住	須	椀皿	(14.0)		20.5	1/3		ロクロ、口縁ヨコ、外ナデ	

図No.	出土 地点	種類	器輪 器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考
				口径	底径	器高	口縁	底部		
439	81住	土	小笠形	(11.2)	(7.1)	(9.2)	1/12	1/2	ロクロ、内ナデ、内指頭取組、口縁ヨコ、底ナデ一磨減	
440	82住	灰	碗		(6.0)			1/2	ロクロ、底関係、流掛付	
441	82住	土	盤B		(9.0)			1/5	外ナデハケ、内ヨコハケ、外工具	外履
442	83住	土	杯		(6.3)			1/5	ロクロ、底関係	
443	83住	土	杯or碗	(13.2)			1/10		ロクロ、口縁ヨコ	
444	83住	土	碗		(4.6)			1/3	ロクロ一磨減、底関係	
445	83住	灰	碗		(7.4)			1/3	ロクロ、底関係、流掛付	
446	83住	灰	皿	(10.2)	(5.0)	1.8	1/12	1/8	ロクロ、口縁ヨコ、流掛付	
447	83住	白	杯	(10.2)	(3.2)	2.65	1/12	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、底ケズリ、施輪(灰黄)/白	
448	83住	白	皿	(15.2)			1/20		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、施輪(白)/白	
449	84住	土	杯	(9.3)	(5.0)	1.9	1/4	1/4	ロクロ、口縁ヨコ、底関係	
450	84住	土	皿	(8.4)	4.8	2.0	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底関係	
451	84住	灰	碗		(8.0)			1/2	ロクロ、底関係、流掛付	内重破損
452	85住	土	皿	(8.9)	(4.5)	1.7	1/5	完	ロクロ、口縁ヨコ	
453	85住	土	盤B		(9.7)			1/5	ロクロ一磨減	
454	85住	灰	碗		(7.2)			1/2	ロクロ、外回ケ、底関係、流掛付	内重破損
455	85住	灰	碗	(14.4)				1/24	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、流掛付	
456	85住	緑	碗						ロクロ、施輪(濃緑灰)/灰白	
457	86住	土	杯	(9.0)	(5.2)	1.5	1/4	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底関係	
458	86住	土	杯	(8.4)	4.3	1.9	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底関係	
459	86住	土	碗		(6.8)			1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底関係	
460	86住	土	盤B	(10.2)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ	内タール
461	86住	土	盤B	(8.8)	(4.8)	2.9	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底関係	
462	86住	土	盤B	(11.25)	(5.8)	3.3	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底関係	
463	86住	須	杯A	(13.55)	(6.1)	4.5	1/20	7/8	ロクロ、口縁ヨコ、底関係、内火導溝	
464	86住	灰	碗		(6.4)			1/6	ロクロ、底関係、流掛付	
465	86住	灰	碗		(8.4)			1/6	ロクロ、外回ケ、流掛付	内重破損
466	86住	灰	碗		(7.13)			完	ロクロ、底関係、流掛付	
467	86住	灰	碗	(15.0)				1/8	ロクロ、口縁ヨコ、流掛付	
468	87住	土	杯	11.9	6.25	3.5	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、流掛付	
469	87住	土	杯	(12.0)	(5.4)	3.95	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、底関係	
470	87住	土	杯	12.75	5.35	4.25	3/4	完	ロクロ一磨減、口縁ヨコ、内コテナデ、底関係	
471	87住	土	杯	(13.0)	(5.8)	3.3	1/6	完	ロクロ、口縁ヨコ、底関係	
472	87住	土	碗	14.5	7.45	5.8	8/9	完	ロクロ、口縁ヨコ	
473	87住	灰	碗	13.7	7.3	4.5	7/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ一底ナデ、流掛付	
474	87住	灰	碗	(15.5)	(8.1)	5.65	1/4	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、外回ケ、流掛付	
475	87住	灰	皿	16.15	8.2	5.2	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、流掛付	
476	87住	灰	皿	(12.8)	(7.3)	3.0	1/3	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、外回ケ、流掛付	
477	87住	土	盤B		10.8			3/4	ナデ、外ハケ、外ケズリ、底ナデ	底履
478	87住	土	盤B	20.0	10.6	23.3	11/12	3/4	口縁ヨコ、ロクロ一ナデ、外工具、底ナデ	
479	88住	須	杯A	(14.0)				1/4	ロクロ、口縁ヨコ、内火導溝	
480	88住	土	盤B		(9.0)			1/4	ナデ一磨減、内ハケ、底ナデ	
481	89住	土	杯	(9.4)	4.1	1.7	1/4	2/3	ロクロ、口縁ヨコ、底関係、内黒炭	
482	89住	土	杯	9.8	5.4	1.7	完	完	ロクロ、口縁ヨコ	
483	89住	土	碗?	(13.2)				1/5	ロクロ、口縁ヨコ	
484	89住	土	盤B	18.15			完		ロクロ、口縁ヨコ	高台内タール
485	89住	灰	碗		6.9			完	ロクロ、外回ケ一ナデ、流掛付	
486	89住	灰	碗		6.8			1/2	ロクロ、外回ケ、流掛付	
487	89住	灰	耳皿					1/8	ロクロ、口縁ヨコ、底関係、流掛付	
488	90住	土	杯	(10.2)	5.8	2.7	1/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、底関係	
489	90住	土	杯	9.65	4.55	3.7	11/12	完	ロクロ、口縁ヨコ、底関係一磨減	
490	90住	土	杯	(11.2)	(6.4)	2.7	1/8	1/5	ロクロ、口縁ヨコ、底関係	
491	90住	土	皿	(10.2)				1/4	ロクロ、口縁ヨコ	
492	90住	土	碗	10.5	5.85	4.65	5/6	完	ロクロ、口縁ヨコ	
493	90住	土	碗	11.85	6.3	4.4	完	2/3	ロクロ、口縁ヨコ、底関係一ナデ	
494	90住	黒A	杯		(5.7)			完	ロクロ一磨減、内ミ黒	
495	90住	黒A	杯or碗	(14.8)				1/6	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒板	
496	90住	黒A	碗		(6.6)			2/3	ロクロ一磨減、内ミ黒	
497	90住	黒B	碗	(10.0)				1/8	ロクロ、ミ黒	
498	90住	灰	碗	(12.0)				1/6	ロクロ、口縁ヨコ、流掛付	
499	90住	灰	碗		(8.5)			1/4	ロクロ、底関係、流掛付	
500	90住	灰	碗	(12.9)	(6.9)	4.4	1/8	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、流掛付	
501	90住	灰	碗	(14.4)				1/8	ロクロ、口縁ヨコ、流掛付	
502	90住	灰	皿	11.5	7.6	2.5	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、流掛付	外履
503	90住	灰	皿	(13.5)	(7.0)	2.6	1/8	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、底関係、流掛付	
504	90住	土	羽蓋A	(16.7)				2/3	口縁ヨコ、ナデ、内工具	
505	91住	土	杯		(5.4)			1/6	ロクロ、底関係	
506	91住	土	杯		(7.1)			1/8	ロクロ、底関係一磨減	
507	91住	土	皿	(10.0)				1/4	ロクロ、口縁ヨコ	
508	91住	土	盤B		(6.9)			1/4	ロクロ	
509	91住	黒A	碗		(7.0)			1/3	ロクロ、内ミ黒板一磨減	
510	91住	黒A	碗	(12.0)				1/8	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒	
511	91住	灰	碗	(12.4)	6.0	4.1	わずか	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、底関係、流掛付	
512	91住	灰	碗	(14.6)				1/4	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、流掛付	

採種	出土地点	種別	器輪 器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考
				上径	底径	器高	上縁	底部		
513	91住	灰	罎	(15.6)				1/6	ロクロ、土曜ココ、外回ケ、漬掛け	
514	91住	灰	罎	13.0	7.1	2.7	1/2	完	ロクロ、土曜ココ、底回糸、漬掛け	
515	91住	土	小笠B	7.1	5.0	7.0	完	完	ロクロ、土曜ココ、底回糸	
516	91住	土	羽釜B						ナデ	
517	92住	土	杯		4.8			完	ロクロ、底回糸	
518	92住	須	杯B	(10.2)	5.8	4.3	1/3	完	ロクロ、土曜ココ、底回糸	
519	92住	軟	杯	13.25	5.2	4.0	3/4	完	ロクロ、土曜ココ、底回糸	
520	92住	灰	罎	13.8	7.2	4.2	1/2	1/2	ロクロ、土曜ココ、内コナナデ、漬掛け	内トチン産
521	92住	灰	罎	(17.2)				1/8	ロクロ、土曜ココ、外回ケ、漬掛け	
522	92住	黒A	杯	14.8	6.5	5.8	1/2	完	ロクロ、土曜ココ、内コナナデ、内ミ黒、底回糸	
523	92住	黒A	杯	13.6	5.3	4.5	1/2	完	ロクロ、土曜ココ、内ミ黒、底回糸	
524	92住	黒A	杯	(13.2)	6.5	3.9	1/3	1/2	ロクロ、土曜ココ、内コナナデ、底回糸	
525	92住	黒A	杯	13.35	5.9	4.15	1/2	完	ロクロ、土曜ココ、内コナナデ、内ミ黒、底回糸	底へラ記号
526	92住	黒A	罎	(16.3)	7.8	5.65	1/8	完	ロクロ、土曜ココ、内ミ黒、底回糸	
527	92住	土	糞B	(21.3)				1/2	土曜ココ→内カキ、外タテハケ、内器部仕直しナデ	
528	92住	土	糞B	(24.4)	9.4	30.4	1/16	2/3	土曜ココ→内カキ、外タテハケ、内器部仕直しナデ、内ハケ	
529	92住	土	小笠B	(9.8)	5.2	7.8	1/16	完	ロクロ、土曜ココ、外カキ、底回糸	
530	92住	灰	長楕圓	4.7	4.75	10.25	2/3	わすか	ロクロ、土曜ココ、外回ケ、底回糸、漬掛け	高台重焼産
531	93住	灰	罎	(15.1)				1/10	ロクロ、土曜ココ、漬掛け	
532	94住	土	杯	8.7	(4.2)	2.15	1/8	完	ロクロ、土曜ココ、底回糸	内煤
533	94住	灰	罎	(7.1)				1/2	ロクロ、外回ケ、漬掛け	
534	94住	灰	罎	(12.0)	(7.2)	2.0	1/4	1/4	ロクロ、土曜ココ、漬掛け	
535	95住	土	杯	(12.8)	(6.0)	3.7	2/3	2/3	ロクロ→磨滅、土曜ココ、底回糸→磨滅	
536	95住	土	杯	(13.4)	(6.9)	3.85	1/4	1/2	ロクロ→磨滅、底回糸	
537	95住	土	罎	(14.2)	(7.9)	5.0	1/8	完	ロクロ→磨滅、土曜ココ、底回糸→磨滅	
538	95住	黒A	罎	(6.8)				3/4	ロクロ、内ミ黒、底回糸	
539	95住	土	糞B	(12.0)				1/3	ナデ、外ハケ、底回糸→磨滅	煤
540	95住	土	小笠B	7.6				完	ロクロ、底回糸	
541	96住	土	杯	(10.2)	(5.7)	(3.8)	1/4	1/2	ロクロ、土曜ココ、底回糸	
542	96住	土	杯	10.7	5.6	3.5	完	完	ロクロ、土曜ココ、底回糸	
543	96住	土	杯	11.3	5.6	3.4	完	完	ロクロ、土曜ココ、底回糸	
544	96住	土	罎	6.9				完	ロクロ、底回糸→磨滅	
545	96住	土	罎?	(13.2)				1/2	ロクロ、土曜ココ、底回糸	
546	96住	土	糞B	13.5	5.8	3.6	3/4	完	ロクロ、土曜ココ	
547	96住	土	罎?	(14.3)	(6.9)	3.5	1/4	完	ロクロ→磨滅、土曜ココ→磨滅	
548	96住	土	糞B	(15.0)	14.15	6.8	1/2	完	ロクロ、土曜ココ、底回糸→ナデ	
549	96住	黒A	罎	(12.0)	(6.4)	5.0	1/3	完	ロクロ→磨滅、土曜ココ→磨滅、内ミ黒	
550	96住	黒A	罎	13.3	7.2	5.4	1/2	完	ロクロ、土曜ココ、内ミ黒	
551	96住	灰	罎	12.6	6.4	4.0	完	完	ロクロ、土曜ココ、底回糸、漬掛け	土曜タール
552	96住	灰	罎	(12.7)	(7.4)	3.85	1/4	1/3	ロクロ、土曜ココ、底回糸、漬掛け	
553	96住	灰	罎	(15.0)	7.3	5.45	1/3	完	ロクロ、土曜ココ、内コナナデ、漬掛け	
554	96住	灰	鈎罎		7.7			完	ロクロ、外回ケ→ナデ	
555	96住	灰	罎	(12.2)	(7.0)	2.4	1/3	1/3	ロクロ、土曜ココ、外回ケ、漬掛け	内重焼産
556	96住	灰	罎	(14.1)	8.0	3.05	1/3	1/2	ロクロ、土曜ココ、漬掛け	
557	96住	緑	罎	(8.1)				1/5	ロクロ→内ミ、底回糸→ナデ、磨滅(洗黒)/洗白	
558	96住	緑	罎	(12.6)				1/20	ロクロ→内ミ、土曜ココ、外回ケ、磨滅(深黒)/灰濁	
559	96住	土	糞	(8.2)				1/2	ナデ→磨滅、底木産物?	
560	96住	土	糞	(10.7)				1/8	外タテハケ、内工具、底ナデ	
561	96住	土	小笠B	(13.4)				1/6	土曜ココ、外ナデ→磨滅、内工具	
562	96住	土	羽釜	(7.1)				完	ナデ→磨滅	
563	96住	土	羽釜	(23.4)				1/13	土曜ココ、外工具	
564	96住	土	羽釜	(25.0)				1/7	土曜ココ、内工具	内煤
565	97住	土	杯	(13.2)	6.0	3.7	1/3	7/8	ロクロ、土曜ココ、底回糸	
566	97住	黒A	罎	(6.8)				1/2	ロクロ、内ミ黒、底回糸→ナデ	
567	97住	黒A	杯	(12.8)	(5.2)	4.0	1/2	完	ロクロ、土曜ココ、内ミ黒、底回糸	
568	97住	黒A	杯	12.4	5.2	4.05	3/5	完	ロクロ、土曜ココ、内ミ黒、底回糸	
569	97住	黒A	杯	(13.4)	(5.9)	3.55	1/12	1/5	ロクロ、土曜ココ、内ミ黒、底回糸	
570	97住	灰	罎	(8.2)				完	ロクロ、外回ケ、漬掛け	
571	97住	土	小笠B	(11.8)				1/4	ロクロ、土曜ココ、カキ	
572	97住	土	糞B	(21.5)				1/6	土曜ココ、外タテハケ、内ナデ、内ヨコハケ→工具	煤
573	97住	土	糞B	(12.0)				1/8	外タテハケ→ロクロ、内ナデ、底ナデ	煤
574	97住	土	糞	(10.6)				1/4	ナデ、底ナデ	
575	97住	土	糞B	(23.8)				1/4	土曜ココ、外タテハケ、内ナデ→磨滅、内カキ	
576	97住	土	糞B	(25.3)				1/6	土曜ココ、外タテハケ、内カキ、内工具→器部仕直し	煤
577	97住	土	糞B	(26.8)				1/6	土曜ココ、外タテハケ、内ナデ→磨滅、内カキ	外煤
578	98住	黒A	杯	16.25	6.9	4.55	完	完	ロクロ、土曜ココ、内ミ黒、底回糸	
579	98住	須	杯A	(5.5)				1/8	ロクロ、底回糸	
580	98住	灰	罎	(10.25)				1/3	ロクロ、外回ケ	
581	99住	黒A	杯	(13.0)	6.5	3.5	1/3	完	ロクロ、土曜ココ、内ミ黒、底回糸	
582	99住	黒A	杯	15.7	7.2	4.55	1/2	完	ロクロ、土曜ココ、内ミ黒、底回糸	
583	99住	黒A	鉢	(23.0)	(9.0)	7.45	1/2	1/2	ロクロ、土曜ココ、内ミ黒、底ケズリ	
584	99住	須	杯A	(13.0)				1/4	ロクロ、土曜ココ	
585	99住	須	杯A	(12.2)	(5.8)	3.0	1/12	1/4	ロクロ、土曜ココ、底回糸	
586	99住	須	蓋	(16.5)				1/8	ロクロ、土曜ココ、外回ケ	

図号	出土 地点	種別	器輪 器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考
				口径	底径	器高	口縁	底部		
587	99住	灰	耳皿		4.5			完	ロクロ、底回糸、漬掛け	
588	99住	土	甕B		(9.2)			1/2	外タタキ、内底ナデ	
589	99住	土	甕B	(26.0)			1/4		口縁ヨコ→内力キ、内工具、外タテハケ	
590	99住	土	小型甕D	12.95	7.4	11.85	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、力キ、底回糸	
591	99住	須	甕						ロクロ、内ナデ、タタキ	
592	99住	須	長頸甕		8.1			完	ロクロ、外回ケ、底回糸	外履、外自然 輪、底へラ記号
593	100住	土	杯	(11.6)	5.05	3.55	1/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
594	100住	土	杯	(11.8)	(5.0)	3.5	1/8	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
595	100住	土	杯	(12.0)	5.6	3.1	3/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
596	100住	土	椀	(14.8)	(8.3)	5.3	1/4	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
597	100住	黒A	杯	(16.0)	7.0	5.0	1/12	2/3	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒→磨滅、底回糸	
598	100住	灰	甕	13.3	6.5	4.0	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	内重破損
599	100住	灰	甕	(13.8)	7.4	4.2	1/7	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重破損
600	100住	灰	皿	(12.2)	6.6	2.7	2/5	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
601	100住	灰	皿	(14.6)	6.6	2.9	1/8	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重破損
602	101住	土	杯	10.1	6.0	3.3	7/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、底回糸→ナデ	
603	101住	土	甕B	(14.3)	(9.7)	6.45	1/3	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底ナデ	
604	101住	黒A	椀		(7.2)			1/4	ロクロ、内ミ黒、底回糸	
605	101住	灰	甕	(17.0)	(8.8)	5.9	1/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	
606	101住	緑	甕		(6.6)			完	ロクロ、磨輪(輪縁)/灰	内トナリ重
607	102住	土	杯		6.6			完	ロクロ、底回糸	
608	102住	黒A	杯	(12.15)	6.65	4.4	2/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
609	102住	黒A	杯	(13.4)	(7.4)	4.1	1/4	4/5	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
610	102住	黒A	杯	13.2	5.6	5.4	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
611	102住	黒A	椀	(16.8)			1/4		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒	
612	102住	黒A	椀	(17.0)	(8.6)	(5.3)	1/2	1/6	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒板、底回糸	
613	102住	黒A	杯	16.3	6.5	5.0	1/16	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	内磨削
614	102住	黒A	椀		(7.9)			完	ロクロ、内ミ黒、底回糸	
615	102住	黒A	皿	(13.9)	(6.6)	2.9	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
616	102住	黒A	皿	(13.4)	6.2	2.8	1/3	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、内ミ黒	
617	102住	黒A	皿	(13.6)			1/24		ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒	
618	102住	須	杯A	(14.0)			1/5		ロクロ、口縁ヨコ	
619	102住	須	杯A	(13.2)	(6.7)	3.55	1/4	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、火障壁	
620	102住	須	杯A		(4.45)			1/3	ロクロ、底回糸	
621	102住	須	杯A		(4.9)			1/6	ロクロ、底回糸	底へラ記号
622	102住	灰	甕	(14.65)			わずか		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、内ハケ塗り	
623	102住	灰	皿	(15.2)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ→ナデ、内ハケ塗り	
624	102住	土	甕B	(19.0)			1/2		口縁ヨコ→内力キ、内ナデ、外タテハケ	
625	102住	土	甕B	(17.2)	(8.6)	30.6	1/2	1/2	口縁ヨコ→内力キ、内ナデ→工具、外タテハケ、底ナデ	
626	102住	土	小型甕C	(8.05)	(5.6)	10.9	1/2	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、内工具→磨滅、外ケズリ→磨滅、底ケズリ	
627	102住	土	小型甕D		6.5			完	ロクロ、口縁ヨコ→力キ、外力キ、底回糸	底履
628	102住	須	長頸甕						ロクロ、外回ケ	外自然輪
629	102住	須	甕						ロクロ、波状文	
630	103住	土	杯	(11.6)	5.9	2.7	1/3	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
631	103住	土	杯	13.5	(6.7)	3.15	1/12	1/8	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
632	103住	土	杯	12.7	6.5	3.25	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
633	103住	黒A	椀						ロクロ、内ミ黒、底回糸	
634	103住	黒A	椀						ロクロ、内ミ黒、底回糸	
635	103住	黒A	椀 or 皿		(6.7)			1/2	ロクロ、内ミ黒、底回糸	
636	103住	黒A	皿	(12.6)	(4.3)	2.2	1/3	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、内ミ黒、底回糸	
637	103住	灰	甕	14.6			1/8		ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
638	103住	灰	甕	(15.3)	(7.3)	5.05	1/8	1/3	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、漬掛け	内自然輪
639	103住	灰	甕	(15.2)	(8.7)	5.4	1/16	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
640	103住	灰	甕	(17.8)	(8.9)	5.8	2/3	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、輪花、漬掛け	
641	103住	灰	皿	12.35	6.5	2.6	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	
642	103住	灰	皿	13.5	6.8	3.0	1/2	2/3	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ→ナデ、漬掛け	
643	103住	灰	皿	13.4	6.5	2.7	1/2	5/6	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸漬掛け	
644	103住	灰	皿	(16.5)	(8.9)	3.25	1/4	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、輪花、漬掛け	
645	103住	土	甕	(18.0)			1/6		ロクロ、口縁ヨコ	外履
646	104住	土	杯	12.2	4.8	3.1	1/8	完	ロクロ→磨滅、口縁ヨコ、内コテナデ→磨滅、底回糸	
647	104住	土	杯	12.7	5.25	4.2	4/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
648	104住	土	杯	(12.4)	6.0	3.4	1/3	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
649	104住	土	杯	(12.8)	(6.6)	3.5	1/8	1/5	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸	
650	104住	土	椀	(14.6)	7.3	4.8	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→ナデ	
651	104住	土	杯	(14.6)	7.2	5.7	1/6	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、底回糸→ナデ	
652	104住	黒A	杯	(12.0)	5.0	4.3	1/5	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ(黒)、底回糸	内履
653	104住	須	杯A		(6.0)			1/6	ロクロ、底回糸	外履
654	104住	須	杯	(13.0)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ	
655	104住	灰	甕	(15.4)	7.8	4.8	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、底回糸、漬掛け	内重破損
656	104住	灰	甕	(16.7)	8.0	5.9	1/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、外回ケ、漬掛け	
657	104住	灰	甕	(16.7)	8.3	5.4	1/8	3/4	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、ナデ、外回ケ、漬掛け	内重破損
658	104住	土	小型甕	(13.6)	(10.0)	12.0	1/6	わずか	ロクロ、口縁ヨコ、外磨削(磨ケズリ)、底ナデ	
659	104住	土	小型甕D	(10.0)			1/7		ロクロ、口縁ヨコ、外力キ	

図号	出土 地点	種別	掘輪 器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考
				口径	底径	器高	口縁	底部		
660	105住	土	碗	(14.4)			1/4		ロクコ、口縁ヨコ	
661	106住	黒A	杯	(4.9)				完	ロクコ、内ミ黒、底回糸	
662	106住	黒A	碗		(4.8)			1/2	ロクコ、内ミ黒、底回糸	
663	106住	黒A	杯or碗	(18.4)				1/6	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒	
664	106住	須	杯A		(6.2)			1/3	ロクコ、底回糸	内重破面、底へら記号
665	106住	灰	碗	(7.9)	(4.9)	3.6	1/4	1/3	ロクコ、口縁ヨコ	
666	106住	灰	碗		(8.0)			1/4	ロクコ、外回ケ、漬掛け	
667	106住	灰	段皿		(13.2)			1/10	ロクコ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
668	106住	灰	盃		(9.6)			1/4	ロクコ、外回ケ、底回糸	底へら記号
669	107住	土	杯		(6.1)			7/8	ロクコ、底回糸	煤
670	107住	土	杯	(12.0)	(6.1)	3.4	1/8	1/5	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸	外覆
671	107住	土	碗	(13.7)	(6.5)	4.5	1/8	完	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸	高台内タール
672	107住	土	盃	(21.8)				1/2	口縁ヨコ、内ナデ→磨滅、外タテハケ	
673	107住	黒A	杯		(8.0)			1/8	ロクコ、内ミ黒、底回糸	
674	107住	黒A	杯		(7.4)			1/6	ロクコ、内ミ黒、底回糸	
675	107住	黒A	杯	(13.0)	(6.6)	3.8	1/20	1/6	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒板、底回糸	
676	107住	黒A	碗	(10.6)	(6.5)	3.5	1/8	完	ロクコ→磨滅、口縁ヨコ、内ミ黒板	
677	107住	灰	碗	(11.2)				1/9	ロクコ、口縁ヨコ、漬掛け	
678	107住	灰	碗	16.9	8.2	6.1	完	完	ロクコ、口縁ヨコ、内コテナ子、外回ケ、輪花、漬掛け	
679	108住	土	盃B	(11.8)				1/3	ロクコ、口縁ヨコ	
680	108住	黒A	杯		(7.0)			2/5	ロクコ、内ミ黒板、底回糸	
681	108住	黒A	杯	13.15	5.25	4.0	4/5	完	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸、外黒覆	
682	108住	黒A	杯	12.3	6.2	4.0	2/3	完	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
683	108住	黒A	杯	(14.0)	(6.4)	3.9	1/19	1/3	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
684	108住	黒A	皿	12.2				1/2	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
685	108住	黒A	皿	13.2				2/3	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
686	108住	黒A	鉢	19.0	7.7	8.2	1/2	完	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
687	108住	須	杯A	13.35	5.3	4.0	2/3	完	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸	
688	108住	須	杯A	13.75	6.3	4.4	3/4	完	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸	
689	108住	須	杯A	13.2	4.95	3.65	2/3	完	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸	
690	108住	須	杯A	13.0	5.4	3.55	7/8	完	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸	
691	108住	土	盃B	(23.4)				1/8	口縁ヨコ→内カキ、内ナデ、外タテハケ	
692	108住	土	盃B	(21.6)				1/5	口縁ヨコ→内カキ、内ナデ、外タテハケ、内工具	
693	108住	土	小型盃D	(13.8)	7.4	14.5	1/2	完	ロクコ、口縁ヨコ→カキ、外カキ、底回糸	
694	109住	土	杯	(13.4)	5.8	3.6	1/8	完	ロクコ、口縁ヨコ、内コテナ子、内工具	
695	109住	黒A	杯	(14.85)	(5.10)	3.65	1/8	わずか	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒	
696	109住	須	杯A	(15.6)				1/8	ロクコ、口縁ヨコ	
697	109住	須	蓋	(16.5)		2.95	1/12		ロクコ、口縁ヨコ、外回ケ	
698	109住	灰	碗	(16.05)				1/6	ロクコ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
699	109住	土	盃B	(20.4)				1/3	口縁ヨコ、外タテハケ、口縁内カキ、内ナデ→工具→指環	
700	109住	土	盃B	(25.0)				1/6	口縁ヨコ、外タテハケ、内工具	外覆
701	109住	灰	短頸盃	(11.0)				1/8	ロクコ、口縁ヨコ、外回ケ	
702	110住	土	皿or鉢		6.7			完	ロクコ、底回糸	
703	110住	黒A	杯or碗	(12.8)				1/16	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒	
704	110住	須	杯A		(6.4)			1/4	ロクコ、底回糸	内火押覆
705	110住	須	杯A		(7.0)			1/4	ロクコ、底回糸、内火押覆	
706	110住	須	杯B		(13.8)			1/12	ロクコ、底ナデ	
707	110住	灰	碗		(8.6)			1/6	ロクコ、外回ケ、漬掛け	内重破面
708	110住	灰	碗		(8.0)			2/3	ロクコ、底回糸、漬掛け	朱墨の転用破
709	110住	灰	碗	(15.1)				1/10	ロクコ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
710	110住	灰	轉皿	(9.70)	(4.4)	2.2	1/16	1/16	ロクコ、口縁ヨコ、漬掛け	
711	110住	土	盃B		(9.2)			1/8	内ナデ、外タテハケ、底ナデ	
712	111住	黒A	杯	12.6	6.4	3.6	3/8	完	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
713	111住	軟	杯	(14.3)	6.1	3.7	5/8	完	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸	
714	111住	灰	碗	(12.8)				1/4	ロクコ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
715	111住	灰	碗		(7.2)			1/4	ロクコ、底回へら、漬掛け	
716	112住	黒A	杯	13.4	7.2	3.95	完	完	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ(輪)黒、底回糸	
717	112住	黒A	杯	(12.6)	(6.0)	4.1	1/12	1/5	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ(輪)黒、底回糸	
718	113住	土	杯	11.9	5.0	3.3	3/4	完	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸	
719	113住	土	杯	(12.8)	6.2	3.2	3/8	5/8	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸	
720	113住	黒A	碗	(13.2)				1/4	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒	
721	113住	灰	碗	(16.2)	(8.8)	(5.6)	3/8	3/8	ロクコ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重破面
722	113住	灰	耳皿		5.0	1.4	完	1/4	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸、漬掛け	
723	114住	土	杯	(12.8)	6.0	3.4	1/2	完	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸	
724	114住	土	杯	(11.8)	5.0	3.3	1/8	完	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸	
725	114住	土	杯	(12.8)	(6.2)	3.6	3/8	5/8	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸	
726	114住	土	杯	(13.2)	5.6	3.7	5/8	完	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸	
727	114住	土	盃B	(15.0)	7.4	4.7	1/8	完	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸	
728	114住	黒A	杯	(12.1)	5.4	3.2	1/4	完	ロクコ、内ミ黒板、口縁ヨコ、底回糸	
729	114住	黒A	杯	(17.8)	(8.6)	5.7	1/8	3/8	ロクコ、内ミ黒板、口縁ヨコ、底回糸	
730	114住	黒A	碗	(16.6)				1/8	ロクコ、内ミ黒板、口縁ヨコ、底回糸	
731	114住	軟	杯	(12.0)	(5.8)	2.8	3/8	3/8	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸	
732	114住	灰	碗	(13.8)	7.6	4.2	1/8	完	ロクコ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
733	114住	灰	皿	(13.0)	(7.6)	2.9	1/4	完	ロクコ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重破面

図No.	出土 地点	種類	器輪 器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考
				口径	底径	器高	口縁	底部		
734	114住	灰	皿	14.0	7.6	2.9	1/2	完	ロクコ, 口縁ココ, 外回ケ, 漬掛け	
735	114住	緑	甕 (16.6)	(7.8)	5.5	3/8	3/8	完	ロクコ, 口縁ココ, 外回ケ, 輪花, 磨輪 (磨輪 / 灰黄銅)	
736	114住	灰	甕	(9.8)			1/2	完	ロクコ, 外回ケ, 漬掛け	
737	115住	土	杯 or 椀 (14.0)				1/5	完	ロクコ→磨滅, 口縁ココ	
738	115住	敬	杯 (13.0)	(6.4)	3.8	1/4	完	完	ロクコ→磨滅, 口縁ココ, 底回系→ナデ→磨滅	
739	115住	黒A	杯 (12.4)	(5.2)	3.7	1/3	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内ミ黒, 底回系	口縁タール
740	115住	黒A	杯 (12.7)	(6.8)	3.6	1/5	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内ミ黒, 底回系	
741	115住	黒A	杯 (13.0)	(5.1)	4.5	1/2	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内ミ黒, 底回系	
742	115住	黒A	碗 (8.1)				1/2	完	ロクコ, 内ミ黒, 外回ケ	
743	115住	灰	甕 (17.5)	(8.2)	4.7	1/8	わずか	完	ロクコ, 口縁ココ, 内コテナデ, 漬掛け	
744	115住	灰	段皿 (13.4)	8.1	2.15	1/4	2/3	完	ロクコ, 口縁ココ, 外回ケ, 漬掛け	
745	115住	灰	皿 (13.7)	(7.1)	2.6	1/8	1/3	完	ロクコ, 口縁ココ, 外回ケ, 漬掛け	
746	115住	灰	耳皿 (13.5)	(9.3)			7/8	完	ロクコ, 口縁ココ, 底回系, 内ハケ塗リ	
747	115住	土	小甕 D (11.3)				1/6	完	ロクコ, 口縁ココ→方弁, 外方弁	
748	115住	土	小甕 D (7.6)				1/2	完	ロクコ, 外方弁, 底回系	
749	116住	土	杯 (11.4)	5.2	3.4	1/2	1/2	完	ロクコ, 口縁ココ, 底回系	
750	117住	土	杯 (10.2)	3.6	2.6	1/6	1/2	完	ロクコ, 口縁ココ, 底回系	
751	119住	土	杯 (5.0)				完	完	ロクコ, 内コテナデ, 底回系	
752	119住	土	杯 (12.6)	(6.0)	3.3	完	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 底回系	
753	119住	土	碗 (14.0)	(7.8)	4.65	1/4	1/4	完	ロクコ, 口縁ココ, 底回系	
754	119住	黒A	杯 (12.4)	6.2	4.15	1/6	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内ミ黒板, 底回系	
755	119住	黒A	碗 (8.4)				完	完	ロクコ, 内ミ(輪)黒, 底回系	
756	119住	灰	甕 (15.7)	(8.8)	5.1	1/5	2/5	完	ロクコ, 口縁ココ, 外回ケ, 漬掛け	
757	119住	灰	甕 (16.8)	(7.8)	5.35	1/30	7/8	完	ロクコ, 口縁ココ, 外回ケ→ナデ, 漬掛け	
758	119住	灰	甕 (16.0)	(9.2)	5.25	1/4	1/4	完	ロクコ, 口縁ココ, 内コテナデ, 漬掛け	
759	119住	灰	皿 (15.2)	(7.6)	2.9	1/4	3/4	完	ロクコ, 口縁ココ, 外回ケ, 輪花, 漬掛け	
760	119住	土	甕 B (23.6)				2/5	完	口縁ココ→内方弁, 内ナデ, 外タテハケ	
761	119住	灰	短皿 (11.2)				2/5	完	ロクコ, 口縁ココ, 外回ケ, 漬掛け	
762	120住	黒A	杯 (16.45)	5.65	4.2	11/12	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内ミ黒, 底回系	
763	120住	黒A	杯 (15.45)	7.0	5.3	2/3	完	完	ロクコ→磨滅, 口縁ココ, 内ミ黒, 底回系	
764	120住	黒A	杯 (15.0)	(9.3)	4.45	1/2	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内ミ黒, 底回系	
765	120住	黒A	杯 (13.2)	6.5	3.6	5/6	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内ミ黒, 底回系	
766	120住	黒A	杯 (12.8)	6.0	4.3	1/2	完	完	ロクコ→磨滅, 口縁ココ, 内ミ黒, 底回系→磨滅	
767	120住	黒A	杯 (13.8)	5.4	4.25	1/3	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内ミ黒, 底回系	
768	120住	須	杯 A (13.0)	(5.8)	3.4	1/2	1/2	完	ロクコ, 口縁ココ, 底回系	外黒書
769	120住	土	甕 B (21.6)				1/2	完	口縁ココ→内方弁, 内ナデ, 外タテハケ	
770	121住	黒A	杯 (13.6)	(15.3)	4.5	1/4	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内ミ黒, 底回系	
771	122住	白	甕 (8.3)				1/4	完	ロクコ, 底ケリ, 磨輪 (磨輪 / 灰白)	
772	122住	白	甕 (14.8)				1/12	完	ロクコ, 口縁ココ, 磨輪 (灰黄 / 灰白)	
773	123住	土	甕 B (21.4)				わずか	完	口縁ココ→内方弁, 内工具→ナデ, 外タテハケ	
774	123住	土	小甕 C (10.2)	(3.4)	10.4	わずか	1/4	完	口縁ココ, 内工具, 外・底ケリ, 外タテハケ	
775	124住	土	碗 (15.2)	(6.2)	5.7	1/4	1/3	完	ロクコ, 口縁ココ, 内コテナデ, 底回系→磨滅	
776	124住	黒A	杯 (14.0)	6.0	4.4	わずか	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内コテナデ, 内ミ黒, 底回系	
777	124住	黒A	杯 (13.5)	5.9	3.7	1/3	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内コテナデ, 内ミ黒, 底回系	
778	124住	黒A	杯 (12.9)	6.2	4.2	完	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内ミ黒, 底回系→ナデ	
779	124住	黒A	杯 (12.9)	5.75	4.3	7/8	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内ミ黒, 底回系	
780	124住	黒A	杯 (13.4)	(5.4)	4.7	1/2	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内ミ黒, 底回系	
781	124住	黒A	杯 (13.75)	6.65	4.8	5/6	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内ミ黒, 底回系	
782	124住	黒A	杯 (13.6)	7.1	5.4	1/2	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内ミ黒, 底ケリ?	
783	124住	黒A	杯 (13.45)	5.9	4.5	1/4	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内ミ黒, 底回系	
784	124住	黒A	杯 (13.3)	6.05	4.5	7/8	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内ミ黒, 底回系	
785	124住	黒A	杯 (13.45)	5.9	4.35	3/4	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内ミ黒, 底回系	
786	124住	黒A	杯 (13.85)	5.85	4.3	5/6	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内ミ黒, 底回系	
787	124住	黒A	杯 (13.95)	6.2	4.45	1/2	2/3	完	ロクコ, 口縁ココ, 内コテナデ, 内ミ黒, 底回系	
788	124住	黒A	杯 (13.8)	6.2	4.45	1/2	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内コテナデ, 内ミ黒, 底回系	
789	124住	黒A	杯 (14.0)	5.9	4.5	1/3	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内コテナデ, 内ミ黒, 底回系	
790	124住	黒A	杯 (13.8)	5.8	4.0	2/3	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内コテナデ, 内ミ黒, 底回系	
791	124住	黒A	杯 (14.3)	5.1	4.5	1/4	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内コテナデ, 内ミ黒, 底回系	
792	124住	黒A	杯 (13.3)	6.3	3.9	1/3	3/4	完	ロクコ, 口縁ココ, 内ミ黒, 底回系	
793	124住	黒A	杯 (14.0)	6.0	4.95	1/2	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内コテナデ, 内ミ黒, 底回系→磨滅	
794	124住	黒A	杯 (15.5)	6.3	5.6	1/2	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内コテナデ, 内ミ黒, 底回系	
795	124住	黒A	杯 (17.8)	8.4	6.2	1/4	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内ミ黒, 底回系	
796	124住	黒A	碗 (14.6)	6.45	4.8	1/2	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内ミ黒, 底回系	
797	124住	黒A	碗 (15.4)	7.5	5.45	1/2	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内コテナデ, 内ミ黒, 底回系	
798	124住	黒A	碗 (15.6)	6.5	5.15	1/2	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内コテナデ, 内ミ黒, 底回系	
799	124住	黒A	碗 (15.6)	(7.3)	5.95	1/3	1/3	完	ロクコ, 口縁ココ, 内コテナデ, 内ミ黒, 底回系→ナデ	
800	124住	黒A	碗 (15.7)	6.5	5.4	完	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 内ミ黒→磨滅, 外回ケ→磨滅	
801	124住	須	杯 A (12.6)	5.7	4.0	2/5	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 底回系	
802	124住	敬	杯 (10.3)	5.5	3.4	3/4	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 底回系	
803	124住	敬	杯 (13.2)	6.4	4.1	5/6	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 底回系	穿孔(後)
804	124住	敬	杯 (12.5)	5.9	3.75	7/8	7/8	完	ロクコ, 口縁ココ, 底回系	穿孔(後)
805	124住	灰	碗 (12.4)				1/2	完	ロクコ, 口縁ココ, 外回ケ, 漬掛け	
806	124住	灰	甕 (17.25)	9.05	5.6	完	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 外回ケ→ナデ, 漬掛け	内黒板
807	124住	灰	甕 (18.65)	10.0	6.0	3/4	完	完	ロクコ, 口縁ココ, 外回ケ, 漬掛け	内・高石重破痕

図号	出土 地点	種類	器輪 器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考
				口径	底径	器高	口径	底部		
808	124住	灰	皿	(14.8)	7.0	2.9	1/3	完	ロクロ, 口縁ヨコ, 内コテナデ, 外回ケ, 洗掛け	内重破損
809	124住	灰	皿	15.0	6.75	3.15		完	ロクロ, 口縁ヨコ, 外回ケ, ハケ塗り	内重破損
810	124住	灰	皿	15.3	6.95	2.75	2/3	完	ロクロ, 口縁ヨコ, 外回ケ, ハケ塗り	内・高行重破損
811	124住	灰	段皿	(14.4)	(7.6)	2.35	1/4	1/4	ロクロ, 口縁ヨコ, 外回ケ, 洗掛け	
812	124住	灰	段皿	(18.2)				1/6	ロクロ, 口縁ヨコ, 外回ケ, ハケ塗り	
813	124住	緑	碗 or 皿		6.4				ロクロー磨減, 施釉(緑の剥離著しいため不明)/淡黄褐色	
814	124住	緑	皿	14.5	6.45	2.3	3/4	完	ロクロ, 口縁ヨコ, 内ミ, 外回ケ, 施釉(淡黄緑)/淡黄褐色	外割書
815	124住	土	盤A	(28.4)				1/20	ロクロ, 口縁ヨコ, 外回ケ	
816	124住	土	盤A	(31.6)				1/8	ロクロ, 口縁ヨコ	内割
817	124住	土	小型甕D	(12.5)	(6.70)	13.0	1/4	完	ロクロー磨減, 口縁ヨコ, カキ, 底回糸	
818	124住	灰	蓋	(8.6)				1/8	ロクロ, 口縁ヨコ, ハケ塗り	
819	125住	土	杯	11.15	5.3	3.3	2/3	完	ロクロ, 口縁ヨコ, 底回糸	
820	125住	黒A	碗	12.4	5.15	5.35	1/2	完	ロクロ, 口縁ヨコ, 内ミ, 外回ケ→ナデ	
821	125住	須	杯A	13.2	5.6	3.6	1/2	2/3	ロクロ, 口縁ヨコ, 底回糸	
822	125住	土	甕B	(24.3)				1/4	口縁ヨコ→内カキ, 内ナデ, 外タテハケ	
823	125住	土	甕C	(20.2)				1/3	口縁ヨコ, 外タテハケ→ズリ, 内工具	
824	127住	黒A	杯	(13.0)	5.0	4.35	1/4	完	ロクロ, 口縁ヨコ, 内ミ, 底回糸→ナデ	
825	127住	黒A	杯	16.4	7.4	5.5	3/4	完	ロクロ, 口縁ヨコ, 内ミ, 底回糸	
826	127住	黒A	杯	(14.0)	(7.2)	2.6	1/12	1/8	ロクロ, 口縁ヨコ, 内ミ, 底回糸	
827	127住	土	小型甕D	(9.15)	5.2	7.1	1/6	完	ロクロ, 口縁ヨコ, カキ, 底回糸	
828	128住	黒A	杯	(13.4)	(6.6)	3.8	1/6	2/3	ロクロ, 口縁ヨコ, 内ミ, 底回糸	
829	128住	黒A	杯	13.3	6.6	3.75	5/8	完	ロクロ, 口縁ヨコ, 内ミ, 底回糸→ナデ	
830	128住	黒A	碗	16.9	8.2	5.75	1/2	完	ロクロ, 口縁ヨコ, 内ミ, 底回糸	
831	128住	黒A	皿	12.8				完	ロクロ, 口縁ヨコ, 内ミ, 底回糸	
832	128住	土	甕B	21.5				7/8	口縁ヨコ→内カキ, 内ナデ, 外タテハケ	割
833	128住	土	小型甕D	16.9	8.8	19.0	1/3	完	ロクロ, 口縁ヨコ→内カキ, 外カキ	
834	129住	黒A	杯	13.0	6.2	4.0	1/4	1/2	ロクロ, 口縁ヨコ, 内ミ, 底回糸	
835	129住	黒A	杯	15.4	7.0	5.15	5/6	完	ロクロ, 口縁ヨコ, 内ミ, 底回糸	外タール
836	129住	土	甕B	(22.6)				1/6	口縁ヨコ→内カキ, 内ナデ, 外タテハケ	
837	129住	須	長筒甕		8.0			1/2	ロクロ, 底回糸	
838	130住	黒A	杯	12.55	6.2	3.65	1/2	完	ロクロ, 口縁ヨコ, 内ミ, 底回糸	
839	130住	黒A	杯	(13.5)	(7.0)	3.55	1/3	完	ロクロ, 口縁ヨコ, 内ミ, 底回糸	
840	130住	黒A	杯	(15.1)	(6.8)	5.3	1/7	1/2	ロクロ, 口縁ヨコ, 内ミ, 底回糸	
841	130住	土	甕B	(22.0)				1/8	口縁ヨコ→内カキ, 内ナデ, 外タテハケ→カキ	
842	131住	土	盤B	16.4	9.95	6.0	完	2/3	ロクロ, 口縁ヨコ	
843	132住	土	杯	8.9	4.5	1.7	完	完	ロクロ, 口縁ヨコ, 底回糸	
844	132住	土	杯	(9.0)	4.6	1.6	3/8	完	ロクロ, 口縁ヨコ, 底回糸	
845	132住	土	杯	(8.8)	4.1	1.5	1/4	完	ロクロ, 口縁ヨコ, 底回糸	
846	132住	土	杯	9.3	4.35	2.0	完	完	ロクロ, 口縁ヨコ, 底回糸	
847	132住	土	皿	(15.4)	7.0	3.1	3/8	完	ロクロ, 口縁ヨコ, 底回糸	
848	132住	土	皿	(16.0)	6.7	3.6	1/4	完	ロクロ, 口縁ヨコ, 底回糸	タール
849	132住	土	盤B	(10.8)				1/2	ロクロ, 口縁ヨコ, 底回糸	
850	132住	土	盤B	10.7	5.4	3.8	3/4	3/8	ロクロ, 口縁ヨコ, 底回糸→ナデ	
851	132住	灰	碗	16.1	7.5	6.65	1/2	完	ロクロ, 口縁ヨコ, 内コテナデ, 輪花, 洗掛け	
852	133住	須	杯A	(13.8)				1/8	ロクロ, 口縁ヨコ	
853	133住	土	甕B	(21.4)				1/2	口縁ヨコ→内カキ, 内工具→指頭土皿, 外タテハケ	
854	133住	土	小型甕D	(12.6)				1/4	ロクロ, 口縁ヨコ→内カキ, 外カキ	
855	134住	黒A	杯	(13.0)	(6.6)	3.8	1/4	1/2	ロクロ, 口縁ヨコ, 内ミ, 底回糸	
856	134住	黒A	杯	(14.4)	(7.4)	3.2	1/4	3/4	ロクロ, 口縁ヨコ, 内ミ, 底回糸	
857	134住	黒A	鉢	(21.4)				1/4	ロクロ, 口縁ヨコ, 内ミ	
858	134住	須	杯A	(13.3)	(6.0)	2.9	1/8	1/4	ロクロ, 口縁ヨコ, 底回糸	
859	134住	須	杯A	(12.8)	(6.2)	3.5	1/4	1/4	ロクロ, 口縁ヨコ, 底回糸	
860	134住	須	杯A	(14.3)	(8.2)	3.9	1/8	1/8	ロクロ, 口縁ヨコ, 底回糸	
861	134住	須	蓋	(14.2)				3/8	ロクロ, 口縁ヨコ, 外回ケ	
862	134住	須	鉢	(21.0)	(11.4)	8.0	3/8	1/8	ロクロ, 口縁ヨコ, 外回ケ→ナデ	
863	134住	須	鉢	(20.2)				1/8	ロクロ, 口縁ヨコ	
864	134住	土	甕	(21.2)				1/4	口縁ヨコ, 工具	
865	135住	黒A	杯	(13.4)	(6.4)	3.7	1/10	1/3	ロクロ, 口縁ヨコ, 内ミ, 底回糸	
866	135住	須	杯A	(14.4)	(7.0)	2.9	1/4	1/4	ロクロ, 口縁ヨコ, 底回糸	
867	135住	土	甕B	(22.0)				1/8	口縁ヨコ→内カキ, 内ナデ→指頭土皿, 外タテハケ	
868	136住	黒A	鉢	20.0	8.9	7.1	1/4	完	ロクロ, 口縁ヨコ, 内ミ, 底回糸	
869	136住	須	杯A	(12.75)	(5.6)	3.0	1/3	1/2	ロクロ, 口縁ヨコ, 底回糸	
870	137住	黒A	杯	15.5	7.2	4.5	1/4	完	ロクロ, 口縁ヨコ, 内ミ, 底回糸→ナデ	外重破損?
871	137住	須	杯A	(12.4)				3/8	ロクロ, 口縁ヨコ	
872	137住	土	甕B	(20.2)				1/8	口縁ヨコ→カキ, 内ナデ, 外タテハケ	
873	137住	土	甕C	(19.6)				1/12	口縁ヨコ, 内ナデ, 外ケズリ	
874	138住	黒A	杯	13.05	6.2	4.25	3/5	完	ロクロ, 口縁ヨコ, 内ミ(暗)黒, 底回糸→ナデ	
875	138住	須	杯A	13.1	6.4	3.7	完	完	ロクロ, 口縁ヨコ, 底回糸, 火磨減	
876	138住	須	杯A	13.4	(7.2)	3.9	5/8	完	ロクロ, 口縁ヨコ, 底回糸→ナデ	
877	138住	須	杯A	(12.6)	(7.1)	3.6	1/2	完	ロクロ, 口縁ヨコ, 底回糸	
878	138住	須	杯A	13.5	6.6	3.95	1/2	完	ロクロ, 口縁ヨコ, 底回糸, 火磨減	
879	138住	土	甕B	(21.0)				3/8	口縁ヨコ→内カキ, 内指頭土皿→ナデ, 外タテハケ	
880	138住	土	小型甕D	(14.6)	6.7	12.9	1/4	完	ロクロ, 口縁ヨコ→内カキ, 外カキ, 底回糸, 底工具	割
881	138住	土	小型甕D	12.0	7.2	10.0	7/8	完	ロクロ, 口縁ヨコ→内カキ, 外カキ→ヨコ, 底回糸	割

図番	出土地点	種類	掘輪器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考
				口径	底径	器高	口径	底径		
882	139住	須	杯A (12.6)	5.4	3.2	1/4	完	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸	外巻書	
884	139住	土	體B (23.0)				わずか	口縁ヨコ→内方半、内ナデ、外タテハケ		
884	140住	黒A	杯	13.2	6.4	3.4	1/3	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	外タール	
885	140住	黒A	杯	13.2	6.0	3.9	3/8	5/6	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
886	140住	黒A	杯 (13.4)	6.4	4.3	1/3	完	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸		
887	140住	黒A	碗	15.2	7.2	6.3	完	1/4	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒	外タール
888	140住	軟	杯	13.4	6.6	3.35	1/4	完	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸	
889	140住	須	杯A	12.8	5.2	3.9	1/4	5/6	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸	
890	140住	須	杯A	13.8	7.0	4.0	完	完	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸、火摩痕	
891	140住	土	體B (23.2)				1/6		口縁ヨコ→内方半、内工具、外タテハケ	
892	141住	土	杯 (11.9)	5.0	3.55	1/3	完	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸		
893	141住	黒A	杯	12.6	5.6	3.65	2/3	完	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
894	141住	黒A	杯	12.35	5.4	4.4	完	完	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
895	142住	土	杯 (13.0)	(6.8)	3.2	1/6	1/3	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸		
896	142住	土	杯	13.2	6.2	3.0	5/12	1/6	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸	外タール
897	142住	土	碗 (14.3)	7.4	5.25	1/4	完	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸		
898	142住	土	碗 (15.0)	7.8	5.0	1/6	完	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸		
899	142住	黒A	碗 (14.5)	7.6	6.75	1/4	完	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	外タール	
900	142住	黒A	碗	15.0	7.4	6.6	7/8	完	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	外タール
901	142住	灰	碗	14.2	7.15	4.4	完	完	ロクコ、口縁ヨコ、外回ヶ、漬掛け	内巻成痕
902	142住	灰	碗 (16.2)	(8.4)	5.5	1/10	1/4	ロクコ、口縁ヨコ、外回ヶ、漬掛け	内巻成痕	
903	142住	灰	皿	12.8	7.0	2.75	1/12	完	ロクコ、口縁ヨコ、外回ヶ、漬掛け	内巻成痕
904	142住	灰	皿 (13.4)	7.0	2.6	1/6	完	ロクコ、口縁ヨコ、外回ヶ、漬掛け	内巻成痕、自然蝕	
905	142住	灰	皿	14.95	7.15	2.6	完	完	ロクコ、口縁ヨコ、外回ヶ、ハケ塗リ	
906	143住	黒A	杯	13.65	6.0	3.7	1/2	完	ロクコ→磨滅、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸→磨滅	
907	143住	須	蓋 (17.85)				1/6		ロクコ、口縁ヨコ、外回ヶ	
908	143住	土	體B (23.25)				1/4		口縁ヨコ→内方半、内ナデ→器頭止痕→工具、外タテハケ	
909	146住	灰	碗 (15.8)	7.4	5.25	1/4	完	ロクコ、口縁ヨコ、外回ヶ、漬掛け	内巻成痕	
910	147住	黒A	杯		(6.7)		1/6	ロクコ、内ミ黒、底回糸		
911	147住	黒A	杯or碗 (11.4)				1/10	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸		
912	147住	須	杯A (12.8)				1/8	ロクコ、口縁ヨコ		
913	147住	須	杯B (12.0)				1/12	ロクコ、口縁ヨコ		
914	147住	須	長楕圓					ロクコ		
915	149住	土	杯	11.95	5.9	3.25	2/3	7/8	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸	
916	149住	土	杯 (11.9)	5.9	2.4	1/4	完	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸		
917	149住	土	杯 (12.9)	(5.7)	3.65	1/2	完	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸		
918	149住	土	碗 (14.8)	(6.3)	4.95	3/4	完	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸		
919	149住	黒A	杯 (12.8)	(5.55)	4.15	1/3	完	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸		
920	149住	灰	碗 (13.7)	(7.2)	4.75	5/6	1/2	ロクコ、口縁ヨコ、外回ヶ、漬掛け		
921	149住	灰	皿 (13.4)	(7.3)	2.75	1/4	1/2	ロクコ、口縁ヨコ、外回ヶ、漬掛け		
922	149住	土	體B (23.8)				1/3		口縁ヨコ→内方半、内ナデ、外タテハケ	
923	150住	灰	皿 (14.2)				1/5	ロクコ、口縁ヨコ、漬掛け		
924	151住	土	杯	12.2	5.6	3.9	完	完	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸	
925	151住	土	杯 (12.0)				1/6	ロクコ、口縁ヨコ		
926	151住	黒A	杯 (13.0)	(5.4)	4.15	1/3	完	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸		
927	151住	黒A	杯	12.6	6.2	3.75	1/2	完	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
928	151住	黒A	碗	14.4	6.7	5.2	7/8	完	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
929	151住	黒A	碗 (14.8)	(6.6)	4.8	1/4	完	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸→磨滅		
930	151住	黒A	皿 (10.8)	(6.1)	3.3	1/4	1/4	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸?		
931	151住	軟	杯	13.3	5.8	3.65	3/4	完	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸	
932	152住	土	杯 (12.4)	5.5	3.75	2/5	完	ロクコ→磨滅、口縁ヨコ、底回糸→磨滅		
933	152住	土	杯	13.15	7.5	4.35	3/4	完	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸	
934	152住	土	杯	14.05	6.15	4.35	1/2	完	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸	
935	152住	黒A	杯 (12.7)	5.15	3.7	1/8	完	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸→ナデ		
936	153住	土	體B (10.85)	(6.95)	3.35	2/3	わずか	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸		
937	153住	黒A	碗 (14.4)				1/6	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒板		
938	153住	黒A	碗 (14.25)				1/8	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒板		
939	153住	黒A	碗	14.95	7.75	4.75	4/5	3/4	ロクコ、口縁ヨコ→磨滅、内ミ黒→磨滅、底回糸	
940	153住	灰	碗	14.2	6.95	4.05	1/3	完	ロクコ、口縁ヨコ、外回ヶ→ナデ、漬掛け	
941	153住	灰	碗 (15.75)	(8.25)	4.85	わずか	1/3	ロクコ、口縁ヨコ、外回ヶ→ナデ、漬掛け		
942	153住	灰	碗 (14.6)	(7.8)	5.75	1/4	1/3	ロクコ、口縁ヨコ、外回ヶ→ナデ、漬掛け	内陥土層	
943	153住	灰	碗 (15.85)	(8.4)	6.85	1/5	1/4	ロクコ、口縁ヨコ、外回ヶ、漬掛け		
944	153住	灰	段皿	14.05	8.3	2.65	1/2	1/2	ロクコ、口縁ヨコ、外回ヶ、漬掛け	内自然蝕
945	153住	土	體B (10.8)				1/10		口縁ヨコ、内工具→磨滅、外タテハケ→磨滅	
946	156住	黒A	鉢? (32.0)				1/8		ロクコ、口縁ヨコ→磨滅、内ミ黒板→磨滅	
947	158住	黒A	杯	13.65	6.55	4.05	完	完	ロクコ、口縁ヨコ、内ミ黒、底回糸	
948	160住	土	杯 (12.2)	5.8	2.2	1/12	1/2	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸		
949	160住	灰	碗 (14.4)				2/7	ロクコ、口縁ヨコ、漬掛け		
950	162住	土	碗?		8.2		完	ロクコ、底回糸、漬掛け	外タール	
951	162住	灰	碗		7.4		完	ロクコ、底回糸、漬掛け	内巻成痕	
952	162住	白	碗	17.0			1/8	ロクコ、口縁ヨコ、外回ヶ、磨滅(乳白)/灰白	貫入	
953	163住	土	杯 (10.4)	4.6	2.6	1/3	完	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸		
954	163住	土	杯	9.8	4.4	2.0	2/3	1/4	ロクコ、口縁ヨコ、底回糸	
955	163住	土	碗 (14.0)				1/4	ロクコ、口縁ヨコ	口縁タール	

図No.	出土 地点	種別	器輪 器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考	
				口径	底径	器高	口縁	底部			
956	163住	灰	罎	(15.0)	7.2	5.8	1/8	完	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来, 流掛付	内重破損	
957	163住	灰	皿	11.8	7.0	1.9	1/6	3/8	ロクコ, 口縁ヨコ, 外回ケ, 流掛付	内重破損	
958	163住	灰	段皿	(13.4)	(7.2)	2.5	1/8	1/5	ロクコ, 口縁ヨコ, 外回ケ, 流掛付	内重破損	
959	163住	緑	罎	(7.0)				3/8	ロクコ, 外回ケ, 胎輪(濃緑)/硝灰		
960	164住	灰	罎	16.2	8.0	6.1	3/8	3/8	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来, 流掛付	内重破損	
961	165住	土	杯	10.0	4.4	2.1	1/4	完	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来	外タール	
962	165住	土	杯	(10.4)	4.2	2.2	1/6	完	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来	タール	
963	165住	土	杯	(13.8)	6.0	3.8	1/20	完	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来	タール	
964	165住	土	皿	(10.6)	4.4	2.4	1/8	完	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来	タール	
965	165住	灰	罎	(15.4)	7.0	5.9	1/10	完	ロクコ, 口縁ヨコ, 外回ケ, 流掛付	内重破損	
966	165住	灰	罎	14.9	7.0	6.35	3/8	5/8	ロクコ, 口縁ヨコ, 外回ケ, 流掛付	内重破損	
967	165住	灰	耳皿 or 罎		4.0				ロクコ, 底回来, 流掛付		
968	165住	灰	段皿	(12.6)	(7.0)	2.4	1/12	1/5	ロクコ, 口縁ヨコ, 外回ケ, 流掛付	内重破損	
969	165住	灰	椀	10.5	6.1	2.1	2/3	完	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来, 流掛付		
970	165住	白	罎	(7.0)				1/2	ロクコ, 外回ケ, 胎輪(黄灰)/灰白		
971	165住	白	罎	(5.7)				1/6	ロクコ, 口縁ヨコ, 外回ケ, 胎輪(乳白)/灰白		
972	166住	土	杯	(9.95)	4.8	3.1	1/4	3/4	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来		
973	166住	土	杯	(13.0)	5.1	4.5	1/3	完	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来		
974	166住	灰	罎	(14.4)	(7.2)	4.5	1/8	1/2	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来, 流掛付		
975	166住	灰	罎	(16.0)	(7.95)	5.9	1/2	1/2	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来, 流掛付		
976	167住	土	杯	(11.2)	4.75	3.60	1/3	完	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来		
977	167住	土	罎B	(16.85)	(10.5)	6.45	1/4	わずか	ロクコ, 口縁ヨコ		
978	167住	黒A	罎	(14.45)				1/8	ロクコ, 口縁ヨコ, 内三黒, 底回来?		
979	167住	灰	罎	15.5	6.8	6.1	1/2	完	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来, 流掛付		
980	167住	灰	罎	(14.8)	7.2	6.75	1/3	完	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来, 内コナナデ, 外回ケ, 流掛付		
981	167住	灰	皿	(10.55)	(6.15)	2.1	1/5	1/4	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来, 流掛付		
982	168住	土	罎A	(26.6)				1/8	1/2	ロクコ, 口縁ヨコ, 底ナデ	
983	169住	瀬	壺						ロクコ, 外回ケ		
984	169住	土	杯	(12.6)	5.6	4.1	1/5	完	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来		
985	169住	土	杯	10.0	4.7	3.6	完	完	ロクコ, 口縁ヨコ		
986	169住	土	罎B	(9.9)	(6.2)	2.4	1/2	完	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来		
987	169住	土	罎B	(15.0)	8.3	5.85	1/4	完	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来		
988	169住	灰	罎	(13.6)	(7.6)	4.7	3/8	1/3	ロクコ, 口縁ヨコ, 外回ケ, 流掛付	内重破損	
989	169住	灰	罎	11.1	5.95	4.1	3/5	完	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来, 流掛付	内重破損	
990	169住	灰	段皿	(12.6)	(6.9)	2.2	1/9	完	ロクコ, 口縁ヨコ, 外回ケ, 流掛付		
991	169住	土	小型罎	14.3	10.0	12.05	1/2	完	口縁ヨコ, 工具一外ナデ, 底ナデ		
992	169住	土	邪蓋B	(26.6)				1/2	口縁ヨコ+工具, 工具一外ナデ	煤	
993	170住	土	杯	9.7				2/3	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来		
994	170住	土	杯	(14.0)				1/4	ロクコ, 口縁ヨコ		
995	170住	土	皿	(23.5)				1/6	ロクコ+磨滅, 口縁ヨコ+磨滅		
996	170住	土	罎	(15.45)				1/4	ロクコ, 口縁ヨコ, 輪花, 流掛付		
997	171住	土	杯	(10.6)	(5.2)	2.2	わずか	1/2	ロクコ+磨滅, 口縁ヨコ+磨滅, 底回来		
998	171住	灰	罎	(12.0)	(6.0)	3.5	1/3	1/2	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来, 流掛付		
999	171住	灰	罎	(13.9)	(6.9)	6.4	3/5	7/8	ロクコ, 口縁ヨコ, 外回ケ, 流掛付		
1000	171住	灰	罎	(12.6)	(6.6)	4.15	1/3	1/4	ロクコ, 口縁ヨコ, 外回ケ, 流掛付		
1001	171住	灰	段皿	(12.6)	(7.3)	2.3	1/3	1/2	ロクコ, 口縁ヨコ, 外回ケ, 流掛付		
1002	172住	灰	段皿	(11.7)	6.4	2.1	1/2	7/8	ロクコ, 口縁ヨコ, 外回ケ, 流掛付		
1003	172住	灰	段皿	(12.0)	(7.3)	2.2	1/5	1/5	ロクコ, 口縁ヨコ, 外回ケ, 流掛付		
1004	173住	土	罎B	(26.6)	(7.9)	29.5	1/4	わずか	口縁ヨコ+内カネ, 内ナデ+工具, 外タテハケ, 底ナデ		
1005	173住	土	小型罎D	(12.7)				わずか	口縁ヨコ, 内カネ, 外カネ		
1006	174住	土	皿	10.2	4.4	2.2	3/4	完	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来		
1007	174住	土	皿	10.7	4.4	2.0	7/8	完	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来		
1008	174住	土	罎B	14.2				2/3	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来		
1009	174住	土	罎B	9.6	5.0	2.9	完	完	ロクコ, 口縁ヨコ		
1010	174住	灰	罎	14.7	7.8	6.6	1/2	完	ロクコ+内ナデ, 口縁ヨコ, 底回来, 流掛付	内重破損	
1011	174住	灰	罎	(14.0)	(7.4)	6.15	1/12	1/6	ロクコ, 口縁ヨコ, 流掛付	内重破損	
1012	175住	土	杯	(11.2)	(8.4)	3.9	1/6	1/3	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来		
1013	175住	土	杯	13.5	(6.7)	3.95	完	1/3	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来		
1014	175住	土	罎	(13.0)				3/8	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来		
1015	175住	灰	罎	(14.2)	(6.6)	6.2	1/4	1/2	ロクコ, 口縁ヨコ, 外回ケ, 流掛付	内重破損	
1016	175住	灰	罎	(15.0)	7.0	6.1	1/3	3/4	ロクコ, 口縁ヨコ, 流掛付		
1017	175住	灰	段皿	(11.8)	6.5	2.6	1/3	完	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来, 流掛付		
1018	176住	土	杯	(10.1)	4.5	2.4	1/10	完	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来		
1019	176住	土	杯	(13.0)	(6.55)	4.4	1/3	1/4	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来	底・内保	
1020	176住	黒B	小型土器	4.2	2.5	2.5	3/4	完	ロクコ, 外ナデ, 三黒, 底回来		
1021	176住	灰	罎	(16.0)				1/8	ロクコ, 口縁ヨコ, 流掛付		
1022	176住	灰	段皿	(14.0)	(8.3)	2.6	1/8	1/4	ロクコ, 口縁ヨコ, 外回ヘラ, 流掛付		
1023	製1	土	杯	(8.9)	5.0	3.3	わずか	完	ロクコ, 口縁ヨコ, 底回来		
1024	製1	青	罎		(5.0)			1/3	ロクコ, 口縁ヨコ, 胎輪(緑灰)/灰		
1025	製1	青	罎						ロクコ, 外回ケ, 内印文, 胎輪(暗緑灰)/灰		
1026	製1	白	罎	(11.0)				1/4	ロクコ, 口縁ヨコ, 胎輪(灰白)/白, 口縁端部漆き取り		
1027	製1	無	片口罎	(28.8)				1/5	ロクコ, 口縁ヨコ		
1028	製1	無	片口罎		(15.2)			1/3	ロクコ, 外回ケ		
1029	製1	土師質	皿	(14.8)				1/12	ナデ, 胎輪(灰), 口縁ヨコ		

図号	出土 地点	種別	器輪 器形	法量 (cm)			残存度		成形・調整等	備考
				口径 (28.2)	底径	器高	口縁	底部		
1030	壺 1	土師貫	酒				わずか		工具、口縁ヨコ	穿孔(前)
1031	壺 4	青	碗						ロクロ、鬚添付文、施輪(緑灰)/灰	
1032	壺 6	土	樽?	(11.4)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ	
1033	灰 2	土	杯	(10.3)	(5.7)	2.8	わずか	完	ロクロ、口縁ヨコ、底関係	
1034	灰 2	灰	碗	(13.6)			1/8		ロクロ、口縁ヨコ、漬掛け	
1035	土 339	灰	碗	(15.8)	8.1	6.2	1/8	2/3	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、外回ケ、漬掛け	
1036	土 339	灰	碗	(11.6)	6.6	2.3	1/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
1037	土 347	土	甕B	9.4	4.9	2.0	完	完	ロクロ→内子デ、口縁ヨコ	
1038	土 347	土	甕B	8.9	4.3	1.9	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底関係	
1039	土 347	土	甕B	9.8	5.5	3.3	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ	内腹
1040	土 347	土	甕B	8.7	5.8	2.8	完	完	ロクロ、口縁ヨコ	
1041	土 347	土	甕B	10.7	5.2	3.2	完	完	ロクロ、口縁ヨコ	
1042	土 347	灰	皿	12.5	7.0	3.0	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底関係→ナデ、漬掛け	
1043	土 356	瀬	平皿	(6.5)				完	ロクロ、外回ケ	
1044	土 360	土	杯	11.8	6.0	3.1	3/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、底関係	
1045	土 360	土	杯	11.8	6.0	3.3	5/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底関係	
1046	土 360	土	杯	11.7	5.4	3.3	3/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底関係→ナデ	
1047	土 360	土	杯	11.3	5.8	3.2	7/8	完	ロクロ、口縁ヨコ、底関係→ナデ	
1048	土 360	灰	長楕圓	(9.0)				完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	
1049	土 362	黒A	碗	14.1	6.1	5.6	1/2	完	ロクロ、口縁ヨコ、内ミ黒、底関係	
1050	土 366	灰	碗	16.5	9.2	6.5	1/4	8/9	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
1051	土 367	灰	碗	(16.6)	(8.3)	5.7	1/3	1/2	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
1052	土 367	灰	碗	16.3	8.1	6.15	2/3	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、底関係、輪花、漬掛け	内重焼痕
1053	土 367	土	杯	10.2	5.5	2.95	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底関係	
1054	土 382	土	甕B	(16.1)	8.45	5.6	1/8	完	ロクロ、口縁ヨコ	
1055	土 383	土	杯	9.15	5.2	2.4	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、底関係→ナデ	
1056	土 383	緑	訂皿					完	ロクロ、漬掛け、施輪(濃緑)/灰	
1057	土 398	黒A	碗	(11.9)	6.55	4.5	1/8	3/4	ロクロ→磨減、口縁ヨコ→磨減、内ミ黒→磨減	
1058	土 398	瀬	長楕圓	(13.25)				完	ロクロ、外回ケ、底子デ	
1059	土 477	灰	皿	13.0	7.45	3.0	完	完	ロクロ、口縁ヨコ、外回ケ、漬掛け	内重焼痕
1060	土 501	灰	碗	(20.2)	9.6	6.9	1/4	完	ロクロ、口縁ヨコ、内コテナデ、外回ケ、漬掛け	
1061	焼出面	土	碗	(13.6)				1/4	ロクロ、口縁ヨコ、底関係	

【略称凡例】

種別

土：土師器 黒A：黒色土器A 黒B：黒色土器B 瀬：須恵器 軟：軟質須恵器 灰：灰輪陶器 無：無輪陶器 緑：緑輪陶器 青：青磁 白：白磁
土師貫：土師貫土器

成形・調整等

ナデ：指ナデ ロクロ：ロクロナデ ヨコ：ヨコナデ 工具：工具ナデ 回ケ：回転ケズリ ケズリ：静止ケズリ 回糸：回転糸切り 回ヘラ：回転ヘラ切り
ミ黒：ミガキのち黒色処理 ミ(明)黒：暗文風ミガキのち黒色処理 黒長：黒色処理が焼熟等で失われたもの ハケ：ハケメ カキ：カキメ

緑輪陶器・青磁・白磁の施輪は、施輪(緑の色)/胎土の色を表記

備考

穿孔(前)：焼成前穿孔 穿孔(後)：焼成後穿孔 タール：タール付着 煤：煤付着 墨：墨付着 朱墨：朱墨付着

第6表 土製品一覧表

実測ID	地区	遺構	出土地点	器種	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	備考	
1	B	20住		粘土甕				18		
1	2	C	43住	P7	土鏃	42	22	9	18	完形、煤付着
3	C	47住	南東	羽口か	<45>	<23>	<23>	42	鉄滓付着	
4	C	49住	No.7	羽口	<137>	72	26	346	鉄滓付着	
3	5	C	49住	No.9	羽口	<116>	73	27	428	鉄滓付着
6	C	49住	北西	羽口	<92>	<22>	22	82	鉄滓付着	
4	7	D	69住	No.2	羽口	<106>	78	33	557	
2	8	D	114住	No.9	土鏃	<28>	22	9	9	
9	F	122住	P4	粘土甕				9		
10	D	125住	カマド周囲	粘土甕				39		
11	C	土364		羽口か	<65>	<90>	<31>	145	鉄滓付着	
12	試	T15		羽口	<97>	76	32	664	鉄滓付着	

< > : 残存値

第7表 石器・石製品一覧表

注記ID	図No.	種類	地区	遺構	出土地点	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	破損状況	備考
1		台石	A	14住	No.3	砂岩					完形	磨面2面
2		台石	A	15住	No.19	砂岩				③895.0		磨面1面
6	6	砥石	C	28住	北西	砂岩		5.42	2.66	2507	完形	砥面1面、荒砥
7		磨石類	C	28住	南西		10.58	3.94	2.54	1426	完形	砥部1端部
8	3	石鏃	C	49住	No.14	黒曜石	(3.36)	1.59	1.33	6.1	磨部欠損	平面形逆三角形
9		台石	C	49住	No.24	砂岩					完形	磨面1面
10	7	砥石	D	78住	北西	砂岩		4.08	3.27	328.0	完形	砥面2面、自然礫素材、荒砥、焼熱か
11		楔形石器	D	90住	東	黒曜石	1.84	1.82	5.60	2.2	完形	
12		磨石類	D	92住	南東	砂岩	(9.75)	(5.22)	(4.88)	(360.0)	1/2程度欠損	磨面1面、砥部1面(磨面と同一面)
13		小形刃器	D	93住	北西	黒曜石	2.41	2.18	9.40	4.8	完形	撚器
14		石核	D	94住	P2	黒曜石	2.09	1.89	1.51	3.7	完形	打面3面以上
15	8	砥石	D	96住	No.10	砂岩		9.07	3.06	(822.0)	1/4欠損	砥面2面、4面整形、荒砥
16	9	砥石	D	103住	No.4	砂岩		5.47	2.32	350.0	完形	砥面2面、荒砥
17		剥片	D	104住	南西	黒曜石	1.57	2.11	1.05	2.7	完形	
18		剥片	D	115住	北西	黒曜石	2.93	3.63	1.08	5.3	完形	
23		石核	F	120住	北東	黒曜石	3.17	2.86	2.14	19.6	完形	打面4面以上
19		楔形石器	D	124住	南東	黒曜石	2.84	1.42	1.02	3.6	完形	
20		剥片	D	124住	南東	砂岩	1.62	2.00	0.60	1.7	完形	
21		砥石	D	124住	扇灰岩	(5.22)	(4.44)	1.17	(45.5)	3/4以上欠損	砥面2面、中～仕上げ砥、7個体に割れ	
24	12	磨石類	F	126住	北西	硬砂岩		4.25	3.00	454.0	完形	砥部2端部
28	10	砥石	K	132住	南西	粘板岩	(8.35)	(4.17)	(1.96)	(69.8)	3/4以上欠損	石刀(鐵文)の転用か、中～仕上げ砥
29	11	砥石	K	135住	南西	砂岩	(12.10)	(7.86)	(3.26)	(536.0)	1/2程度欠損	砥面21面、漢状研磨痕あり、荒砥
27		砥石	H	140住	南西	砂岩		(6.46)	(4.29)	(758.0)	1/2程度欠損	磨面1面
30		磨石類	L	151住	No.12	砂岩		5.44	4.01	692.0	完形	砥部1端部
34	13	磨石類	M	165住	南東	緑色片岩		5.27	3.28	(472.0)	表面剥離	砥部2端部
35		石核	M	165住	南	黒曜石	2.48	3.10	2.32	17.3	完形	打面3面以上
36	5	打製石斧	M	166住	北東	頁岩	11.40	6.92	2.10	229.3	完形	短冊形
37		剥片	M	166住	北西	黒曜石	3.32	3.53	1.06	9.6	完形	
38	1	石鏃	M	168住	北西	チャート	1.91	1.62	0.54	1.3	完形	無茎凹基縁
39		剥片	M	168住	北裾部	黒曜石	1.82	2.44	6.20	2.2	完形	
40		磨石類	M	170住	北東	砂岩	(11.53)	6.29	(4.06)	(462.0)	1/2程度欠損	磨面1面、砥部1面
3		砥石	A	製1		砂岩	(7.02)	(4.19)	(2.20)	(124.4)	1/2程度欠損	砥面2面、荒砥
4		台石	A	製7	No.2	砂岩					完形	磨面1面
31	4	石鏃	L	炭2	南	黒曜石	(3.60)	1.87	1.90	(8.0)	磨部欠損	平面形逆三角形
5	2	石鏃	A	土114	No.1	チャート	(2.32)	1.54	0.47	(1.3)	尖頭部先端と基部欠損	有茎凸基縁
32		小形刃器	L	溝7		黒曜石	3.23	2.40	9.50	6.8	完形	撚器
33		小形刃器	L	溝7		黒曜石	2.11	1.77	7.30	1.7	完形	撚器
25		石核	F	検出面	南東	黒曜石	4.52	4.91	2.41	37.7	完形	打面3面以上
26		二次加工 ある剥片	F	検出面		黒曜石	3.10	2.30	1.05	3.8	完形	2回逆二次加工
22		磨石類	D	拂土		砂岩		5.56	4.66	598.0	完形	磨面2面、砥部2面
41		剥片		拂土		黒曜石	(1.38)	(1.82)	(0.21)	(0.5)	1回逆欠損	

※ () 内数値は残存値を表す。

※ 300g未満は0.1g単位、300g以上は1g単位

第8表 金属製品一覽表

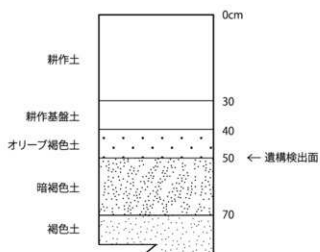
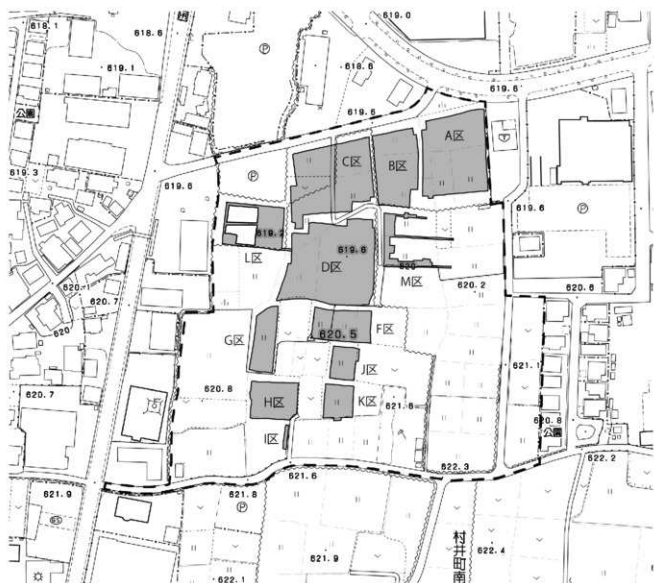
実測	ID	地区	遺構	出土地点	器種	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	金属 種別	備考
	1	A	14住	№1	洋				145.0	Fe	
	2	A	14住	№30	洋				166.0	Fe	
	3	A	14住	北東	不明	36.8	9.4	5.4	4.0	Fe	断面長方形の棒状製品
	4	B	18住	№18	釘か	34.5	9.7	6.1	4.1	Fe	断面長方形の棒状製品
	5	B	18住	№20	釘か	25.2	7.4	5.3	2.0	Fe	断面方形の棒状製品
	6	B	18住	№27	洋				33.0	Fe	
	7	B	18住	№28	不明	53.2	40.4	7.7	18.5	Fe	板状製品
	8	B	18住	№29	不明	91.3	48.0	10.3	62.8	Fe	板状製品
	9	B	18住	カマド №3	不明	43.2	14.9	8.6	5.7	Fe	板状製品
	10	B	18住	北西	不明	53.0	6.2	5.3	2.6	Fe	環状製品／一端が開く
	11	B	18住	北西	釘か	34.9	7.1	5.4	3.0	Fe	断面方形の棒状製品／J字形に曲がる
	12	B	20住	№1	洋				7.0	Fe	
	13	B	20住	№2	不明	30.9	12.1	9.0	6.5	Fe	断面長方形の棒状製品
	14	B	20住	№3	釘か	16.3	6.3	5.7	1.1	Fe	断面方形の棒状製品
	15	B	20住	№4	燧鉄	61.2	23.0	7.0	22.4	Fe	頂部、基部欠
	16	B	21住	№35	鏝	52.0	21.3	10.8	12.5	Fe	切先、基部欠
	17	B	21住	№40・41	不明	91.6	11.6	8.5	15.0	Fe	棒状製品／錆化による膨張で断面形不明
25	18	C	22住	P1 №2	紡錘車	48.8	44.7	6.9	26.7	Fe	紡錘及び紡錘の一部
	19	C	22住	P1	紡錘車か	35.4	6.9	6.8	2.2	Fe	紡錘の一部か／断面円形
	20	C	22住	P1	紡錘車か	36.8	4.4	4.1	1.0	Fe	紡錘先端か／断面円形
	21	C	22住	P1	紡錘車か	50.4	6.2	5.9	2.8	Fe	紡錘先端か／断面円形
33	22	C	23住	№1	鉄貝	67.6	45.7	11.9	40.6	Fe	完形
1	23	C	23住	№2	鏝	129.5	29.4	8.8	18.0	Fe	鏝脱離／片側の刃部先端欠
24	24	C	23住	南西上層	刀子か	46.7	7.4	4.7	2.4	Fe	形状は刀子に似るが、錆化による膨張で刃部の有無が不明
2	25	C	24住	№1	鏝	86.4	16.4	11.5	15.6	Fe	基部欠
26	26	C	24住	№3	紡錘車	266.0	52.6	7.9	38.6	Fe	紡錘の一部、紡錘先端欠
27	27	C	24住	北西	洋				11.0	Fe	
28	28	C	25住	№3	不明	29.7	5.0	4.5	0.8	Fe	断面円形の棒状製品
6	29	C	25住	№7	刀子	148.1	16.3	6.9	25.0	Fe	切先、基部欠
30	30	C	28住	北西 床前	洋				9.1	Fe	
31	31	C	30住	北東	洋				11.0	Fe	
32	32	C	31住	№7	洋				190.0	Fe	
33	33	C	34住	北東	不明	45.9	12.8	7.2	7.5	Fe	断面長方形の棒状／刀子に似るが刃部がない
34	34	C	35住	南東	洋				55.7	Fe	
35	35	C	37住	南	不明	38.6	5.2	5.1	2.0	Fe	断面円形の棒状製品
36	36	C	37住	南	洋				262.0	Fe	
37	37	C	39住	南東	洋				143.0	Fe	
38	38	C	41住	№1	不明	63.9	14.4	7.2	14.3	Fe	板状製品／今や湾曲する
39	39	C	41住	北東上層	洋				212.0	Fe	
40	40	C	43住	№1	洋				125.0	Fe	
41	41	C	43住	北西	洋				17.0	Fe	
42	42	C	49住	№3	洋				103.0	Fe	
43	43	C	49住	№4	洋				155.0	Fe	
44	44	C	49住	№16	洋				236.0	Fe	
45	45	C	49住	№20	洋				21.0	Fe	
46	46	C	49住		洋				12.0	Fe	
47	47	C	51住	東	刀子	23.4	12.1	4.2	1.7	Fe	切先のみ
48	48	D	54住	北東	洋				15.9	Fe	
49	49	D	54住	北東	洋				53.0	Fe	
50	50	D	56住	南東	洋				38.3	Fe	
20	51	D	62住	№2	鏝	169.0	25.5	24.0	119.9	Fe	先端欠／頭部周辺に環状のものを巻いた痕跡あり
7	52	D	62住	№20	刀子	106.2	16.2	5.8	13.4	Fe	切先欠
53	53	D	62住	南西	刀子	54.7	16.9	6.1	12.5	Fe	身部及び基部の一部欠
54	54	D	62住	南西	不明	44.3	7.5	6.8	4.1	Fe	断面円形の棒状製品
55	55	D	62・63・64・67・68住		洋				66.2	Fe	
56	56	D	63・67・68住		不明	34.2	33.2	5.0	9.9	Fe	板状製品
28	57	D	69住	№12	釘	85.4	12.0	11.7	22.0	Fe	頭部、基部先端欠／断面方形
58	58	D	70住	南	不明	34.3	29.2	8.5	15.9	Fe	板状製品
59	59	D	78住	№1	洋				103.0	Fe	
60	60	D	78住	№2	洋				113.0	Fe	
21	61	D	79住	№8	鏝か	120.0	11.1	9.2	20.0	Fe	断面方形の棒状／残存中央付近が膨らみ、片端が尖る
24	62	D	79住	北東	平引鉄	82.1	24.0	5.1	21.2	Fe	基部欠
63	63	D	80住	西	不明	32.6	8.7	7.7	3.7	Fe	棒状製品／錆化による膨張で断面形不明
64	64	D	80住	東	洋				18.0	Fe	
65	65	D	83住	№3	不明	102.5	8.1	6.4	9.8	Fe	棒状製品／錆化による膨張で断面形不明／「J」字形に屈曲する
66	66	D	86住		洋				34.0	Fe	
8	67	D	87住	№8	刀子	136.3	16.6	8.6	18.4	Fe	切先、基部欠／基部両面に木質接着
22	68	D	92住	№15	鏝か	144.3	25.8	14.9	54.1	Fe	断面方形の棒状／残存中央付近が膨らみ、片端が尖る
9	69	D	96住	№9	刀子	187.5	15.5	8.0	30.5	Fe	切先欠
70	70	D	100住	№2	刀子	86.1	16.9	8.1	21.5	Fe	基部の一部
71	71	D	100住	南東	洋				40.2	Fe	

実例	ID	地区	遺構	出土地点	器種	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	金属 成分	備考
	72	D	100住	北東	洋				23.5	Fe	
	73	D	102住	南東	刀子か	45.0	12.2	4.8	6.9	Fe	形状は刀子に似るが、錆化による影響で刃部の有無が不明
	74	D	102住	南東	刀子か	27.4	7.9	4.5	1.3	Fe	形状は刀子に似るが、錆化による影響で刃部の有無が不明
	75	D	102住	南東	洋				580.0	Fe	
32	76	D	102住	カマド周辺	釘か	104.0	8.8	7.1	16.3	Fe	棒状製品/断面は部位により方形と円形で異なる
3	77	D	104住	№1	鏃	80.8	28.5	11.3	31.5	Fe	基部欠
	78	D	104住	P3	釘か	101.0	8.3	8.1	10.9	Fe	断面方形の棒状製品/片側の幅が徐々に減じる
	79	D	107住	カマド №1	鏃か	43.8	25.1	3.9	8.5	Fe	薄板状/刃部の一部欠
	80	D	108住	№2	刀子か	53.7	18.2	6.4	13.7	Fe	形状は刀子に似るが、錆化による影響で刃部の有無が不明
	81	D	108住	№12	刀子か	78.6	16.3	6.8	14.3	Fe	切先、基部の一部欠
27	82	D	108住	№19	紡錘車	52.1	20.4	6.9	25.8	Fe	紡錘及び紡錘の一部
	83	D	110住	№1	洋				46.0	Fe	
	84	D	110住	№2	不明	41.7	14.4	9.9	8.0	Fe	断面長方形/片側が膨らむ
	85	D	110住	№2	不明	42.1	13.1	5.3	6.1	Fe	板状製品/やや湾曲する
15	86	D	110住	№3	鏃	116.8	21.7	6.5	28.3	Fe	刃部先端欠
	87	D	110住	P6	刀子か	40.5	16.0	7.2	7.3	Fe	形状は刀子に似るが、錆化による影響で刃部の有無が不明
29	88	D	110住	北東	釘	50.6	10.6	6.7	5.1	Fe	鋸部先端欠/断面方形
	89	D	110住	北東	洋				22.0	Fe	
10	90	D	113住	№2	刀子	109.2	15.7	7.2	15.0	Fe	基部欠
	91	D	114住	№2	洋				141.0	Fe	
	92	D	114住	№11	釘か	65.3	12.1	8.3	11.6	Fe	断面長方形の棒状製品/端部がやや湾曲する
	93	D	114住	北西 床直	不明	22.8	5.4	4.2	0.8	Fe	断面扇形形の棒状製品
	94	D	114住	洋					134.0	Fe	
	95	D	114住	カマド周辺	不明	40.6	6.1	5.8	2.3	Fe	断面円形の棒状製品/片側の幅が徐々に減じる
	96	D	117住	№1	刀子か	40.6	10.8	4.4	3.6	Fe	形状は刀子に似るが、錆化による影響で刃部の有無が不明
	97	D	117住	№1	不明	26.2	5.0	4.5	1.0	Fe	断面円形の棒状製品
	98	D	119住	№4	刀子 or 鏃か	116.3	16.8	11.3	23.9	Fe	形状は刀子や鏃に似るが、錆化による影響で刃部の有無が不明
4	99	D	119住	№5	鏃	78.0	16.2	10.8	10.8	Fe	基部欠
	100	D	119住	西	洋				9.0	Fe	
	101	F	120住	№2	洋				431.0	Fe	
	102	F	120住	洋					6.1	Fe	
	103	F	122住	№4	鏃	72.1	22.8	6.9	20.0	Fe	断面方形の棒状製品
36	104	D	124住	P12 №1	塚中神宝	22.7	21.3	1.5	1.1	Cu	わずかに欠/初踏 818 年 (醍醐天皇)
11	105	D	125住	№2	刀子	167.0	24.7	6.4	37.7	Fe	完形
12	106	F	129住	№1	刀子	98.0	14.3	6.9	11.1	Fe	基部欠
	107	F	129住	№9	不明	53.8	10.4	9.7	16.3	Fe	断面円形の棒状/ J 字形に曲がる/片側の先端が尖る
30	108	J	131住	№2	釘	54.9	7.4	6.2	5.0	Fe	完形/断面方形
109	K	132住	南西	刀子か	32.2	10.0	5.2	3.6	Fe	形状は刀子に似るが、錆化による影響で刃部の有無が不明	
34	110	H	140住	北東	不明	30.8	20.5	6.5	5.7	Fe	小札状の板状製品が折れ曲がったもの
	111	H	140住	南東	洋				79.0	Fe	
	112	H	142住	№10	刀子か	37.4	9.7	4.6	3.3	Fe	形状は刀子に似るが、錆化による影響で刃部の有無が不明
	113	H	142住	西	釘か	36.3	8.7	6.6	3.2	Fe	断面方形の棒状製品/片側の幅が徐々に減じる
	114	D	148住	№1	洋				29.0	Fe	
	115	D	148住	№2	洋				22.0	Fe	
	116	L	149住	№1	不明	105.3	8.8	7.2	16.0	Fe	断面方形の棒状製品
	117	L	149住	刀子か	36.6	11.1	6.1	4.7	Fe	形状は刀子に似るが、錆化による影響で刃部の有無が不明	
	118	L	150住	洋					9.6	Fe	
	119	L	151住	洋					68.7	Fe	
19	120	L	153住	№1	洋	79.8	40.6	14.9	118.0	Fe	完形
	121	L	153住	南	不明	36.5	32.2	6.2	16.0	Fe	板状製品
	122	L	153住	南	不明	34.2	29.8	8.4	14.3	Fe	板状製品
35	123	L	156住	№1	不明	34.2	23.4	3.0	4.6	Fe	板状製品/孔を持つ
	124	M	160住	南東	洋				23.4	Fe	
16	125	M	163住	№1	鏃	88.0	19.3	6.1	21.7	Fe	刃部及び基部の一部欠
	126	M	165住	№3	刀子	93.0	21.4	6.4	19.0	Fe	身部の一部、基部欠
	127	M	165住	№4	洋				175.0	Fe	
	128	M	165住	北東	洋				90.0	Fe	
	129	M	165住	北東	不明	50.2	10.0	7.6	8.4	Fe	断面長方形の棒状製品/片側の幅が徐々に減じる
	130	M	165住	北東	洋				258.0	Fe	
	131	M	165住	南東	洋				48.0	Fe	
	132	M	165住	南西	不明	28.0	27.5	10.1	8.6	Fe	板状製品
	133	M	168住	北西	鏃か	61.2	36.8	7.5	36.7	Fe	折り返し部の一部欠
	134	M	168住	カマド	洋				20.0	Fe	
	135	M	170住	№1	鏃	72.1	21.7	5.1	14.6	Fe	切先、基部欠
13	136	M	170住	北西	刀子	78.3	12.3	3.3	5.5	Fe	切先欠
17	137	A	174住	№3	鏃	139.2	32.5	14.3	36.9	Fe	折り返しは見られないが、形状から鏃と思われる
14	138	A	175住	№1	刀子	106.5	14.7	6.0	11.4	Fe	切先欠
	139	A	壱1	№3	鏃	41.2	16.8	8.0	5.7	Fe	置被部のみ
31	140	A	壱1	№8	釘	46.5	7.0	7.0	3.9	Fe	頭部、鋸部先端わずかに欠/断面方形
	141	A	壱1	№12	不明	17.2	7.2	6.9	1.0	Fe	断面円形の棒状製品
	142	A	壱1	№21	室東神宝	25.1	25.0	1.1	2.3	Cu	完形/初踏 1039 年 (元)
	143	A	壱1	№22	元豊神宝	20.3	19.2	1.1	1.0	Cu	わずかに欠/初踏 1078 年 (元)
	144	A	壱1	№23	不明	51.0	10.8	5.0	4.7	Fe	板状製品

実例	ID	地区	遺構	出土地点	器種	最大長 (㎝)	最大幅 (㎝)	最大厚 (㎝)	重量 (g)	金属 類別	備考
	145	A	竪1	№31	元基礎室か	25.0	19.8	1.3	1.6	Cu	1/4欠/初踏1086年(末)
	146	A	竪1	№32	□工遺室	25.5	16.3	1.0	1.1	Cu	半欠
	147	L	炭1		刀子か	24.4	9.7	4.7	1.7	Fe	形状は刀子に似るが、錆化による膨張で刃部の有無が不明
	148	L	炭2	№1	洋				363.0	Fe	
5	149	C	土347	№1	壺	98.7	16.3	12.6	18.4	Fe	葉部欠
	150	C	土364		洋				162.4	Fe	
	151	C	土366	東	洋				61.0	Fe	
	152	C	土367	№6	洋				38.5	Fe	
	153	C	土367	№8	不明	61.0	7.3	6.2	1.8	Fe	断面円形の棒状製品
	154	C	土367	№8	不明	28.3	7.3	6.2	1.8	Fe	断面円形の棒状製品
	155	C	土367	東	不明	28.2	5.9	4.4	1.4	Fe	断面円形の棒状製品
	156	D	土371	№1	洋				52.0	Fe	
	157	D	土399	№1	刀子か	60.6	20.4	7.9	14.7	Fe	形状は刀子に似るが、錆化による膨張で刃部の有無が不明
	158	H	土447	№1	不明	78.0	10.1	7.7	10.7	Fe	断面楕円形の棒状製品
23	159	L	土481	№1	壺か	101.9	22.5	13.1	42.5	Fe	断面方形の棒状/残存上部が膨らみ、片側の幅が徐々に減じる
	160	L	土481		洋				360.0	Fe	
	161	L	土482		洋				158.0	Fe	
	162	L	土482		洋				466.0	Fe	
18	163	D	土565		壺	110.9	27.8	15.1	67.8	Fe	耳部のみ
	164	D	土628		洋				46.0	Fe	
	165	D	竪1		洋				14.0	Fe	
	166	A	溝2	北	壺	51.5	19.8	10.1	7.5	Fe	笠被部のみ
	167	A	溝2	北	不明	55.4	6.7	5.4	4.5	Fe	断面円形の棒状製品
	168	B	検出面	畝付處	不明	32.4	30.7	2.8	6.2	Fe	板状製品
	169	C	検出面	南東	洋				8.0	Fe	
	170	C	検出面		不明	32.5	4.9	4.4	0.8	Fe	断面円形の棒状製品
	171	D	検出面	南東	不明	50.4	8.0	7.8	4.9	Fe	棒状製品/錆化による膨張で断面形不明
	172	D	検出面	南東	不明	125.0	5.8	5.7	10.3	Fe	断面円形の棒状製品/ U字形に曲がる
	173	L	検出面		洋				155.0	Fe	
	174	B	排土		洋				3.5	Fe	

図 版

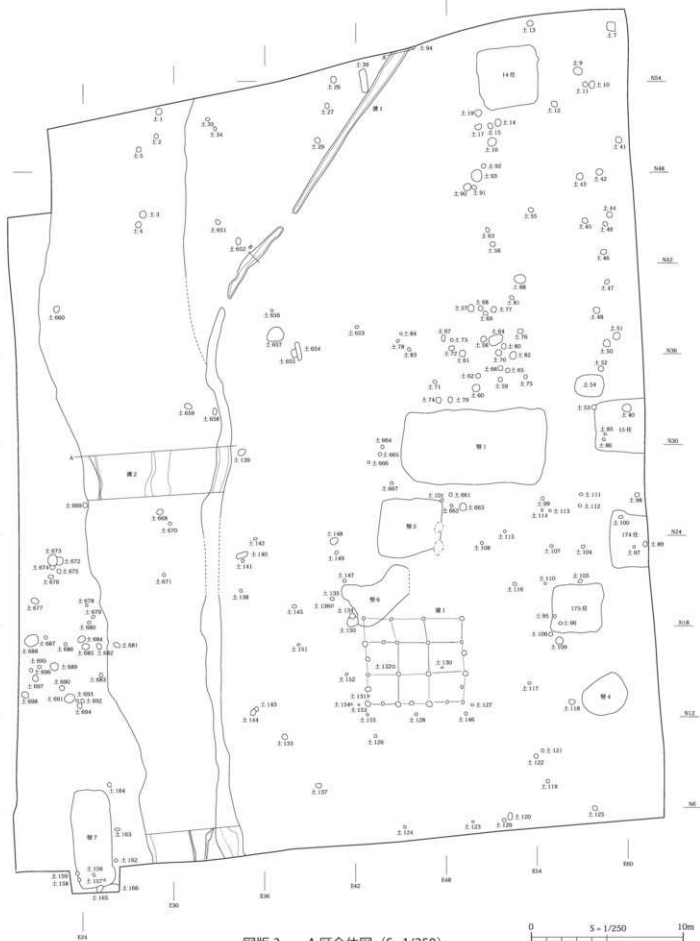




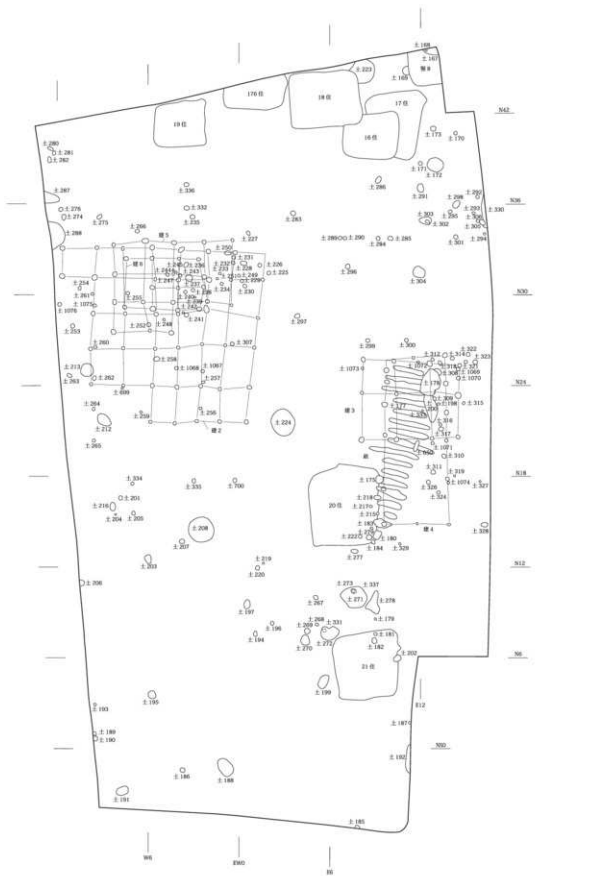
図版1 事業対象地と調査区の範囲 (S=1/2,500)、土層図



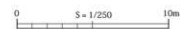
图版2 調査区全体図 (S=1/1,000)



图版 3 A区全体图 (S=1/250)

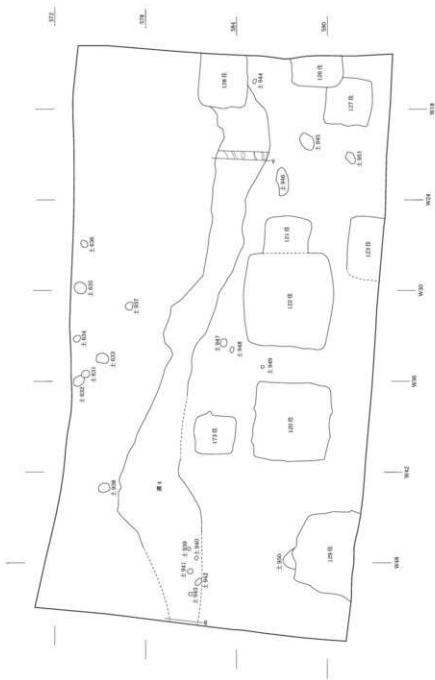


图版 4 B 区全体图 (S=1/250)

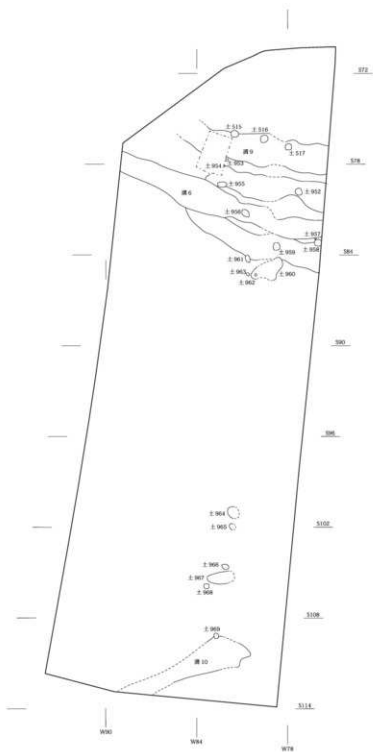


图版 5 C区全体图 (S=1/250) - 109 -

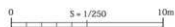


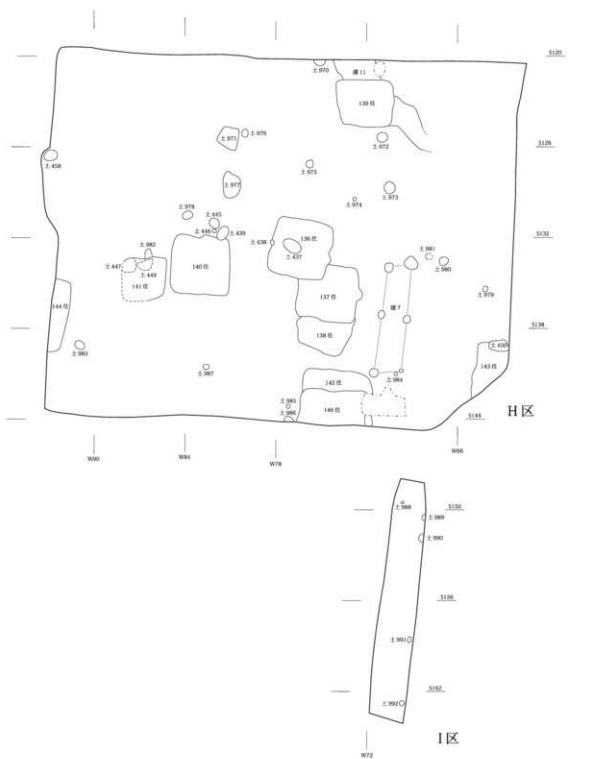


图版7 F区全体图 (S=1/250)

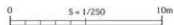


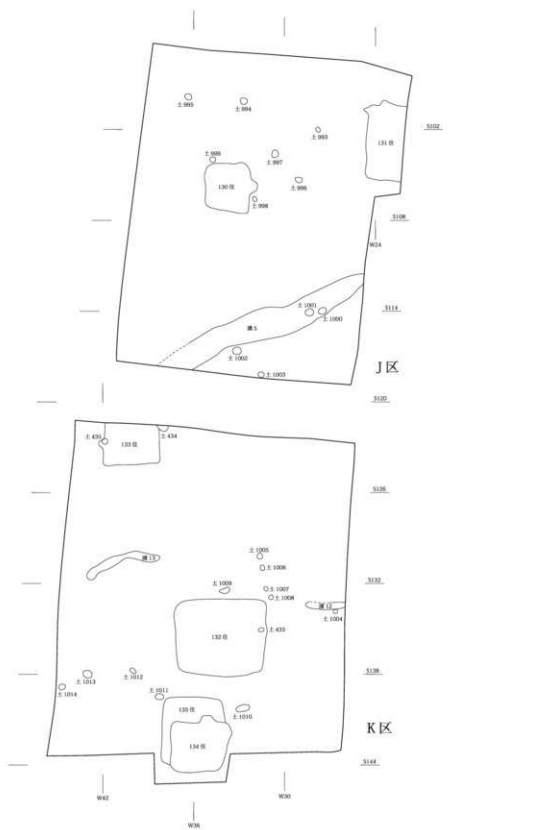
图版 8 G区全体图 (S=1/250)



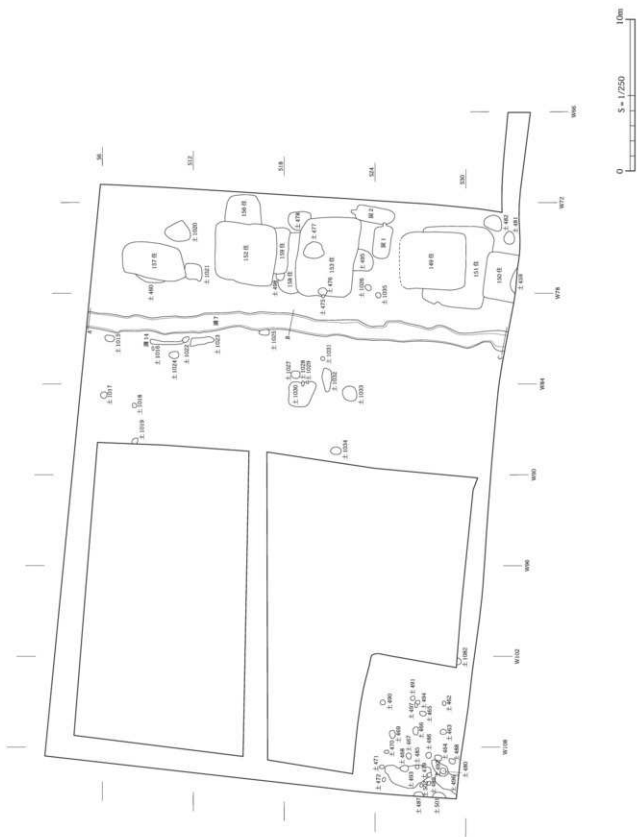


图版 9 H·I区全体图 (S=1/250)

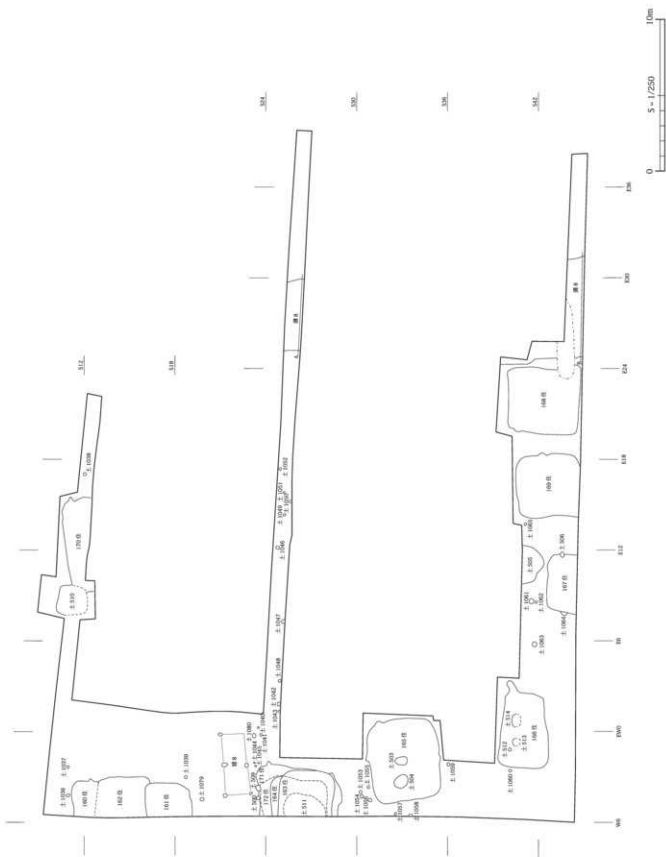




图版 10 J·K 区全体图 (S=1/250)



图版 11 L区全体图 (S=1/250)



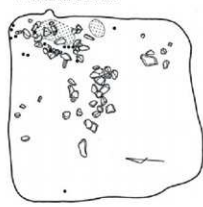
图版 12 M 区全体图 (S=1/250)

第 14 号住居址

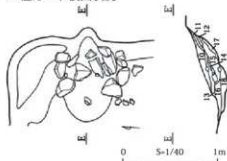


- 7: 黒粘シルト質 (〜2cm 層厚)
8: 黒粘シルト質 (〜0.3cm 層厚)
9: 暗粘シルト質 (〜0.3cm 層厚)

14 住遺物出土状況

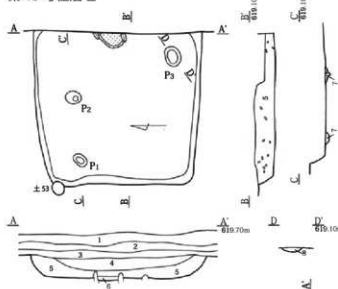


14 住カマド検出状況



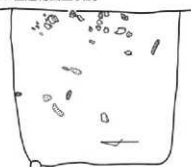
- 10: 黒粘質シルト (焼土粒少, 炭化物無)
11: 黒粘質シルト (焼土塊多, 炭化物無)
12: 黒粘質シルト (黒粘土粒少, 焼土粒)
13: 焼土 (黒粘土粒多)
14: 暗粘質
15: 暗粘質シルト (焼土塊大, 炭化物無)
16: 黒粘質シルト (焼土粒, 炭化物少)
17: 黒粘質シルト (焼土粒, 炭化物無)
18: 黒粘質シルト質 (炭化物多, 焼土粒, 〜2cm 層厚)

第 15 号住居址



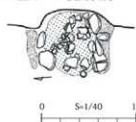
- 1: 新粘土
2: 水引硬粘土
3: 粘土-炭粘シルト質 (〜2cm 層厚・暗粘土粒少, 炭分-炭石粒無)
4: 黒粘質シルト質 (〜5cm 層厚・焼土中, 炭土粒少)
5: 暗粘質シルト質 (〜5cm 層厚, 焼土粒中, 炭土粒少)
6: 黒粘質シルト (焼土粒, 〜5cm 層厚, 炭化物無)
7: 暗粘質シルト (〜2cm 層厚, 焼土粒少)
8: 暗粘質シルト (〜2cm 層厚, 焼土粒少)

15 住遺物出土状況



第 22 号住居址

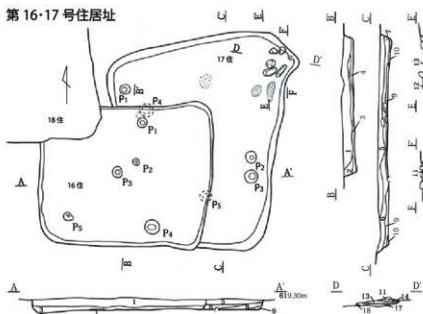
22 住カマド検出状況



- 1: 粘土-炭粘質シルト (〜4cm 層厚中)
2: 粘土-炭粘質シルト質 (〜10cm 層厚中)
3: 粘土-炭粘質シルト (焼土粒, 〜0.5cm 層厚多)
4: 粘土-炭粘質シルト質 (焼土塊, 炭化物多)

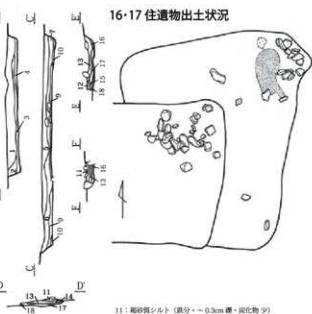
図版 13 竪穴住居址 (1)

第 16-17 号住居址



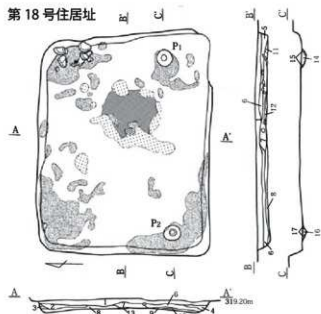
- 1: 焼粘質シルト (赤褐色土、 $\sim 1\text{cm}$ 厚・炭化物少)
- 2: 灰に近い焼粘質シルト ($\sim 0.5\text{cm}$ 厚少、赤褐色粘層)
- 3: 灰に近い焼粘質シルト (炭化物・ $\sim 1\text{cm}$ 厚少)
- 4: 灰に近い焼粘質シルト ($\sim 0.5\text{cm}$ 厚中)
- 5: 焼粘質シルト ($\sim 3\text{cm}$ 厚中、炭分・炭石較多)
- 6: 灰に近い焼粘質シルト ($\sim 0.3\text{cm}$ 厚多、炭分・炭化物少)
- 7: 焼粘質シルト ($\sim 0.3\text{cm}$ 厚多、炭分少)
- 8: 灰に近い焼粘質シルト (炭化物・ $\sim 1\text{cm}$ 厚少)
- 9: 灰に近い焼粘質シルト ($\sim 0.3\text{cm}$ 厚大、炭分・炭化物多)
- 10: 焼粘質シルト ($\sim 0.3\text{cm}$ 厚多)

16-17 号住居出土状況



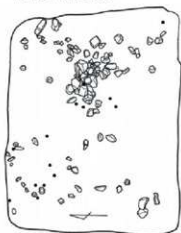
- 11: 焼粘質シルト (炭分・ $\sim 0.3\text{cm}$ 厚・炭化物少)
- 12: 焼粘質シルト質 (炭化物中、 $\sim 0.3\text{cm}$ 厚少)
- 13: 焼粘質シルト質 (炭化物・焼土塊中、 $\sim 0.3\text{cm}$ 厚少)
- 14: 焼粘質シルト質 (焼土塊・ $\sim 0.3\text{cm}$ 厚多、炭化物中)
- 15: 焼粘質シルト質 ($\sim 0.3\text{cm}$ 厚少、炭化物・焼土塊多)
- 16: 焼粘質シルト質 (炭化物・ $\sim 0.3\text{cm}$ 厚多)
- 17: 灰に近い焼粘質シルト質 (炭化物大、焼土塊少)
- 18: 焼粘質シルト (炭化物・ $\sim 0.3\text{cm}$ 厚中)

第 18 号住居址



- 1: 焼粘質シルト ($\sim 0.5\text{cm}$ 厚・炭分中)
- 2: 焼粘質シルト質 ($\sim 0.5\text{cm}$ 厚中、炭分少)
- 3: 焼粘質シルト質 (赤褐色土塊少)
- 4: 焼粘質シルト質 (赤褐色土塊中、焼土較多、 $\sim 3\text{cm}$ 厚多)
- 5: 焼粘質シルト質 (炭分・ $\sim 0.2\text{cm}$ 厚中、焼土塊多)
- 6: 焼粘質シルト質 ($\sim 0.5\text{cm}$ 厚中、炭化物少、炭分少)
- 7: 焼粘質シルト質 ($\sim 0.5\text{cm}$ 厚中、炭化物少・炭分少)
- 8: 焼粘質シルト質 ($\sim 0.5\text{cm}$ 厚大、炭分・炭化物多、焼土較多)
- 9: 焼粘質シルト質 (焼土塊多)
- 10: 焼粘質シルト質 ($\sim 3\text{cm}$ 厚多)
- 11: 焼粘質シルト質 (炭化物・焼土較少)
- 12: 焼粘質シルト質 (炭化物少)
- 13: 焼土
- 14: 灰に近い焼粘質シルト (炭化物多、 $\sim 0.3\text{cm}$ 厚中、焼土較少)
- 15: 焼粘質シルト質 (炭化物・ $\sim 0.3\text{cm}$ 厚少)
- 16: 焼粘質シルト質 (焼土塊中)
- 17: 焼粘質シルト質 (焼土塊中、炭化物少)

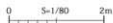
18 号住居出土状況



第 27 号住居址

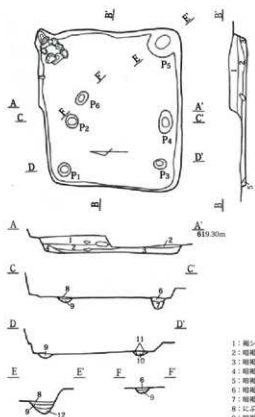


- 1: 焼粘質シルト質 ($\sim 2\text{cm}$ 厚多)

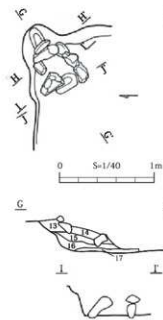


図版 14 竪穴住居址 (2)

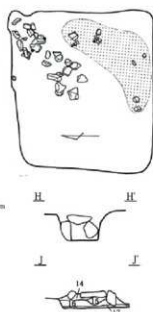
第 19 号住居址



19 住カマド検出状況

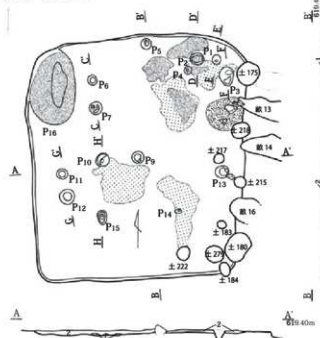


19 住遺物出土状況

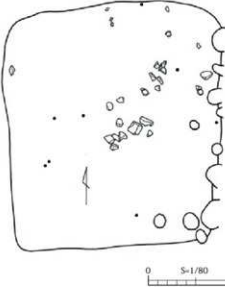


- 1: 焼シロ土質 (鉄分多、 $\sim 2\text{cm}$ 薄中)
- 2: 焼粘質シルト (鉄分多、 $\sim 0.2\text{cm}$ 薄中)
- 3: 焼粘砂質シルト (鉄分中)
- 4: 焼粘シロ土質 (焼土粒、 $\sim 0.5\text{cm}$ 薄少)
- 5: 焼粘砂質シルト ($\sim 2\text{cm}$ 薄多)
- 6: 焼粘シロ土質 ($\sim 0.2\text{cm}$ 薄多)
- 7: 焼粘砂質シルト ($\sim 0.5\text{cm}$ 薄少、黄褐色土塊)
- 8: にぶい黄粘シロ土質 ($\sim 0.3\text{cm}$ 薄中、鉄分少)
- 9: 焼粘シロ土質 ($\sim 2\text{cm}$ 薄・鉄分中)
- 10: 焼粘シロ土質 ($\sim 3\text{cm}$ 薄多)
- 11: 焼粘シロ土質 ($\sim 2\text{cm}$ 薄少)
- 12: 焼粘シロ土質 ($\sim 0.2\text{cm}$ 薄少、鉄分中)
- 13: 焼粘質シルト (炭化物、 $\sim 1\text{cm}$ 薄少)
- 14: にぶい黄粘シロ土質 ($\sim 0.3\text{cm}$ 薄・焼土粒中、炭化物少)
- 15: 焼粘シロ土質 (炭化物・鉄分、 $\sim 0.3\text{cm}$ 薄少)
- 16: 焼粘シロ土質 ($\sim 0.2\text{cm}$ 薄中、炭化物・焼土粒少)
- 17: 焼粘砂質シルト (炭化物中、 $\sim 2\text{cm}$ 薄・焼土粒少)

第 20 号住居址



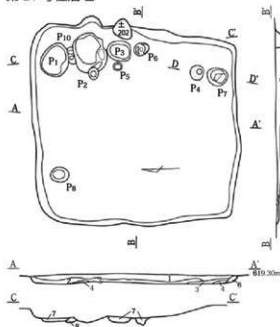
20 住遺物出土状況



- 1: 焼粘質シルト (焼土粒・炭化物中)
- 2: にぶい黄粘シロ土質 (焼土粒・炭化物中)
- 3: 焼粘シロ土質 ($\sim 0.3\text{cm}$ 薄中、炭化物少)
- 4: にぶい黄粘シロ土質 (炭化物・鉄分少)
- 5: 焼土
- 6: にぶい黄粘質シルト (炭化物中、 $\sim 0.3\text{cm}$ 薄・焼土粒少)
- 7: 黄粘砂質シルト (炭分、 $\sim 0.3\text{cm}$ 薄中、炭化物少)
- 8: にぶい黄粘質シルト (炭化物中、鉄分少)
- 9: 黄粘砂質シルト (鉄分中、炭化物少)
- 10: にぶい黄粘質シルト (炭化物中、焼土粒中)

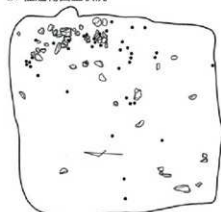
図版 15 竪穴住居址 (3)

第 21 号住居址

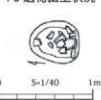


- 1: におい・黄褐色粘質シルト (～2cm 層・灰黄褐色土層中)
- 2: におい・黄褐色シルト質 (～1cm 層・灰黄褐色土層・炭化物・焼土粒少)
- 3: 暗褐色シルト (～5cm 層中)
- 4: 暗褐色シルト (～0.5cm 層大)
- 5: 暗褐色シルト (焼土層・～2cm 層中)
- 6: 暗褐色シルト (～1cm 層中)
- 7: におい・黄褐色シルト質 (～1cm 層中・焼土粒・炭化物少)
- 8: 暗褐色シルト (炭化物・焼土粒・灰土層・黄褐色土層少・～2cm 層中)
- 9: 暗褐色シルト (炭化物中・焼土層少)

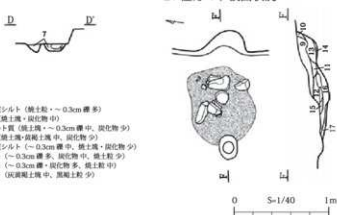
21 住遺物出土状況



P3 遺物出土状況

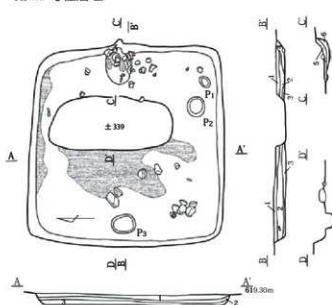


21 住カマド検出状況



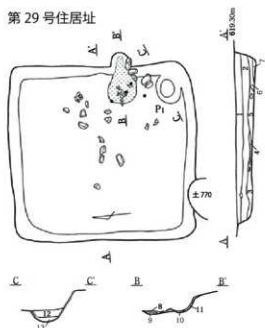
- 10: におい・黄褐色粘質シルト (焼土粒・～0.3cm 層中)
- 11: 暗褐色シルト質 (焼土層・炭化物中)
- 12: におい・黄褐色シルト質 (焼土層・～0.3cm 層中・炭化物少)
- 13: 暗褐色シルト質 (焼土層・黄褐色土層中・炭化物少)
- 14: におい・黄褐色粘質シルト (～0.5cm 層中・焼土層・炭化物少)
- 15: 暗褐色粘質シルト (～0.3cm 層中・炭化物中・焼土粒少)
- 16: 暗褐色粘質シルト (～0.3cm 層中・炭化物多・焼土層中)
- 17: 暗褐色粘質シルト (灰黄褐色土層中・黄褐色土層少)

第 25 号住居址



- 1: 暗褐色シルト質 (～0.3cm 層中)
- 2: 暗褐色シルト (～1cm 層中)
- 3: 暗褐色シルト質 (～0.3cm 層中・焼土粒中)
- 4: 暗褐色シルト質 (～2cm 層中・焼土層多)
- 5: 暗褐色シルト (～0.5cm 層大・におい・黄褐色土層中)
- 6: 黄褐色シルト質 (～0.5cm 層中)

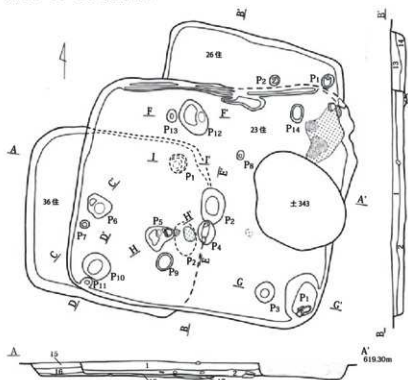
第 29 号住居址



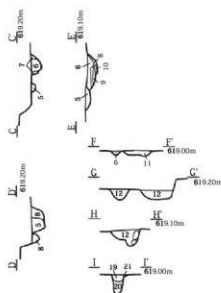
- 1: 暗褐色シルト質 (～0.3cm 層中)
- 2: におい・黄褐色シルト質 (～0.5cm 層中)
- 3: 暗褐色シルト質 (炭化物層)
- 4: におい・黄褐色粘質シルト (炭分大)
- 5: 暗褐色シルト質 (炭分少)
- 6: 暗褐色シルト質 (焼土層大・砂粒多)
- 7: 暗褐色粘質シルト (炭化物中)
- 8: 暗褐色シルト質 (砂粒・焼土層多)
- 9: 暗褐色シルト質 (砂粒多)
- 10: 暗褐色シルト質 (炭化物層)
- 11: 暗褐色シルト質 (炭分・焼土層多)
- 12: 暗褐色シルト質 (～2cm 層・焼土層少)
- 13: 黄褐色シルト質 (焼土層少)

図版 16 竪穴住居址 (4)

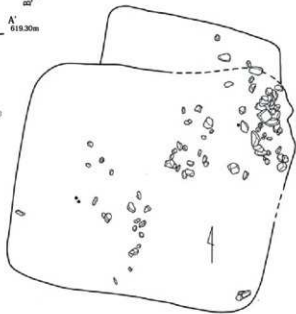
第 23・26・36 号住居址



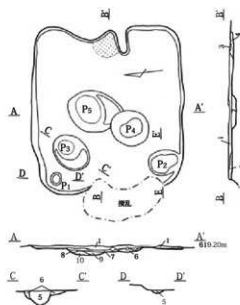
- | | |
|----------------------------------|------------------------------|
| 1: 埋藏シルト質 (～5cm 層多、赤褐色土、炭化物多) | 12: 埋藏シルト質 (～1cm 層中、炭化物少) |
| 2: 埋藏シルト質 (～3cm 層中) | 13: 埋藏シルト質 (～0.3cm 層・黄褐色土塊中) |
| 3: 埋藏シルト質 (砂粒多) | 14: 埋藏シルト質 (砂粒多、粘土塊中) |
| 4: 埋藏シルト質 (黄褐色土塊中) | 15: 埋藏シルト質 (～0.3cm 層多) |
| 5: 埋藏シルト質 (～0.3cm 層中、粘土塊少) | 16: 埋藏シルト質 (砂粒多、粘土塊中、炭化物) |
| 6: 埋藏シルト質 (～0.3cm 層中、黄褐色土塊少、炭化物) | 17: 埋藏シルト質 (砂粒多) |
| 7: 埋藏シルト質 (粘土塊・炭化物少) | 18: 埋藏シルト質 (砂粒多、粘土塊中) |
| 8: 埋藏シルト質 (黄褐色土塊・～1cm 層中、炭化物) | 19: 埋藏シルト質 (～0.3cm 層多) |
| 9: 埋藏粘質 (炭化物大) | 20: 埋藏シルト質 (黄褐色土塊・～3cm 層中) |
| 10: 粘土塊埋藏シルト質 (～0.3cm 層多) | 21: 粘土塊埋藏シルト質 (～0.3cm 層多) |
| 11: 埋藏シルト質 (粘土塊大) | |



23-26 住遺物出土状況



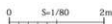
第 31 号住居址



31 住遺物出土状況

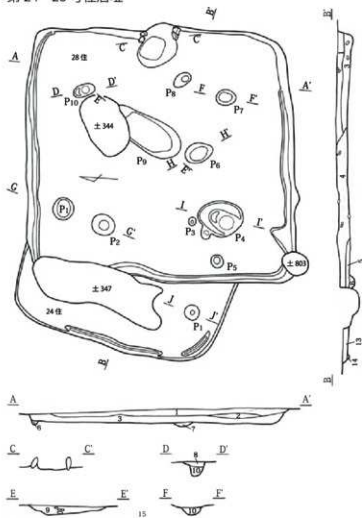


- | |
|--------------------------------|
| 1: 埋藏粘質シルト (～1cm 層上) |
| 2: 埋藏シルト質 (～0.3cm 層多) |
| 3: 埋藏シルト質 (炭化物中、粘土塊・～0.5cm 層少) |
| 4: 埋藏粘質シルト (～1cm 層多) |
| 5: 埋藏シルト質 (黄褐色土塊中、～1cm 層少) |
| 6: 埋藏シルト質 (～1cm 層中、炭化物・粘土塊少) |
| 7: 埋藏シルト質 (粘土塊・炭化物中、～0.5cm 層少) |
| 8: 埋藏シルト質 (～0.5cm 層中) |
| 9: 埋藏シルト質 (粘土塊大) |
| 10: 埋藏シルト質 (～0.5cm 層少) |

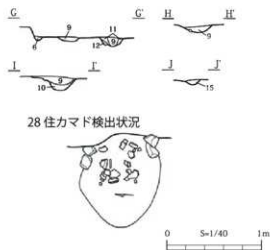
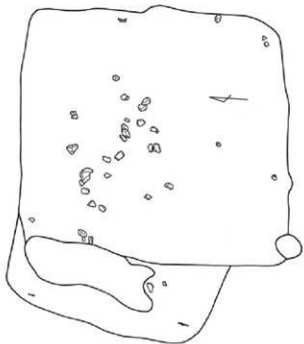


図版 17 竪穴住居址 (5)

第 24・28 号住居址



24・28 住遺物出土状況



28 住カマド検出状況

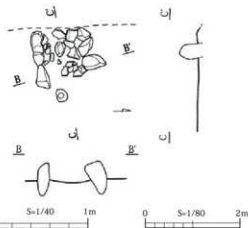
- 1: 燧燧シルト質 (～3cm 層中、燧土塊少、燧土塊層)
- 2: 燧燧シルト質 (～1cm 層中)
- 3: 燧燧シルト質 (～3cm 層中、炭化物層)
- 4: 灰に燧燧粘質シルト (～0.5cm 層中、燧土塊・炭化物少)
- 5: 燧燧粘質シルト (～0.3cm 層中、燧燧土塊・燧燧土塊少)
- 6: 灰に燧燧シルト質 (～0.5cm 層中)
- 7: 灰に燧燧シルト質 (炭分中、～0.3cm 層中)
- 8: 燧燧シルト質 (～4cm 層中)
- 9: 燧燧シルト質 (～0.5cm 層中、炭化物・燧燧土塊少)
- 10: 燧燧粘質シルト (～4cm 層中、燧燧土塊少)
- 11: 燧燧粘質シルト (燧燧土塊中、炭分少)
- 12: 燧燧シルト質 (～0.3cm 層中、炭化物少)
- 13: 燧燧シルト質
- 14: 燧燧シルト質 (～0.3cm 層中)
- 15: 燧燧シルト質 (～0.5cm 層中)

第 32 号住居址



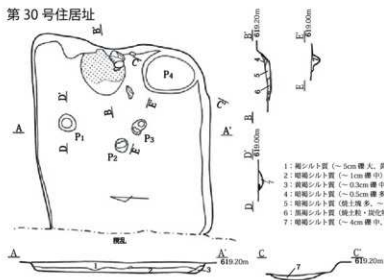
1: 燧燧シルト質 (～3cm 層中)

32 住カマド検出状況

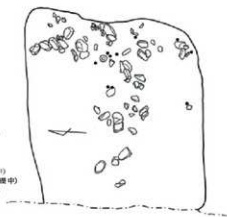


図版 18 竪穴住居址 (6)

第30号住居址

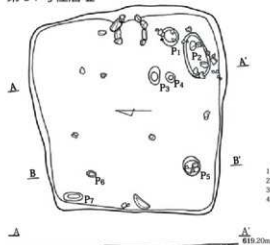


30住遺物出土状況

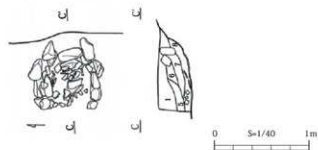


- 1: 埴輪シロト貫 (~5cm 體大, 炭化物・硝土中)
- 2: 埴輪シロト貫 (~1cm 體中)
- 3: 黄陶シロト貫 (~0.3cm 體中)
- 4: 埴輪シロト貫 (~0.5cm 體中)
- 5: 埴輪シロト貫 (硝土過多, ~0.5cm 體中)
- 6: 黄陶シロト貫 (硝土粒・炭化物, ~1cm 體中)
- 7: 埴輪シロト貫 (~4cm 體中, 炭化物少)

第34号住居址

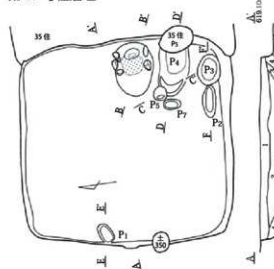


34住カマド検出状況

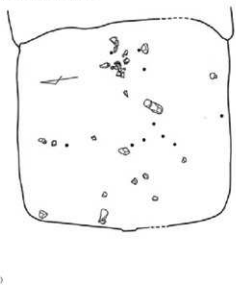


- 1: 埴輪シロト貫 (~3cm 體少, 炭化物)
- 2: 黄陶シロト貫 (~3cm 體少)
- 3: 埴輪シロト貫 (~0.3cm 體少)
- 4: 硝土質黄陶敷瓦シロト (~2cm 體多, 硝土過多)
- 5: 黄陶シロト貫 (~0.3cm 體中)
- 6: 埴輪シロト貫 (~0.3cm 體少)
- 7: 黄陶シロト貫 (~0.3cm 體少, 硝土塊)
- 8: 黄陶シロト貫 (~0.3cm 體少)

第37号住居址



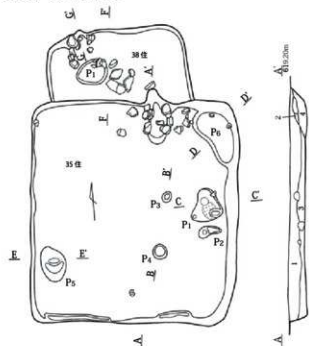
37住遺物出土状況



- 1: 埴輪シロト貫 (~2cm 體多)
- 2: 埴輪シロト貫 (~2cm 體大, 炭化物・硝土粒)
- 3: 埴輪シロト貫 (炭化物・硝土粒)
- 4: 埴輪シロト貫 (~0.3cm 體中)
- 5: 埴輪シロト貫 (硝土質黄陶土層中, ~0.3cm 體中)
- 6: 埴輪シロト貫 (~0.3cm 體・硝土過多, 炭化物)
- 7: 硝土
- 8: 埴輪シロト貫 (~0.3cm 體多)
- 9: 埴輪シロト貫 (~0.3cm 體大, 炭化物)
- 10: 埴輪シロト貫 (~0.3cm 體多, 硝土層中, 炭化物)

図版 19 竪穴住居址 (7)

第 35・38 号住居址

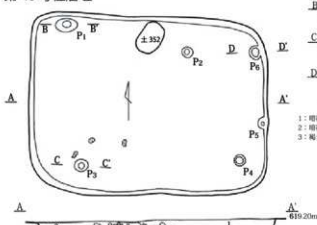


第 40 号住居址



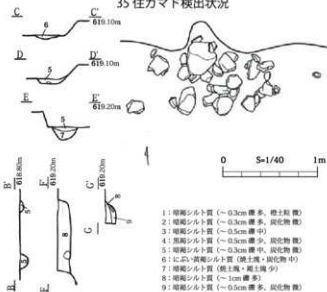
- 1: 埋藏シルト質 (砂粒・粘土質多)
- 2: 埋藏シルト質 (~0.3cm 礫大, 炭化物中)
- 3: 埋藏シルト質 (~0.3cm 礫多)
- 4: 埋藏シルト質 (~0.3cm 礫多, 粘土質中)
- 5: 粘土質埋藏シルト質 (~0.3cm 礫多)
- 6: 埋藏シルト質 (~0.3cm 礫多, 炭化物難)

第 46 号住居址



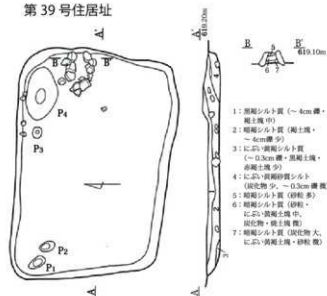
- 1: 埋藏シルト質 (~0.5cm 礫大)
- 2: 埋藏シルト質 (~1cm 礫大)
- 3: 埋藏シルト質 (~0.5cm 礫多)

35 住カマド検出状況



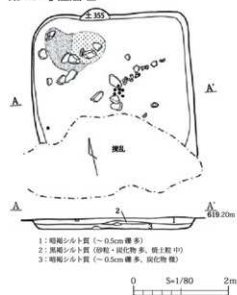
- 1: 埋藏シルト質 (~0.3cm 礫多, 粘土質難)
- 2: 埋藏シルト質 (~0.3cm 礫多, 炭化物難)
- 3: 埋藏シルト質 (~0.5cm 礫中)
- 4: 埋藏シルト質 (~0.3cm 礫多, 炭化物難)
- 5: 埋藏シルト質 (~0.3cm 礫中, 炭化物難)
- 6: 粘土質埋藏シルト質 (粘土質・炭化物中)
- 7: 埋藏シルト質 (粘土質・粘土質少)
- 8: 埋藏シルト質 (~1cm 礫多)
- 9: 埋藏シルト質 (~0.5cm 礫多, 炭化物難)

第 39 号住居址



- 1: 埋藏シルト質 (~4cm 礫・粘土質中)
- 2: 埋藏シルト質 (粘土質・~4cm 礫少)
- 3: 粘土質埋藏シルト質 (~0.3cm 礫・黒褐色土・炭化物少)
- 4: 粘土質埋藏シルト質 (炭化物少, ~0.3cm 礫難)
- 5: 埋藏シルト質 (砂粒多)
- 6: 埋藏シルト質 (砂粒・粘土質・粘土質・粘土質・粘土質)
- 7: 埋藏シルト質 (炭化物大, 粘土質・黒褐色土・砂粒難)

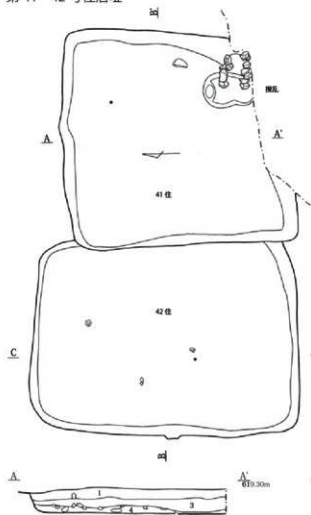
第 49 号住居址



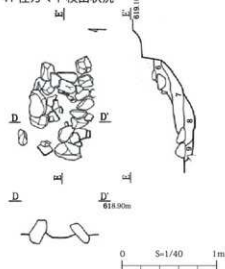
- 1: 埋藏シルト質 (~0.5cm 礫多)
- 2: 埋藏シルト質 (砂粒・粘土質多, 粘土質中)
- 3: 埋藏シルト質 (~0.5cm 礫多, 炭化物難)

図版 20 竪穴住居址 (8)

第 41・42 号住居址

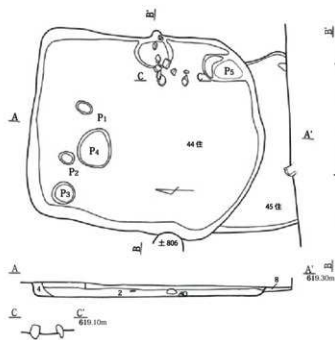


41 住カマド検出状況



- 1: 高脚シルト質 (~5cm 厚大)
- 2: 高脚シルト質 (~2cm 厚中)
- 3: 高脚シルト質 (~4cm 厚中)
- 4: 高脚シルト質 (~4cm 厚・~20cm 厚壁)
- 5: 高脚シルト質 (~4cm 厚中)
- 6: 高脚シルト質 (~0.5cm 厚中、炭化物層)
- 7: 高脚シルト質 (~2cm 厚・炭化物層)
- 8: 高脚シルト質 (粘土多、~1cm 厚中、炭化物層)
- 9: 高脚シルト質 (粘土多、~5cm 厚中)
- 10: 高脚シルト質 (~5cm 厚大)
- 11: 高脚シルト質 (~5cm 厚中)
- 12: 高脚シルト質 (~2cm 厚中)

第 44・45 号住居址



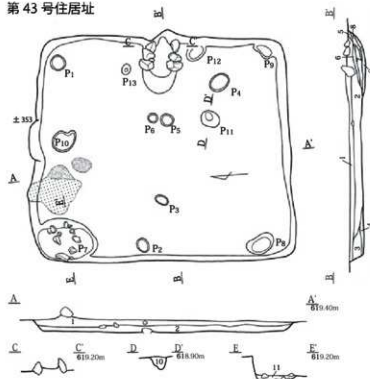
44・45 住遺物出土状況



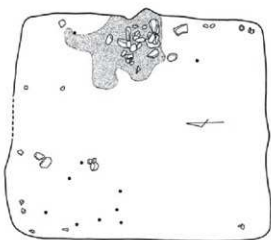
- 1: 高脚シルト質 (~0.3cm 厚中)
- 2: 高脚シルト質 (~0.3cm 厚中)
- 3: 高脚シルト質 (粘土多、炭化物層)
- 4: 高脚シルト質 (~0.3cm 厚中)
- 5: 高脚シルト質 (~0.5cm 厚中、粘土多、~7cm 厚壁)
- 6: 高脚シルト質 (砂中)
- 7: 高脚シルト質 (粘土多)
- 8: 高脚シルト質 (~0.5cm 厚中)

図版 21 竪穴住居址 (9)

第 43 号住居址

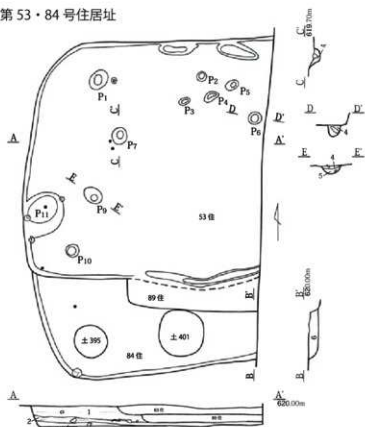


43 住遺物出土状況



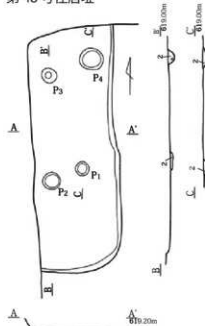
- 1: 埋藏シルト質 (～0.3cm 礫多)
- 2: 埋藏シルト質 (～0.3cm 礫多、粘土質中)
- 3: 埋藏シルト質 (～0.3cm 礫多、鉄分多、炭化物散)
- 4: 埋シルト質 (砂粒・埋藏土塊多)
- 5: 埋藏シルト質 (埋藏埋土塊多、粘土散)
- 6: 埋藏シルト質 (炭化物・埋土塊多、～0.3cm 礫中)
- 7: 埋藏シルト質 (砂粒多、粘土塊中)
- 8: 埋藏シルト質 (埋土塊・砂粒多)
- 9: 埋藏シルト質 (～0.3cm 礫・炭化物多、埋土塊中)
- 10: 埋藏シルト質 (～0.3cm 礫多、～2cm 礫散)
- 11: 埋藏シルト質 (～0.3cm 礫多、炭化物中、埋土塊散)

第 53・84 号住居址

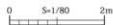


- 1: 埋藏シルト質 (砂粒・鉄分多、炭化物散)
- 2: 埋藏シルト質 (砂粒多、鉄分中)
- 3: 埋藏シルト質 (～0.5cm 礫中、粘土粒・炭化物散)
- 4: 埋藏シルト質 (～0.5cm 礫多、炭化物中、鉄分散)
- 5: 埋藏シルト質 (～0.3cm 礫多)
- 6: 埋藏シルト質 (～3cm 礫・鉄分多、炭化物・埋土塊散)

第 48 号住居址



- 1: 埋藏シルト質 (～0.3cm 礫多、～7cm 礫散)
- 2: 埋藏シルト質 (～0.5cm 礫大)

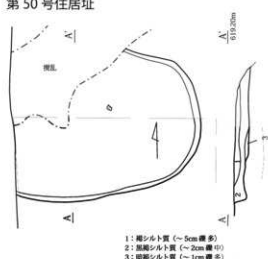


図版 22 竪穴住居址 (10)

第 47 号住居址



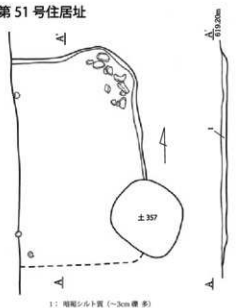
第 50 号住居址



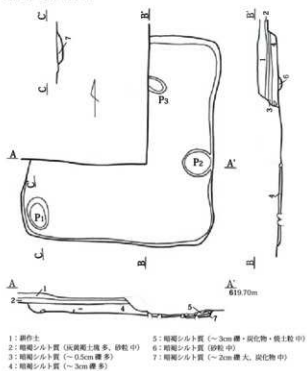
第 54 号住居址



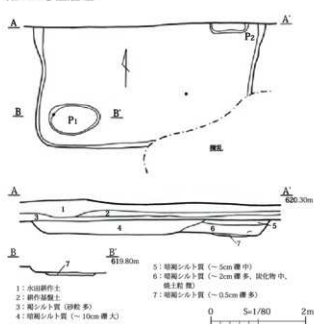
第 51 号住居址



第 59 号住居址

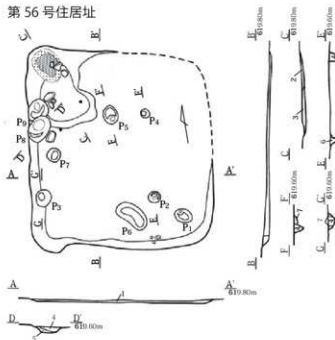


第 55 号住居址



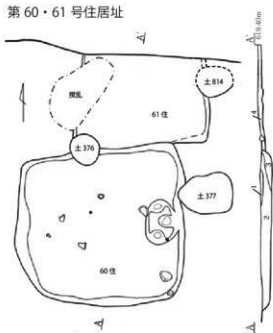
図版 23 竪穴住居址 (11)

第 56 号住居址



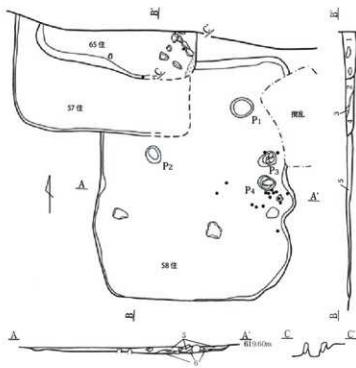
- 1: 前期シロト貫 (~0.3cm 層・炭化物多、焼土残中、焼土粒微)
- 2: 黒陶粘質 (炭化物・焼土残中)
- 3: 黒陶粘質シロト (~0.3cm 層少)
- 4: 前期シロト貫 (炭粉多、炭分中)
- 5: 黒陶シロト貫 (炭粉・焼土残多)
- 6: 前期シロト貫 (~0.3cm 層・炭化物多、焼土粒微)
- 7: 前期シロト貫 (炭粉多、炭化物・焼土粒中)

第 60・61 号住居址



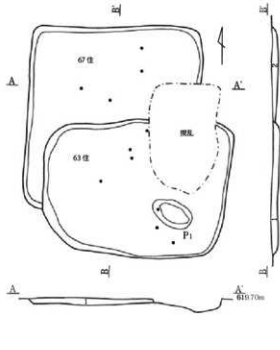
- 1: 灰土・炭粉シロト貫 (~0.4cm 層中)
- 2: 前期シロト貫 (~2cm 層多、炭化物少)
- 3: 前期シロト貫 (~2cm 層中)
- 4: 黒シロト貫 (~1cm 層中)

第 57・58・65 号住居址

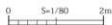


- 1: 前期シロト貫 (炭化物・~2cm 層・焼土粒少)
- 2: 前期シロト貫 (~3cm 層中、炭陶土残少、焼土粒微)
- 3: 前期シロト貫 (~0.3cm 層中、赤陶土残少)
- 4: 前期シロト貫 (~2cm 層中)
- 5: 前期シロト貫 (~4cm 層・赤陶土層・炭化物・炭分少)
- 6: 黒陶シロト貫 (炭化物・~0.3cm 層・赤陶土粒少)

第 63・67 号住居址

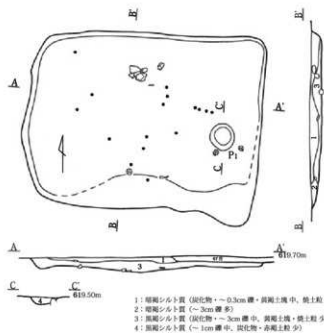


- 1: 黒陶シロト貫 (炭陶土層・炭土粒・~2cm 層少)
- 2: 黒陶シロト貫 (~0.3cm 層多、炭陶土層・炭化物・炭分少)

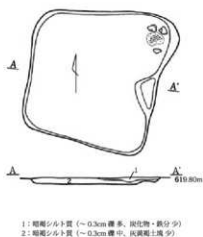


図版 24 竪穴住居址 (12)

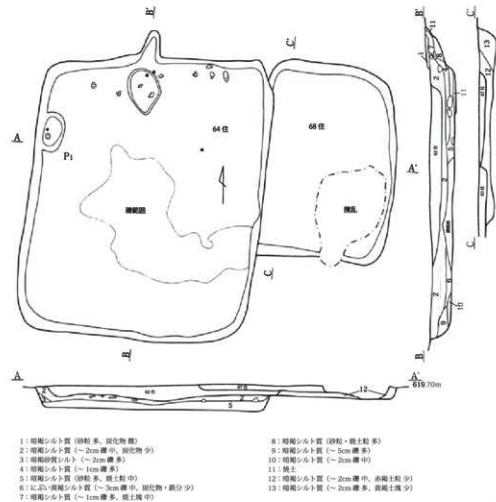
第 62 号住居址



第 82 号住居址

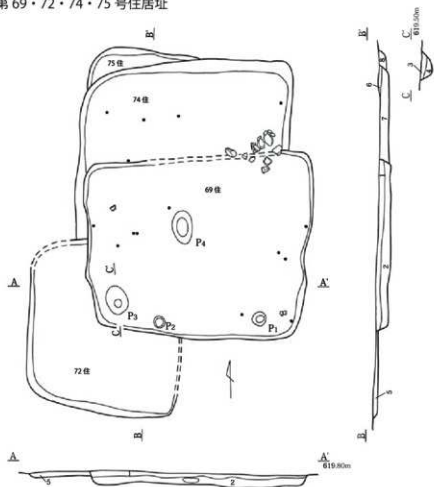


第 64・68 号住居址



図版 25 竪穴住居址 (13)

第 69・72・74・75 号住居址



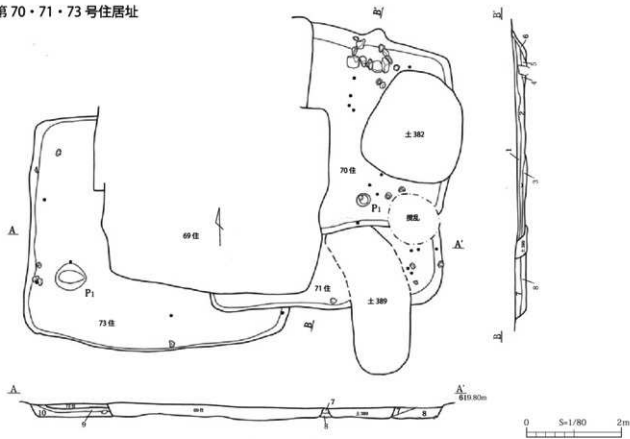
69・72・74・75 住

- 1: 埋藏シロト質 (炭分多、 $\sim 1\text{cm}$ 層厚)
- 2: 埋藏シロト質 ($\sim 1\text{cm}$ 層多、炭分濃)
- 3: 埋藏シロト質 ($\sim 1\text{cm}$ 層中)
- 4: 埋藏シロト質 ($\sim 3\text{cm}$ 層中、炭分・炭化物少)
- 5: 埋藏シロト質 (砂粒多、炭分中)
- 6: 埋藏シロト質 (炭粒多)
- 7: 埋藏シロト質 ($\sim 3\text{cm}$ 層、炭分中)
- 8: 埋藏シロト質 ($\sim 1\text{cm}$ 層多)

70・71・73 住

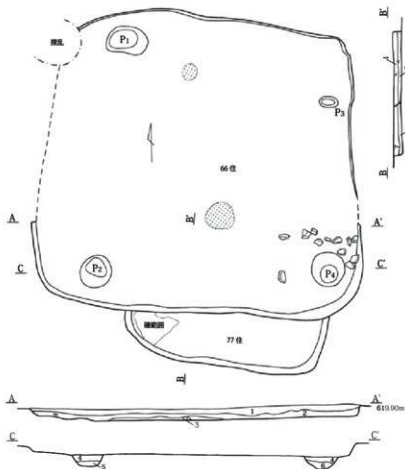
- 1: 埋藏シロト質 ($\sim 2\text{cm}$ 層厚)
- 2: 埋藏シロト質 ($\sim 1\text{cm}$ 層中、炭化物濃)
- 3: 埋藏シロト質 ($\sim 0.5\text{cm}$ 層、炭分中)
- 4: 埋藏シロト質 ($\sim 0.5\text{cm}$ 層多)
- 5: 埋藏シロト質 (炭化物・粘土粒多、 $\sim 2\text{cm}$ 層中)
- 6: 埋藏シロト質 ($\sim 2\text{cm}$ 層・粘土粒濃)
- 7: 埋藏シロト質 ($\sim 0.5\text{cm}$ 層、炭分多)
- 8: 埋藏シロト質 ($\sim 2\text{cm}$ 層、炭分中)
- 9: 埋藏シロト質 (炭粒・炭分多)
- 10: 埋藏シロト質 (炭分中、 $\sim 0.5\text{cm}$ 層厚)

第 70・71・73 号住居址



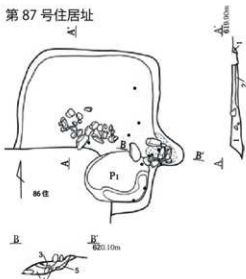
図版 26 竪穴住居址 (14)

第 66・77 号住居址



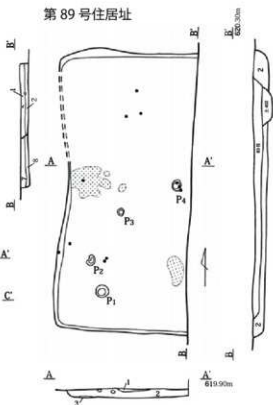
- | | |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 1: 暗層シルト質 (砂粒多、鉄分少、礫土層中、炭化物無) | 5: 黒層シルト質 (~0.3cm 礫・鉄分少) |
| 2: 暗層シルト質 (鉄分大、~0.5cm 礫多) | 6: 黒層砂質シルト (炭化物中、~3cm 礫・赤褐色土層少) |
| 3: 黒層シルト質 (砂粒多、鉄分中、炭化物無) | 7: 暗層シルト質 (~1cm 礫多、鉄分無) |
| 4: 暗層シルト質 (~1cm 礫中、礫土塊・炭化物少) | 8: 暗層シルト質 (~0.5cm 礫多) |

第 87 号住居址



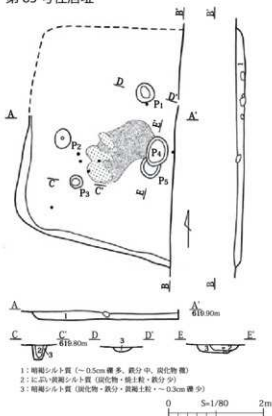
- 1: 暗層シルト質 (砂粒多、鉄分・礫土層中、炭化物無)
- 2: 暗層シルト質 (~0.5cm 礫中)
- 3: 暗層シルト質 (砂粒多、鉄分・礫土層中、炭化物少)
- 4: 暗層シルト質 (礫土塊多、砂粒・炭化物少)
- 5: 暗層シルト質 (砂粒・鉄分・礫土層少)

第 89 号住居址



- 1: 灰・炭層シルト質 (~0.3cm 礫・鉄分多)
- 2: 暗層シルト質 (~2cm 礫中、炭化物・鉄分少、礫土層無)
- 3: 礫土

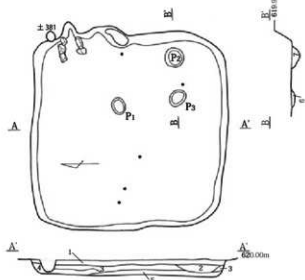
第 83 号住居址



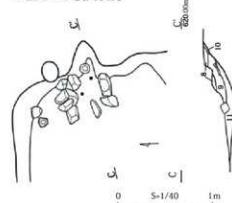
- 1: 暗層シルト質 (~0.5cm 礫多、鉄分中、炭化物無)
- 2: 灰・炭層シルト質 (炭化物・礫土層・鉄分少)
- 3: 暗層シルト質 (炭化物・鉄分・礫土層・~0.3cm 礫少)

図版 27 竪穴住居址 (15)

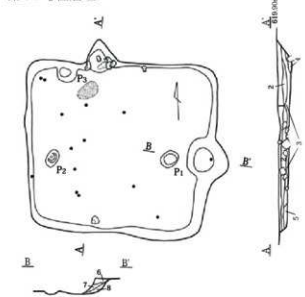
第78号住居址



78住カマド検出状況

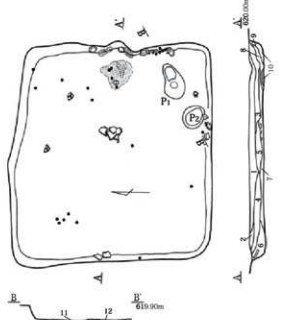


第92号住居址



- 1: 燧石製シロ置 (炭分中, 炭化物少, ~0.3cm 燧石) 5: 燧石シロ置 (炭分少, 炭化物, ~0.3cm 燧石)
 2: 燧石シロ置 (炭分中, 炭化物, ~0.3cm 燧石) 6: 粘土製砂質シロ置 (炭分少, ~0.3cm 燧石)
 3: 燧石シロ置 (炭分中, 炭化物 難) 7: 燧石シロ置 (炭分中, 炭化物少, ~0.3cm 燧石)
 4: 燧石製シロ置 (粘土塊多, 炭化物 難) 8: 燧石シロ置 (炭分少, 炭化物, ~0.3cm 燧石)

第81号住居址



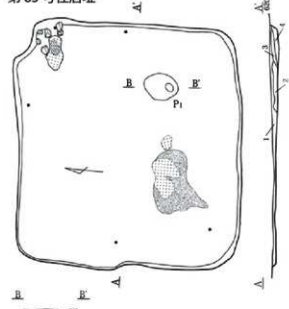
78住

- 1: 粘土製燧石シロ置 (~0.3cm 燧石中, 炭化物少)
 2: 燧石シロ置 (~3cm 燧石多, 炭化物少)
 3: 燧石シロ置 (~1cm 燧石中, 炭化物少)
 4: 燧石シロ置 (~2cm 燧石多, 炭分少)
 5: 燧石シロ置 (~0.3cm 燧石中, 赤黄土粒少)
 6: 燧石シロ置 (~1cm 燧石多, 黄粘土塊・炭分少)
 7: 燧石シロ置 (~0.3cm 燧石中, 炭化物, 赤黄土粒少)
 8: 燧石シロ置 (~0.3cm 燧石中, 粘土塊・炭化物少)
 9: 燧石シロ置 (粘土塊多, ~0.3cm 燧石中, 炭化物少)
 10: 燧石シロ置 (粘土塊大, ~0.3cm 燧石多)
 11: 燧石シロ置 (炭化物中, 粘土塊, ~0.3cm 燧石少)

81住

- 1: 燧石シロ置 (~1cm 燧石多)
 2: 燧石シロ置 (~1cm 燧石多, 炭分中)
 3: 燧石シロ置 (砂粒多, 粘土塊中, 炭分難)
 4: 燧石シロ置 (~1cm 燧石多, 炭分少)
 5: 燧石シロ置 (砂粒多, 炭分中)
 6: 燧石シロ置 (~1cm 燧石多)
 7: 燧石シロ置 (粘土塊・赤黄土粒 多, 粘土塊中)
 8: 燧石シロ置 (砂粒多, 粘土塊中)
 9: 燧石シロ置 (砂粒・炭化物・粘土塊多)
 10: 燧石シロ置 (粘土塊・砂粒多)
 11: 燧石シロ置 (~0.3cm 燧石中, 炭化物, 粘土塊少)
 12: 燧石シロ置 (~2cm 燧石中)
 13: 燧石シロ置 (~3cm 燧石中, 粘土塊少)

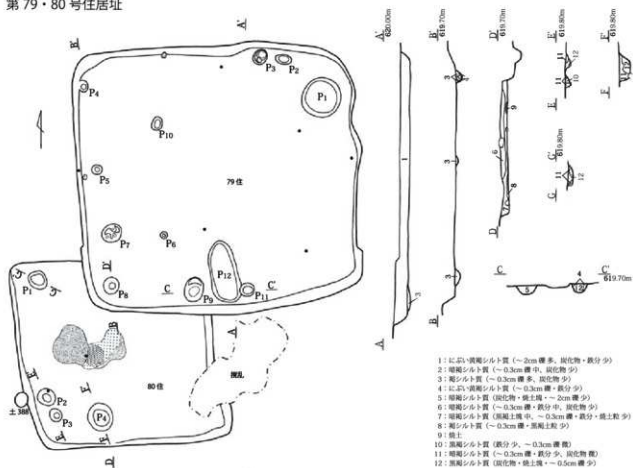
第85号住居址



- 1: 燧石シロ置 (灰濁土塊中, 炭化物・粘土塊・炭分, ~0.3cm 燧石少)
 2: 燧石シロ置 (灰濁土塊・粘土塊中, 炭化物・粘土塊・炭分少)
 3: 灰濁燧石シロ置 (炭化物・灰濁土塊・粘土塊, ~4cm 燧石少)
 4: 灰濁燧石シロ置 (炭化物・灰濁土塊・粘土塊, ~2cm 燧石少)
 5: 燧石シロ置 (炭化物, ~4cm 燧石多)

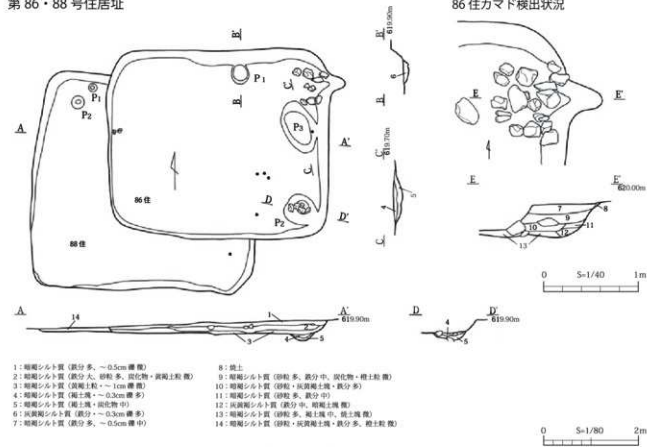
図版 28 竪穴住居址 (16)

第79・80号住居址



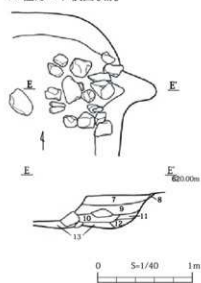
- 1: 高い埴輪シロ貫 (～2cm 厚多、炭化物・鉄分少)
- 2: 埴輪シロ貫 (～0.3cm 厚中、炭化物少)
- 3: 埴シロ貫 (～0.3cm 厚多、炭化物少)
- 4: 高い埴輪シロ貫 (～0.3cm 厚・炭分少)
- 5: 埴輪シロ貫 (炭化物・粘土層～2cm 厚少)
- 6: 埴輪シロ貫 (～0.3cm 厚・炭分中、炭化物少)
- 7: 埴輪シロ貫 (埴輪土層中、～0.3cm 厚・炭分少、粘土粒少)
- 8: 埴シロ貫 (～0.3cm 厚・埴輪土粒少)
- 9: 埴土
- 10: 埴輪シロ貫 (炭分少、～0.3cm 厚中)
- 11: 埴輪シロ貫 (～0.3cm 厚・炭分少、炭化物層)
- 12: 埴輪シロ貫 (炭化物・埴土層～0.5cm 厚少)

第86・88号住居址



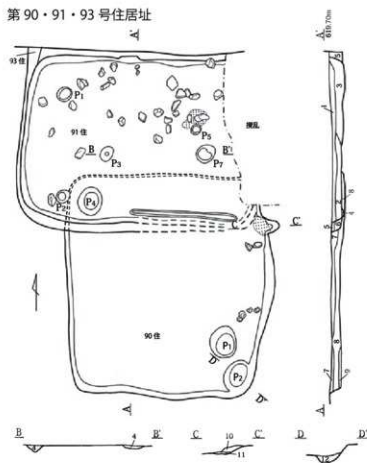
- 1: 埴輪シロ貫 (炭分多、～0.5cm 厚中)
- 2: 埴輪シロ貫 (炭分大、砂粒多、炭化物・埴輪土粒層)
- 3: 埴輪シロ貫 (埴輪土粒、～1cm 厚中)
- 4: 埴輪シロ貫 (埴土層、～0.3cm 厚多)
- 5: 埴輪シロ貫 (埴土層、炭化物中)
- 6: 高埴輪シロ貫 (炭分～0.3cm 厚多)
- 7: 埴輪シロ貫 (炭分多、～0.5cm 厚中)
- 8: 埴土
- 9: 埴輪シロ貫 (埴粒多、炭分中、炭化物・埴土粒層)
- 10: 埴輪シロ貫 (埴粒・高埴輪土層・炭分多)
- 11: 埴輪シロ貫 (埴粒多、炭分中)
- 12: 高埴輪シロ貫 (炭分中、埴輪土層中)
- 13: 埴輪シロ貫 (埴粒多、埴土層中、埴土塊層)
- 14: 埴輪シロ貫 (埴粒・高埴輪土層・炭分多、埴土粒層)

86住カマド検出状況



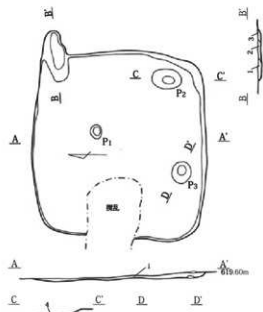
図版 29 竪穴住居址 (17)

第90・91・93号住居址



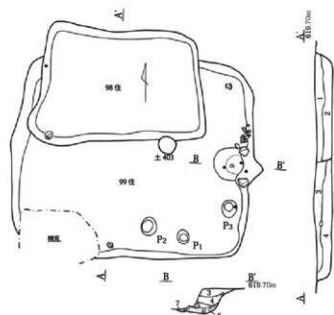
- | | |
|----------------------------------|--|
| 1: にぶい須崎シルト質 (～3cm 層中, 炭化物・鉄分少) | 7: 層シルト質 (～0.3cm 層大, 鉄分少) |
| 2: 層シルト質 (炭化物・～0.3cm 層中, 赤褐色土層少) | 8: にぶい須崎シルト質 (～0.3cm 層大, 炭化物・鉄分少) |
| 3: 層シルト質 (～2cm 層中, 炭化物少, 赤褐色土層) | 9: 層シルト質 (～0.3cm 層中, 鉄分少, 炭化物無) |
| 4: 層シルト質 (炭化物・～0.3cm 層少) | 10: にぶい須崎シルト質 (炭化物・焼土層・～0.3cm 層少) |
| 5: 層シルト質 (～0.3cm 層少, 炭化物無) | 11: 層シルト質 (焼土層中, 炭化物・～1cm 層少) |
| 6: 層シルト質 (～0.3cm 層中, 鉄分少, 赤褐色土層) | 12: にぶい須崎シルト質 (～0.3cm 層中, 焼土層・炭化物・鉄分少) |

第94号住居址

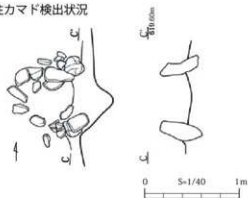


- 1: 炭質層シルト質 (～0.3cm 層少, 明褐色土・炭化物無)
- 2: 炭質層シルト質 (焼土層少, 炭化物・～0.3cm 層中)
- 3: 炭質層シルト質 (～0.3cm 層・黄褐色土層)
- 4: 層シルト質 (炭化物・～0.2cm 層少)
- 5: 須崎シルト質 (～0.5cm 層中, 炭化物少)

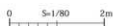
第98・99号住居址



99住カマド検出状況

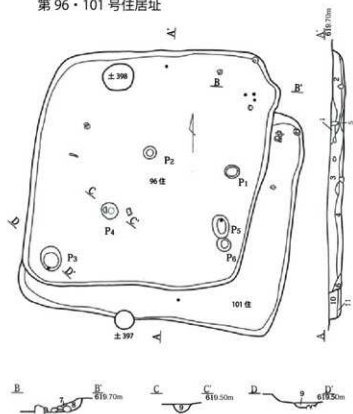


- 1: 層シルト質 (～5cm 層中, 鉄分少)
- 2: 層シルト質 (～5cm 層中, 炭質土層・鉄分中)
- 3: にぶい須崎シルト質 (鉄分・～3cm 層中, 炭質土層少)
- 4: 層シルト質 (～5cm 層中, 炭質土層中)
- 5: 層シルト質 (～3cm 層中, 炭質土層中)
- 6: 層シルト質 (焼土層中, ～0.3cm 層少)
- 7: 層シルト質 (～0.5cm 層中)



図版 30 竪穴住居址 (18)

第 96・101 号住居址



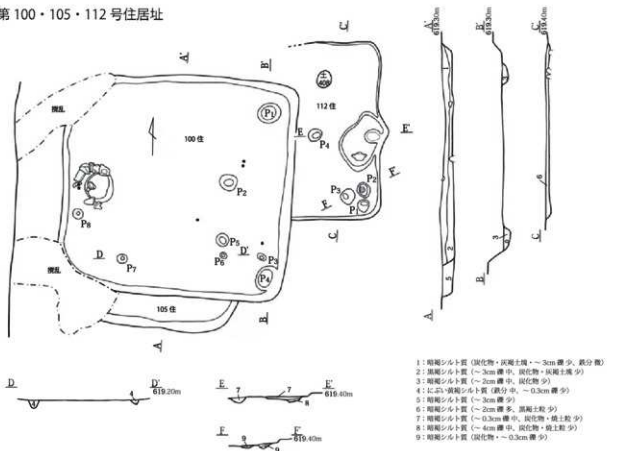
第 95 号住居址



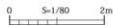
- 95 住
- 1: 埋藏シルト質 (～1cm 層中、炭分少)
 - 2: 埋藏シルト質 (～3cm 層中、炭化物少)
 - 3: 埋藏シルト質 (～4cm 層中、炭粉土質少)

- 96・101 住
- 1: 埋藏シルト質 (炭粉土質中、粘土粒、炭化物、～2cm 層中)
 - 2: 埋藏炭質シルト (炭粉土質・粘土粒・炭化物少、～0.3cm 層中)
 - 3: 埋藏シルト質 (炭粉土質、～3cm 層中、粘土粒、炭化物、炭分少)
 - 4: 埋藏シルト質 (炭化物、炭分、～1cm 層中)
 - 5: 埋藏炭質シルト (～2cm 層中、粘土粒)
 - 6: 埋藏シルト質 (炭粉土質中、炭化物、～0.3cm 層中)
 - 7: 埋藏シルト質 (砂粒多、粘土粒、炭化物中)
 - 8: 埋藏シルト質 (砂粒、粘土粒多、炭化物中)
 - 9: 埋藏シルト質 (炭化物、～0.3cm 層中、赤褐色)
 - 10: 埋藏シルト質 (～0.3cm 層中、炭粉土質少)
 - 11: 埋藏シルト質 (炭粉土質、～0.3cm 層中)

第 100・105・112 号住居址

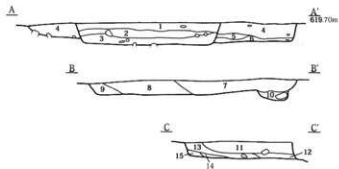
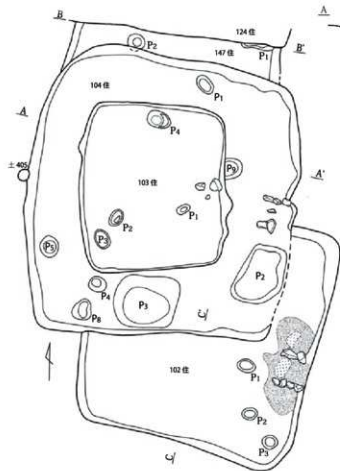


- 1: 埋藏シルト質 (炭化物、炭粉土質、～2cm 層中、炭分中)
- 2: 埋藏シルト質 (～3cm 層中、炭化物、炭粉土質少)
- 3: 埋藏シルト質 (～2cm 層中、炭化物少)
- 4: 比砂・埋藏シルト質 (炭分中、～0.3cm 層中)
- 5: 埋藏シルト質 (～3cm 層中)
- 6: 埋藏シルト質 (～2cm 層中、炭粉土質少)
- 7: 埋藏シルト質 (～0.3cm 層中、炭化物、粘土粒少)
- 8: 埋藏シルト質 (～4cm 層中、炭化物、粘土粒少)
- 9: 埋藏シルト質 (炭化物、～0.3cm 層中)



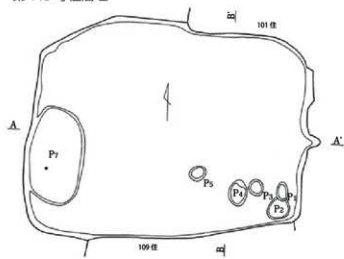
図版 31 竪穴住居址 (19)

第 102・103・104・147 号住居址

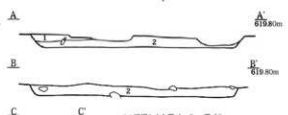
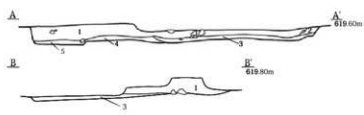
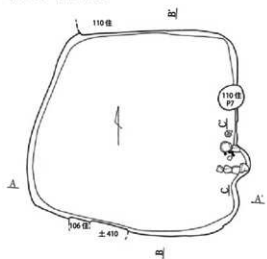


- 1: 短期シルト質 (鉄分少、粘土粒・炭化物 少)
- 2: 短期シルト質 (炭化物多、粘土塊、～5cm 層中)
- 3: 短期シルト質 (黄褐色土塊、粘土塊、炭化物、～5cm 層中)
- 4: 短期シルト質 (～1cm 層、鉄分少)
- 5: 短期シルト質 (砂粒多、粘土塊、炭化物 少)
- 6: 短期シルト質 (砂粒・粘土塊多、炭化物 中)
- 7: 短期シルト質 (鉄分少、～3cm 層少、炭化物 中)
- 8: 短期シルト質 (7cm 層大、鉄分少)
- 9: 短期シルト質 (鉄分中、～1cm 層少、炭化物 中)
- 10: 短期シルト質 (鉄分中、～2cm 層 中)
- 11: 短期シルト質 (～3cm 層多、炭化物 中)
- 12: 短期シルト質 (～0.5cm 層中、粘土塊 中)
- 13: 短期シルト質 (～0.5cm 層中、粘土塊 中)
- 14: 短期シルト質 (粘土塊大、炭化物 中)
- 15: 短期シルト質 (～0.5cm 層大)

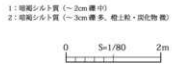
第 115 号住居址



第 109 号住居址

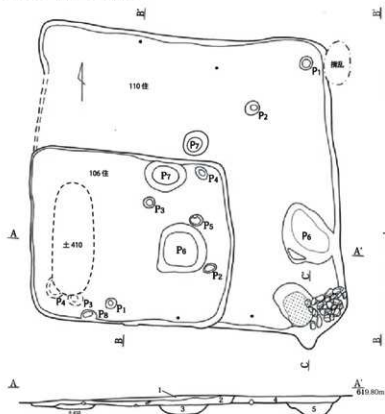


- 1: 短期シルト質 (炭化物・粘土塊、～3cm 層少)
- 2: 短期シルト質 (粘土塊多、炭化物・～0.3cm 層少)
- 3: 短期シルト質 (～0.3cm 層多、粘土塊中、炭化物 少)
- 4: 短期シルト質 (炭化物多、～0.3cm 層中、粘土塊 少)
- 5: 短期シルト質 (～0.3cm 層中、粘土粒・炭化物 少)

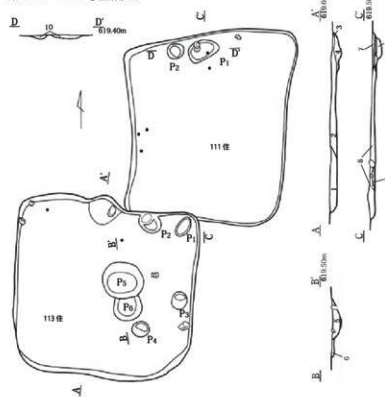


図版 32 竪穴住居址 (20)

第 106・110 号住居址



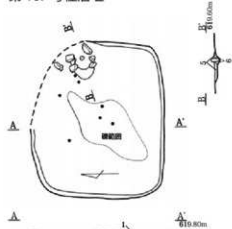
第 111・113 号住居址



- 1: 増築シロト貫 (~2cm 溝中、黄緑土塊・焼土粒・炭化物少) 6: にひ・黄緑シロト貫 (炭化物・黄緑土塊、~1cm 溝少)
 2: 黄緑シロト貫 (黄緑土塊、~2cm 溝中、焼土粒・炭化物少) 7: 増築シロト貫 (~2cm 溝中)
 3: 焼土 8: 黄緑シロト貫 (~1cm 溝中)
 4: にひ・黄緑シロト貫 (~0.3cm 溝中、焼土塊・炭化物中) 9: 増築シロト貫 (~3cm 溝中)
 5: 黄緑シロト貫 (~0.3cm 溝中、黄緑土塊・赤緑土粒・炭分少) 10: 増築シロト貫 (炭化物・赤緑土粒、~2cm 溝少)

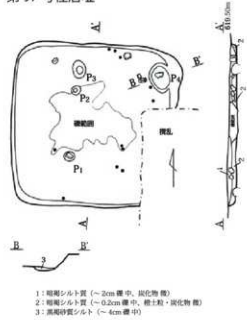
- 1: 増築シロト貫 (~0.3cm 溝中、黄緑土塊・炭化物・炭分少、焼土粒中)
 2: 増シロト貫 (~0.3cm 溝中、黄緑土塊・炭化物・炭分少)
 3: 黄緑シロト貫 (~0.3cm 溝中、炭化物・焼土粒少)
 4: 増築シロト貫 (にひ・黄緑土塊中、~0.5cm 溝中)
 5: 黄緑シロト貫 (炭化物中、焼土粒、~0.3cm 溝中)
 6: 増築シロト貫 (焼土塊、~0.3cm 溝中、炭化物少)
 7: 増築シロト貫 (焼土塊、~0.3cm 溝中)

第 107 号住居址

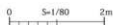


- 1: 増築シロト貫 (炭分少、~0.3cm 溝中、炭化物中)
 2: 増築シロト貫 (~0.3cm 溝中、炭分少、炭化物・焼土塊中)
 3: 増築シロト貫 (~0.3cm 溝中、炭分少、炭化物中)
 4: にひ・黄緑シロト貫 (炭分少、~0.3cm 溝中)
 5: 増築シロト貫 (炭化物・炭分少)
 6: にひ・黄緑シロト貫 (炭分少、焼土塊中)

第 97 号住居址

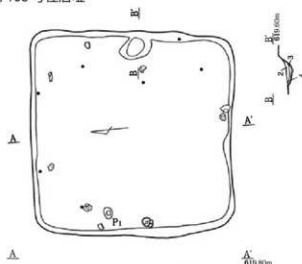


- 1: 増築シロト貫 (~2cm 溝中、炭化物中)
 2: 増築シロト貫 (~0.2cm 溝中、焼土粒、炭化物中)
 3: 黄緑砂質シロト (~4cm 溝中)



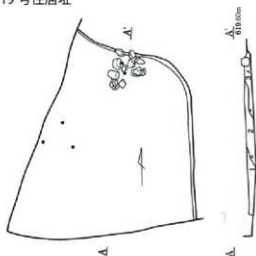
図版 33 竪穴住居址 (21)

第 108 号住居址



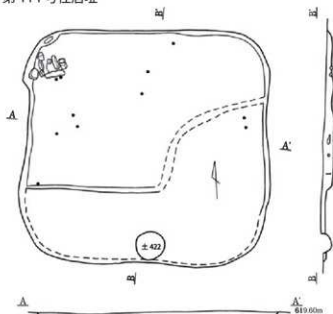
- 1: 短期シルト質 (～3cm 厚多, 炭分少) 2: 短期シルト質 (炭分少, 炭化物・焼土層中) 3: 短期シルト質 (焼土層中, 炭分少) 4: 短期シルト質 (炭分少, 炭化物・焼土層中)

第 119 号住居址



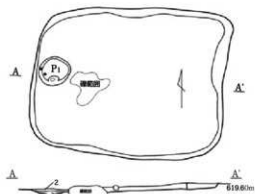
- 1: 短期シルト質 (～2cm 厚中, 炭化物少) 2: 短期シルト質 (～4cm 厚中) 3: 短期シルト質 (～2cm 厚・焼土層中, 炭化物少)

第 114 号住居址



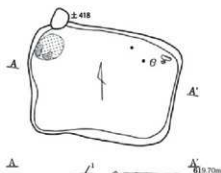
- 1: 短期シルト質 (～2cm 厚多, 比較的焼土層中)

第 116 号住居址



- 1: 短期シルト質 (～1cm 厚大, ～7cm 厚薄) 2: 短期シルト質 (～1cm 厚多, 焼土層中) 3: 短期シルト質 (砂粒・焼土層多, 焼土層中, 炭化物層)

第 117 号住居址

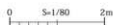


- 1: 短期シルト質 (～2cm 厚多, 炭化物少)

第 123 号住居址

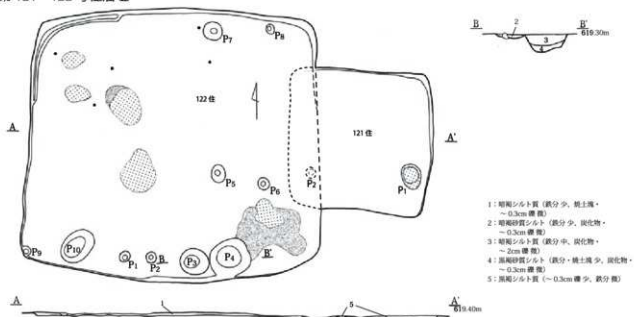


- 1: 新粘土 2: 短期シルト質 (炭分多, ～5cm 厚少) 3: 短期シルト質 (炭分中, ～1cm 厚薄) 4: 短期シルト質 (炭分～2cm 厚少, 炭化物層) 5: 短期シルト質 (～1cm 厚中, 炭分少, 焼土層中) 6: 短期シルト質 (～5cm 厚中, 炭分少) 7: 短期シルト質 (炭分中, 炭化物～0.3cm 厚薄) 8: 短期シルト質 (焼土層中, 炭分少, 炭化物層) 9: 短期シルト質 (焼土層多, 炭化物中, 炭分層)

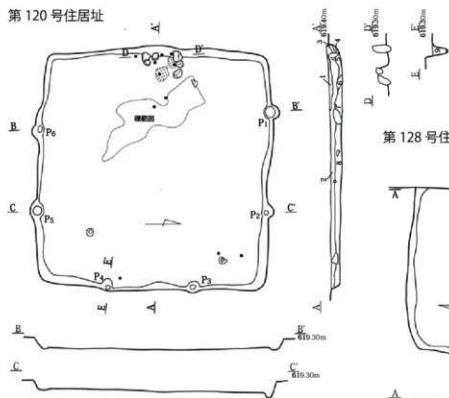


図版 34 竪穴住居址 (22)

第 121・122 号住居址

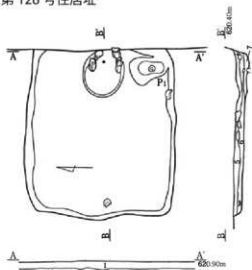


第 120 号住居址

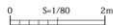


- 1: 土器・原始期シルト (鉄分少、炭化物・~0.3cm 層厚)
2: 土器・原始期シルト質 (鉄分少、~0.3cm 層厚、炭化物層)
3: 原始期シルト質 (粘土層多、炭化物層)
4: 早期シルト質 (粘土層・鉄分少、炭化物層)
5: 早期シルト質 (鉄分少、粘土層層)
6: 早期シルト質 (鉄分中、炭化物・~0.3cm 層厚)
7: 原始期シルト質 (粘土層中、鉄分少)
8: 土器・原始期シルト質 (鉄分少、粘土層・炭化物・~0.3cm 層厚)
9: 原始期シルト質 (鉄分少、~0.3cm 層厚)

第 128 号住居址

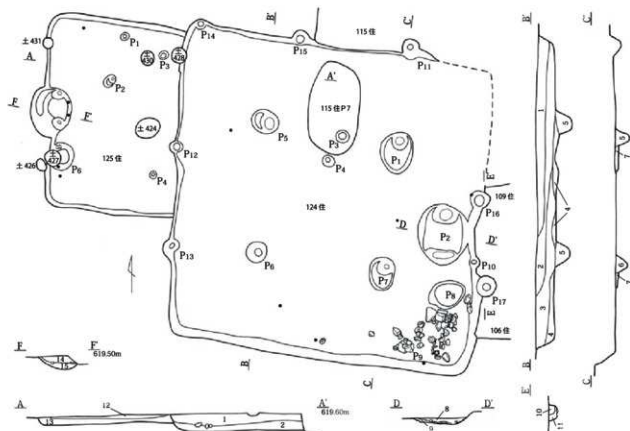


- 1: 新粘土
2: 期シルト質 (鉄分・~3cm 層厚)
3: 早期シルト質 (鉄分中、炭化物・~1cm 層厚)
4: 原始期シルト質 (鉄分・~3cm 層厚)
5: 原始期シルト質 (鉄分中、~2cm 層厚)
6: 原始期シルト質 (鉄分少、炭化物・~1cm 層厚)
7: 原始期シルト質 (粘土層中、炭化物少、鉄分層)



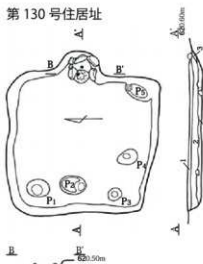
図版 35 竪穴住居址 (23)

第 124・125 号住居址



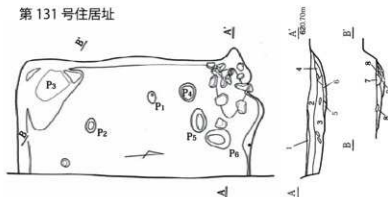
- | | |
|--|---|
| 1: 早期シルト質 (鉄分多、 $\sim 1\text{cm}$ 層少) | 9: 穴道 |
| 2: 早期シルト質 ($\sim 5\text{cm}$ 層中) | 10: 早期シルト質 (砂粒多、雑土層中、炭化物多) |
| 3: 早期シルト質 ($\sim 5\text{cm}$ 層多) | 11: 早期シルト質 (雑土層多、 $\sim 0.3\text{cm}$ 層中、炭化物多) |
| 4: 早期シルト質 ($\sim 0.3\text{cm}$ 層少) | 12: 早期シルト質 ($\sim 0.3\text{cm}$ 層多、鉄分・炭質層上層中、炭化物少) |
| 5: 早期シルト質 ($\sim 1\text{cm}$ 層中) | 13: 早期シルト質 ($\sim 0.3\text{cm}$ 層中、炭質層上層・炭質層上層少) |
| 6: 早期シルト質 ($\sim 2\text{cm}$ 層中、雑土粒多) | 14: 早期シルト質 ($\sim 0.3\text{cm}$ 層中、雑土粒少) |
| 7: 早期シルト質 (鉄分多、 $\sim 1\text{cm}$ 層少) | 15: 早期シルト質 (雑土層・炭化物多、 $\sim 2\text{cm}$ 層中) |
| 8: 早期シルト質 (雑土層中、炭化物少) | |

第 130 号住居址

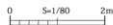


- | |
|---|
| 1: 早期シルト質 (雑土層、 $\sim 0.3\text{cm}$ 層中、炭質層上層、鉄分少) |
| 2: 早期シルト質 (炭質層上層・赤雑土層、鉄分少) |
| 3: 早期シルト質 (炭質層上層・雑土層、 $\sim 0.3\text{cm}$ 層少) |
| 4: 炭質層上層シルト質 (鉄分・雑土層中、炭質層上層・炭化物少) |

第 131 号住居址

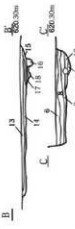
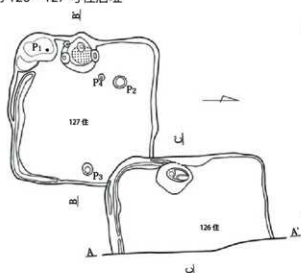


- | |
|--|
| 1: 比高・早期シルト質 ($\sim 0.3\text{cm}$ 層中、炭質層上層・鉄分・炭質層上層少) |
| 2: 早期シルト質 (鉄分、 $\sim 0.3\text{cm}$ 層中) |
| 3: 早期シルト質 ($\sim 0.3\text{cm}$ 層中、炭化物、雑土層、鉄分少) |
| 4: 早期シルト質 (雑土層・炭質層上層、 $\sim 0.3\text{cm}$ 層少) |
| 5: 早期シルト質 ($\sim 0.3\text{cm}$ 層多、雑土層・炭化物少) |
| 6: 早期シルト質 (炭化物多、雑土層中、 $\sim 0.3\text{cm}$ 層少) |
| 7: 早期シルト質 (炭化物中、雑土層中、 $\sim 0.3\text{cm}$ 層少) |
| 8: 比高・早期シルト質 ($\sim 0.3\text{cm}$ 層中、鉄分少) |
| 9: 炭質層上層シルト質 (鉄分、 $\sim 0.3\text{cm}$ 層少) |

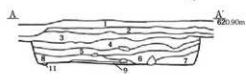


図版 36 竪穴住居址 (24)

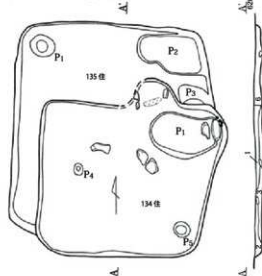
第 126・127 号住居址



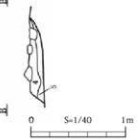
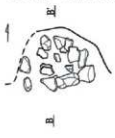
- 1: 耕作土
- 2: 早期シルト質 (鉄分少、炭化物、~2cm 厚)
- 3: 期シルト質 (鉄分中、~2cm 厚少、炭化物)
- 4: 期シルト質 (~2cm 厚、鉄分少、炭化物)
- 5: 期シルト質 (鉄分中、~0.3cm 厚)
- 6: 期シルト質 (鉄分多、炭化物)
- 7: 期シルト質 (鉄分少、炭化物、~0.3cm 厚)
- 8: 期シルト質 (鉄分多、~0.3cm 厚)
- 9: 期シルト質 (鉄分、~0.3cm 厚、炭化物)
- 10: 期シルト質 (鉄分、~0.3cm 厚少、炭化物)
- 11: 期シルト質 (粘土塊・砂粘)
- 12: 期シルト質 (鉄分少、炭化物)
- 13: 期シルト質 (鉄分中、~0.3cm 厚)
- 14: 期シルト質 (鉄分中、~0.3cm 厚)
- 15: 期シルト質 (鉄分少、炭化物、粘土塊)
- 16: 期シルト質 (鉄分中、粘土塊、炭化物、~0.3cm 厚)
- 17: 期シルト質 (粘土塊多、炭化物、~0.3cm 厚)
- 18: 期シルト質 (粘土塊大)



第 134・135 号住居址

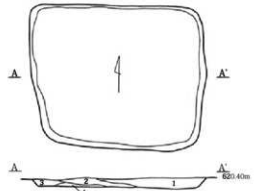


134 住カマド検出状況



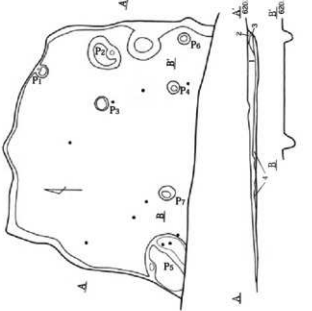
- 1: 高度期シルト質 (鉄分、~3cm 厚中、炭化物少)
- 2: 比高期シルト質 (~1cm 厚中、高度土塊、鉄分少)
- 3: 比高期シルト質 (~4cm 厚中、炭化物少)
- 4: 期シルト質 (粘土塊、~0.3cm 厚中、炭化物少)
- 5: 期シルト質 (粘土塊中、炭化物、~0.3cm 厚、炭化物土塊少)
- 6: 期シルト質 (粘土粒、炭化物、高度土塊、~3cm 厚少)

第 139 号住居址

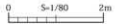


- 1: 期シルト質 (~4cm 厚中)
- 2: 期シルト質 (~4cm 厚中)
- 3: 期シルト質 (粘土塊、~2cm 厚中)
- 4: 期シルト質 (~2cm 厚中)

第 129 号住居址

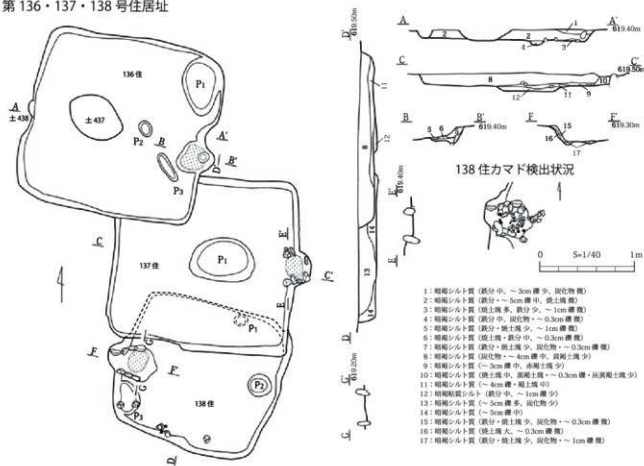


- 1: 期シルト質 (鉄分中、~1cm 厚少、炭化物)
- 2: 期シルト質 (鉄分中、~0.3cm 厚)
- 3: 期シルト質 (粘土塊、鉄分少、炭化物、~0.3cm 厚)
- 4: 期シルト質 (鉄分、~2cm 厚少、粘土塊)

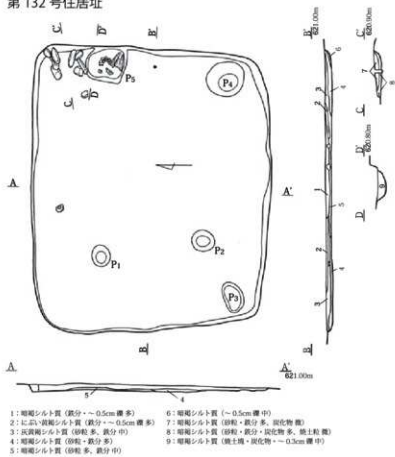


図版 37 竪穴住居址 (25)

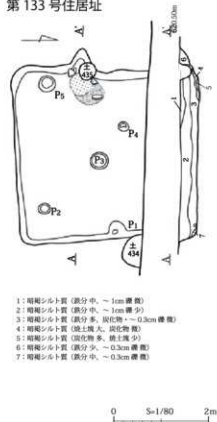
第 136・137・138 号住居址



第 132 号住居址

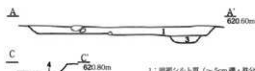
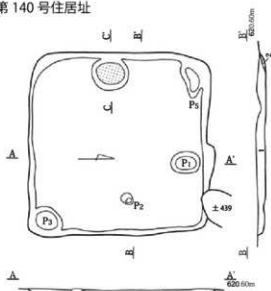


第 133 号住居址



図版 38 竪穴住居址 (26)

第 140 号住居址



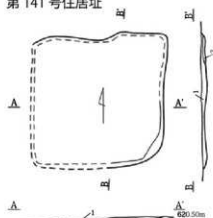
- 1: 堀輪シルト質 (～5cm 層・鉄分中)
- 2: 堀輪シルト質 (堀土塊中・焼土粒・～0.3cm 層少)
- 3: 堀輪シルト質 (～3cm 層少)
- 4: 堀輪シルト質 (砂粒・堀土塊多・堀土塊・炭化物中)
- 5: 堀土

第 143 号住居址



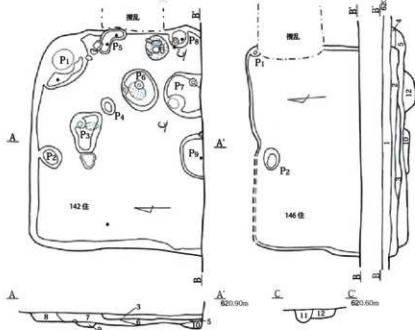
- 1: 堀輪シルト質 (～0.3cm 層・堀土塊・炭化物多)
- 2: 堀輪シルト質 (～0.3cm 層多・堀土塊・炭化物中)
- 3: 堀輪シルト質 (～0.3cm 層多・鉄分中・堀土塊・炭化物塊)
- 4: 堀輪シルト質 (～0.3cm 層多・堀土塊中)
- 5: 堀輪シルト質 (堀土塊中・炭化物少)
- 6: 堀輪シルト質 (～0.3cm 層中・堀土塊・炭化物少)
- 7: 火床面

第 141 号住居址



- 1: 堀輪シルト質 (～4cm 層多)
- 2: 堀シルト質 (～3cm 層人)

第 142・146 号住居址



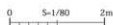
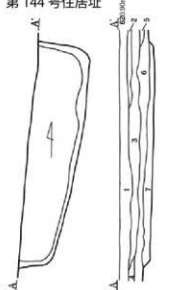
142・146 住

- 1: 耕作土
- 2: 堀輪シルト質 (～4cm 層多・炭質堀土塊・炭化物少)
- 3: 堀輪シルト質 (鉄分中・～4cm 層・炭質堀土塊・炭化物少・赤褐色土粒塊)
- 4: 堀輪シルト質 (炭質堀土塊・鉄分中・～2cm 層少)
- 5: 堀輪シルト質 (炭質堀土塊・～4cm 層中・炭化物少・赤褐色土粒塊)
- 6: 堀輪シルト質 (～3cm 層中・堀土塊・炭化物少)
- 7: 堀輪シルト質 (～5cm 層中・鉄分・炭質堀土塊・堀土塊少)
- 8: 堀輪シルト質 (～5cm 層中・炭化物・堀土塊・炭質堀土塊少)
- 9: 堀輪シルト質 (～3cm 層・堀土塊少)
- 10: 堀輪シルト質 (鉄分中・～0.3cm 層中・炭質堀土塊少)
- 11: 堀輪シルト質 (鉄分中・炭化物少・～3cm 層)
- 12: 堀輪シルト質 (～3cm 層中・鉄分少・堀土塊)

144 住

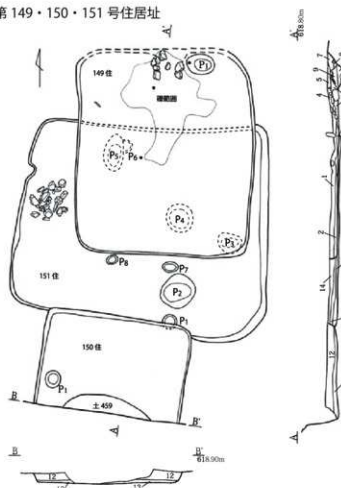
- 1: 耕作土
- 2: 堀シルト質 (～4cm 層少)
- 3: 堀輪シルト質 (～5cm 層多)
- 4: 凹凸・炭質シルト質 (鉄分・炭化物少・～0.3cm 層)
- 5: 凹凸・炭質シルト質 (～2cm 層中・堀土塊少)
- 6: 凹凸・炭質シルト質 (～4cm 層中)
- 7: 堀輪シルト質 (～4cm 層中・炭質堀土塊・炭質堀土塊少)

第 144 号住居址

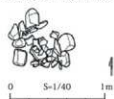


図版 39 竪穴住居址 (27)

第 149・150・151 号住居址

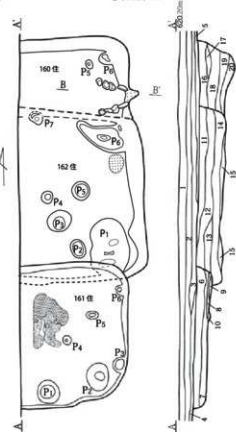


149 住カマド検出状況

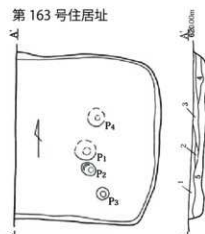


- 1: 堀輪シロト貫 (砂粘・鉄分多, 炭化物層)
- 2: 堀輪シロト貫 (~1cm層・鉄分少)
- 3: 堀輪シロト貫 (砂粘・鉄分多, 粘土粒中)
- 4: 堀輪シロト貫 (砂粘・鉄分多, 粘土粒・炭化物中)
- 5: 堀輪シロト貫 (鉄分・~1cm層中, 炭化物層)
- 6: 堀輪シロト貫 (~0.5cm層・炭化物層)
- 7: 堀輪シロト貫 (鉄分大, 砂粘多, 粘土粒・炭化物層)
- 8: 堀輪シロト貫 (砂粘多, 鉄分中)
- 9: 堀輪シロト貫 (砂粘・粘土粒, 炭化物多, 鉄分中)
- 10: 堀輪シロト貫 (~0.5cm層中, 粘土塊中, 鉄分層)
- 11: 堀輪シロト貫 (~0.5cm層中, 鉄分層)
- 12: 堀輪シロト貫 (~0.5cm層・鉄分中, 粘土粒層)
- 13: 堀輪シロト貫 (~0.5cm層中)
- 14: 堀輪シロト貫 (鉄分多, ~0.5cm層・炭化物層)
- 15: 堀輪シロト貫 (鉄分中, ~0.5cm層・炭化物層)
- 16: 堀輪シロト貫 (~0.5cm層中, 鉄分少)

第 160・161・162 号住居址

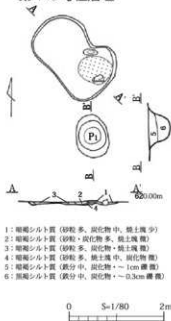


第 163 号住居址



- 1: 堀輪シロト貫 (~3cm層・鉄分少)
- 2: 堀輪シロト貫 (~7cm層多)
- 3: 粘土塊堀輪シロト貫 (~5cm層中, 炭焼土粒少)
- 4: 粘土塊堀輪シロト貫 (炭焼土塊中, ~5cm層少)
- 5: 堀輪シロト貫 (~0.3cm層・炭焼土塊中, 炭化物・粘土質少)

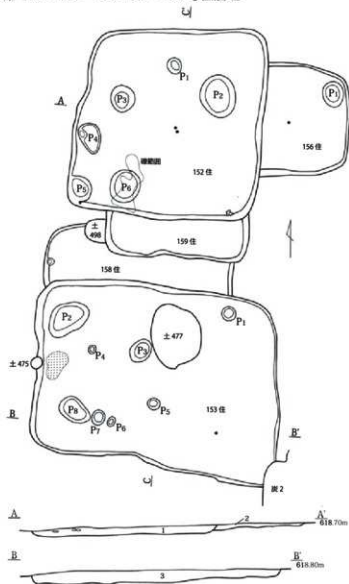
第 148 号住居址



- 1: 堀輪シロト貫 (砂粘多, 炭化物中, 粘土塊少)
- 2: 堀輪シロト貫 (砂粘・炭化物中, 粘土塊層)
- 3: 堀輪シロト貫 (砂粘多, 炭化物・粘土塊層)
- 4: 堀輪シロト貫 (砂粘多, 粘土塊中, 炭化物層)
- 5: 堀輪シロト貫 (鉄分中, 炭化物・~1cm層層)
- 6: 堀輪シロト貫 (鉄分中, 炭化物・~0.3cm層層)

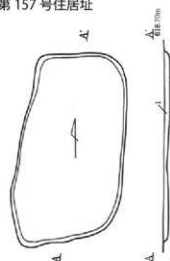
図版 40 竪六住居址 (28)

第 152・153・156・158・159 号住居址



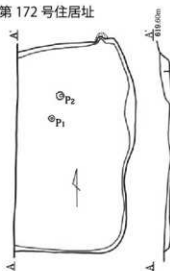
- 1: 埋藏シルト質 (成分、～5cm 層少、炭化物 僅) 4: 埋藏シルト質 (炭化物中、5cm 層僅)
 2: 埋藏シルト質 (成分中、～1cm 層少、炭化物 僅) 5: 埋藏シルト質 (～1cm 層中、炭分 僅)
 3: 埋藏シルト質 (成分中、～5cm 層少、炭化物・粘土粒 僅) 6: 埋藏シルト質 (～20cm 層少)

第 157 号住居址



- 1: 埋藏シルト質 (～20cm 層・炭分 中)

第 172 号住居址

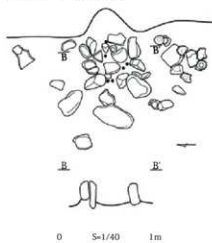


- 1: 埋藏シルト質 (～1cm 層多、炭粒土粒 少)

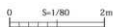
第 169 号住居址



169 住カマド検出状況

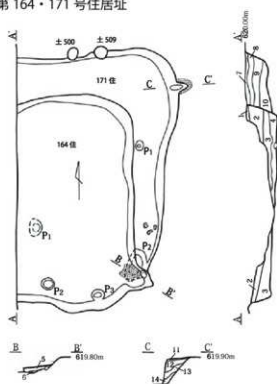


- 1: 埋シルト質 (成分中、炭化物・～0.3cm 層 僅)
 2: 埋藏シルト質 (成分中、炭化物・～1cm 層 僅)
 3: 埋藏シルト質 (成分少、炭化物・～0.3cm 層 僅)
 4: 埋シルト質 (成分少、粘土粒・炭化物・～0.5cm 層 僅)
 5: 埋シルト質 (炭化物多、粘土層 少)



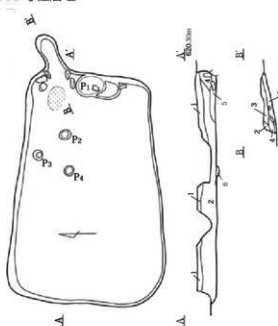
図版 41 竪穴住居址 (29)

第 164・171 号住居址



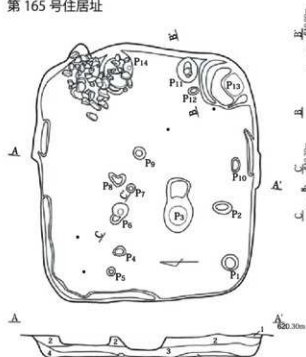
- | | |
|---|---|
| 1: 深層シルト質 (鉄分多、 $\sim 0.5\text{cm}$ 層少) | 8: 深層シルト質 ($\sim 0.5\text{cm}$ 層、灰黒土塊少) |
| 2: 深層シルト質 ($\sim 1\text{cm}$ 層、明灰黒土塊少) | 9: 深層シルト質 ($\sim 3\text{cm}$ 層、鉄分少) |
| 3: 深層シルト質 ($\sim 1\text{cm}$ 層多、明灰黒土塊中) | 10: 深層シルト質 ($\sim 5\text{cm}$ 層中、明灰黒土塊少) |
| 4: 深層シルト質 ($\sim 0.3\text{cm}$ 層中) | 11: 深層シルト質 (鉄分少、 $\sim 1\text{cm}$ 層) |
| 5: 深層シルト質 ($\sim 0.5\text{cm}$ 層中、焼土塊、炭化物) | 12: 深層シルト質 ($\sim 1\text{cm}$ 層中、鉄分少、焼土塊、炭化物) |
| 6: 焼土 | 13: 深層シルト質 (鉄分中、炭化物、焼土塊、 $\sim 1\text{cm}$ 層) |
| 7: 深層シルト質 ($\sim 0.5\text{cm}$ 層少) | 14: 深層シルト質 (鉄分、焼土塊少、炭化物、 $\sim 0.3\text{cm}$ 層) |

第 166 号住居址



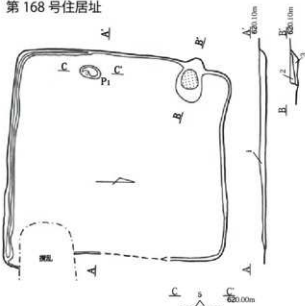
- | |
|---|
| 1: 深層シルト質 (鉄分少、 $\sim 0.3\text{cm}$ 層) |
| 2: 深層シルト質 (鉄分中、 $\sim 1\text{cm}$ 層少、炭化物) |
| 3: 深層シルト質 (焼土塊中、鉄分少) |
| 4: 深層シルト質 (鉄分少、焼土塊、炭化物、 $\sim 1\text{cm}$ 層) |
| 5: 深層シルト質 (鉄分、焼土塊少、炭化物、 $\sim 2\text{cm}$ 層) |
| 6: 深層シルト質 ($\sim 0.3\text{cm}$ 層中、焼土塊、炭化物、灰黒土塊少) |

第 165 号住居址

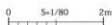


- | |
|---|
| 1: 灰砂質シルト ($\sim 1\text{cm}$ 層中、鉄分少、炭化物) |
| 2: 深層シルト質 (鉄分中、炭化物少、焼土塊、 $\sim 0.3\text{cm}$ 層) |
| 3: 深層シルト質 (鉄分、炭化物少、 $\sim 0.5\text{cm}$ 層) |
| 4: 深層シルト質 (鉄分少、炭化物、 $\sim 2\text{cm}$ 層) |
| 5: 深層シルト質 (鉄分少、炭化物、焼土塊、 $\sim 0.5\text{cm}$ 層) |
| 6: 深層シルト質 (鉄分少、炭化物、 $\sim 0.3\text{cm}$ 層) |
| 7: 深層シルト質 (鉄分、焼土塊少、炭化物、 $\sim 0.5\text{cm}$ 層) |
| 8: 深層シルト質 ($\sim 0.3\text{cm}$ 層多、炭化物、灰黒土塊少、焼土塊) |
| 9: 深層シルト質 (灰黒土塊少) |

第 168 号住居址

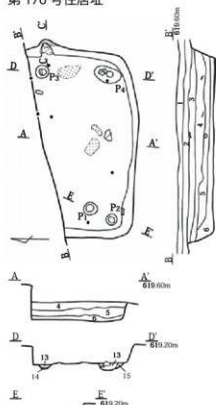


- | |
|--|
| 1: 灰砂質シルト質 (鉄分、 $\sim 0.3\text{cm}$ 層中、炭化物、赤黒土塊、灰黒土塊少) |
| 2: 灰砂質シルト質 (鉄分少、炭化物、 $\sim 0.3\text{cm}$ 層) |
| 3: 灰砂質シルト質 (鉄分、焼土塊少、炭化物、 $\sim 0.3\text{cm}$ 層) |
| 4: 深層シルト質 (鉄分少、 $\sim 0.3\text{cm}$ 層) |
| 5: 深層シルト質 (鉄分、 $\sim 0.3\text{cm}$ 層少) |



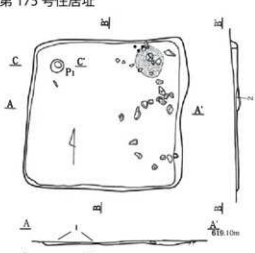
図版 42 竪穴住居址 (30)

第 176 号住居址



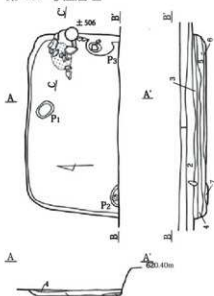
- 1: 耕作土
- 2: 北西-南東シルト質 (鉄分中、炭化物・炭酸土質少)
- 3: 南シロト質 (鉄分中、炭酸土質少)
- 4: 南東シルト質 (鉄分中、炭酸土質少)
- 5: 南東砂質シルト (鉄分中、炭酸土質少、炭化物多)
- 6: 南東砂質シルト (鉄分中、炭酸土質少、炭化物多)
- 7: 南東シルト質 (炭酸土質少)
- 8: 南東砂質シルト (炭酸土質少)
- 9: 南東砂質シルト (鉄分少)
- 10: 南シロト質 (炭酸土質多、鉄分少)
- 11: 北西-南東シルト質 (鉄分中、炭酸土質少)
- 12: 北西-南東シルト質 (砂質中、炭酸土質少)
- 13: 南東シルト質 (砂質中、炭酸土質少、炭酸土質多)
- 14: 南東シルト質 (炭酸土質多)
- 15: 南東シルト質 (炭酸土質少)

第 175 号住居址



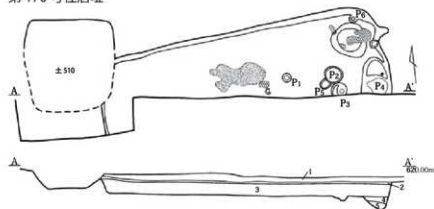
- 1: 南東シルト質 (鉄分中、炭化物・炭酸土質少)
- 2: 南東シルト質 (鉄分中、炭酸土質多)
- 3: 北西-南東シルト質 (鉄分中、炭酸土質多、炭酸土質多)
- 4: 南東シルト質 (鉄分中、炭酸土質多)

第 167 号住居址



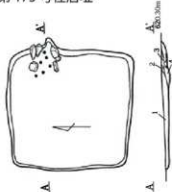
- 1: 耕作土
- 2: 南東シルト質 (鉄分中、炭酸土質多、炭酸土質多)
- 3: 南シロト質 (鉄分中、炭酸土質多、炭酸土質多)
- 4: 南東シルト質 (鉄分中、炭酸土質多)
- 5: 南東シルト質 (鉄分中、炭酸土質多)
- 6: 南東シルト質 (炭酸土質多、鉄分少)
- 7: 北西-南東シルト質 (鉄分中、炭酸土質多)
- 8: 南東シルト質 (炭酸土質多)
- 9: 南東シルト質 (炭酸土質多)
- 10: 北西-南東

第 170 号住居址

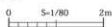


- 1: 南東シルト質 (鉄分中、炭酸土質少)
- 2: 南東シルト質 (鉄分中、炭酸土質少)
- 3: 南東シルト質 (鉄分中、炭酸土質多)
- 4: 南東シルト質 (炭酸土質多、炭酸土質多、炭酸土質多)
- 5: 南東砂質シルト (炭酸土質多、炭酸土質多)

第 173 号住居址

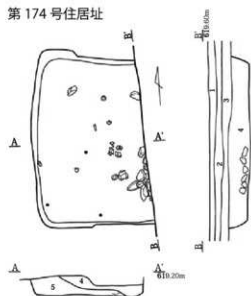


- 1: 南東シルト質 (鉄分中、炭酸土質多)
- 2: 南東シルト質 (炭酸土質多、炭酸土質多)
- 3: 南東シルト質 (鉄分中、炭酸土質多)
- 4: 南東シルト質 (鉄分中、炭酸土質多、炭酸土質多)



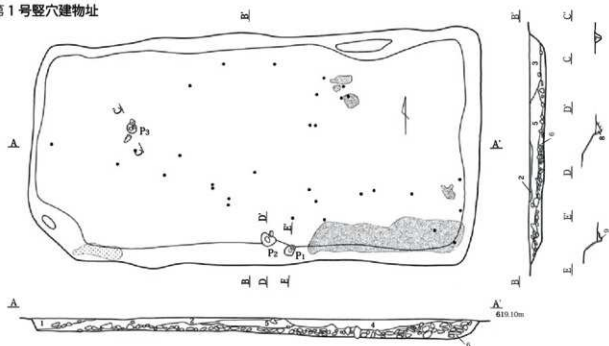
図版 43 竪穴住居址 (31)

第174号住居址

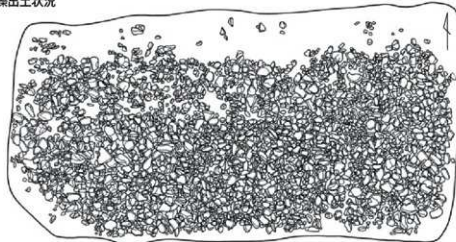


- 1: 新作土
- 2: 腐植層土
- 3: 燧矽トコ質 (～5cm 層・鉄分中、炭化物 無)
- 4: 燧矽トコ質 (～10cm 層多、炭土 幾少)
- 5: 燧矽トコ質 (～3cm 層・鉄分 少)

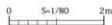
第1号竪穴建物址



竪1 掘出土状況



- 1: 比較的燧矽トコ質 (～1cm 層少、炭土粒・炭化物 無)
- 2: 燧矽トコ質 (鉄分・炭土 中、～1cm 層少)
- 3: 燧矽トコ質 (鉄分中、～2cm 層少、炭土 幾少・炭化物 無)
- 4: 燧矽トコ質 (～0.5cm 層多)
- 5: 燧矽トコ質 (炭土 幾少中、炭化物 少、～3cm 層 無)
- 6: 炭燧矽トコ質 (鉄分 多、～1cm 層 少)
- 7: 炭燧矽トコ質 (炭化物 中、炭土 幾少)
- 8: 比較的燧矽トコ質 (炭化物 中、～1cm 層 少、炭土 幾 無)
- 9: 炭燧矽砂質 (炭化物、～3cm 層 中)



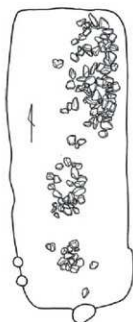
図版 44 竪穴住居址 (32)、竪穴建物址 (1)

第7号竪穴建物址

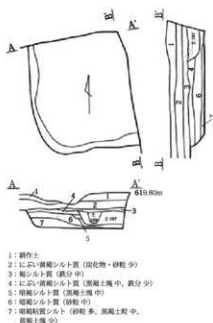


- 第7
- 1: 掘作土
 - 2: 水田基礎土
 - 3: 粘土・黄褐色シルト質 (鉄分少、 $\sim 0.5\text{cm}$ 層厚)
 - 4: 粘土・黄褐色シルト質 (鉄分少、 $\sim 1\text{cm}$ 層厚)
 - 5: 粘土・黄褐色シルト質 (鉄分・黄土層、 $\sim 0.5\text{cm}$ 層厚)
 - 6: 粘結シルト質 (鉄分・黄土層、 $\sim 0.5\text{cm}$ 層厚)
 - 7: 粘土・黄褐色シルト質 (鉄分、 $\sim 1\text{cm}$ 層厚、黄土層)
 - 8: 黄褐色シルト質 (鉄分中、明瞭な粘着)
 - 9: シルト質 ($\sim 0.3\text{cm}$ 層厚、粘結土層)

第7号遺物出土状況

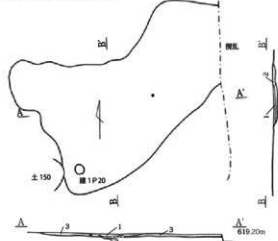


第8号竪穴建物址



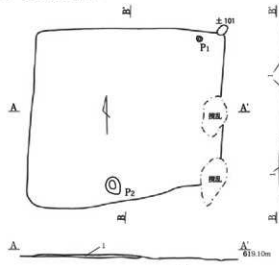
- 1: 掘作土
- 2: 粘土・黄褐色シルト質 (炭化物・鉄分少)
- 3: 粘シルト質 (鉄分中)
- 4: 粘土・黄褐色シルト質 (黄褐色土層中、鉄分少)
- 5: 粘結シルト質 (粘結土層中)
- 6: 粘結シルト質 (粘結中)
- 7: 粘結粘質シルト (粘結多、黄褐色土層中、黄褐色土層)

第6号竪穴建物址



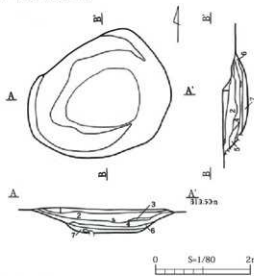
- 第6
- 1: 粘結シルト質 (黄土層多、炭化物・黄土層中、 $\sim 0.5\text{cm}$ 層厚)
 - 2: 粘結シルト質 ($\sim 1\text{cm}$ 層厚、黄土層中)
 - 3: 粘結シルト質 (鉄分、 $\sim 0.5\text{cm}$ 層厚)

第5号竪穴建物址



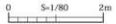
- 第5
- 1: 粘結シルト質 ($\sim 2\text{cm}$ 層厚)

第4号竪穴状遺構

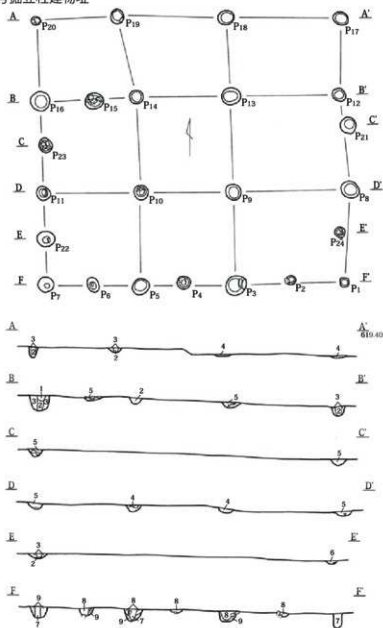


- 第4
- 1: 粘結シルト質 (鉄分・黄土層多、層厚少、炭化物)
 - 2: 粘結シルト質 (黄土層多、層厚少、炭化物・鉄分)
 - 3: 粘シルト質 (黄土層少、 $\sim 1\text{cm}$ 層厚)
 - 4: 粘土・黄褐色シルト質 (鉄分中、炭化物)
 - 5: 粘結シルト質 (鉄分中、炭化物、 $\sim 2\text{cm}$ 層厚)
 - 6: 粘結シルト質 (鉄分中)
 - 7: 灰黄褐色シルト質 (鉄分中、 $\sim 10\text{cm}$ 層厚)

図版 45 竪穴建物址(2)、竪穴状遺構

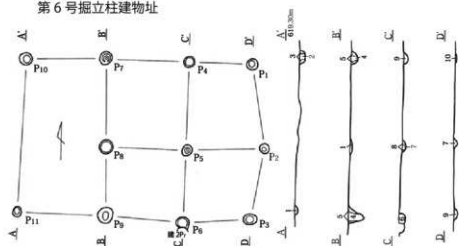


第1号掘立柱建物址

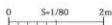


- 1: 堀形シルト質 (粘土塊大、 $\sim 0.5\text{cm}$ 層少)
- 2: 堀形シルト質 (鉄分少、 $\sim 1\text{cm}$ 層薄)
- 3: 堀形シルト質 (粘土粒・鉄分少、 $\sim 1\text{cm}$ 層薄)
- 4: 堀形シルト質 ($\sim 1\text{cm}$ 層少、炭粒土塊多)
- 5: 堀形シルト質 ($\sim 5\text{cm}$ 層・炭粒土塊・堀土塊少)
- 6: 堀形シルト質 (炭粒土塊大、鉄分少)
- 7: 高い・炭粒シルト質 ($\sim 1\text{cm}$ 層・炭粒土塊多)
- 8: 堀形シルト質 ($\sim 3\text{cm}$ 層・鉄分少)
- 9: 堀形シルト質 ($\sim 1\text{cm}$ 層少、炭化物多)

第6号掘立柱建物址

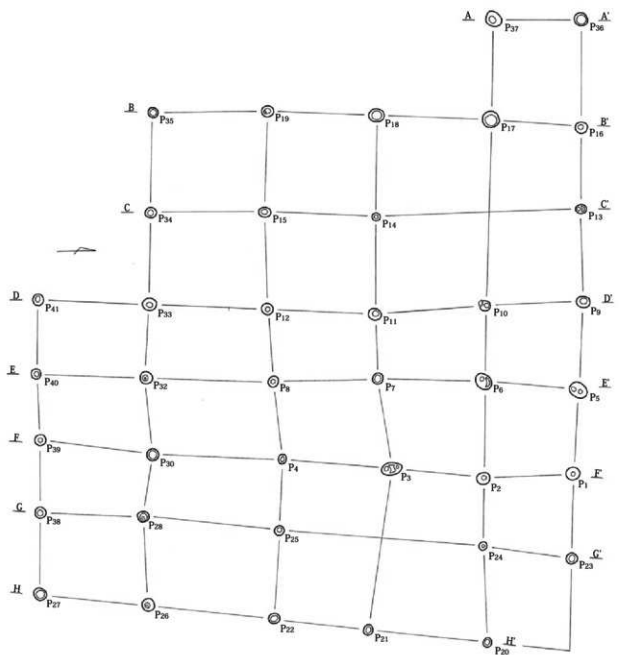


- 1: 高い・炭粒粘質シルト (鉄分中、 $\sim 0.3\text{cm}$ 層・炭化物少)
- 2: 炭粒粘質シルト (炭化物中、炭粒土塊少)
- 3: 炭粒粘質シルト ($\sim 0.3\text{cm}$ 層多、炭化物少)
- 4: 炭粒粘質シルト (鉄分中、 $\sim 0.3\text{cm}$ 層少)
- 5: 高い・炭粒粘質シルト (鉄分・ $\sim 0.3\text{cm}$ 層中)
- 6: 高い・炭粒粘質シルト ($\sim 0.5\text{cm}$ 層多、鉄分中)
- 7: 粘質シルト質 (炭粒土塊・ $\sim 0.3\text{cm}$ 層中、鉄分少)
- 8: 高い・炭粒シルト質 ($\sim 0.3\text{cm}$ 層多、鉄分少)
- 9: 堀形シルト質 ($\sim 0.5\text{cm}$ 層少)
- 10: 粘質シルト (鉄分・ $\sim 0.3\text{cm}$ 層中、炭粒土塊少)



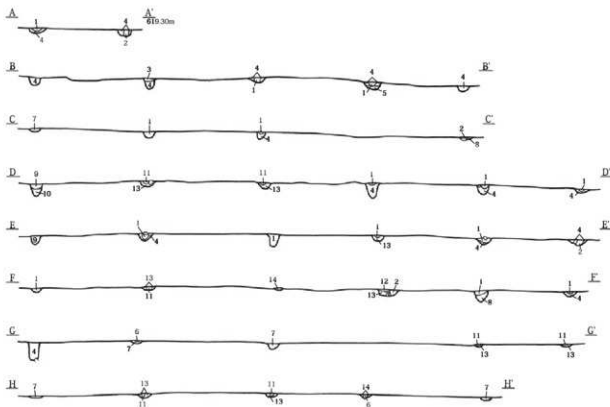
図版 46 掘立柱建物址 (1)

第 2 号掘立柱建物址



图版 47 掘立柱建物址 (2)

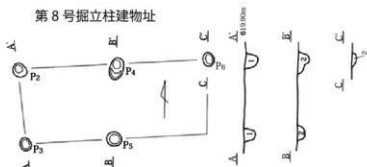
建 2



- 1: に近い・黄銅粘着シルト (鉄分・ $\sim 0.3\text{cm}$ 薄・少)
- 2: 黒鉛シルト質 ($\sim 0.3\text{cm}$ 薄・黄銅土塊少)
- 3: に近い・黄銅粘着シルト (炭化物中、鉄分少)
- 4: に近い・黄銅粘着シルト (鉄分中、 $\sim 0.3\text{cm}$ 薄少、炭化物 薄)
- 5: に近い・黄銅粘着シルト (鉄分中)
- 6: 暗黒シルト質 ($\sim 0.3\text{cm}$ 薄・少)
- 7: 暗黒シルト質 (鉄分・ $\sim 0.3\text{cm}$ 薄中、炭化物少)

- 8: 暗黒シルト質 (黄銅土塊・ $\sim 0.3\text{cm}$ 薄・鉄分少)
- 9: に近い・黄銅シルト質 (鉄分・ $\sim 0.3\text{cm}$ 薄中、赤銅土塊少)
- 10: 暗黒シルト質 ($\sim 0.3\text{cm}$ 薄・鐵)
- 11: 粘着シルト (鉄分少、 $\sim 0.3\text{cm}$ 薄・鐵)
- 12: に近い・黄銅粘着シルト (鉄分・ $\sim 0.3\text{cm}$ 薄・鐵)
- 13: に近い・黄銅粘着シルト ($\sim 0.5\text{cm}$ 薄・鉄分・黄銅土塊少)
- 14: 暗黒シルト質 ($\sim 0.3\text{cm}$ 薄少、鉄分 鐵)

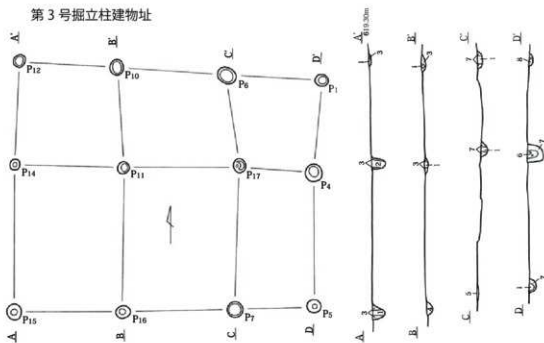
第 8 号掘立柱建物址



- 1: 暗黒シルト質 ($\sim 0.5\text{cm}$ 薄・鉄分少)
- 2: に近い・黄銅シルト質 (鉄分・ $\sim 0.3\text{cm}$ 薄・炭化物・黄銅土塊少)

図版 48 掘立柱建物址 (3)

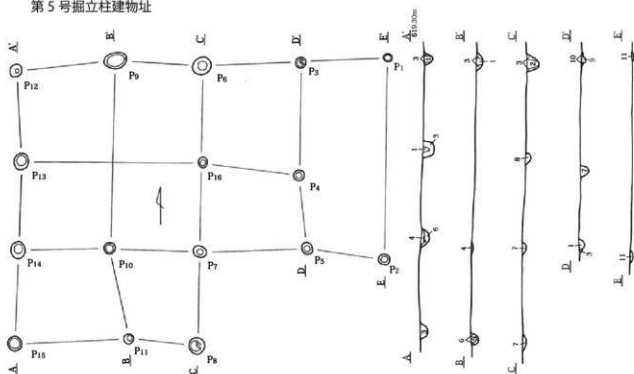
第3号掘立柱建物址



- 1: 北に凹・浅層粘質シルト (鉄分・炭層土層中、 $\sim 0.3\text{cm}$ 薄少)
- 2: 北に凹・浅層粘質シルト (鉄分多、炭層土層中)
- 3: 粘シルト質 (炭層土層中、 $\sim 0.3\text{cm}$ 薄中、鉄分少)
- 4: 粘層シルト質 (炭層土層中、 $\sim 0.3\text{cm}$ 薄中)

- 5: 北に凹・浅層粘質シルト (鉄分少)
- 6: 北に凹・浅層粘質シルト (鉄分中、炭層土層中、 $\sim 2\text{cm}$ 薄少)
- 7: 粘層粘質シルト (鉄分中)
- 8: 粘層シルト ($\sim 1\text{cm}$ 薄・炭層土層中)

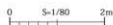
第5号掘立柱建物址



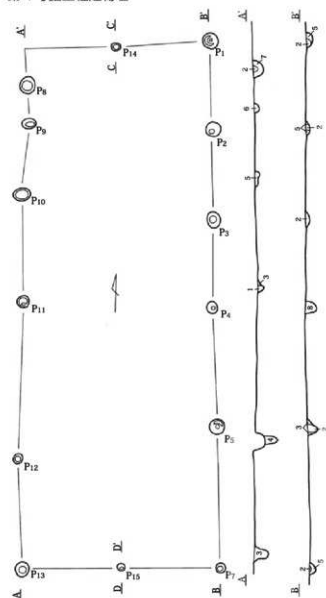
- 1: 北に凹・浅層シルト質 ($\sim 0.3\text{cm}$ 薄中、鉄分・炭層土層中、鉄分少)
- 2: 北に凹・浅層シルト質 (炭層土層中、鉄分、 $\sim 0.3\text{cm}$ 薄少)
- 3: 北に凹・浅層シルト質 ($\sim 0.3\text{cm}$ 薄中、鉄分少)
- 4: 北に凹・浅層粘質シルト (鉄分、 $\sim 0.3\text{cm}$ 薄中)
- 5: 粘層シルト質 (炭層土層中)
- 6: 炭層シルト質 (鉄分中、 $\sim 0.3\text{cm}$ 薄少)

- 7: 北に凹・粘層粘質シルト (鉄分、 $\sim 0.3\text{cm}$ 薄少)
- 8: 北に凹・粘層シルト質 (鉄分少)
- 9: 北に凹・粘層シルト質 ($\sim 0.3\text{cm}$ 薄中、鉄分・炭層土層中)
- 10: 粘シルト質 (鉄分少)
- 11: 粘層粘質シルト ($\sim 0.3\text{cm}$ 薄・炭層土層中、鉄分中)

図版 49 掘立柱建物址 (4)



第4号掘立柱建物址



第7号掘立柱建物址

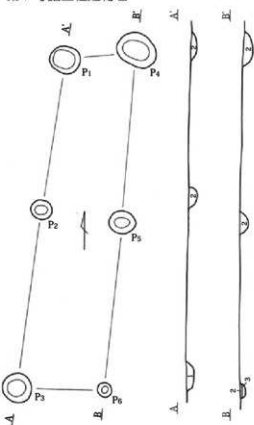


図4

- 1: 埴輪シロト貫 (～3cm 厚少)
- 2: 粘土・埴輪シロト貫 (炭分中、～0.3cm 厚少)
- 3: 粘土・埴輪シロト貫 (～0.3cm 厚中、炭分・炭化物少)
- 4: 埴輪シロト貫 (炭分中、粘土・炭化物少)
- 5: 埴輪シロト貫 (～0.3cm 厚・炭分少)
- 6: 埴輪シロト貫 (～0.3cm 厚多)
- 7: 粘土・埴輪シロト貫 (炭分・炭質粘土層中、～1cm 厚少)
- 8: 粘土・埴輪シロト貫 (粘土層中、炭化物少)

図7

- 1: 埴輪シロト貫 (～4cm 厚多、炭化物・粘土層少)
- 2: 埴輪シロト貫 (～3cm 厚多)
- 3: 埴輪シロト貫 (炭質土層・黒質土層中、～0.3cm 厚少)

第1・2号炭焼窯

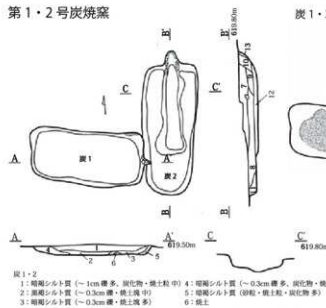
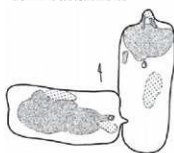


図1・2

- 1: 埴輪シロト貫 (～1cm 厚多、炭化物・粘土層中)
- 2: 埴輪シロト貫 (～0.3cm 厚・粘土層中)
- 3: 埴輪シロト貫 (～0.3cm 厚・粘土層多)
- 4: 埴輪シロト貫 (～0.3cm 厚多、炭化物・粘土層中)
- 5: 埴輪シロト貫 (砂粒・粘土層・炭化物多)
- 6: 粘土

炭1・2 炭化物出土状況



第3号炭焼窯

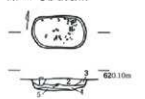


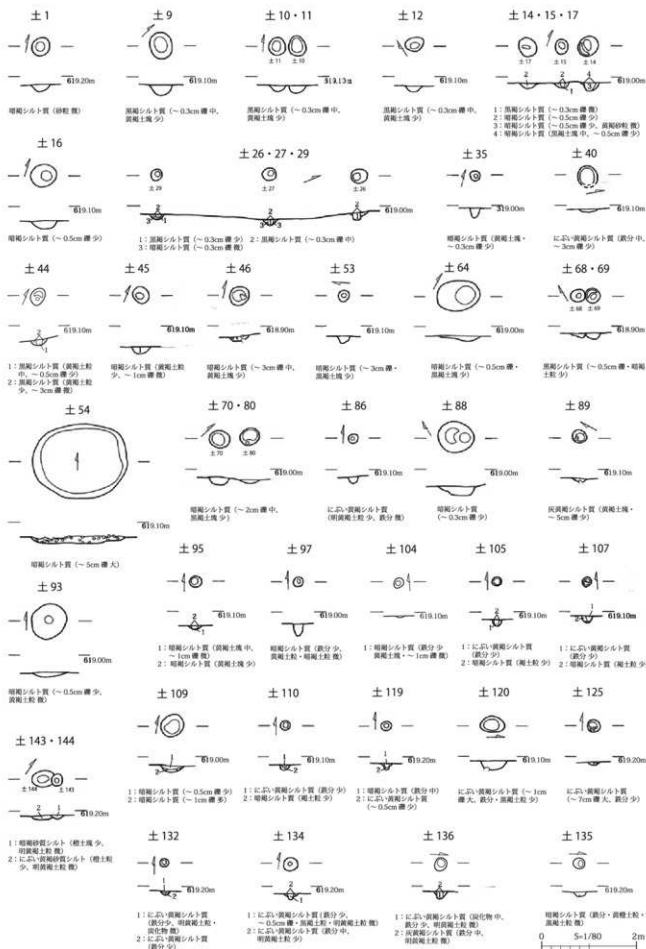
図3

- 1: 灰質埴輪シロト貫 (～0.3cm 厚・粘土層・炭分中)
- 2: 埴輪シロト貫 (粘土層多、～0.5cm 厚・炭分中、炭化物多)
- 3: 埴輪シロト貫 (砂粒多、粘土層中)
- 4: 埴輪シロト貫 (～0.3cm 厚多、粘土層中、炭化物多)
- 5: 埴輪シロト貫 (炭化物大、粘土層中)

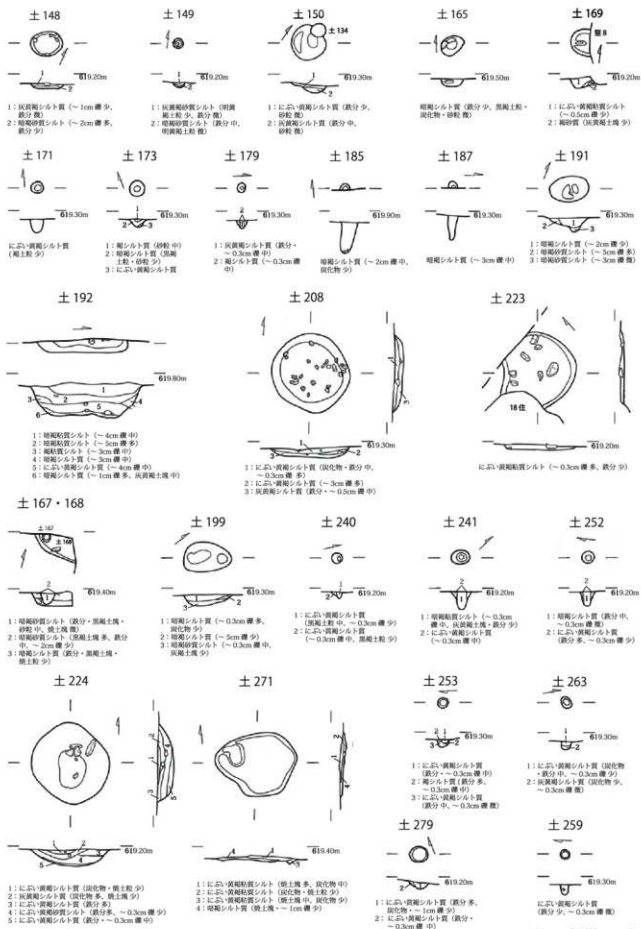
図7

- 7: 埴輪シロト貫 (～1cm 厚多、炭化物中)
- 8: 埴輪シロト貫 (炭分・炭化物、～2cm 厚少)
- 9: 埴輪シロト貫 (炭化物中、～4cm 厚少)
- 10: 埴輪シロト貫 (～0.3cm 厚・炭化物多、粘土層中)
- 11: 埴輪シロト貫 (～0.3cm 厚多、炭分中)
- 12: 埴輪シロト貫 (砂粒多、粘土層中、炭化物多)
- 13: 粘土

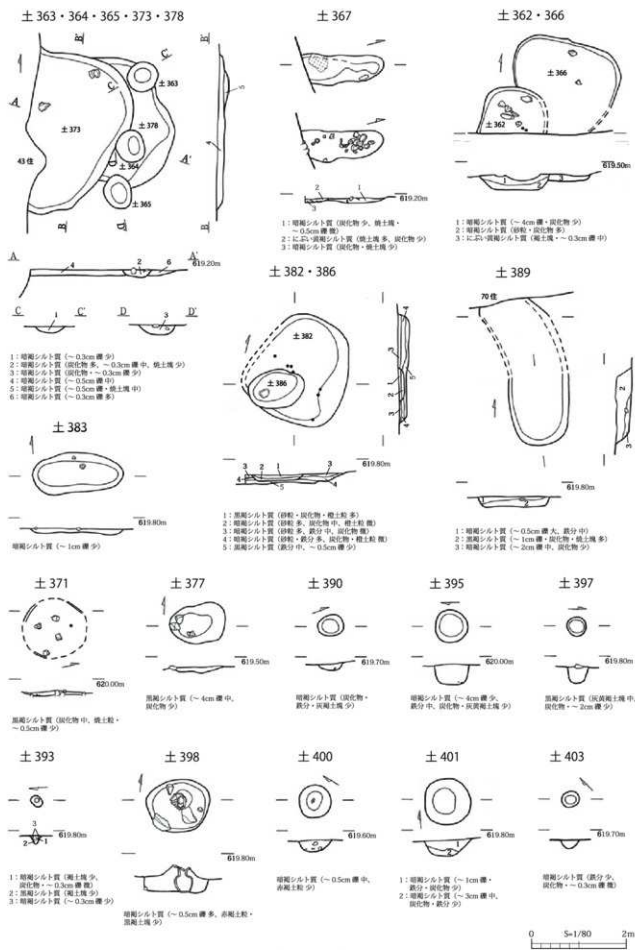
図版 50 掘立柱建物址 (5)、炭焼窯



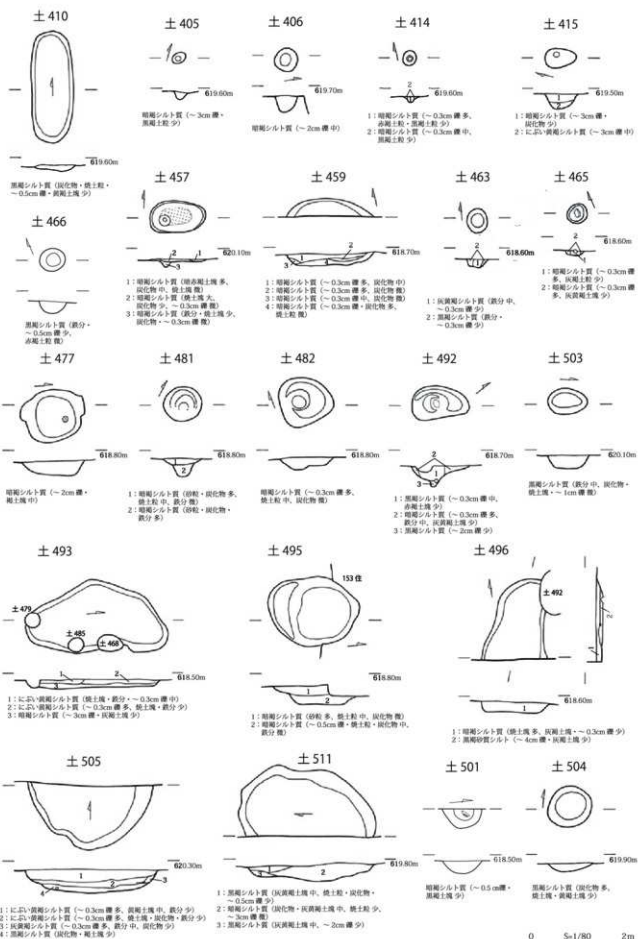
図版 51 土坑 (1)



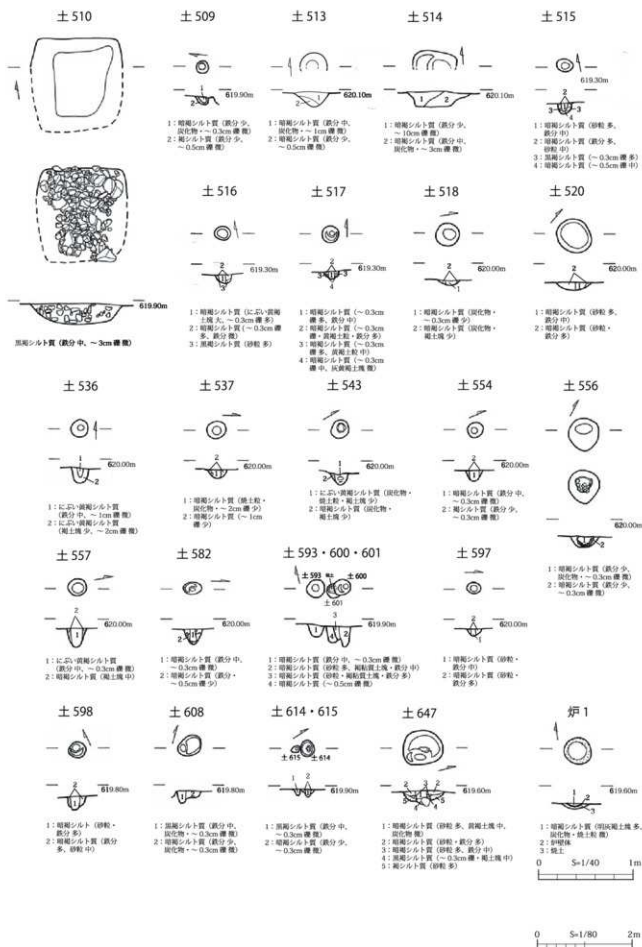
図版 52 土坑 (2)



図版 54 土坑 (4)

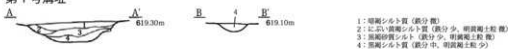


図版 55 土坑 (5)



図版 56 土坑 (6)、炉址

第1号溝址



- 1: 黒曜シルト質 (鉄分層)
- 2: 比ふい-炭酸シルト質 (鉄分少, 明炭酸土粒 極)
- 3: 黒曜砂質シルト (鉄分少, 明炭酸土粒 極)
- 4: 黒曜シルト質 (鉄分中, 明炭酸土粒少)

第2号溝址



- 1: 炭酸シルト質 (~1cm 層少, 明炭酸土粒-鉄分層)
- 2: 黒曜シルト質 (~5cm 層, 赤黄土粒 極)
- 3: 黒曜シルト質 (~10cm 層少)
- 4: 炭酸細砂 (鉄分中, 明炭酸土粒 極)
- 5: 炭酸砂質シルト (~5cm 層少)
- 6: 炭酸細砂 (~5cm 層少, 鉄分層)
- 7: 炭酸細砂 (鉄分中, ~5cm 層少)
- 8: 比ふい-炭酸シルト質 (~5cm 層中, 明炭酸土粒 極)
- 9: 炭酸細砂 (鉄分+, ~1cm 層少)

第4号溝址



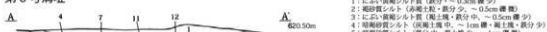
- 1: 黒曜シルト質 (~0.3cm 層多, 炭化物・赤黄土粒 少)
- 2: 黒曜シルト質 (~0.5cm 層多)
- 3: 黒曜シルト質 (~0.3cm 層多, 炭酸土粒 少)
- 4: 炭酸砂質シルト (~0.3cm 層多, 炭酸土粒 少)

第7号溝址



- 1: 炭酸シルト質 (~1cm 層多, 鉄分+, ~10cm 層中)
- 2: 比ふい-炭酸シルト質 (鉄分多, ~0.5cm 層中, 炭化物 極)
- 3: 炭酸シルト質 (~0.5cm 層, 鉄分中)

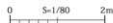
第8号溝址



- 1: 比ふい-炭酸シルト質 (鉄分+, ~0.3cm 層少)
- 2: 黒砂質シルト (赤黄土粒・鉄分少, ~0.5cm 層 極)
- 3: 比ふい-炭酸シルト質 (炭土塊・鉄分中, ~0.5cm 層少)
- 4: 炭酸砂質シルト (炭酸土粒 中, ~1cm 層・炭土塊・鉄分少)
- 5: 炭酸砂質シルト (鉄分中, 炭土塊 少, ~1cm 層 極)
- 6: 炭酸砂質シルト (炭土塊 多, 鉄分中, ~1cm 層 極)
- 7: 炭酸シルト質 (~4cm 層少)
- 8: 炭酸砂質シルト (~4cm 層多)
- 9: 炭酸砂質シルト (鉄分中, ~0.2cm 層 極)
- 10: 比ふい-炭酸シルト質 (~2cm 層・炭土塊 少, 炭化物 極)
- 11: 炭酸砂質シルト (~4cm 層中)
- 12: 炭酸砂質シルト (~3cm 層 極)
- 13: 比ふい-炭酸砂質シルト (鉄分中)
- 14: 炭酸細砂 (~4cm 層多)
- 15: 炭酸細砂 (~3cm 層少)
- 16: 炭酸中砂 (~4cm 層多)

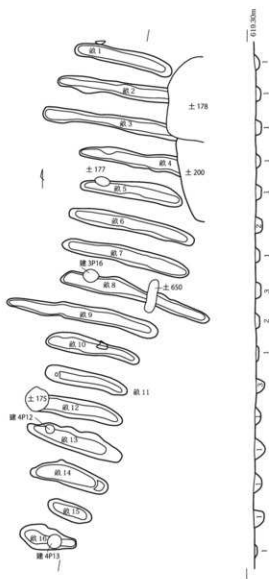


- 1: 比ふい-炭酸シルト質 (鉄分中, ~0.3cm 層少)
- 2: 比ふい-炭酸砂質シルト (鉄分+, ~0.3cm 層, 炭酸土粒 少)
- 3: 炭酸砂質シルト (鉄分, 炭酸土塊 中, ~2cm 層少)
- 4: 炭酸砂質シルト (鉄分中, ~5cm 層・炭化物・炭酸土粒 少)
- 5: 比ふい-炭酸砂質シルト (鉄分+, 炭酸土塊 中, ~0.5cm 層 極)
- 6: 炭酸砂質シルト (~0.2cm 層中, 炭土塊・炭酸土粒 少)
- 7: 炭酸砂質シルト (鉄分中, 炭土塊・炭酸土粒 少)
- 8: 炭酸砂質シルト (鉄分中, ~1cm 層少)
- 9: 比ふい-炭酸砂質シルト (~0.3cm 層少)
- 10: 炭酸砂質シルト (~0.3cm 層中, 炭土塊 少)
- 11: 炭酸砂質シルト (~6cm 層多)
- 12: 炭酸砂質シルト (~4cm 層多)
- 13: 炭酸砂質シルト (~3cm 層少)
- 14: 比ふい-炭酸砂質シルト (~3cm 層中)
- 15: 比ふい-炭酸細砂 (~6cm 層多)
- 16: 炭酸砂質シルト (鉄分中, ~5cm 層少)
- 17: 炭酸中砂 (~10cm 層多)
- 18: 炭酸砂質シルト (炭土塊 多)
- 19: 炭酸砂質シルト (鉄分+, 炭酸土塊 中, ~0.3cm 層少, 炭酸土粒 極)
- 20: 炭酸砂質シルト (炭酸土塊・鉄分中)

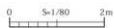


図版 57 溝址

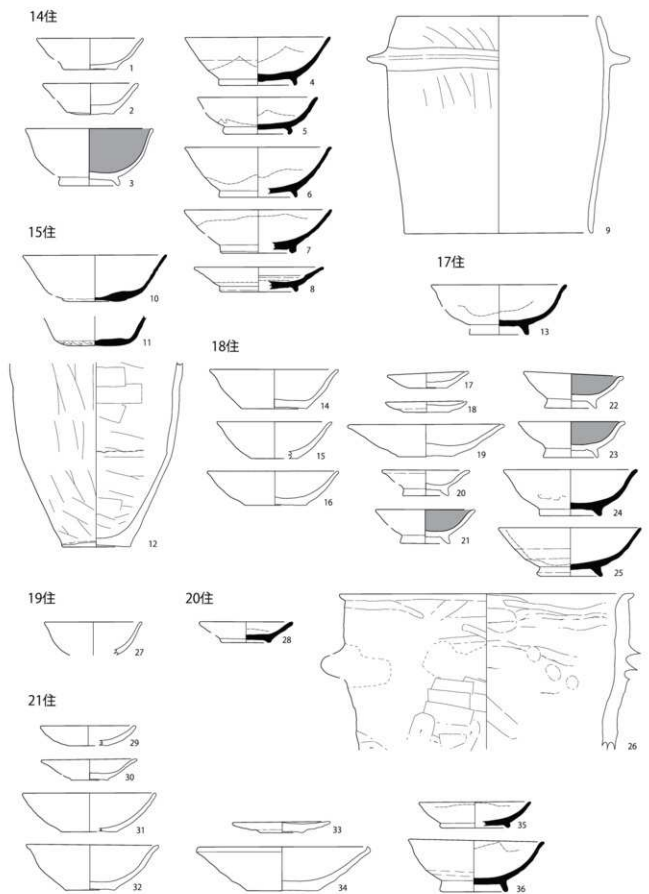
敵址



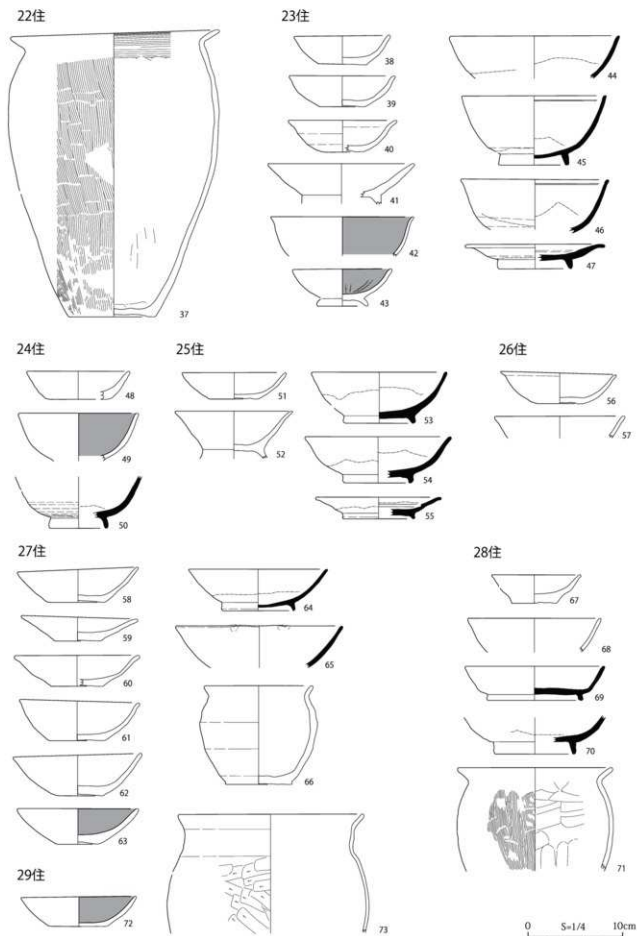
- 1: 堀堀シルト質 (表分・～0.3cm 標少)
 2: 堀堀シルト質 (表分・～0.3cm 標少、副合物散)
 3: 堀堀シルト質 (副合物土塊中、～0.3cm 標少、表分散)



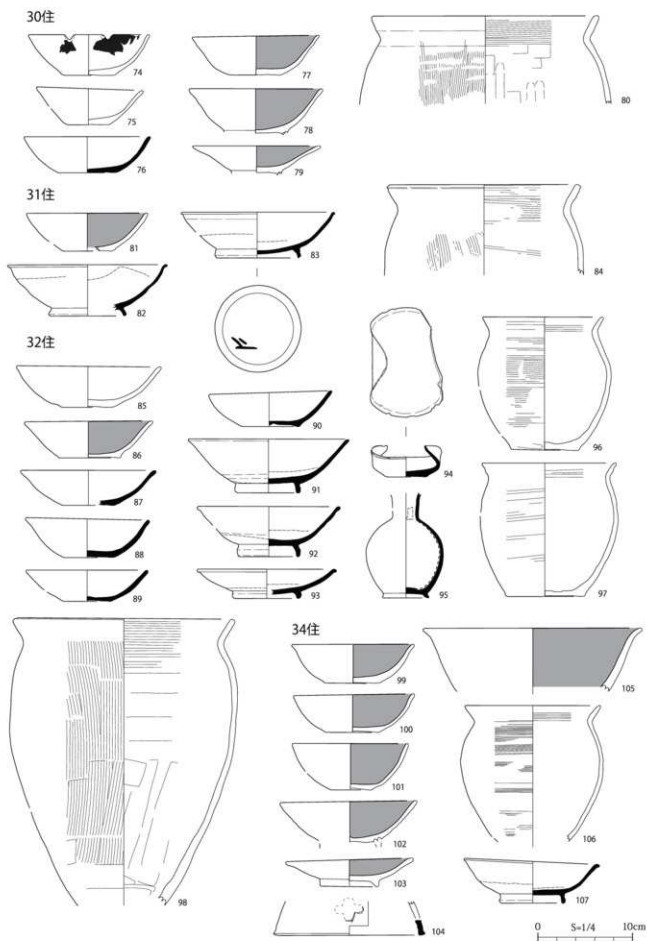
図版 58 敵址



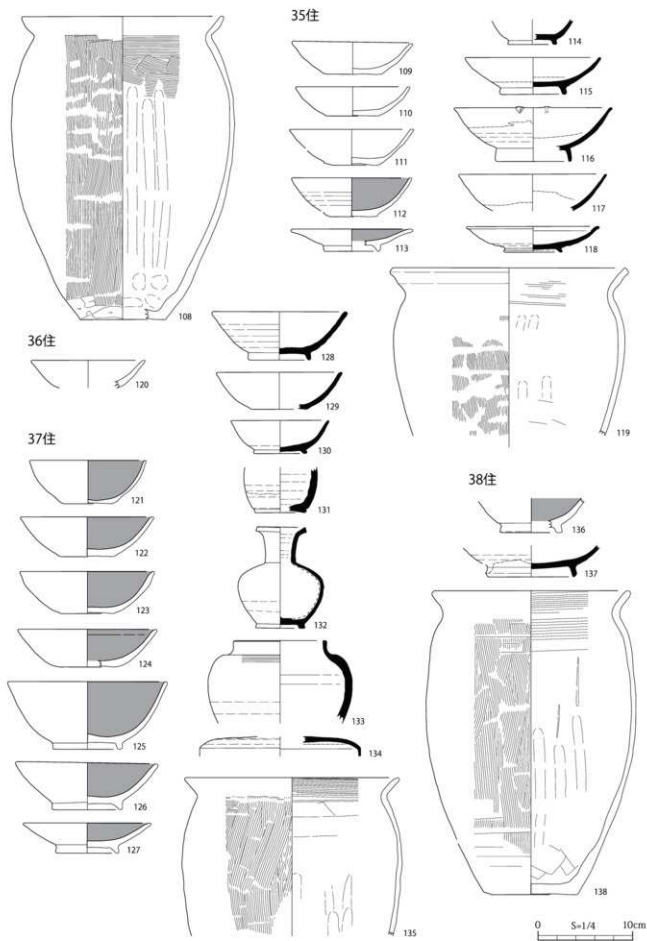
図版 59 土器 (1)



图版 60 土器 (2)

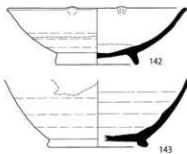
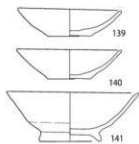


図版 61 土器 (3)

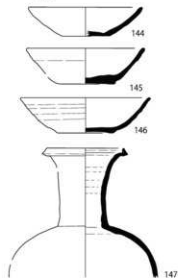


図版 62 土器 (4)

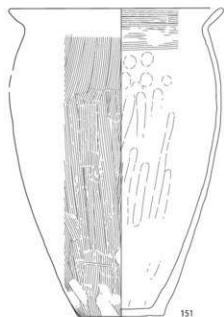
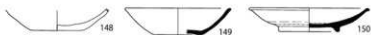
39住



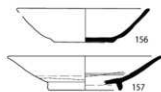
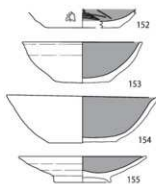
40住



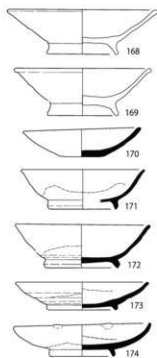
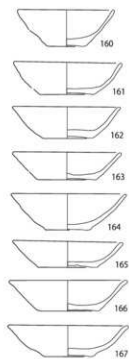
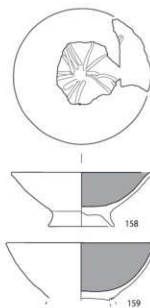
41住



42住

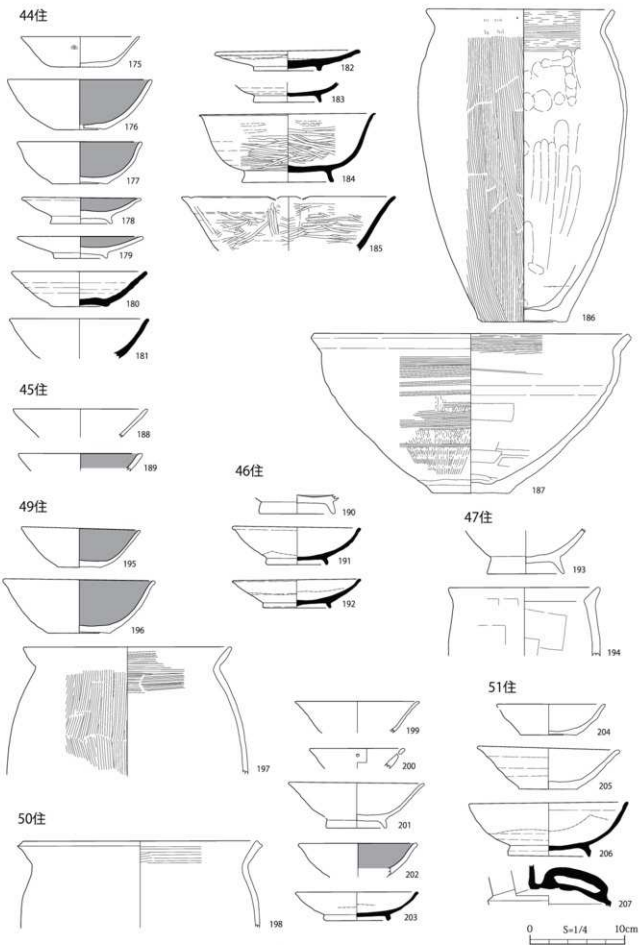


43住



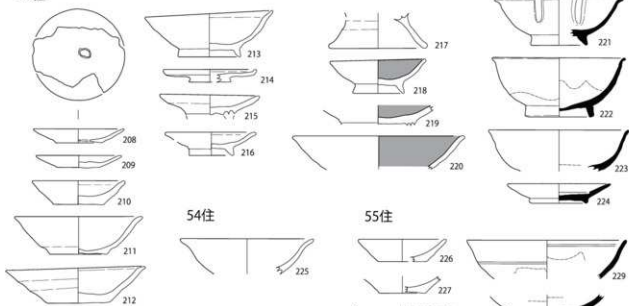
図版 63 土器 (5)

0 S=1/4 10cm



図版 64 土器 (6)

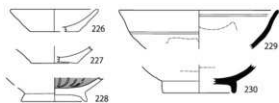
53住



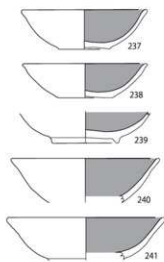
54住



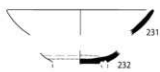
55住



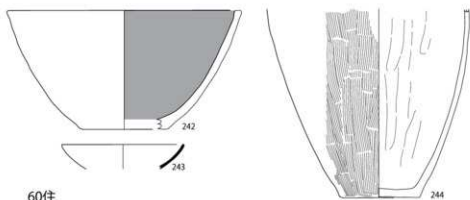
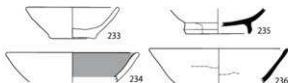
58住



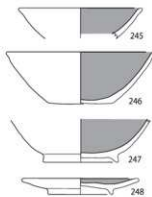
56住



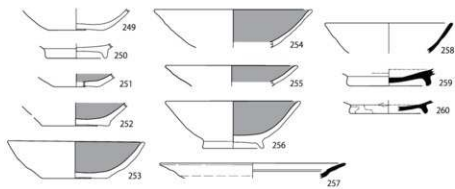
57住



59住

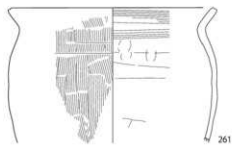


60住

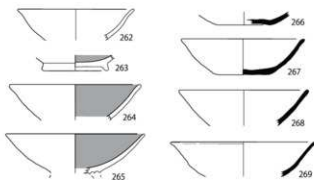


0 S=1/4 10cm

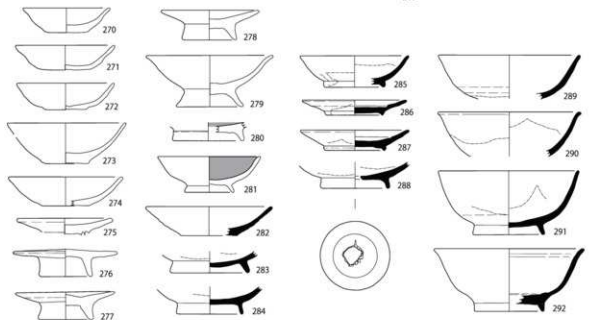
図版 65 土器 (7)



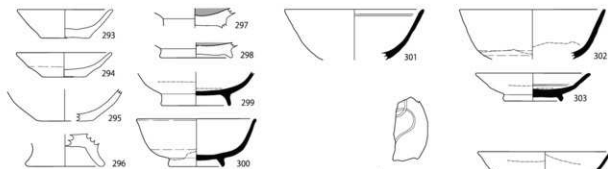
61住



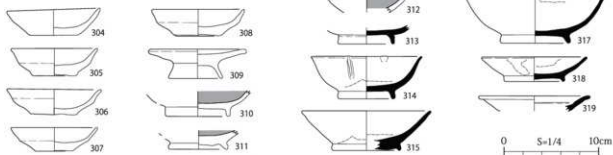
62住



63住



64住

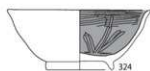


図版 66 土器 (8)

0 S=1/4 10cm



65住



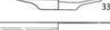
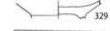
67住



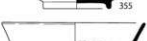
68住



66住

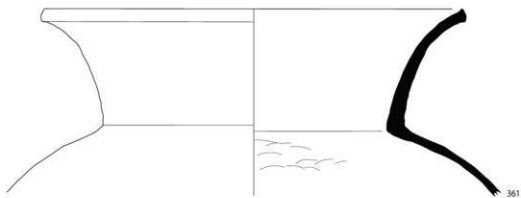


69住

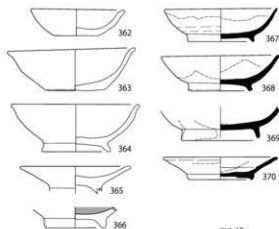


0 S=1/4 10cm

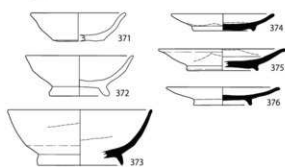
图版 67 土器 (9)



70住



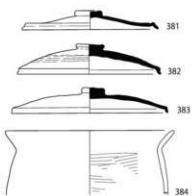
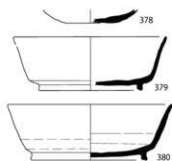
71住



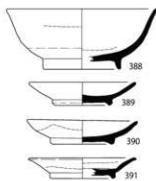
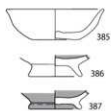
72住



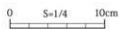
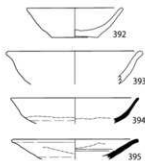
73住



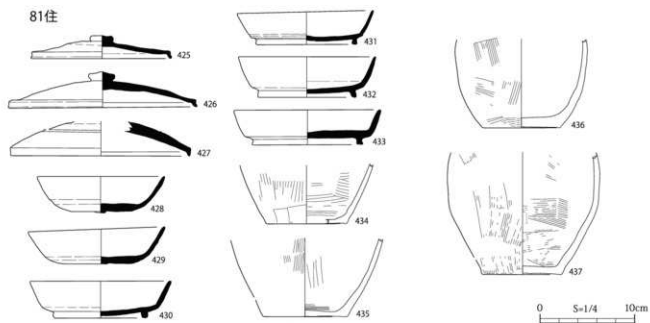
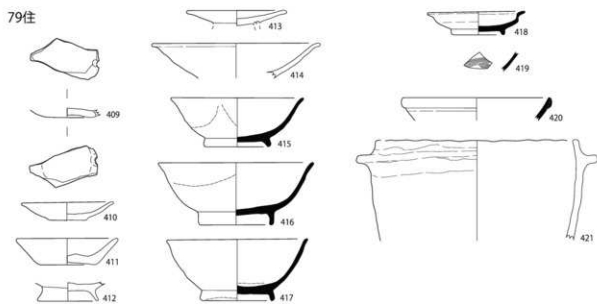
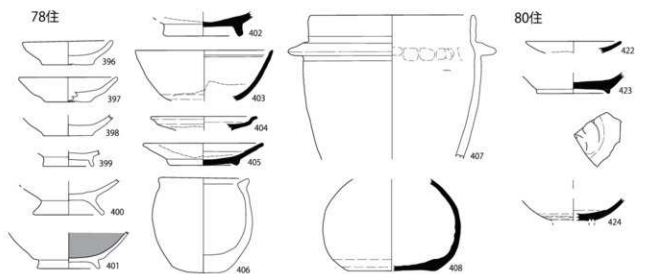
74住



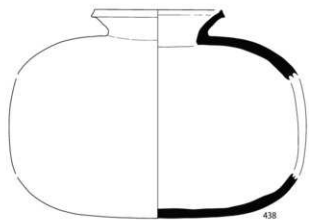
77住



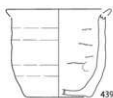
図版 68 土器 (10)



図版 69 土器 (11)

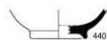


438



439

82住



440



441

83住



442

443



444

84住



449



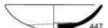
450



445



446



447



448



451

86住



457



458



459



460



461



462



463



464



465



466



467

85住



452



453



454



455



456

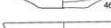
87住



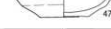
468



469



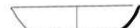
470



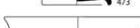
471



472



473



474

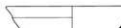


475



476

88住



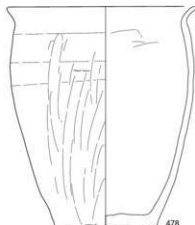
479



480



477

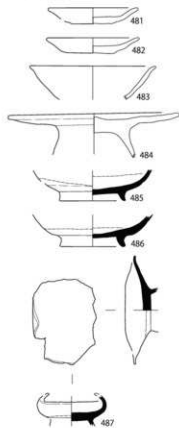


478

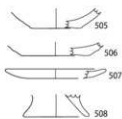
図版 70 土器 (12)

0 S=1/4 10cm

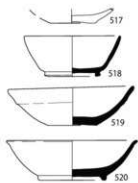
89住



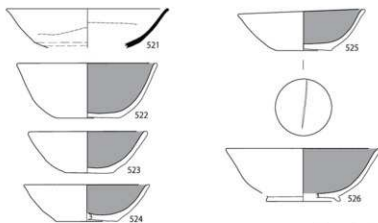
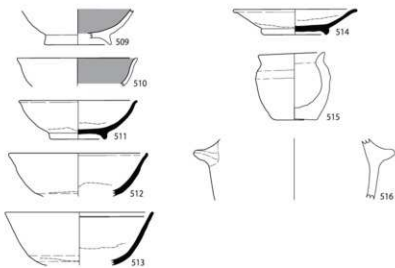
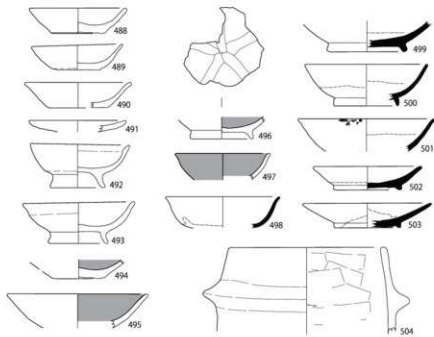
91住



92住

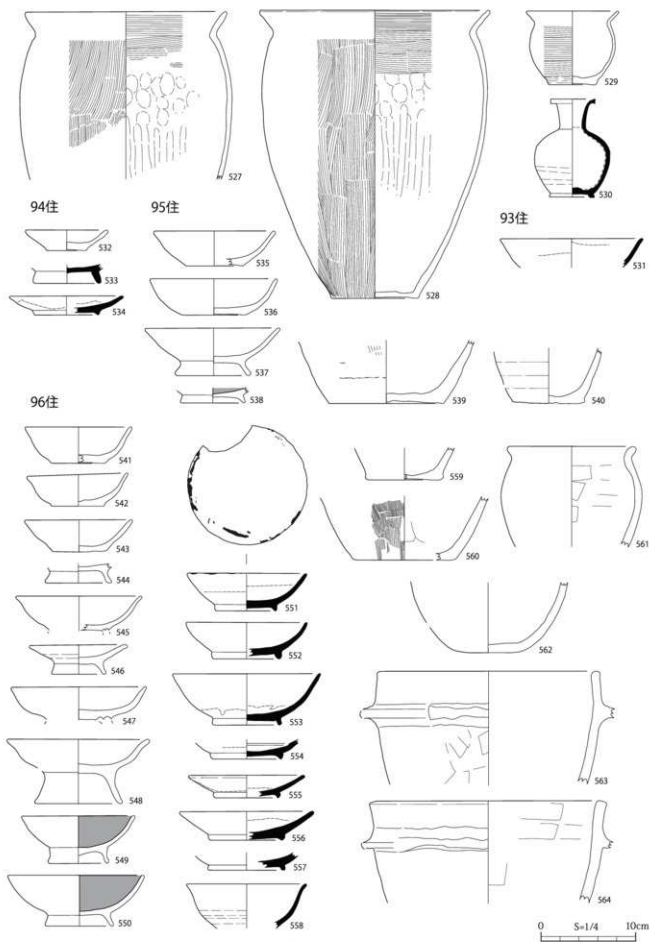


90住

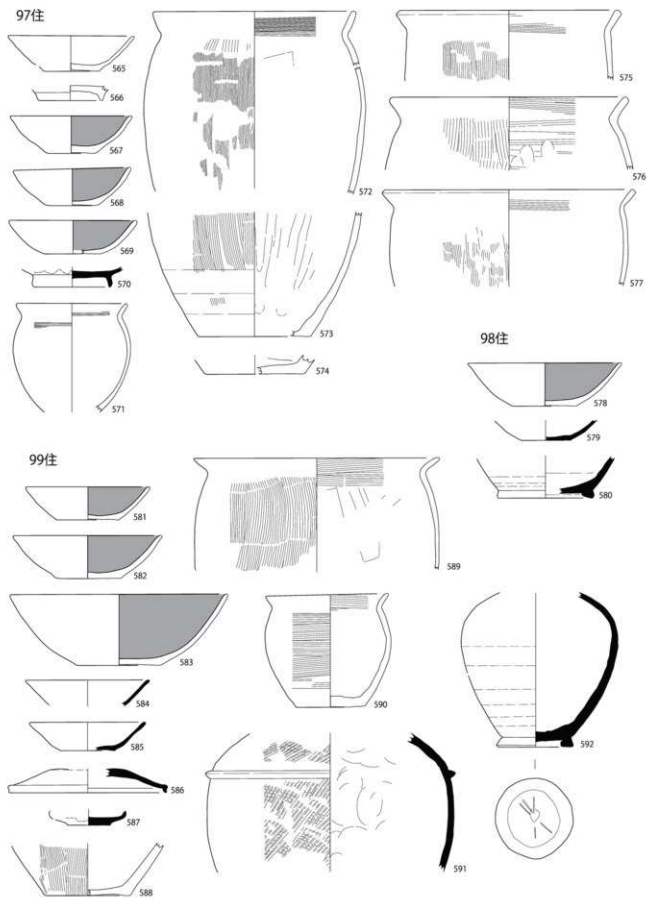


0 S=1/4 10cm

図版 71 土器 (13)



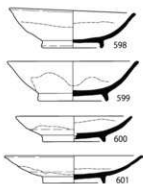
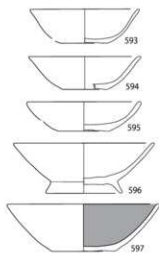
図版 72 土器 (14)



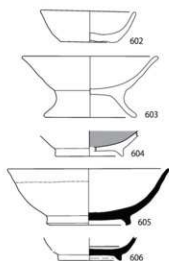
0 S=1/4 10cm

図版 73 土器 (15)

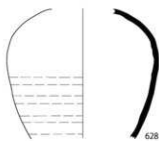
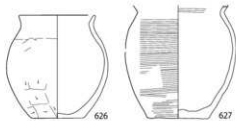
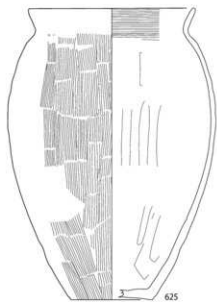
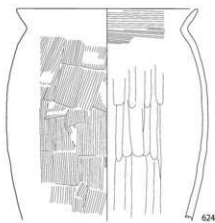
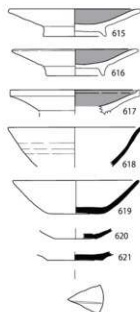
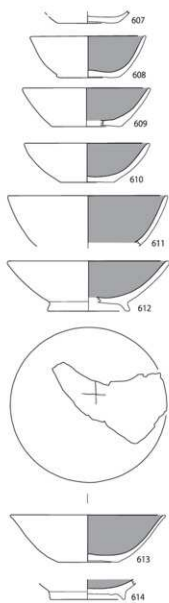
100住



101住

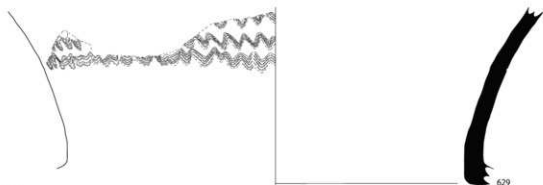


102住

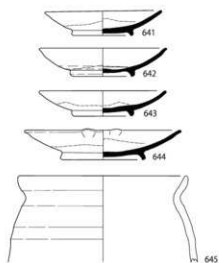
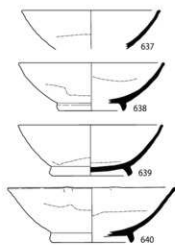
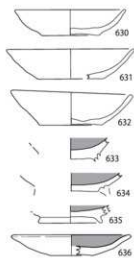


0 S=1/4 10cm

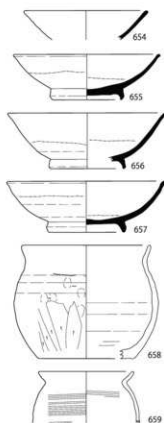
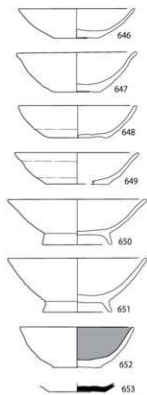
図版 74 土器 (16)



103住



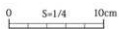
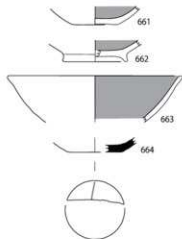
104住



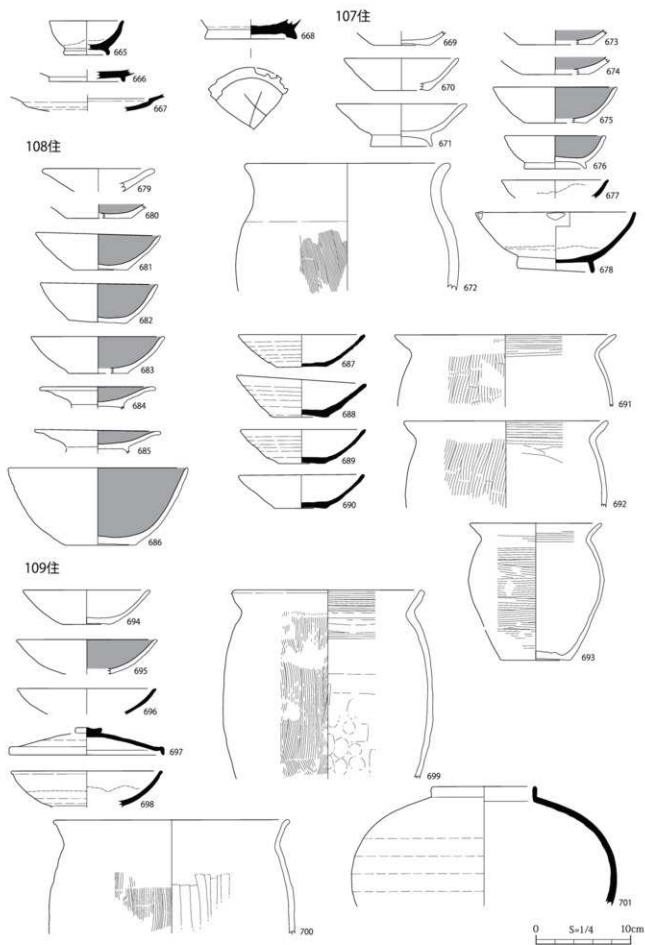
105住



106住

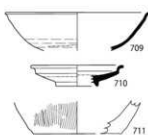
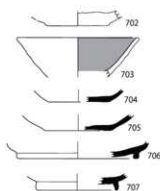


図版 75 土器 (17)

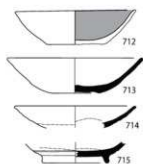


図版 76 土器 (18)

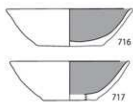
110住



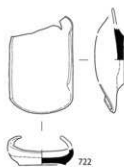
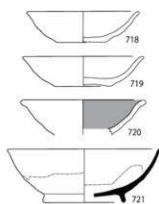
111住



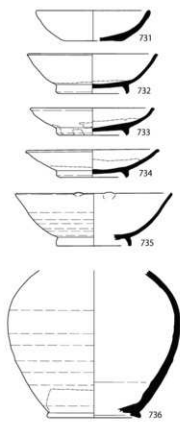
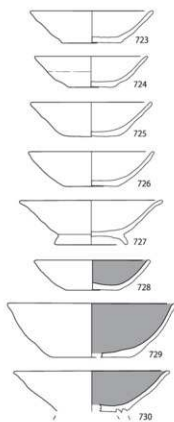
112住



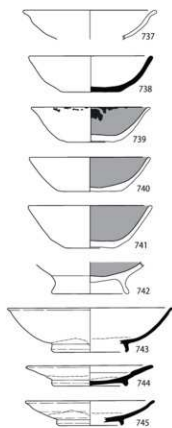
113住



114住

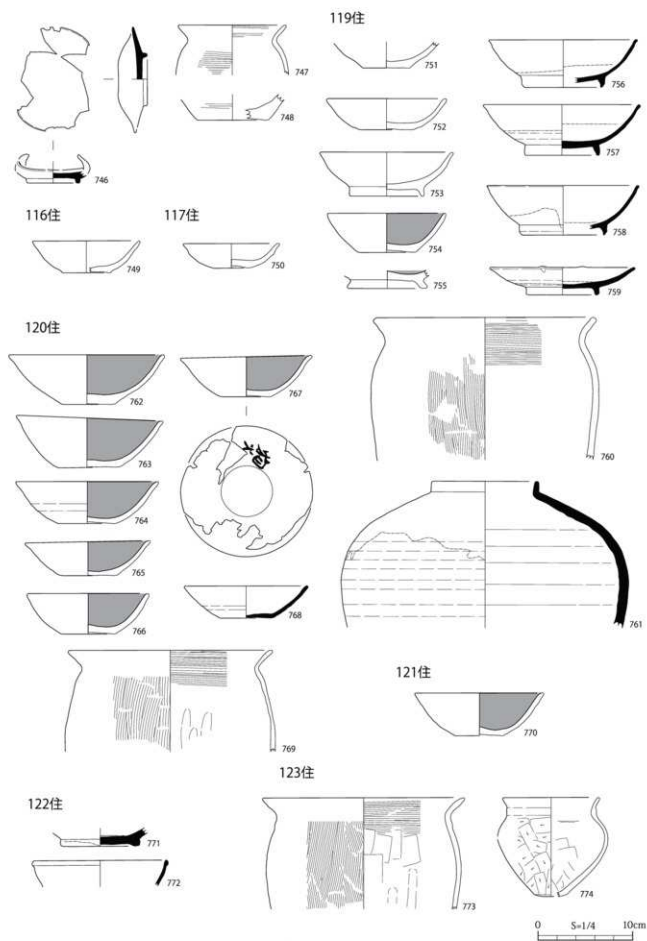


115住



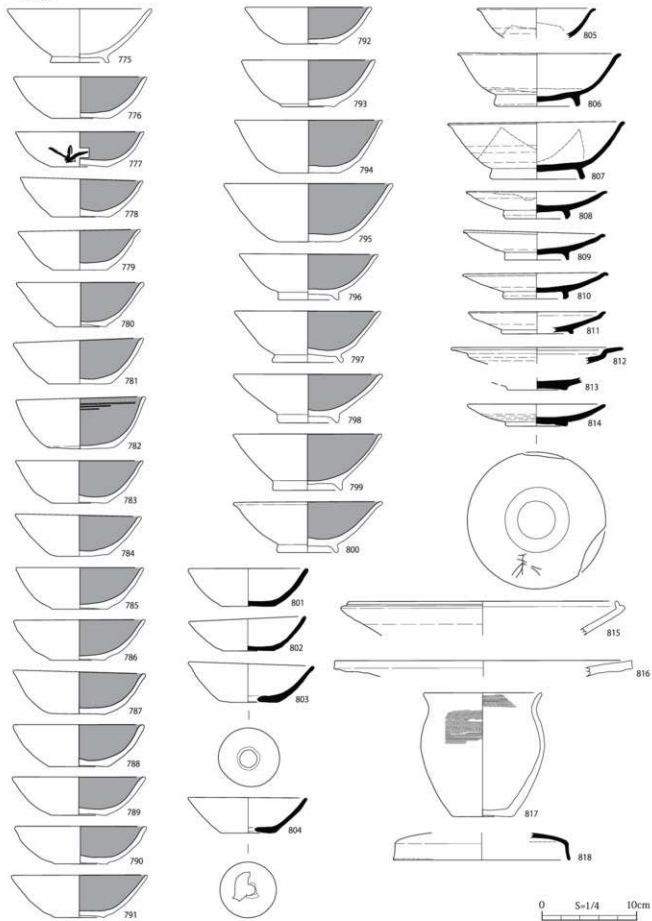
0 S=1/4 10cm

図版 77 土器 (19)



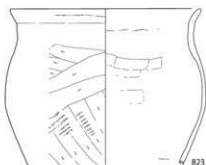
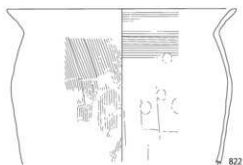
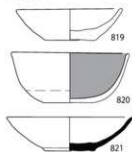
図版 78 土器 (20)

124住

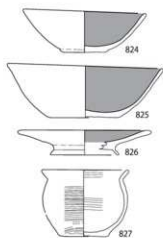


図版 79 土器 (21)

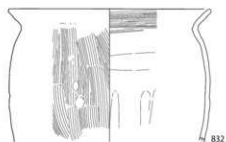
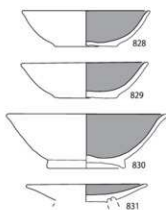
125住



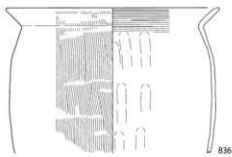
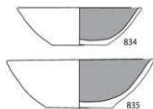
127住



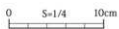
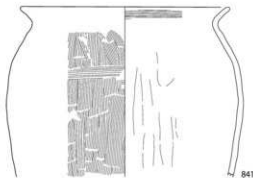
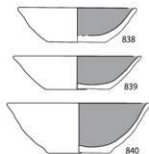
128住



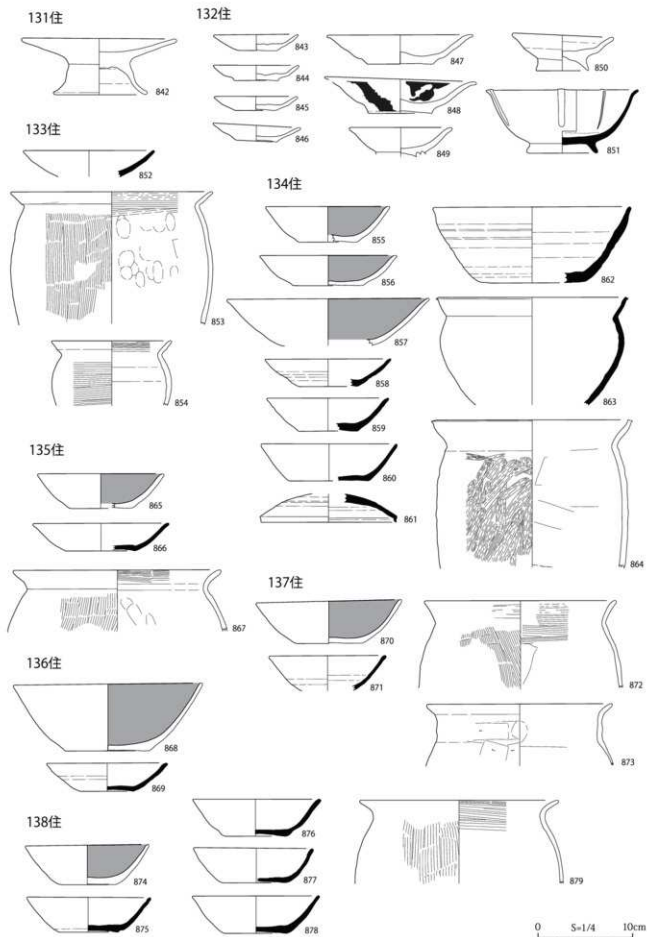
129住



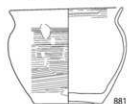
130住



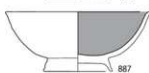
図版 80 土器 (22)



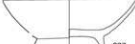
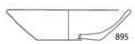
図版 81 土器 (23)



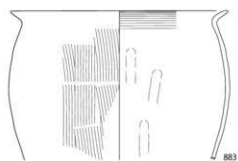
140住



142住



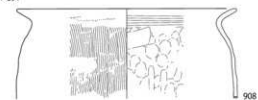
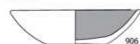
139住



141住



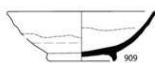
143住



147住

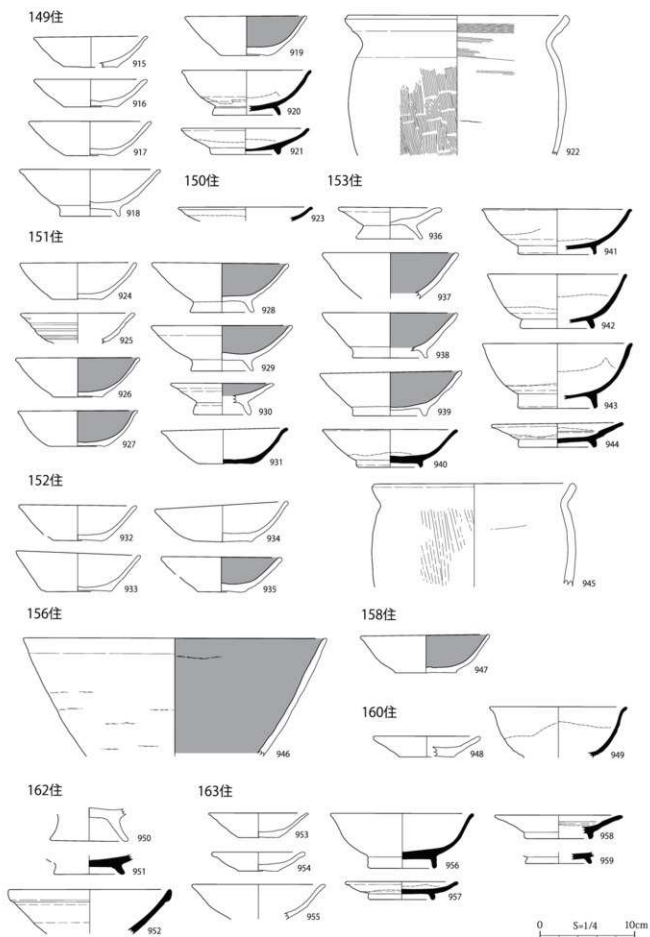


146住

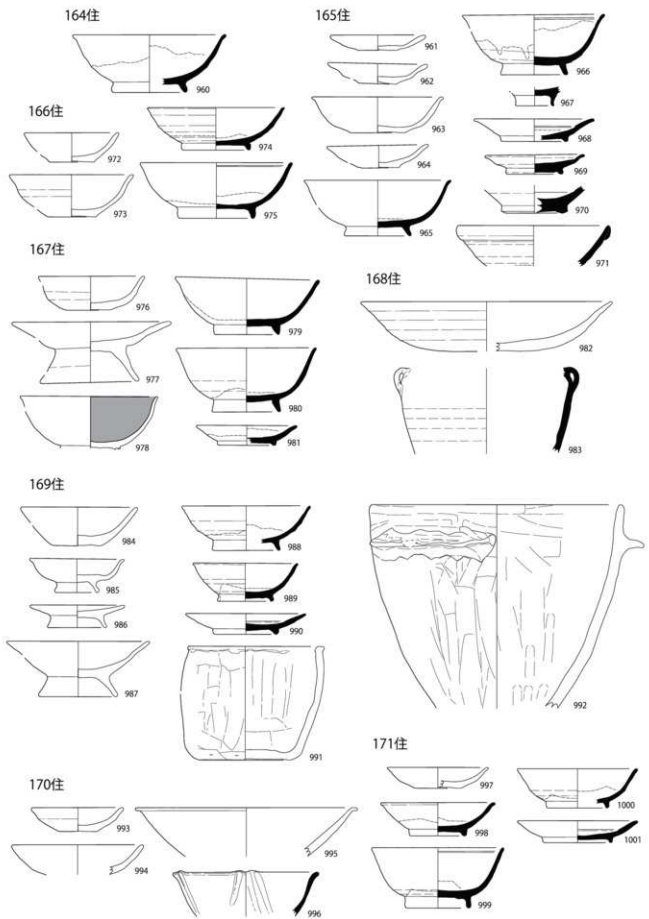


0 S=1/4 10cm

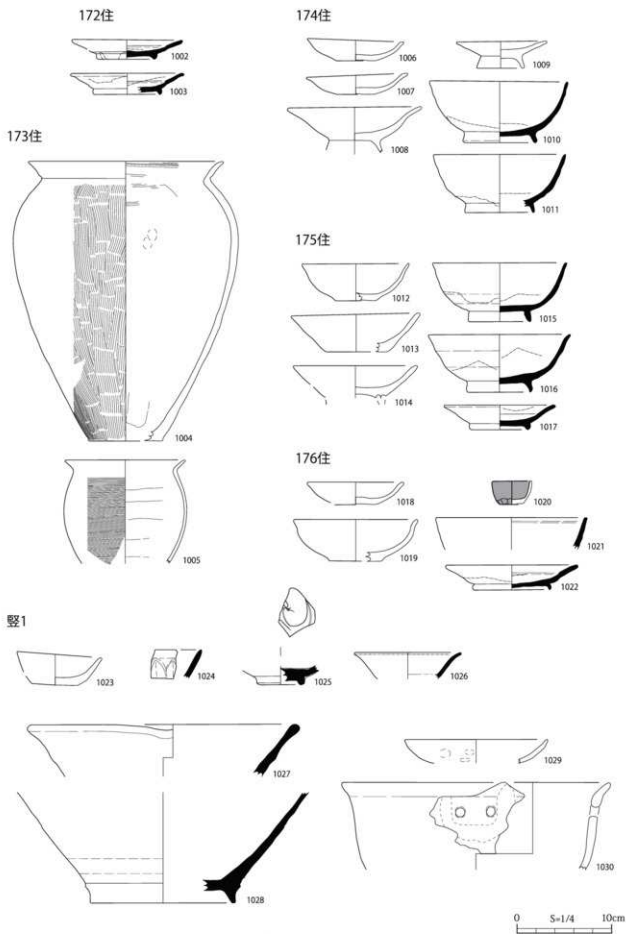
図版 82 土器 (24)



図版 83 土器 (25)



図版 84 土器 (26)



図版 85 土器 (27)

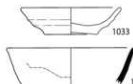
豎4



豎6



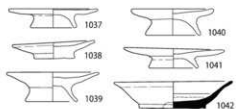
炭2



土339



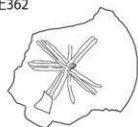
土347



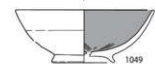
土356



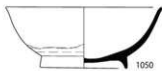
土362



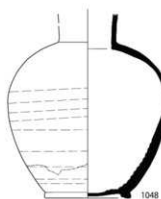
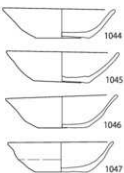
土366



土367



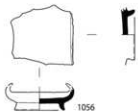
土360



土382



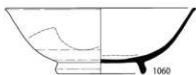
土383



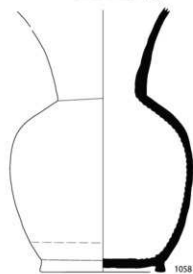
土477



土501



土398



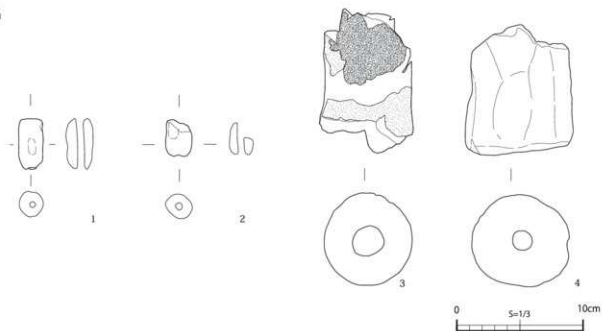
検出面



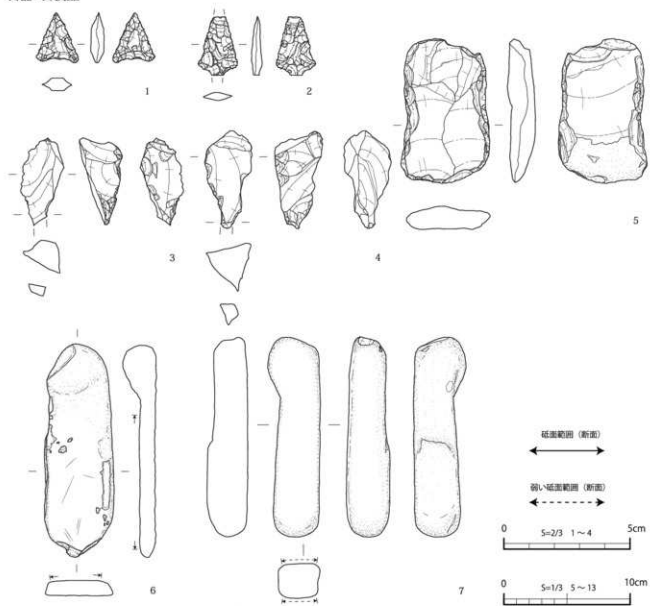
図版 86 土器 (28)

0 S=1/4 10cm

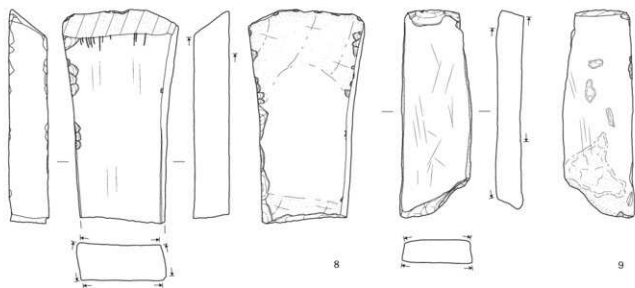
土製品



石器・石製品

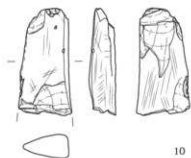


図版 87 土製品、石器・石製品 (1)

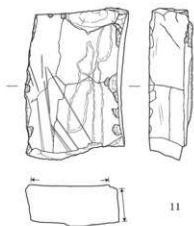


8

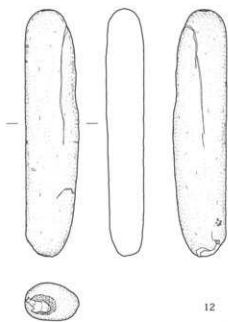
9



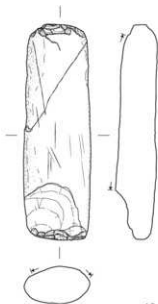
10



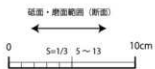
11



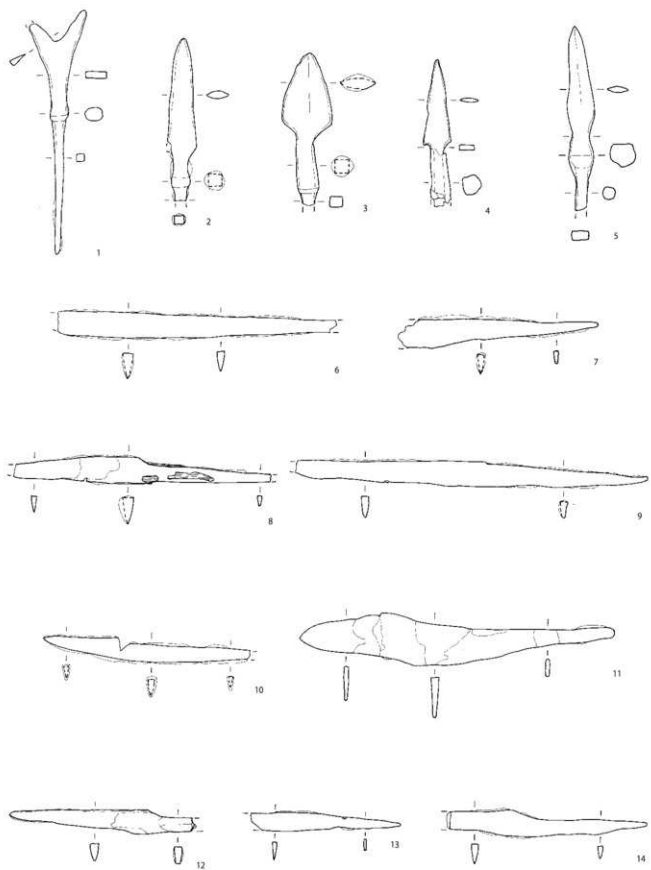
12



13

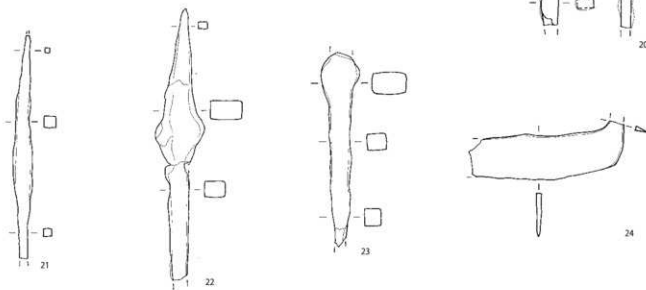
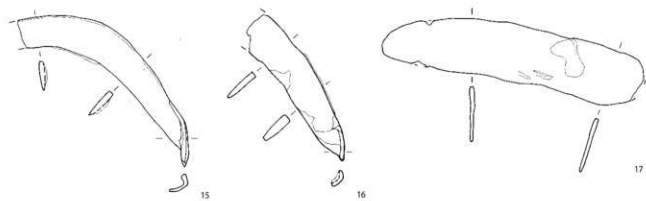


図版 88 石器・石製品(2)



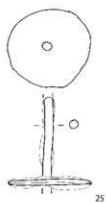
图版 89 金属製品(1)

0 S=1/2 5cm

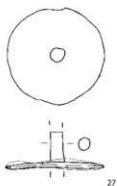


0 S=1/2 5cm

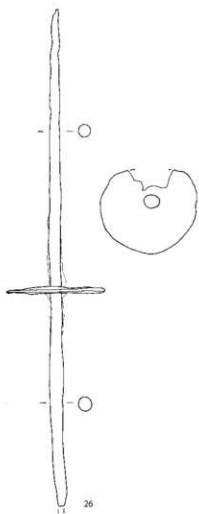
图版 90 金属製品 (2)



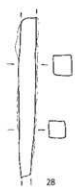
25



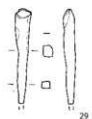
27



26



28



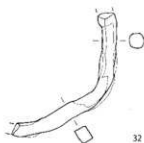
29



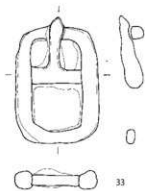
30



31



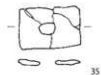
32



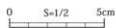
33



34



35



图版 91 金属製品 (3)



図版 92 2～6次調査全体図 (S=1/1,200)

写真図版





調査区全景（北が上）



調査地遠景（北西から）



調査地遠景（北東から）



14住 完掘状況 (西から)



14住 カマド検出状況 (西から)



18住 完掘状況 (西から)



18住 焼土・炭化物・骨検出状況 (南から)



19住 完掘状況 (西から)



19住 カマド検出状況 (南西から)



20住 完掘状況 (南から)



20住 焼土検出状況 (南から)

写真図版 4



27 住 遺物出土状況 (西から)



27 住 カマド遺物出土状況 (西から)



28 住 完掘状況 (西から)



43 住 完掘状況 (西から)



44 住 完掘状況 (西から)



44 住 遺物出土状況 (南から)



64 住 遺物出土状況 (南から)



78 住 遺物出土状況 (西から)



81 住 遺物出土状況 (西から)



78 住 遺物出土状況 (西から)



80 住 完掘状況 (南から)



86 住 完掘状況 (西から)



92 住 完掘状況 (南から)

写真図版 6



102 住 遺物出土状況 (西から)



102 住 カマド遺物出土状況 (西から)



110 住 完掘状況 (北から)



110 住 カマド検出状況 (北から)



120 住 完掘状況 (東から)



124住 遺物出土状況 (西から)



124住 遺物出土状況 (西から)



124住 P12 遺物出土状況 (西から)



132住 完掘状況 (西から)



124住 完掘状況 (西から)

写真図版 8



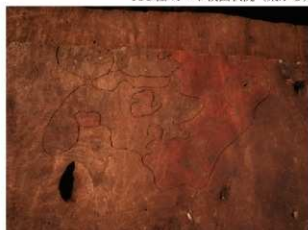
138 住 完掘状況 (東から)



138 住 カマド検出状況 (東から)



161 住 完掘状況 (東から)



161 住 焼土・炭化物検出状況 (東から)



竪 1 掘出土状況 (南から)



竪 1 完掘状況 (南から)



竪 7 礫出土状況 (北から)



竪 1 完掘状況 (南から)



炭 1 炭化物出土状況 (西から)



炭 2 炭化物出土状況 (南から)



炭 3 炭化物出土状況 (南から)



土 339 遺物出土状況 (南から)



土 356 遺物出土状況 (東から)



土 360 遺物出土状況 (北から)



土 367 遺物出土状況 (東から)



土 383 遺物出土状況 (南から)



土 398 遺物出土状況 (南から)



土 510 礫出土状況 (南から)



土 1 完掘状況 (南西から)



溝 7 完掘状況 (南から)



竈 完掘状況 (北が上)



第 18 号住居址出土品（平安時代後期）



第 32 号住居址出土品（平安時代前期）



第 34 号住居址出土品（平安時代前期）



第 37 号住居址出土品（平安時代前期）



第 44 号住居址出土品 (平安時代前期)



第 53 号住居址出土品 (平安時代後期)



第 79 号住居址出土品（平安時代後期）



第 81 号住居址出土品（奈良時代）



第 87 号住居址出土品（平安時代前期）



第 92 号住居址出土品（平安時代前期）



第96号住居址出土品（平安時代後期）



第108号住居址出土品（平安時代前期）



第 114 号住居址出土品（平安時代中期）



第 119 号住居址出土品（平安時代前期）



第 124 号住居址出土品① (平安時代前期)



第 124 号住居址出土品② (平安時代前期)



第 169 号住居址出土品（平安時代後期）



土 360 出土品（平安時代中期）



10 (15 住)



28 (20 住)



34 (21 住)



83 (31 住)



104 (34 住)



118 (35 住)



152 (42 住)



207 (51 住)



492 (90 住)



515 (91 住)



613 (102 住)



708 (110 住)



708 (110 住)



767 (120 住)



774 (123 住)



777 (124 住)



814 (124 住)



820 (125 住)



842 (131 住)



862 (134 住)



864 (134 住)



875 (138 住)



969 (165 住)



982 (168 住)



1020 (176 住)



1030 (竪 1)



1043 (土 356)



1060 (土 501)



9 (14 住)



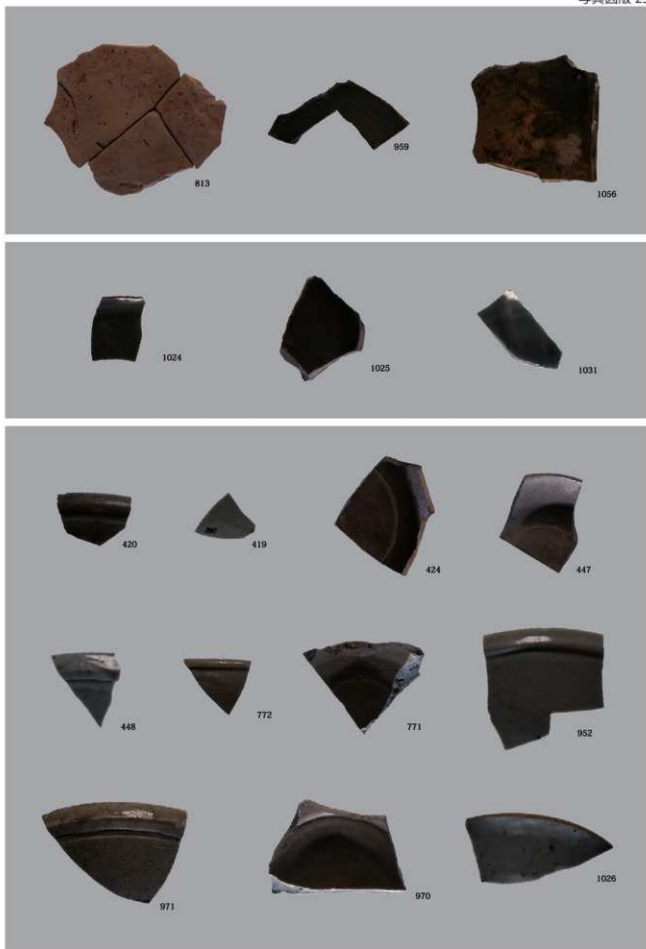
1004 (173 住)



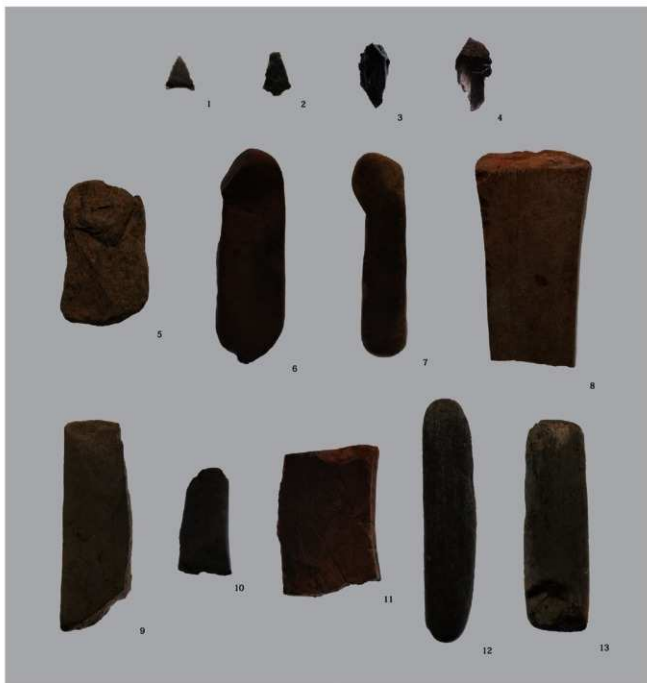
1058 (土 398)



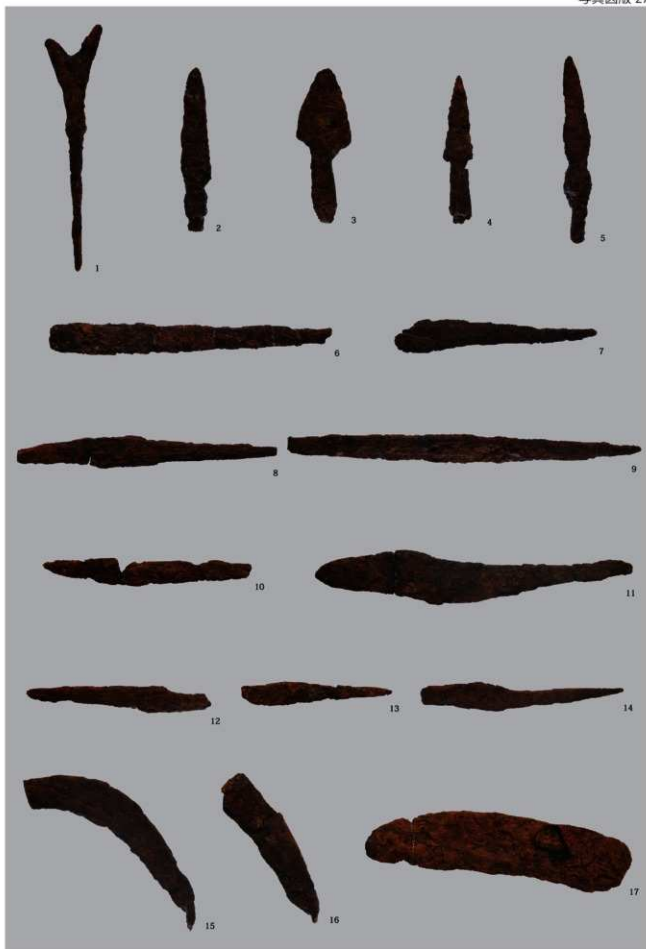
緑釉陶器 (1) (S=1/2、No. は実測図中の番号に同じ)



緑釉陶器(2)、青磁、白磁 (S=1/2、No. は実測図中の番号に同じ)



土製品 (S=1/2, No. は実測図中の番号に同じ)
石器・石製品 (1～4: S=1/2, 5～13: S=1/3, No. は実測図中の番号に同じ)



金属製品 (1) (S=1/2、No. は実測図中の番号に同じ)



金属製品 (2) (18 ~ 35 : S=1/2、36 : S=1/1、No. は実測図中の番号に同じ)

報告書抄録

ふりがな	なかのけんまつもとし たかばたけいせき たいもじはっくつちようさほうこくしょ							
書名	長野県松本市 高畑遺跡 第6次発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	松本市文化財調査報告							
シリーズ番号	№ 230							
編著者名	小山奈津実、原田健司、山本紀之							
編集機関	松本市教育委員会							
所在地	〒390-8620 松本市丸の内3番7号 TEL 0263-34-3000 (代) (記録・資料保管：松本市立考古博物館 松本市中山3738番地1 TEL 0263-86-4710)							
発行年月日	2018 (平成 30) 年 3 月 27 日 (平成 29 年度)							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
高畑	長野県松本市 村井町南 二丁目 918 番 ほか	20202	295	36 度 10 分 51 秒	137 度 58 分 03 秒	2014 年 5 月 19 日 ～ 2016 年 3 月 25 日	12.652nl	松本市村井町南 土地区画整理事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
高畑	集落跡	奈良 ～ 中世	竪穴住居址：157 軒 奈良…4 軒 平安…151 軒 時期不明…2 軒 竪穴建物址：5 軒 平安…1 軒 鎌倉…2 軒 時期不明…2 軒 竪穴状遺構：1 基 (鎌倉) 掘立柱建物址：8 棟 平安以降…2 棟 鎌倉…2 棟 時期不明…5 棟 炭焼窯：3 基 平安…2 基 時期不明…1 基 土坑：1015 基 炉址：1 基 (平安以降) 溝址：12 条 平安…1 条 時期不明…11 条 竈址：16 本 (平安以降)		[土器・陶磁器] 土師器 黒色土器 須恵器 軟質須恵器 陶器 (灰釉・無釉・緑釉) 磁器 (青磁・白磁) 土師質土器 [土製品] 土鏝 羽口 [石器・石製品] 石鏝 打製石斧 砥石 磨石 [金属製品] 鏝 刀子 鎌 斧 槌 紡錘車 釘 鉾具 銭貨			
要約	・松本市村井町南土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査として実施した。 ・奈良時代から中世にかけての集落址を調査し、同時期の土器を中心とする多量の遺物を得た。特に 9 世紀中葉～10 世紀前葉と 11 世紀中葉～後葉の 2 時期に最盛が見られる。また、遺構の分布状況から、居住域は時代が下るにつれて北東へ移動したことが窺われる。今回の調査により、本遺跡及び芳川地区の集落の様相を考える上で重要な資料が得られた。							

松本市文化財調査報告 №230
長野県松本市

高畑遺跡

—第6次発掘調査報告書—

発行日 平成30年3月27日

発行者 松本市教育委員会

〒390-8620

長野県松本市丸の内3番7号

印刷 精美堂印刷株式会社
